講談社　テレビマガジン　デラックス　26

ゲゲゲの鬼太郎



定価880円

わたしは、三十五年ぐらいまえ、神戸で、紙しばいの絵をかいていました。そのとき、「墓場の鬼太郎」をやったわけですが、そのころの鬼太郎は、まだ人間の子でした。

妖怪の子になったのは、二十五年ばかりまえ、貸本まんがの時代からです。そのときは、地球に大むかしからいる「幽霊族」の子、ということにしましたが、だいたいの性格が決定されたのは、二十二、三年まえ、少年マガジンにかいてからです。このときは、妖怪の子ではあるが、正義のために妖怪と格闘することになったため、鬼太郎は超能力をもたねばならなくなったわけです。その超能力は、虫とか動物のなかからえらんで、なるべくSF調にならないようにしました。また、当時、少年マガジンの編集長であった内田勝氏の提案で、「ゲゲゲの鬼太郎」としました。

そして、ストーリーをわかりやすくするために、ねずみ男をフル回転させることになったのです。

その後、十年ばかり（厳密には、六、七年ですが）、鬼太郎を中断する時期がありました。

わたしはそのあいだに、日本のあらゆる妖怪を調査し、図鑑にし、ヨーロッパの妖精のほうにも手をのばしかけたのですが、それにはすこしエネルギー不足を感じ、東洋に限定しました。日本の妖怪の親類にあたる中国の妖怪を研究し、それとあわせて、日本の妖怪図鑑完成をめざし突進中、三回めの鬼太郎ブームをむかえました。すべての仕事を中断し、鬼太郎の連載を再開したわけですが、いまから考えると、それは、鬼太郎連載のためのたねを集めていたようにも思います。

第三期の鬼太郎は、完成期の鬼太郎と考えています。

しかし、それもすべて、幽界（われわれの知らない世界）からの導きによるものと思われます。

すなわち、目にみえないあるものが、そうさせるのです。



水木しげる

CONTENTS（もくじ）

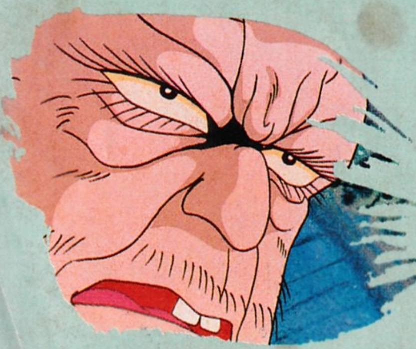
ゲゲゲの鬼太郎

カランコロンと、どこからともなくきこえてくるげたの音…。
幻妖怪奇な世界から、一人の少年がやってきた。わるい妖怪から人間をまもるためにたちあがった、ぼくらのヒーロー、ゲゲゲの鬼太郎だ。
さあ、アニメ鬼太郎ワールドへ、きみを招待しよう。







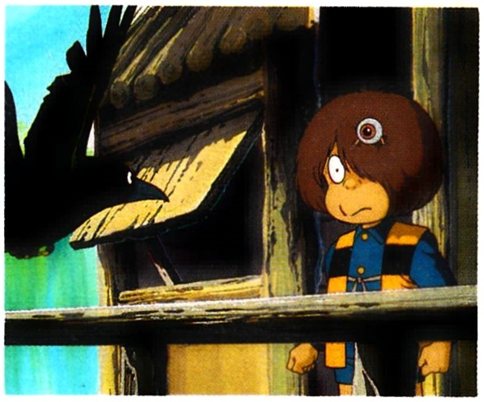


ゲゲゲの森の夏まつり

イラスト／水木しげる



ことしも、ゲゲゲの森に、おまつりの季節がやってきた。おばけには、学校も仕事もなくて、毎日がおまつりみたいなものだけど、夏まつりはとくべつだ。きょう一日は、戦いもわすれて、みんなでたのしくさわごうよ。




古本
コマ
十円
妖怪酒
一パイ
五円
十五円

アニメーション オープニングタイトル

Animation Opening Title





Kitaro Fantasy World





いつかみたようなけしき。どこかであったようなあの子。そんななつかしい思い出が、鬼太郎の世界でみつけられたらいいな。

鬼太郎ワールドは、わたしたちの心のふるさと。そこには、時間もなければ、差別もない。ただあるのは、自由だけ。

鬼太郎がたちあがるのは、その自由をおかすものがあらわれたとき。

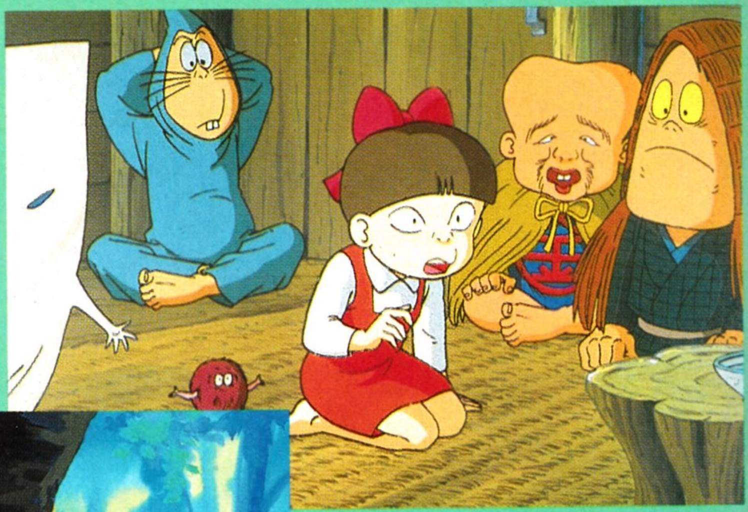
鬼太郎は、人間と妖怪が、仲よくくらせる日を夢みているのだ。

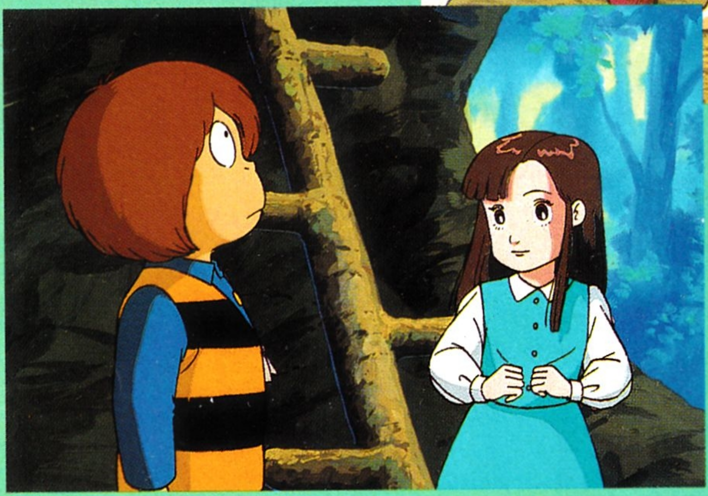




イラスト／清水　明

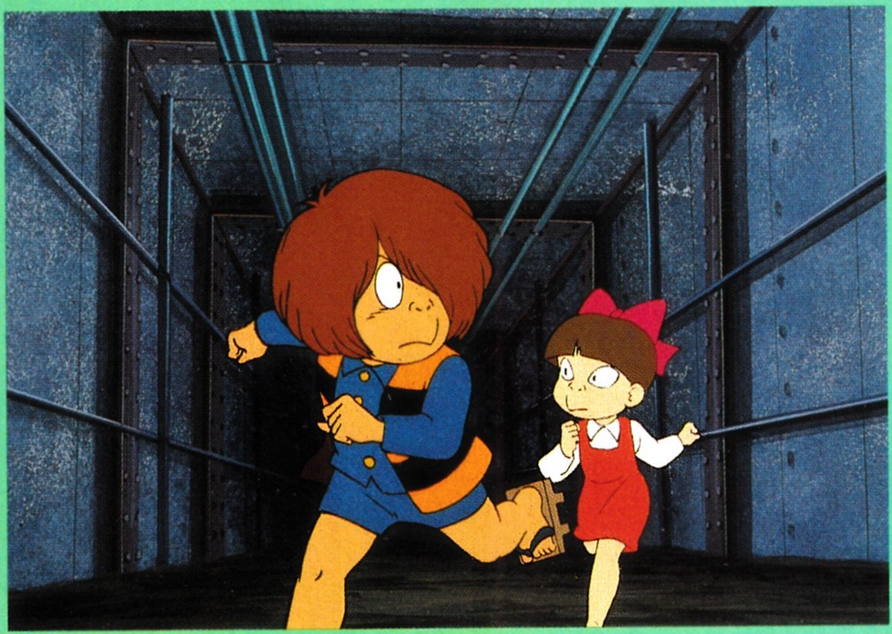


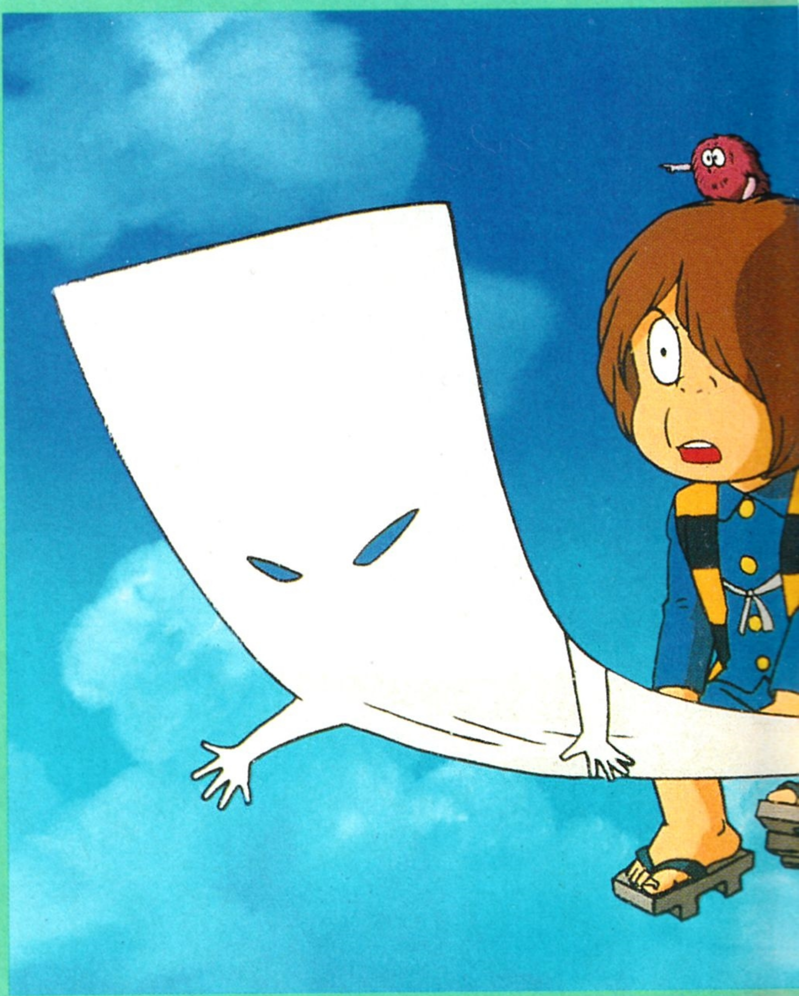










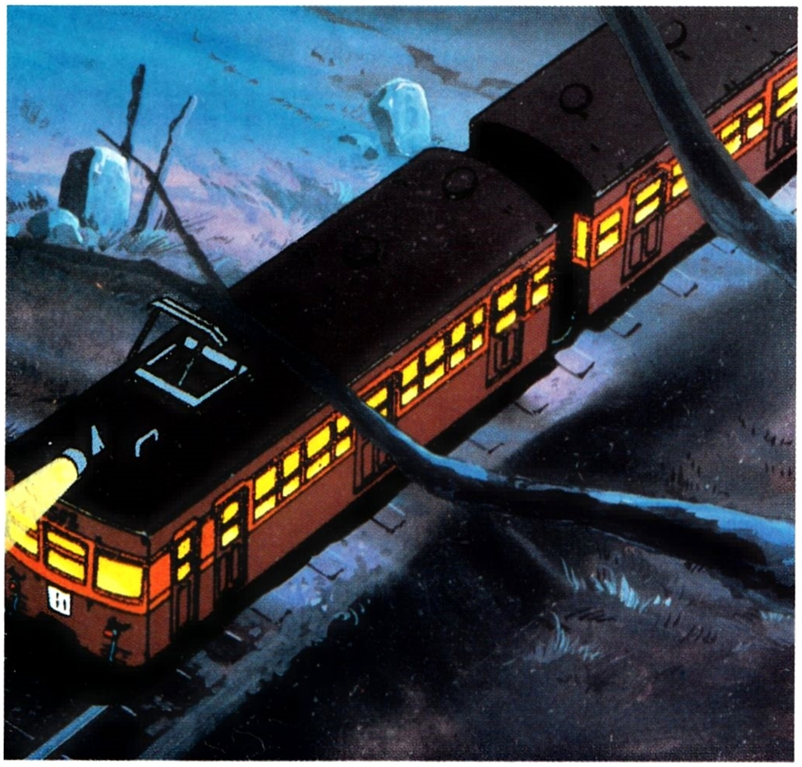


Gegege no Kitaro

妖怪復活！

とびらのむこうでなにかがおこる

人類の繁栄のなかで，なにかがきみをねらっている。大都会のかたすみの，ビルのかげから，道路の下から‥‥。人々の心のすきをついて，妖怪たちの報復がはじまろうとしている。地上を妖怪王国にするために‥‥。



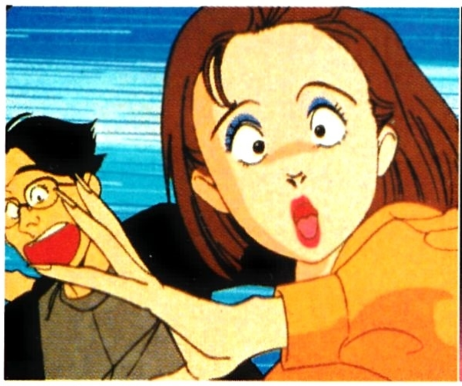








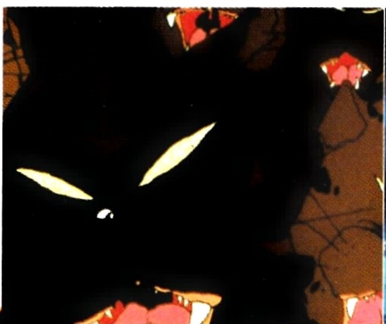




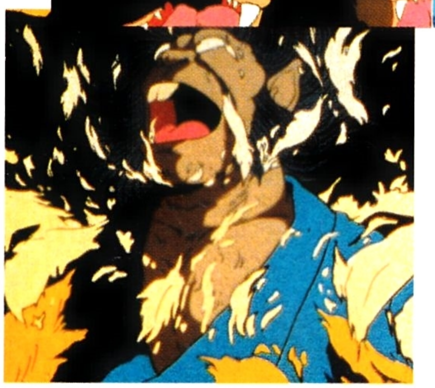








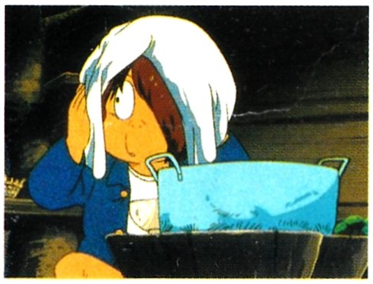








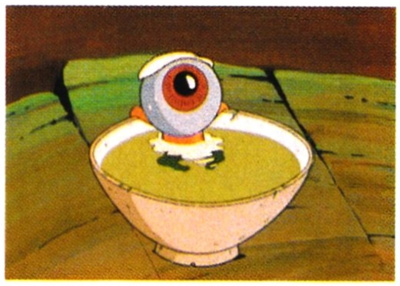
Gegege no Kitaro




幽霊族の少年，鬼太郎

鬼太郎は不死身であり，年をとらない。文字どおり，永遠の少年である。はるかむかし，地上に人類がさかえる以前に，世界を支配していた「幽霊族」。その血をひくのが,目玉だけになったおとうさんと，鬼太郎の2人だけなのだ。







KITARO 鬼太郎表情集 FACE



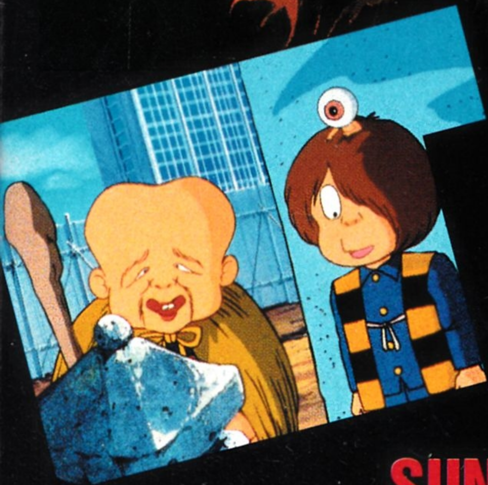
Gegege no Kitaro

そして，ゆかいな仲間たち

鬼太郎のなかまたちは，みんな気のいい妖怪だ。半分妖怪で，ときどきうらぎるねずみ男。子泣きじじい・砂かけばばあの実年カップル。怪力じまんのぬりかべと，空とぶ一反もめん。それに，鬼太郎をほのかに恋するねこ娘の面々だ。

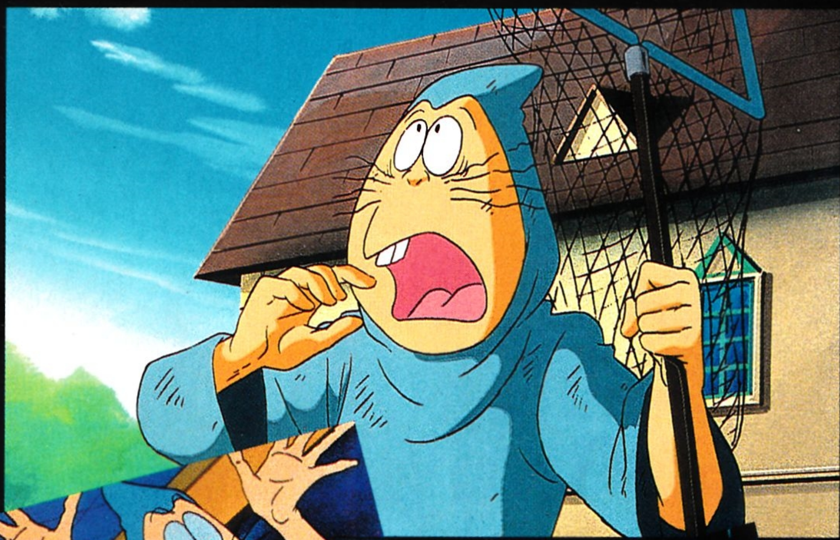
KONAKIJIJII







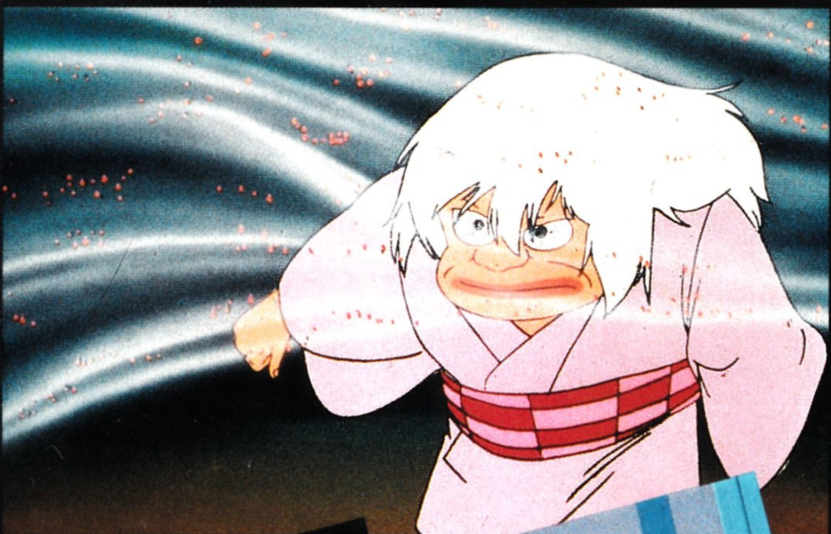
NEZUMIOTOKO

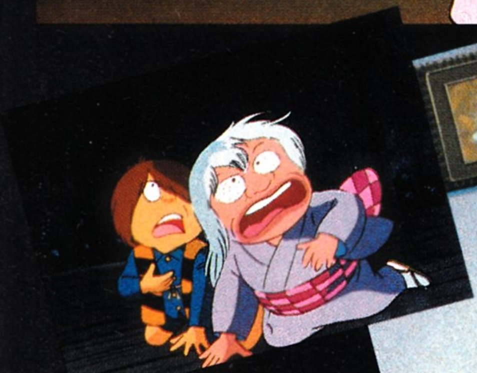


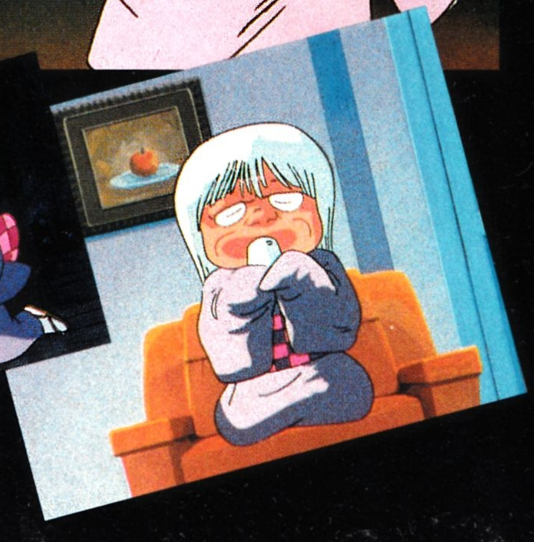




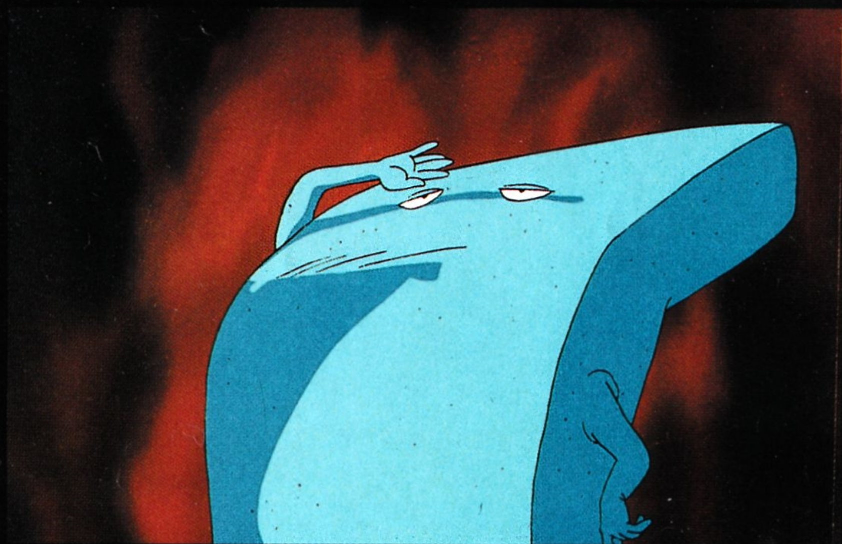
SUNAKAKEBABAA

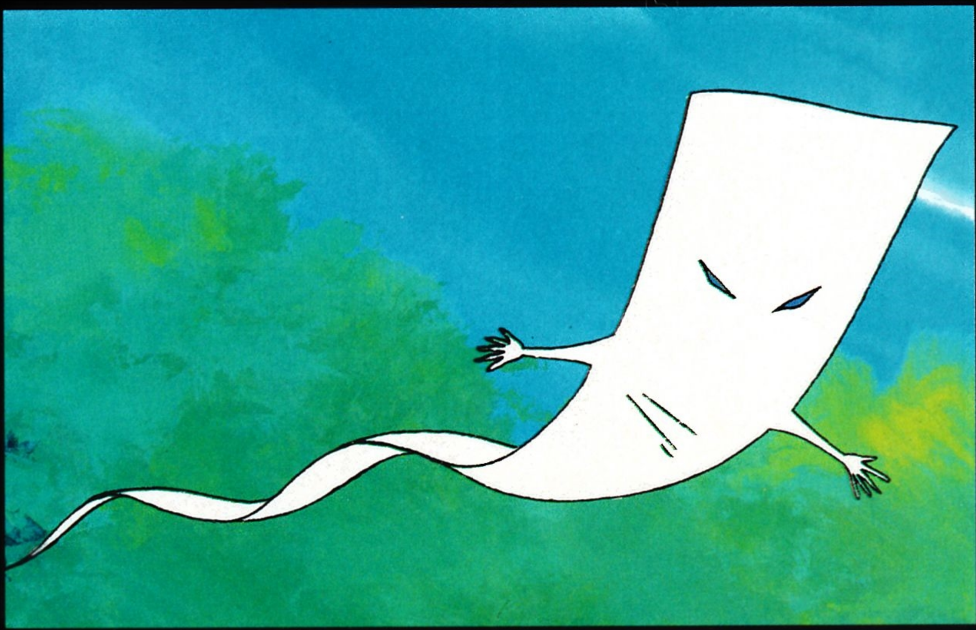






NURIKABE





ITTANMOMEN



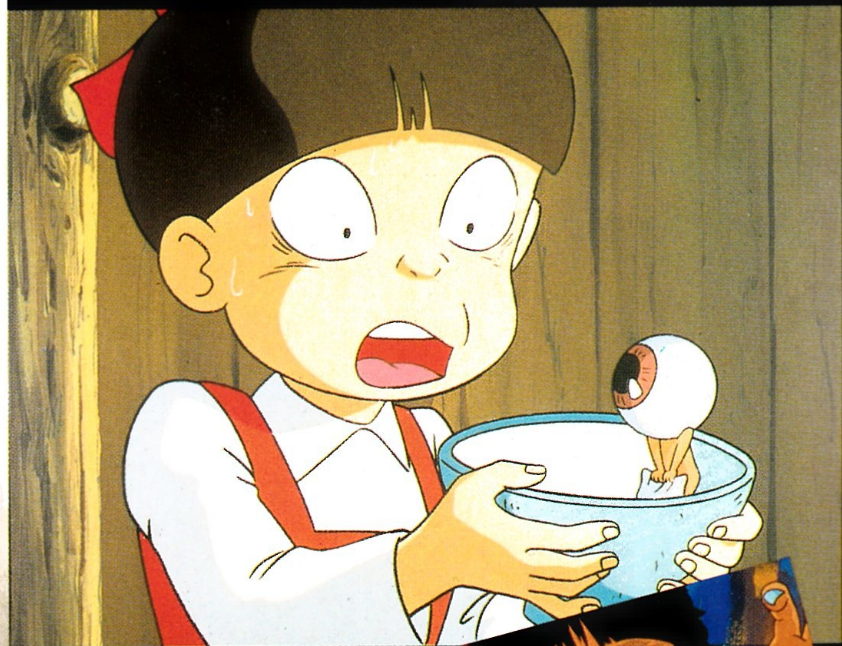


砂かけばばあと子泣きじじい。二人とも、生まれたときから、じじいとばばあだったのでしょうか？ ちなみに、このイラストは、赤ちゃんの子泣きじじいをあやす、おばあさんの砂かけばばあです。

松本朋之



NEKOMUSUME





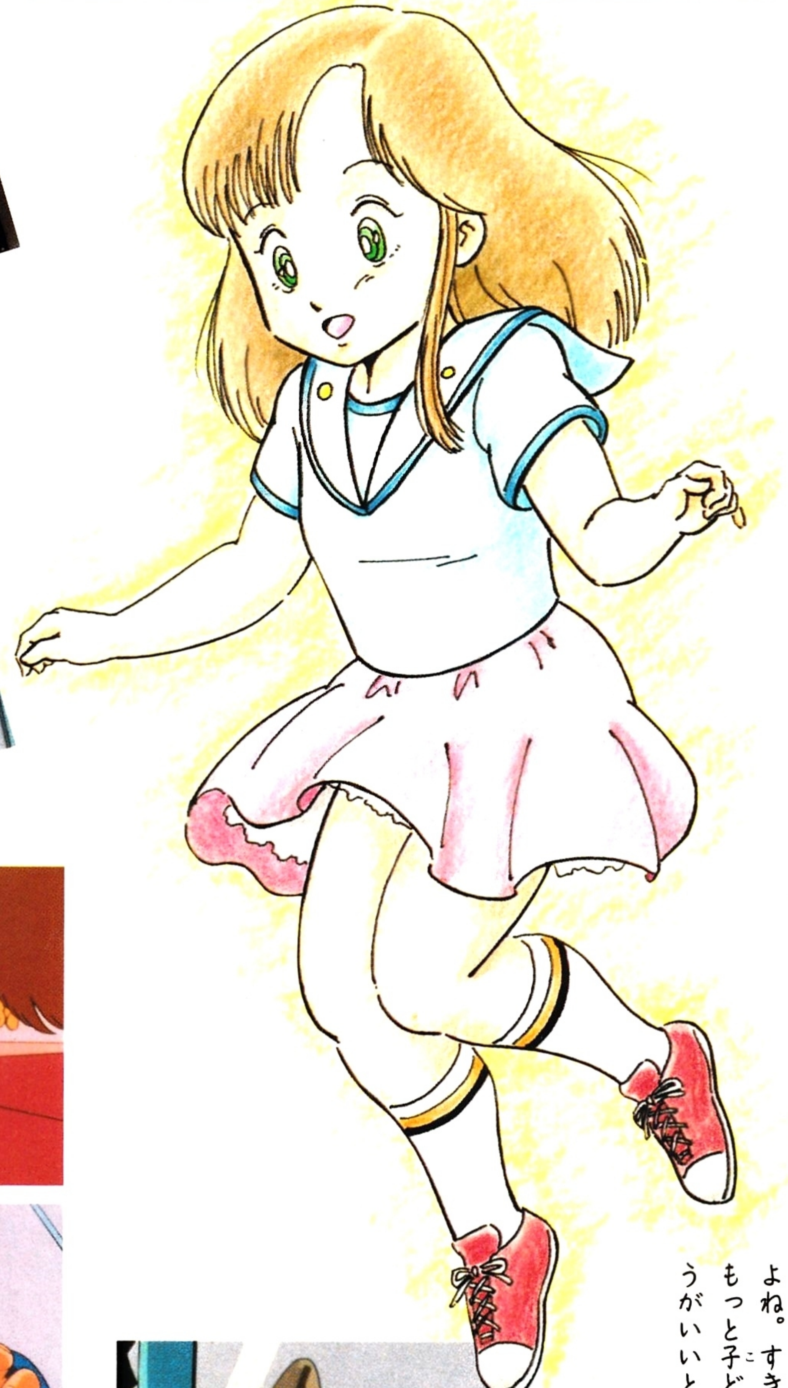


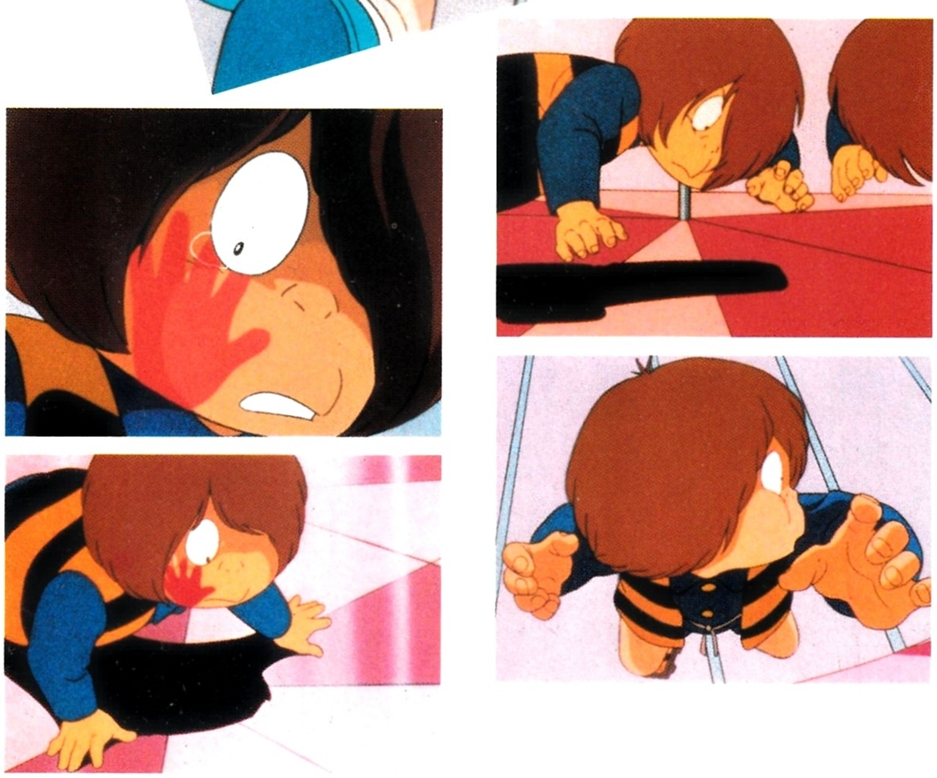
Gegege no Kitaro

ユメコちゃんとのであい

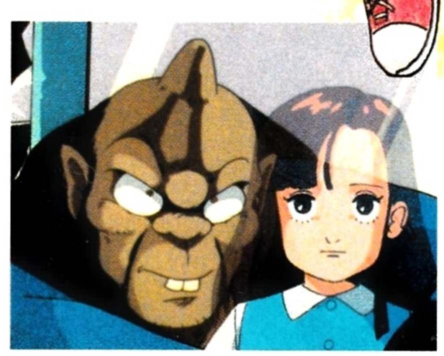
鬼太郎が，人間の少女，天童ユメコとであったとき，ユメコの姿は，妖怪鏡じじいにうばわれていた。遊園地のミラーハウスに突入した鬼太郎が，敵と思って透明ユメコにおそいかかり，平手うちをくったのが，そもそものはじまり‥‥。







ユメコって、おとななんですよね。すきがないっていうか。もっと子どもっぽさがでてるほうがいいと思うんですけど。
鈴木克彦




Yumeko
Kitaro

Gegege no Kitaro

鬼太郎アクション！

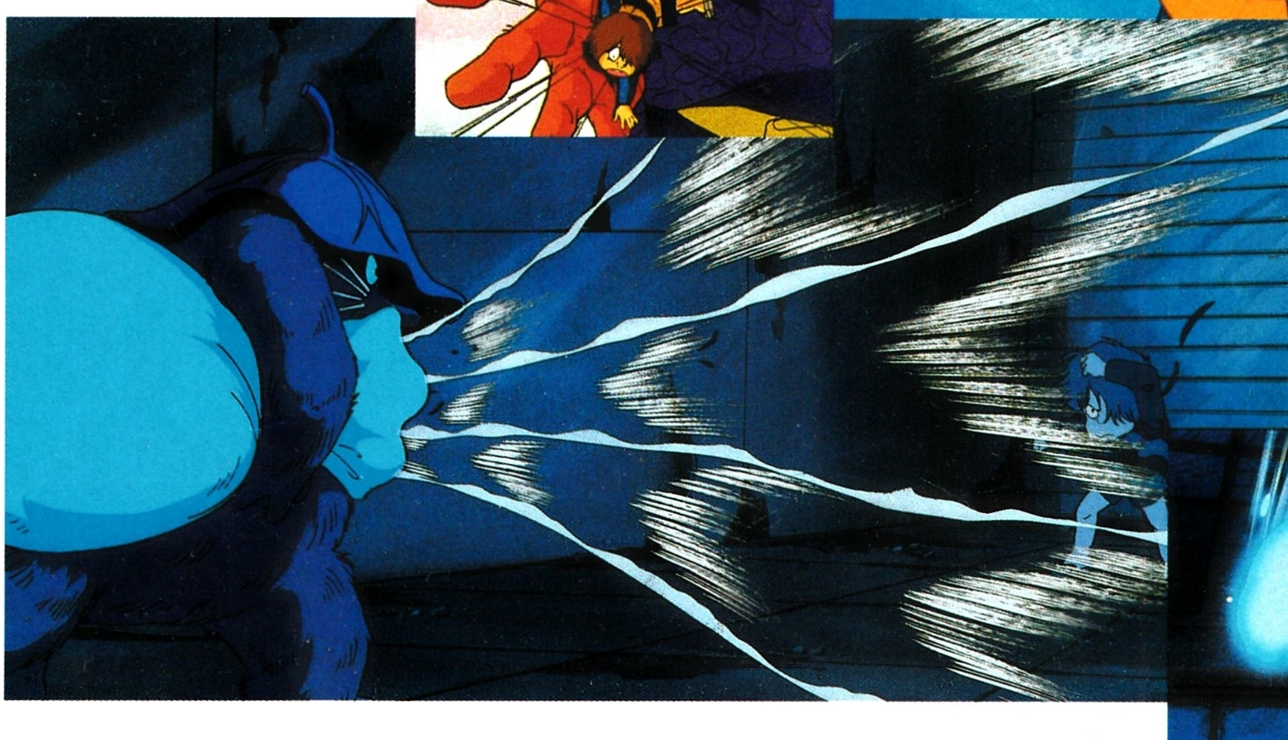
小さなからだにおおいなる霊力をひめた鬼太郎。かみの毛針・リモコンげた・霊毛ちゃんちゃんこ・妖怪笛などを駆使した，数々の必殺技をくりだす。祖先の力が鬼太郎に，悪をたおすパワーをさずけたのだ。











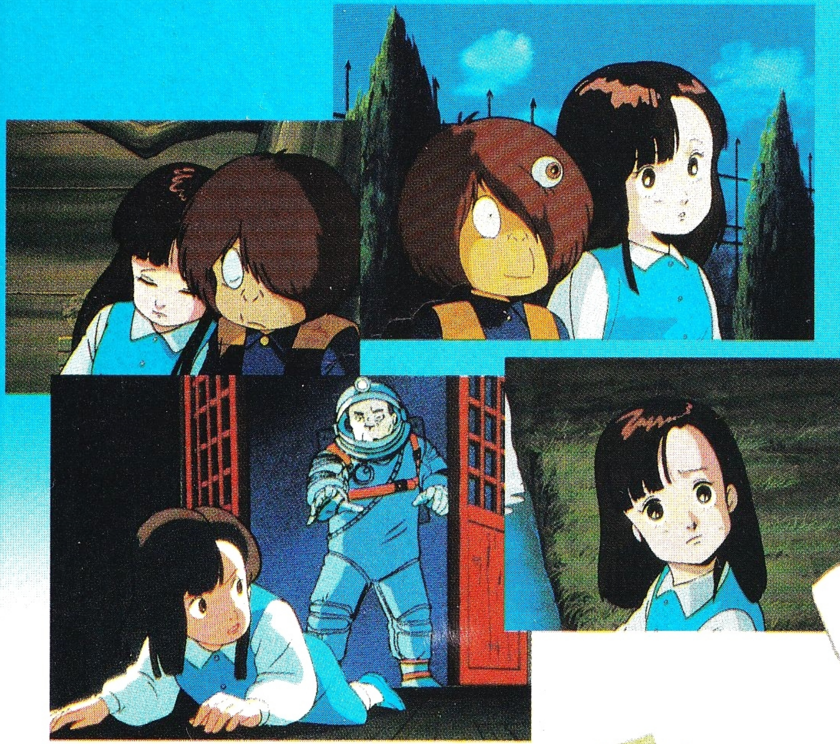


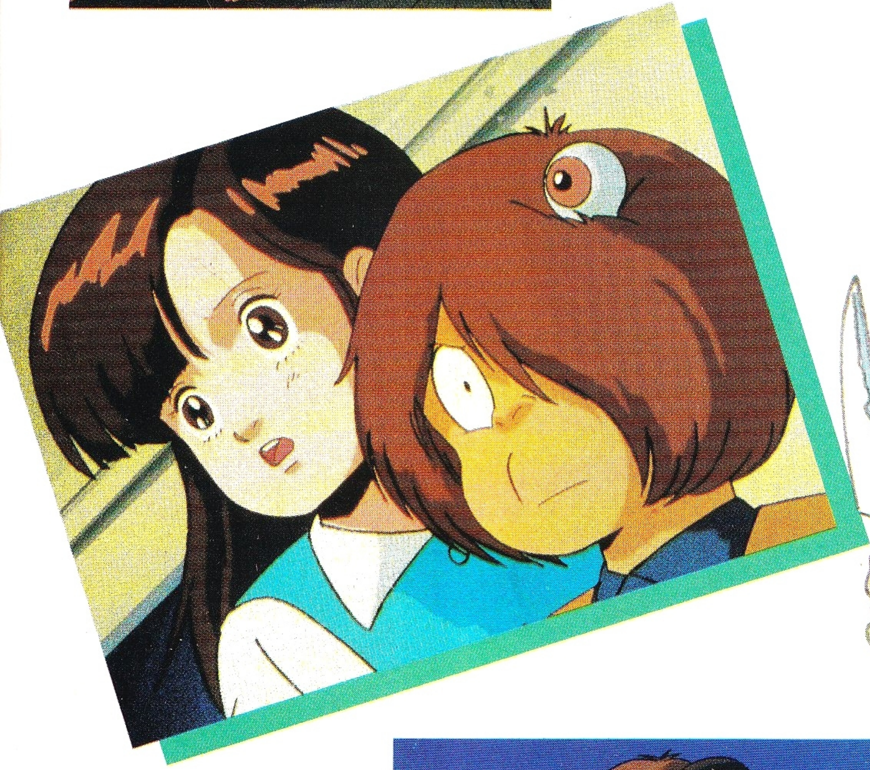


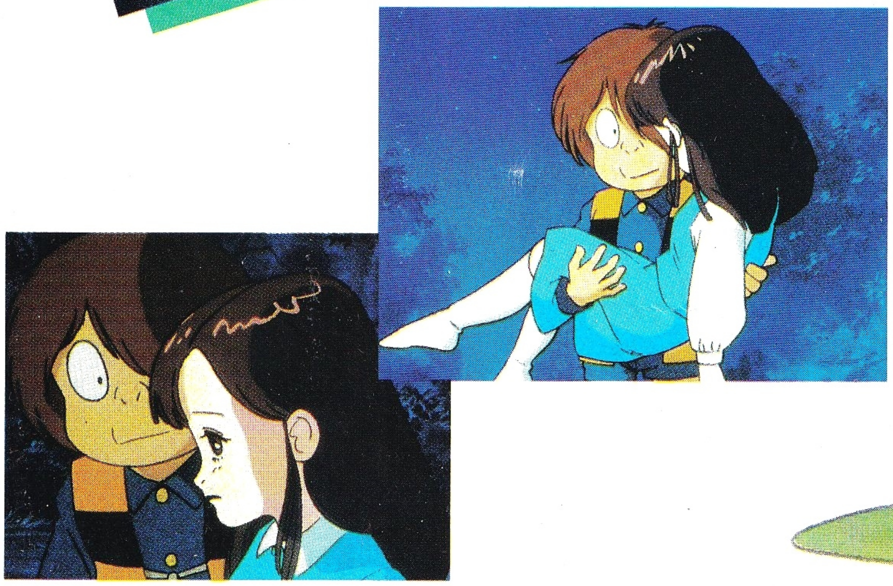
Gegege no Kitaro

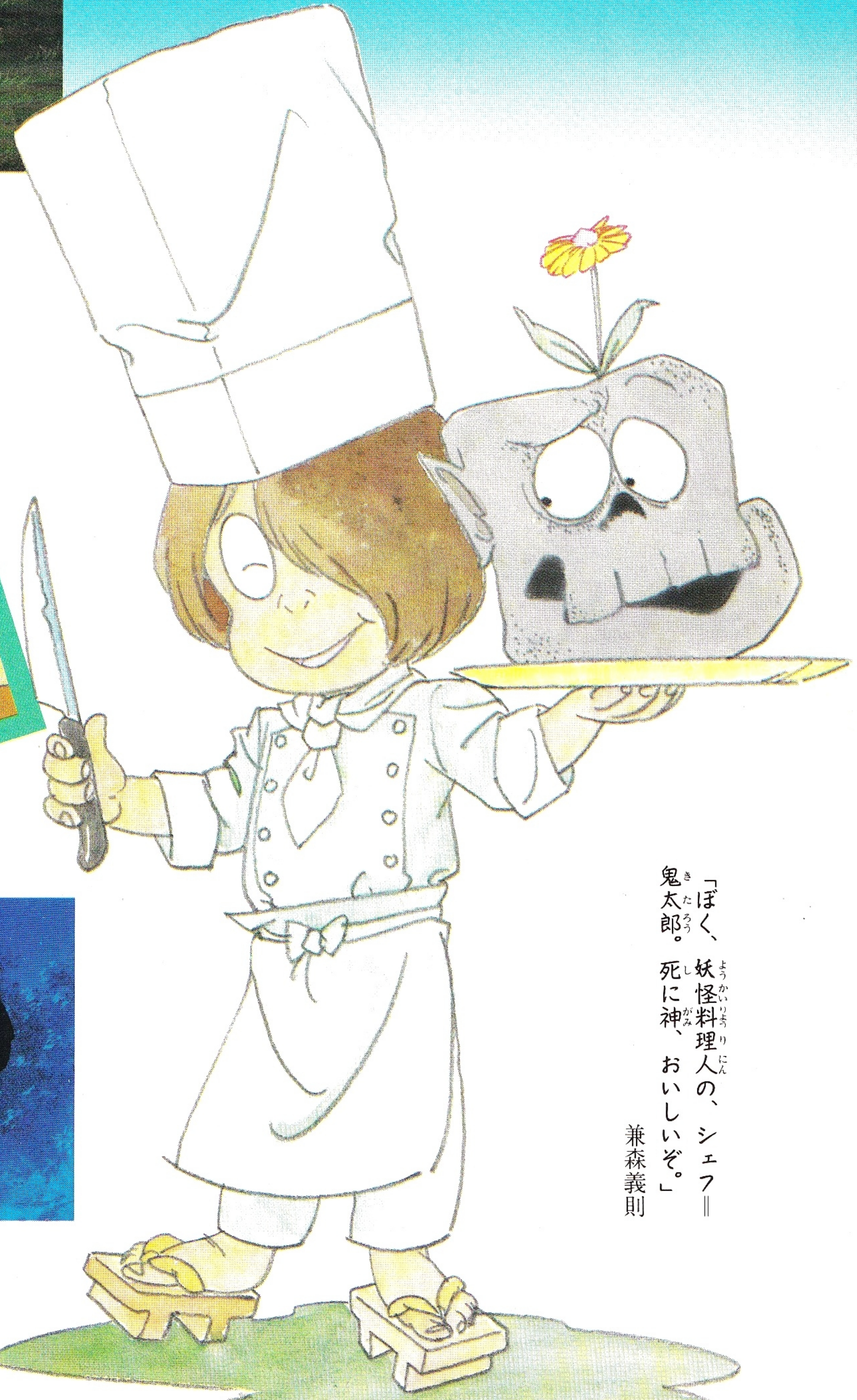
ユメコと鬼太郎

ユメコちゃんは，美しい心と夢をいだく女の子。欲求不満のネクラ妖怪にねらわれるけど，鬼太郎のガードはいつも完璧。でも，鬼太郎は妖怪。ユメコちゃんは人間だから，いつかはわかれの時がくるかもしれない・・・・。

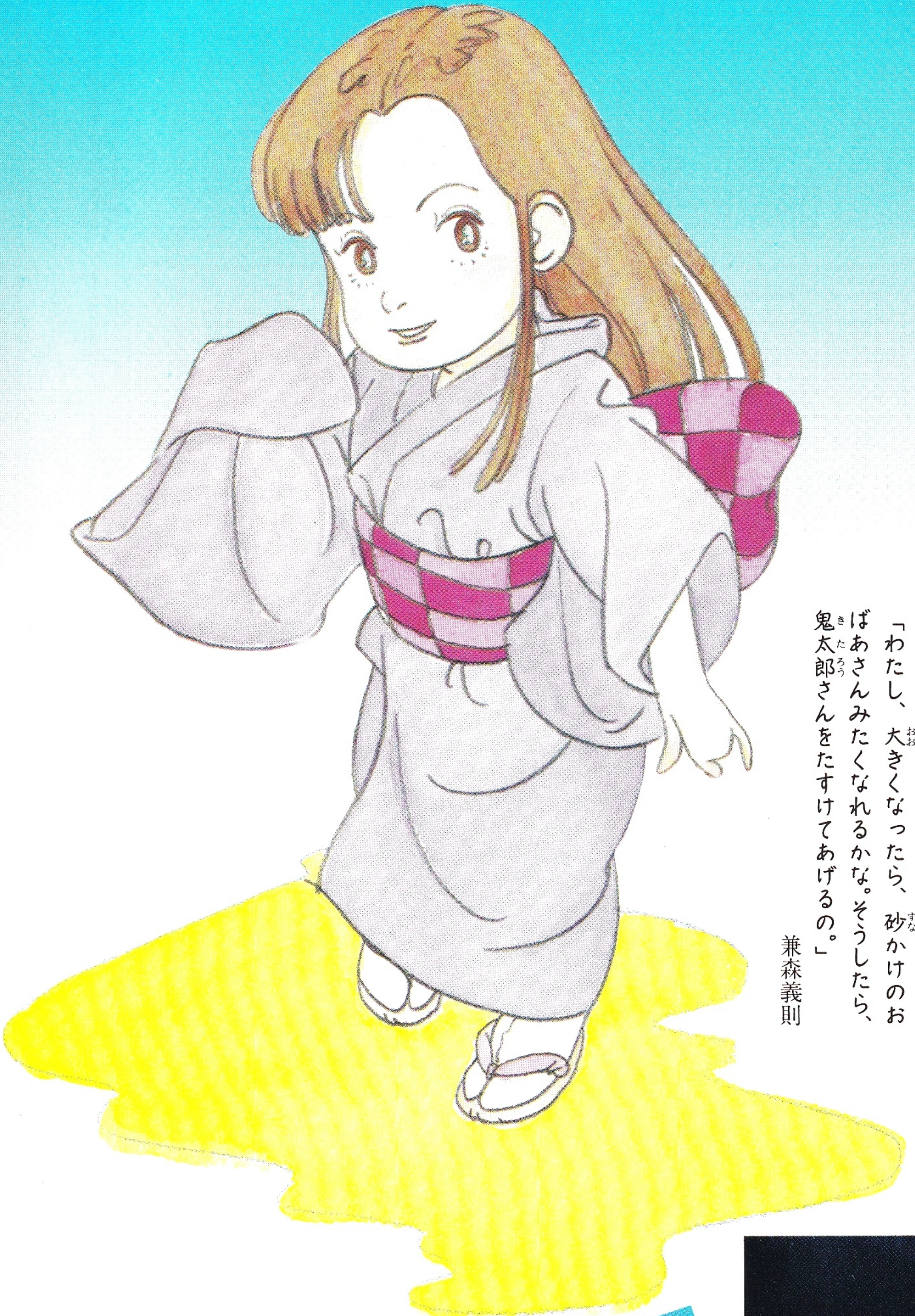






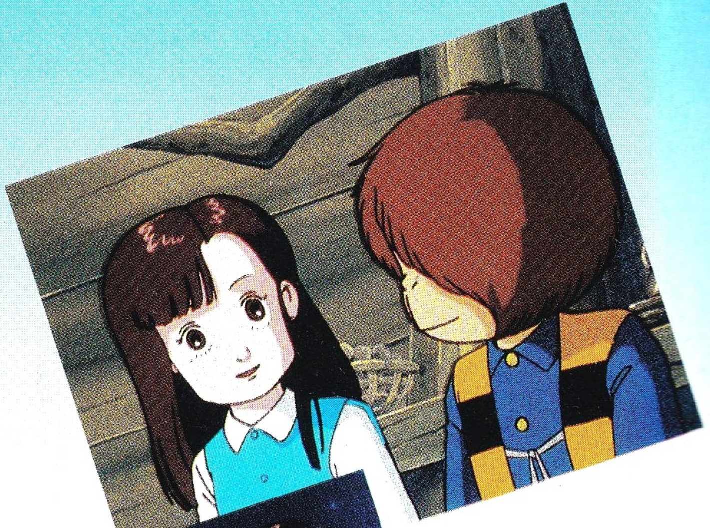


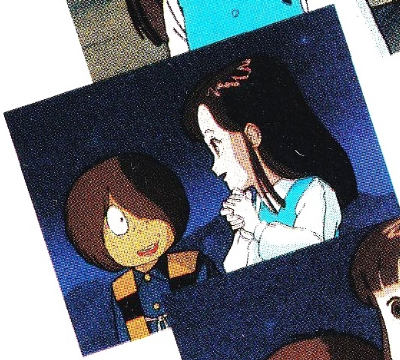
「ぼく、妖怪料理人の、シェフ＝鬼太郎。死に神、おいしいぞ。」
兼森義則

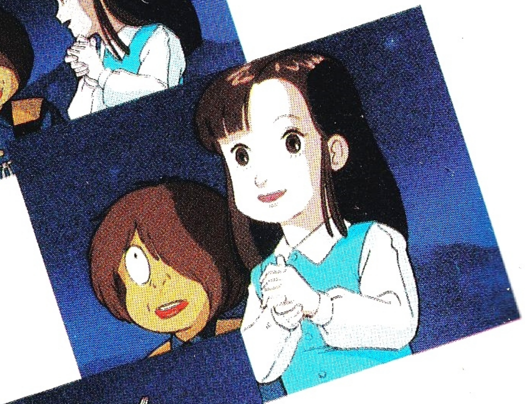


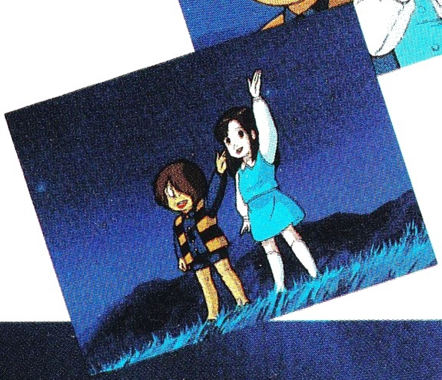
「わたし、大きくなったら、砂かけのおばあさんみたくなれるかな。そうしたら、鬼太郎さんをたすけてあげるの。」

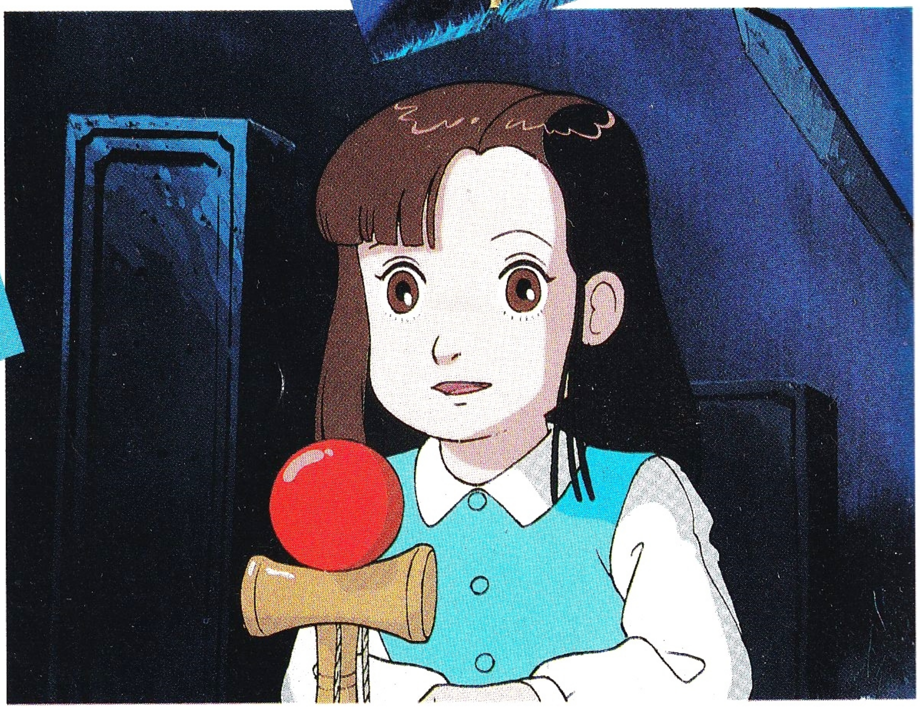
兼森義則

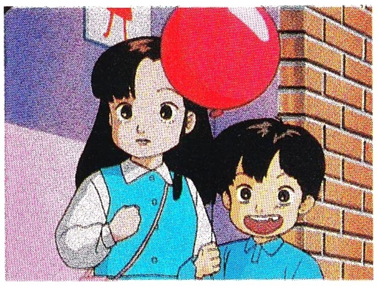


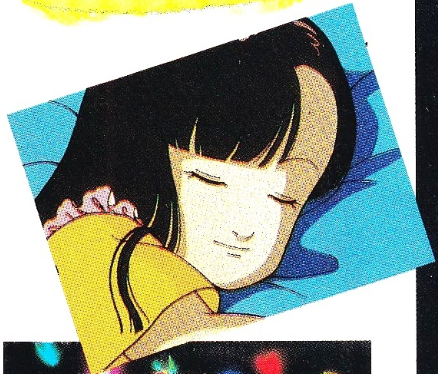


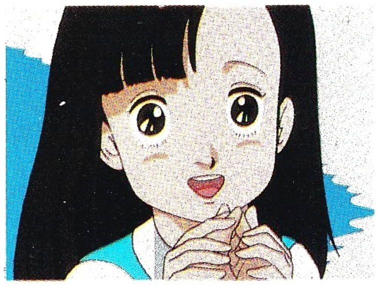


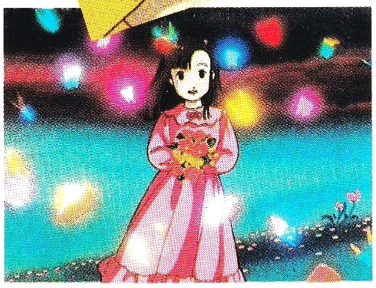








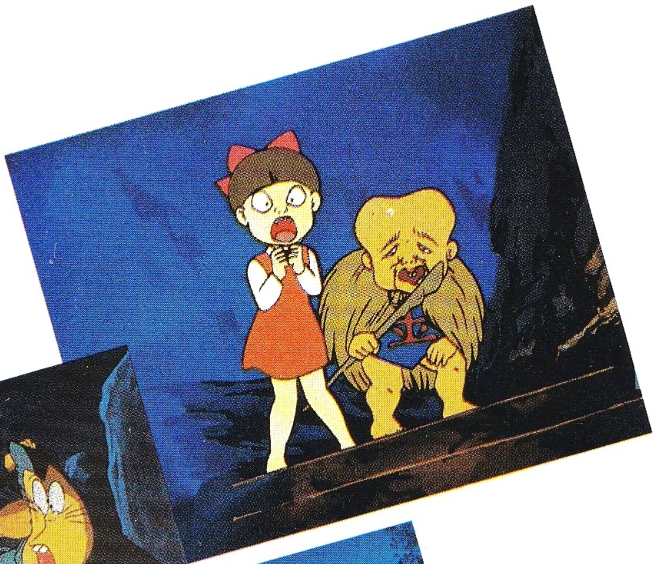




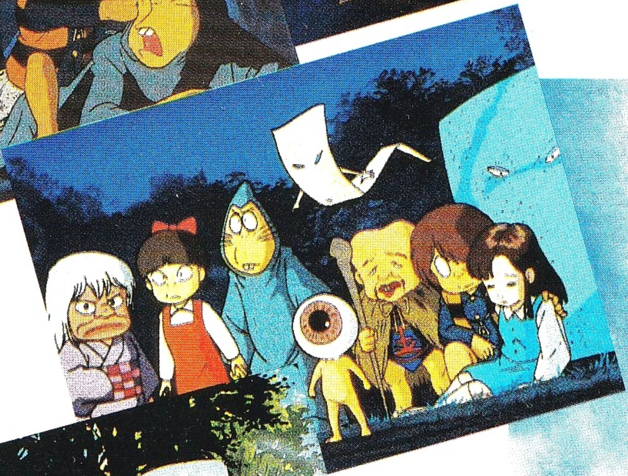
Gegege no Kitaro

鬼太郎とゲゲゲファミリー

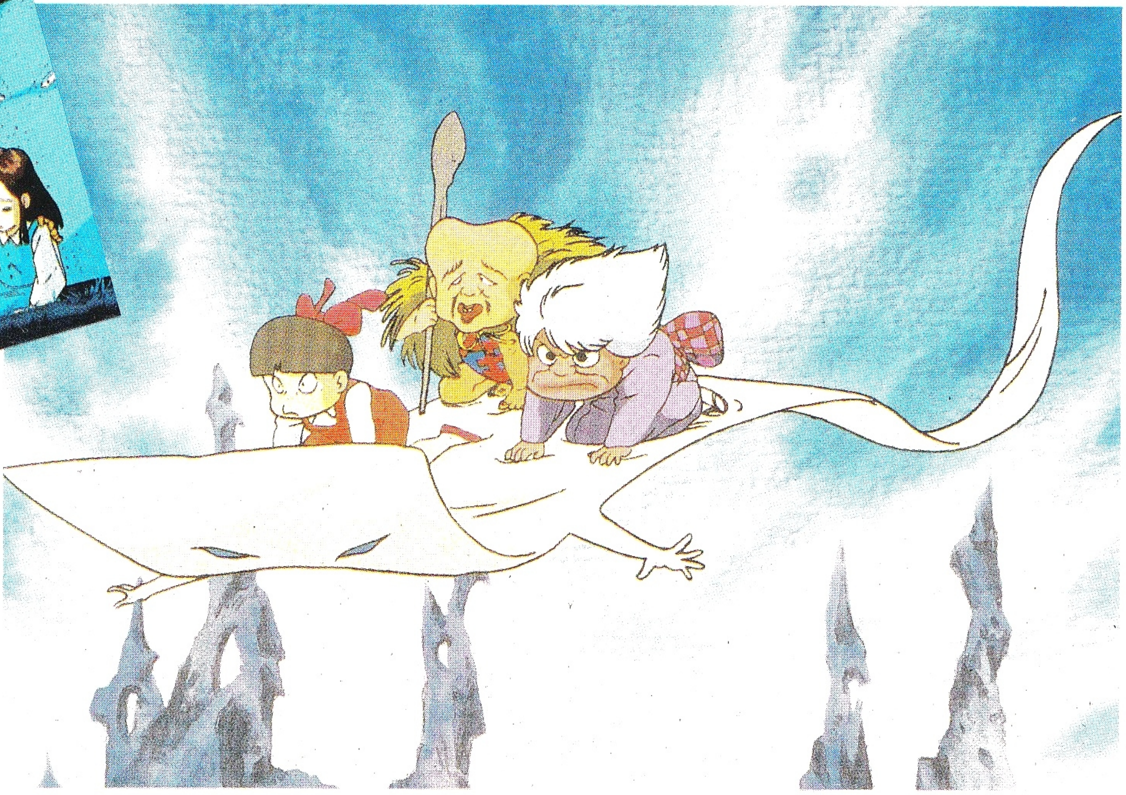
鬼太郎のもとにあつまる妖怪メンバーは，力をあわせてわるい妖怪軍にいどむ。少女妖怪のねこ娘だってたたかうんだ。そして，戦いのあとは，思いきりあそんでのんびりくらす。これが，ゲゲゲファミリーのポリシーなんだ。

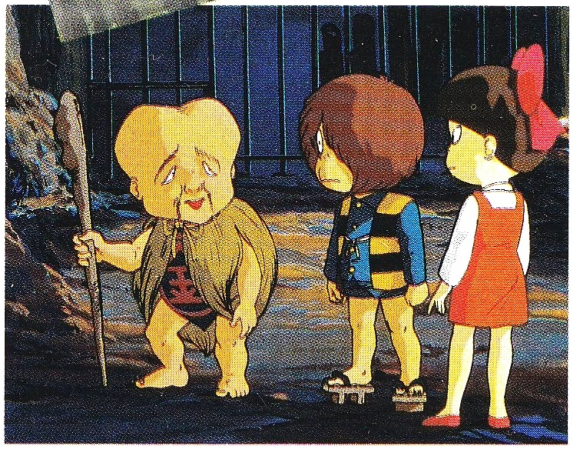


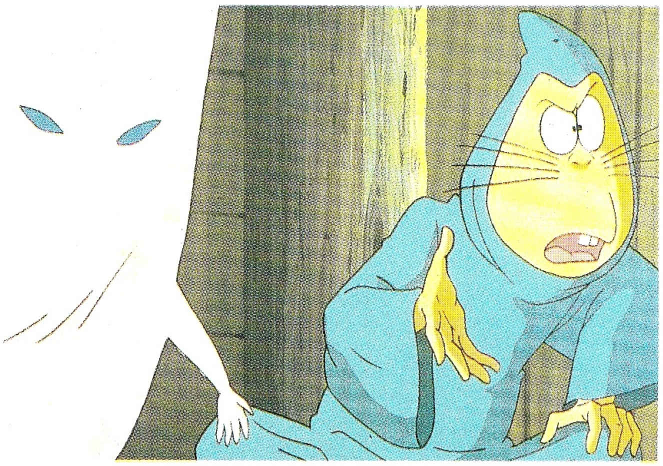




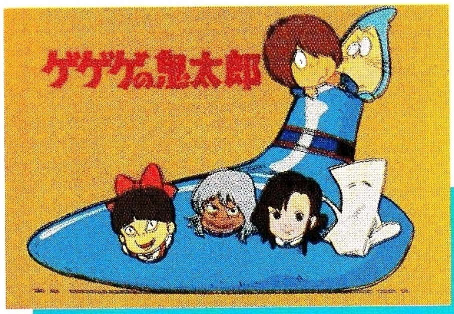


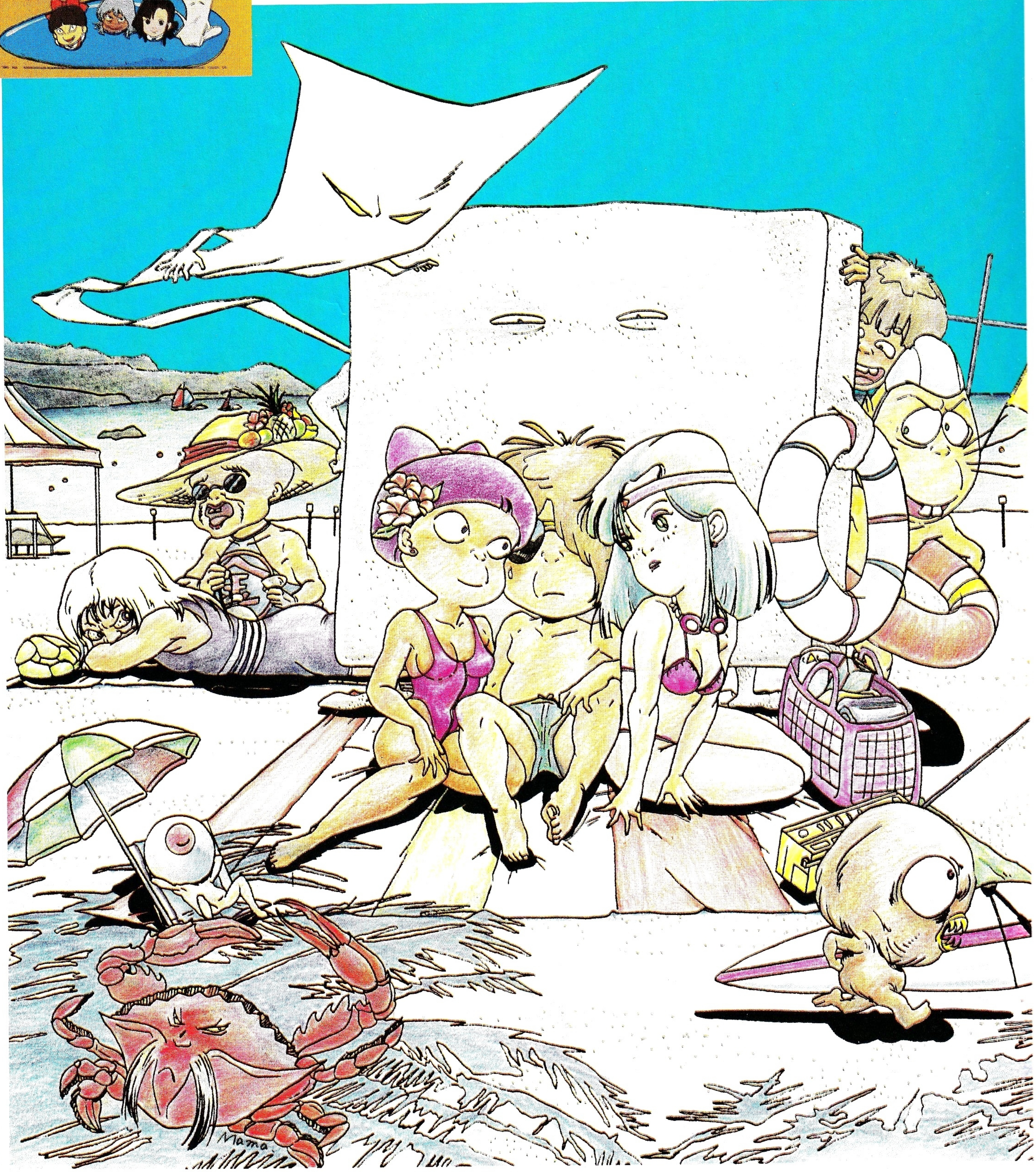












イラスト／今泉　基

Gegege no Kitaro

ねこ娘 vs ユメコ

鬼太郎はあたしのもの!

鬼太郎がすきなのは，ユメコちゃん？　それとも，ねこ娘？ユメコちゃんは人間なので，まもってあげなくてはいけないことが多いけど，意外とユメコちゃん，いざとなれば強いかも。ねこ娘も，ゆだんしてはいられません。



ユメコとねこ娘。2人のライバル意識も，ついに，リングで決着をつけるところまできてしまいました！　レフェリーは鬼太郎。おお〜〜っと，ワイルドキャット（ねこ娘）に，ビューティー=ユメコのきれいなバックドロップがきまろうとしております！

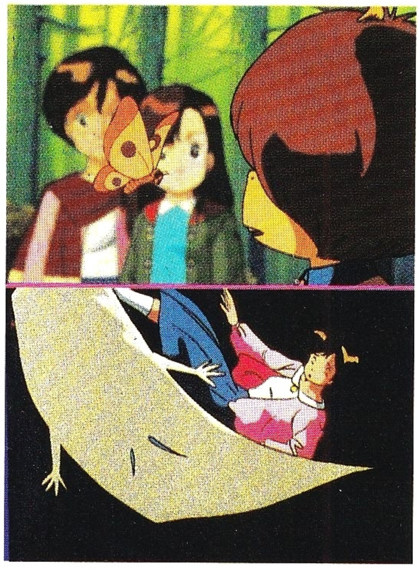
松本朋之



美女と鬼太郎

「ぼく，女の人にたのまれると，とても勇気がわくたちなんです。」母親の愛を知らない鬼太郎は，やさしくて美しい年上の女性をみると，つい心がうごいてしまう。鬼太郎自身にも，母性本能をくすぐる魅力があるのかな？





春子

（第十一話「妖怪キツネ白山坊」より。）

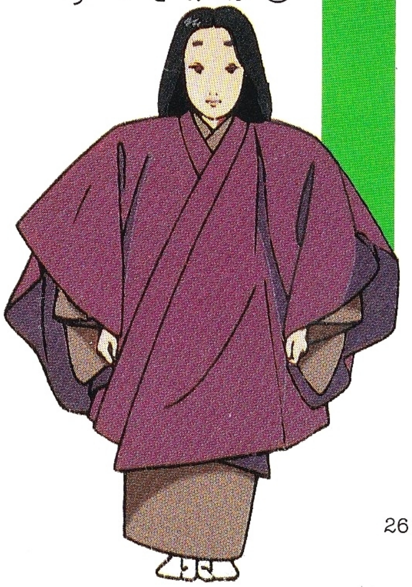
妖怪白山坊にねらわれた少女、春子。不幸のどん底にいた春子の両親が白山坊とかわした約束は、春子が十六歳になったとき白山坊のお嫁さんにすることだった。成長した春子をまもるため、鬼太郎はたたかう。人間の心をもてあそぶ妖怪はゆるせない！



まぼろしの母

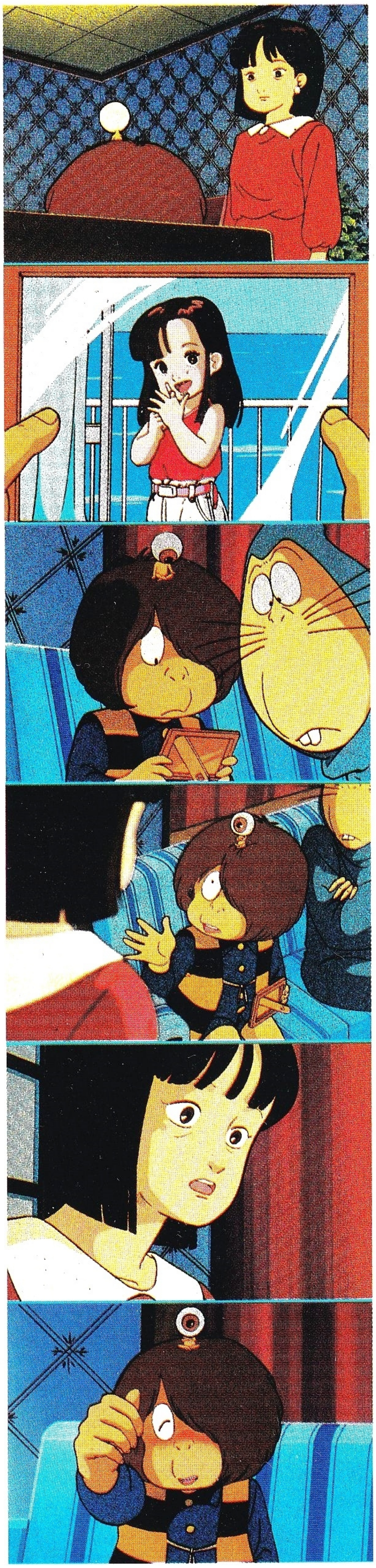
（第十九話「ゆめ妖怪まくらがえし」より。）

妖怪まくらがえしは、鬼太郎のもっともふれられたくないところをついた。鬼太郎にみせた悪夢。それは、母の姿をだして、鬼太郎をおそう作戦だった。夢で母に再会した鬼太郎。しかし、その直後、まぼろしの母は、おそろしい姿へと変貌していくのだった。



ユメコの母天童優子

（第二話「鏡じじい」より。）



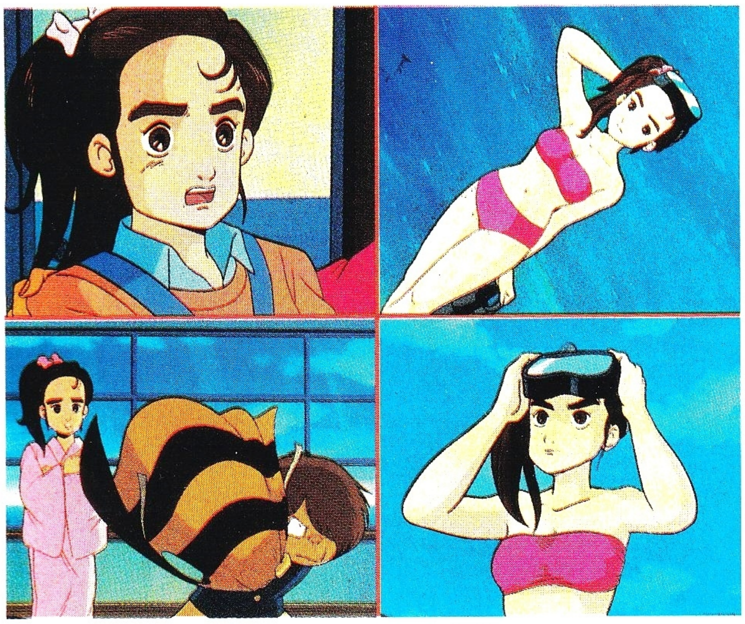
優子には、大すきなユメコのおもかげと、母のぬくもりがある。鬼太郎も優子には、どうしても頭があがらない。

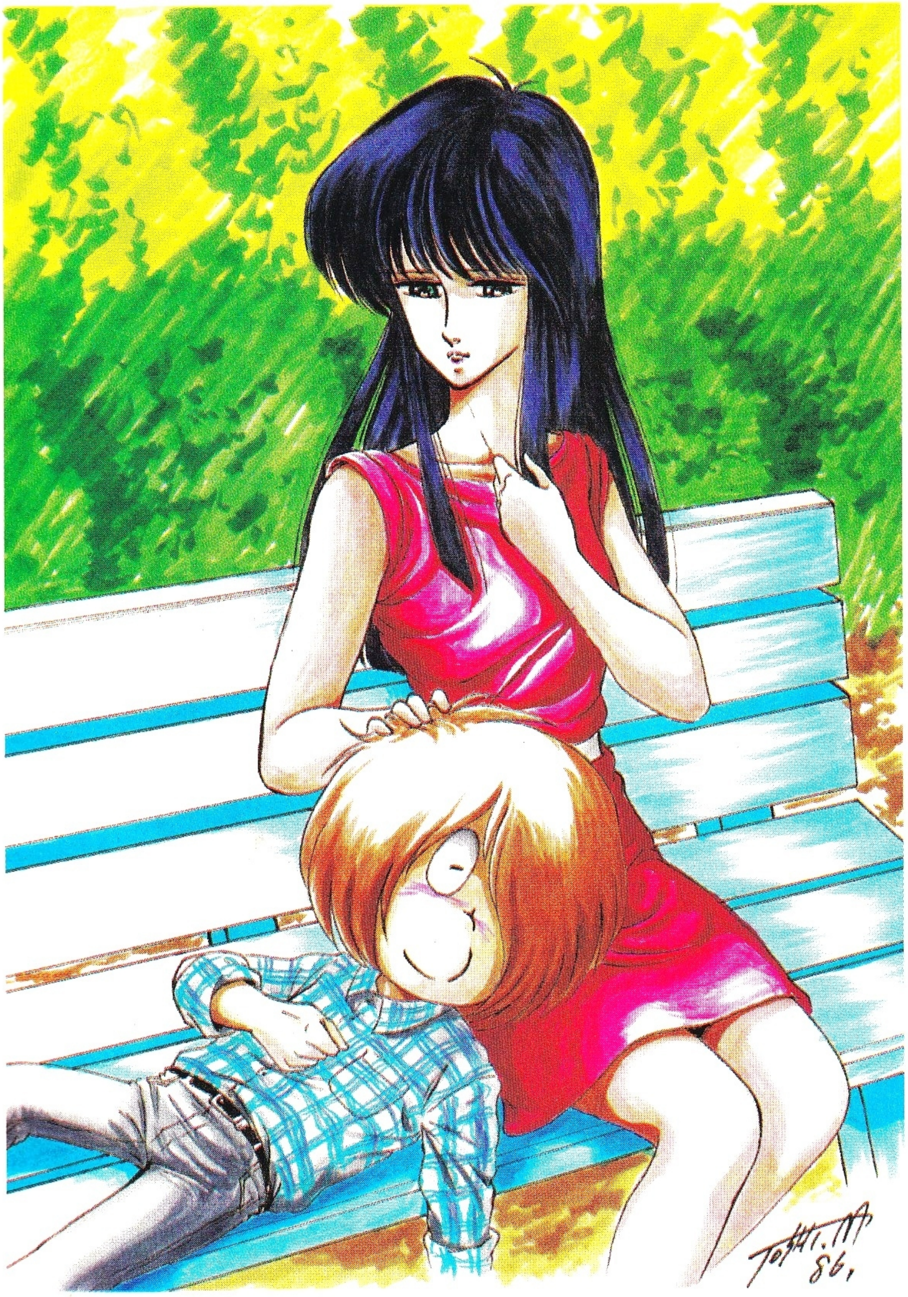
茜

あかね

（第二十話「半魚人の恋」より。）

妖怪ってのは、なんで人間の女に恋しちゃうんだろう？　おっと、鬼太郎も、その一人だったか。それはさておき、鬼太郎は、海女の茜を半魚人からまもってあげた。





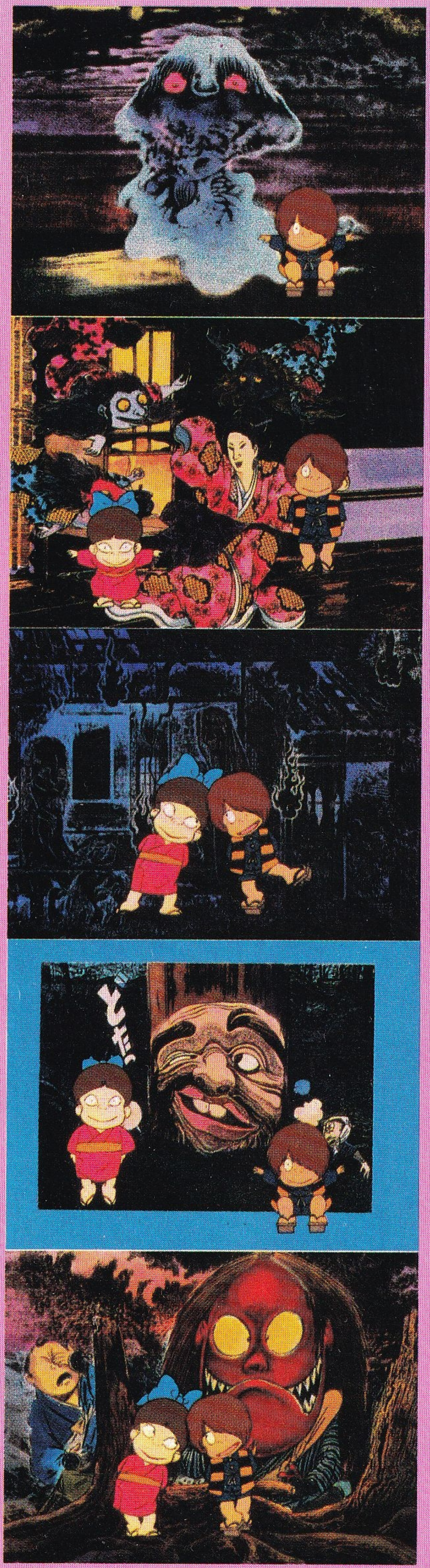
美人＝物静か、というのが、僕の感覚でして……古いのかなあ。くわえて、鬼太郎は母性本能をくすぐるタイプ(?)。てなわけで、こうなりました。（ようするにシュミじゃ。）アベックというより……親子ですねえ、これは……。

舛舘俊秀

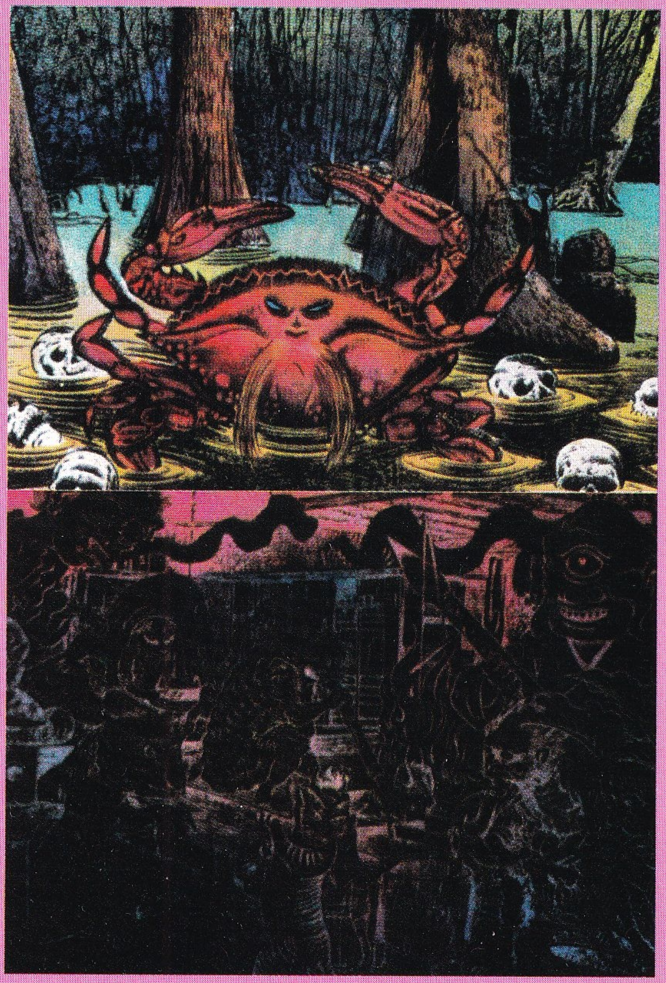
アニメーション エンディングタイトル

Animation Ending Title

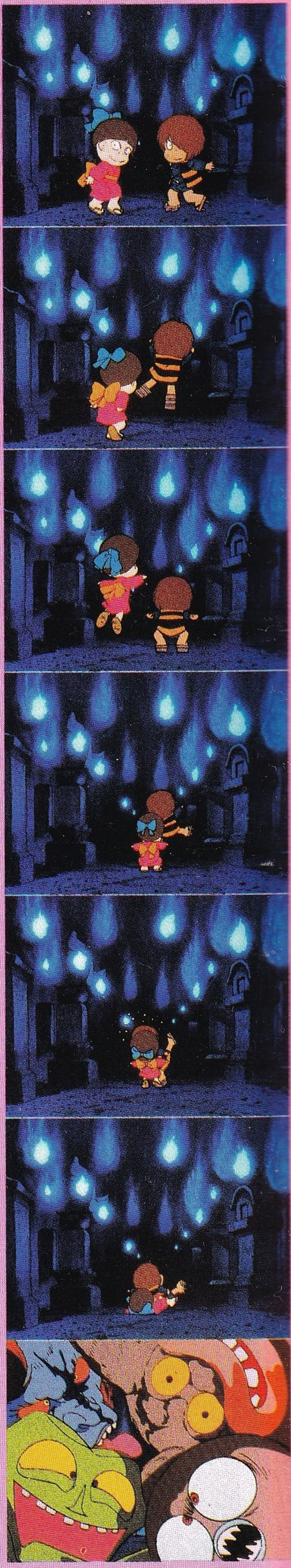


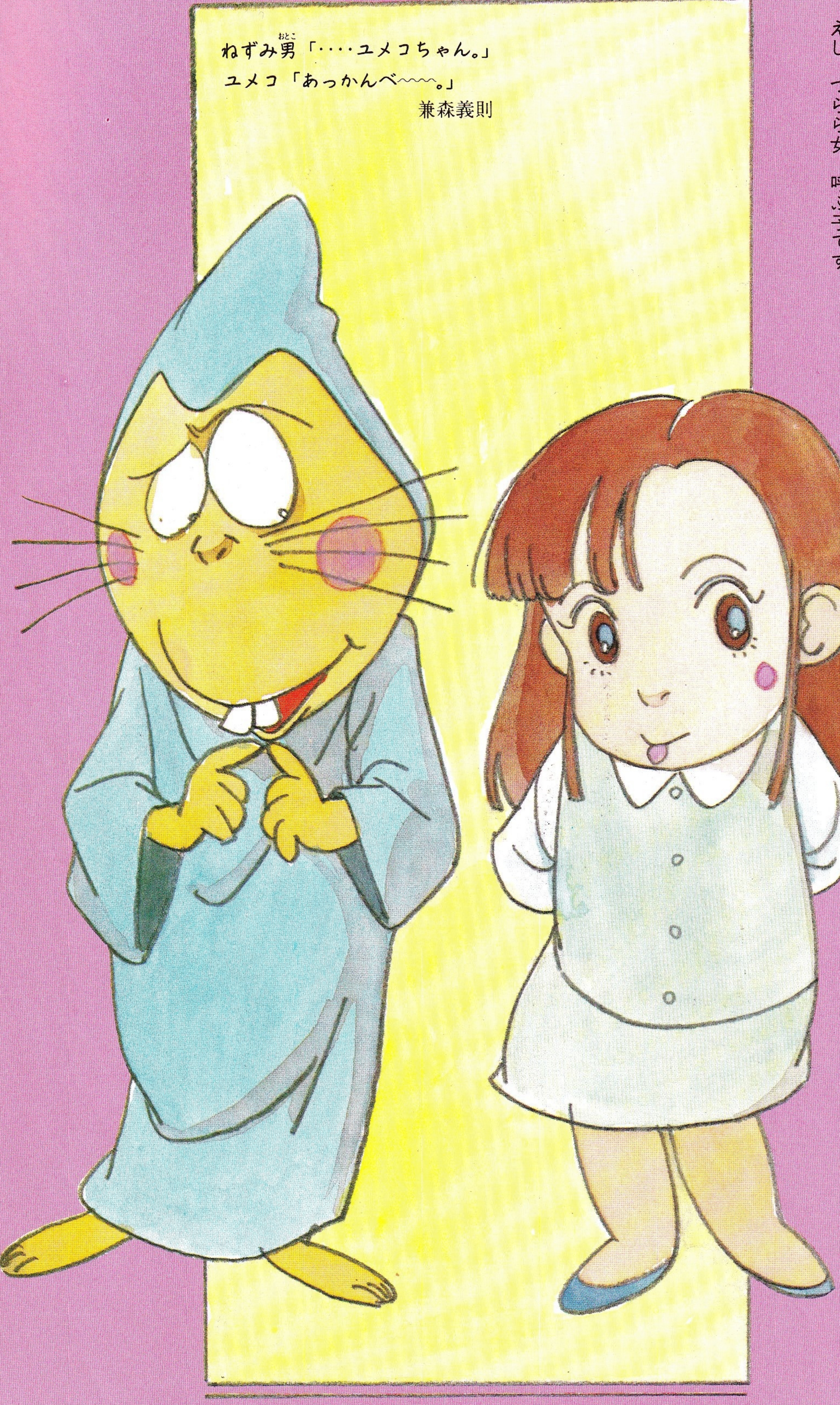






エンディングに登場する妖怪は、順に、かに坊主、古屋の妖怪、くらげの火の玉、金魚の幽霊、山中の幽霊やしき、つるべ落とし、朱のぼん、ばけ火、場所にすむ霊、まくらがえし、つらら女、呼ぶ子です。





オリジナルスペシャル ストーリーボード

Original Special Story Board

鬼太郎の誕生

芝田浩樹

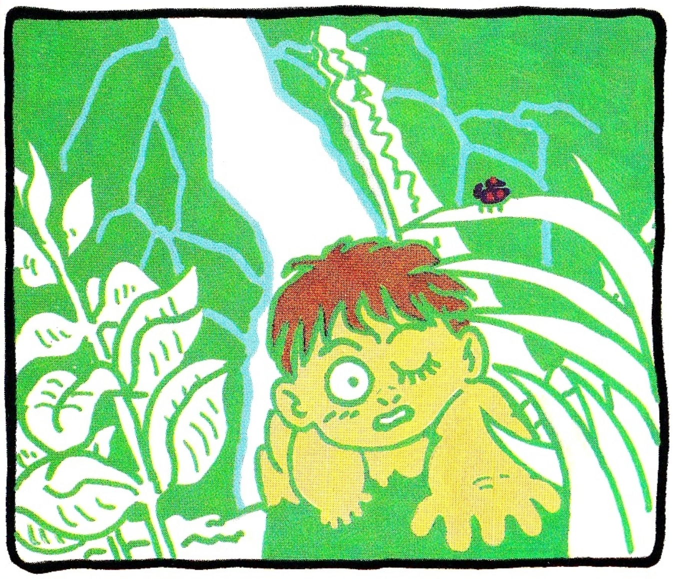
水木先生の原作にある鬼太郎の誕生エピソードは，そのショッキングなストーリー，画面構成のため，テレビアニメ化は不可能だ。そこで，演出の芝田監督に，こんなデフォルメならどうか，といった仮想絵コンテをかいていただきました。もし，オリジナルビデオで原作どおりに製作されれば，きっとすばらしい映像になるだろうなあ。



❶東京。くちはてた古寺の、わすれさられた墓地に、ある晩、赤ん坊の泣き声が、「おんぎゃあ〜〜おんぎゃあ〜〜」と、こだました。



❷ピシャ〜〜〜！ ものすごい雷鳴とともに、土の中から赤ん坊の手が！ そこは、幽霊族最後の女の墓だ。女は、おなかの中に新しい生命をやどしたまま、死んだのだった。



❸赤ん坊は、自力で墓の下からはいだしてきた。



❹おなじころ、古寺の一室で、赤ん坊の父親の腐乱した屍から・・・・。



❺目玉が、どろり・・・・と、ぬけおちた。

❻むすこを思う親の執念からだろうか。目玉はふしぎな生命力でからだを再生し、むすこのもとへとかけだすのであった。



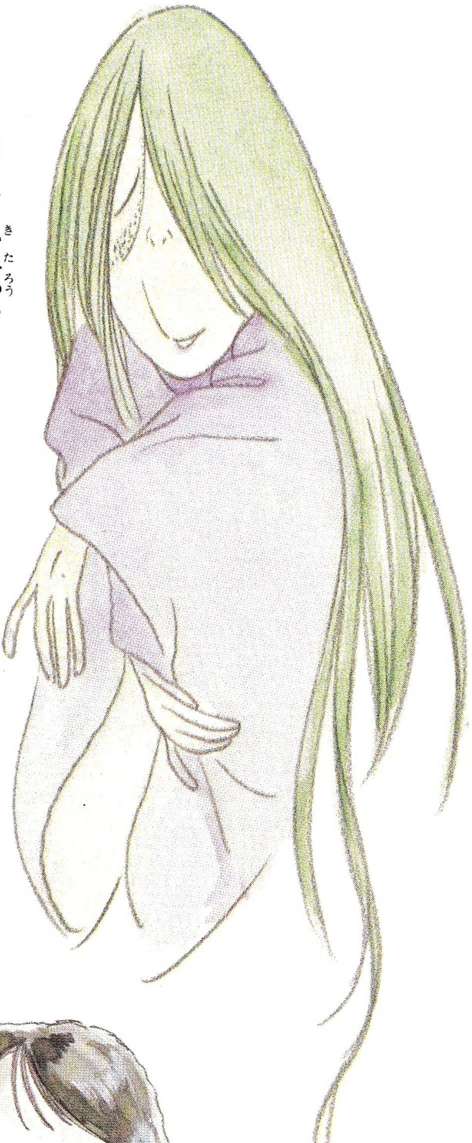
❼目玉は、墓地をさまようむすこの首にひもをかけ、ひっぱって、ある人間の家へとむかう。そこで、赤ん坊はひろわれ、そだてられた。



❽どこか人間とはちがう、ふうがわりなその子は、いつしか「ゲゲゲの鬼太郎」とよばれるようになった。人間の生活になじめない鬼太郎は、目玉といっしょに放浪の旅へでる。



ぼくが考える鬼太郎の母



やっぱり、鬼太郎のお母さんは、こうあってほしい。やさしそうでしょ。

兼森義則



父が目玉ときたら、これしかないですようっ。鼻のおふくろ！　和服がよくにあう美人(?)です。気もちわる〜〜〜。

松本朋之

新作封切映画

最強妖怪軍団！日本上陸!!

（妖怪反物より）





鬼太郎の劇場版オリジナル作品が、はやくも第三作めをかぞえる。第一作は「妖怪軍団」が原作。第二作は「妖怪大戦争」の映画化。そして、第三作は、中国妖怪と日本妖怪が対立する「妖怪反物」が原作だ。アニメ界の巨匠、芹川有吾監督による大スケール作品である。

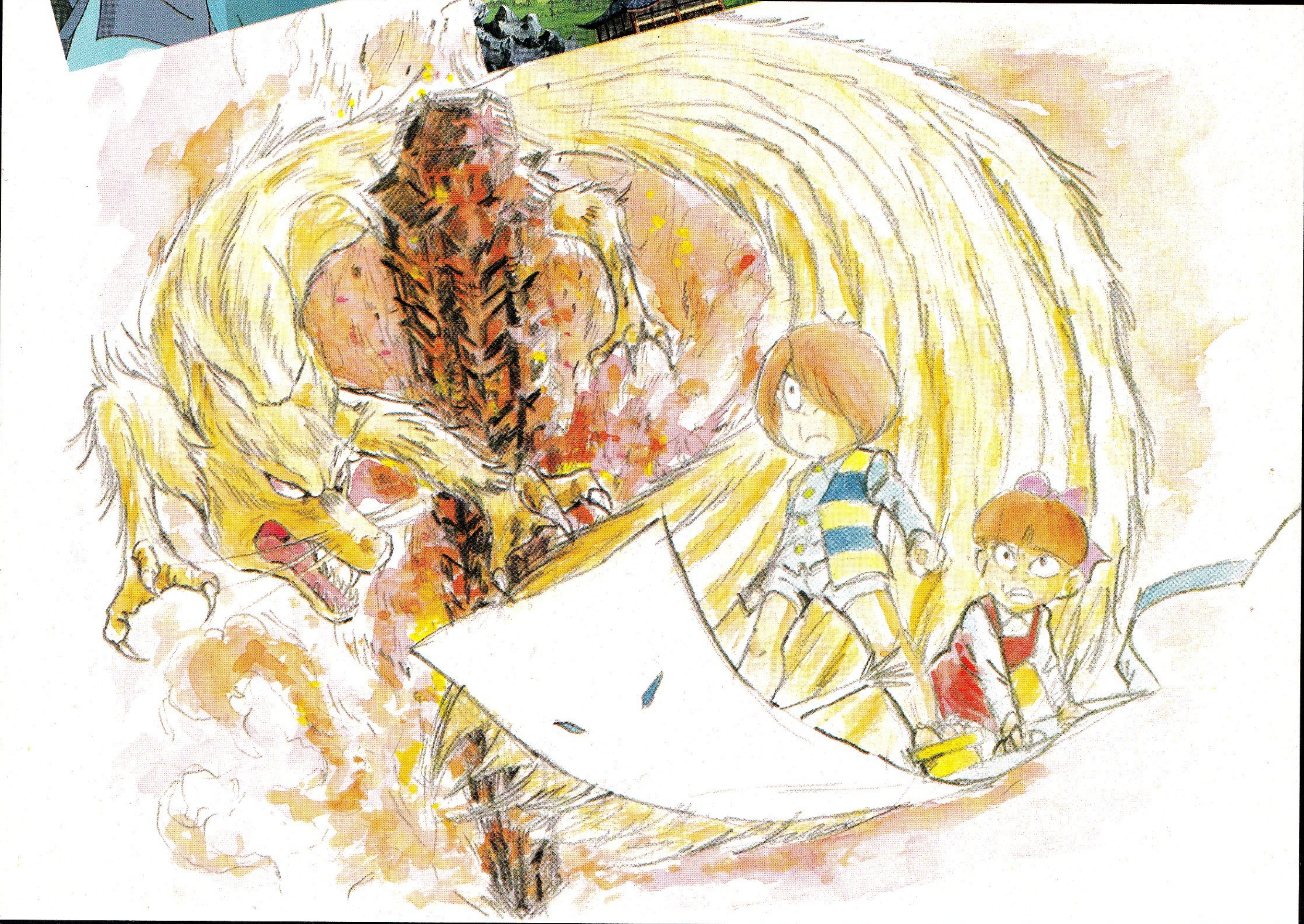
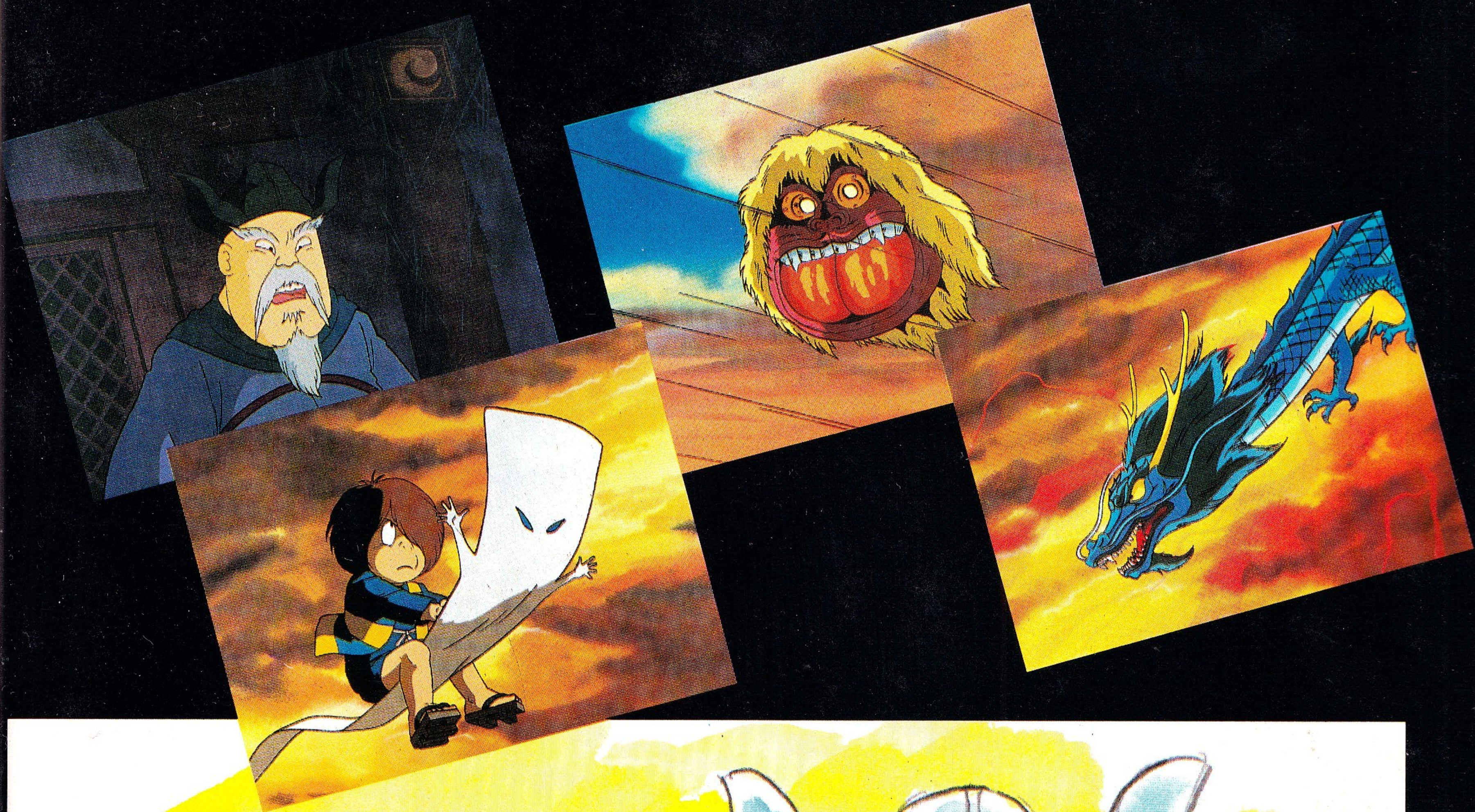


イラスト　清水　明







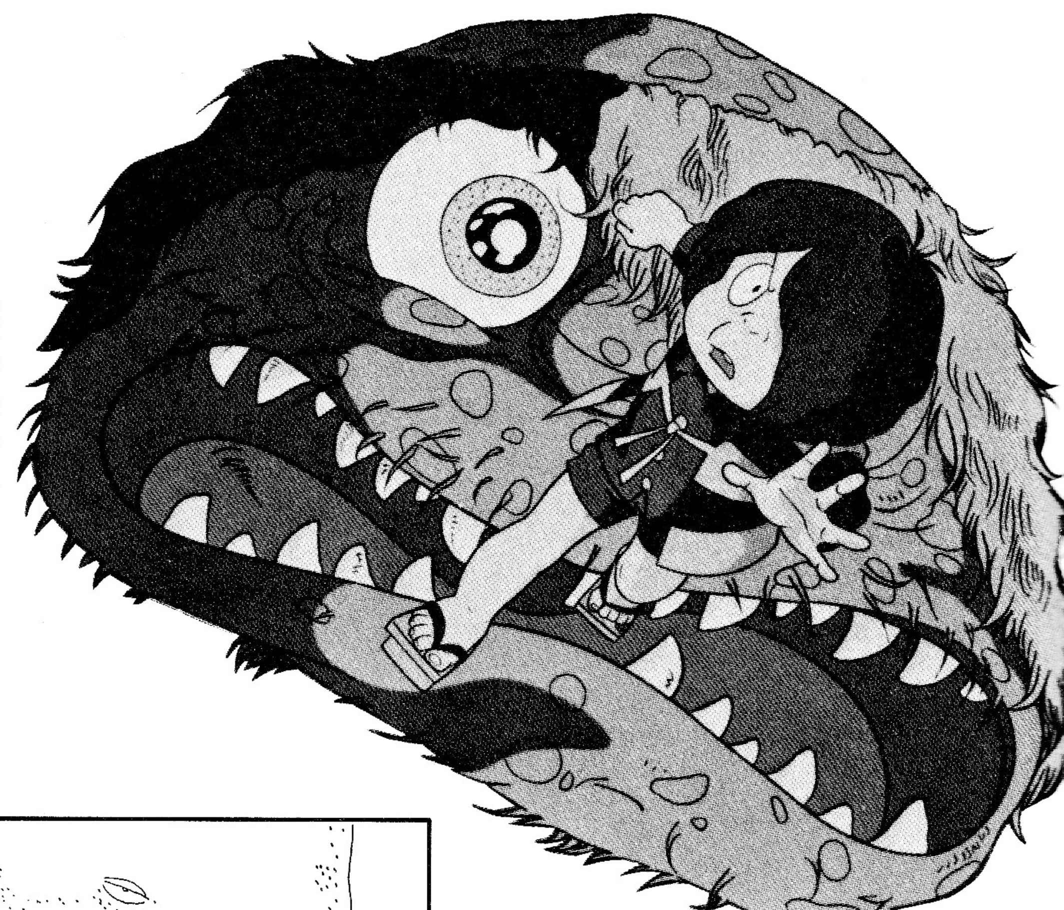
イラスト／清水　明

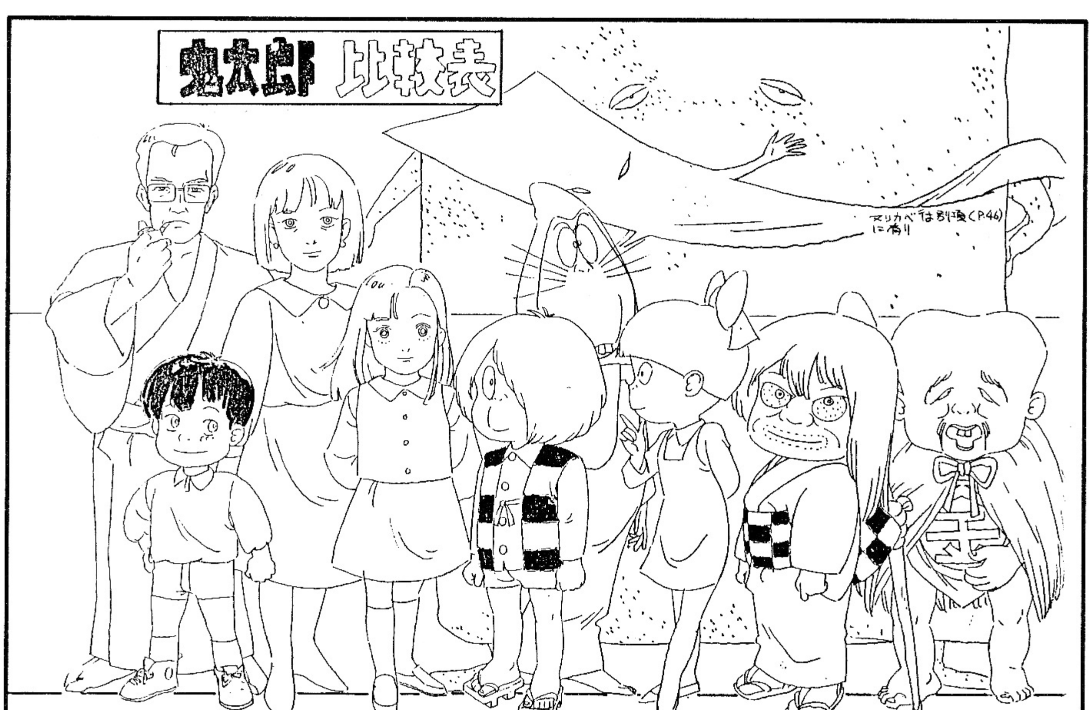
ゲゲゲの鬼太郎

キャラクター設定&テレビストーリーガイド

アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」のすべてを集大成。企画資料からキャラクター設定、未放送分をふくむストーリーガイドなど、ボリュームたっぷり！ くわえて、来年一月までのストーリーをラインナップ。メーンスタッフに、今後の展開を特別取材したぞ！





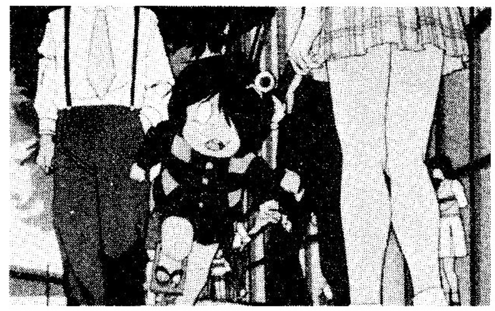


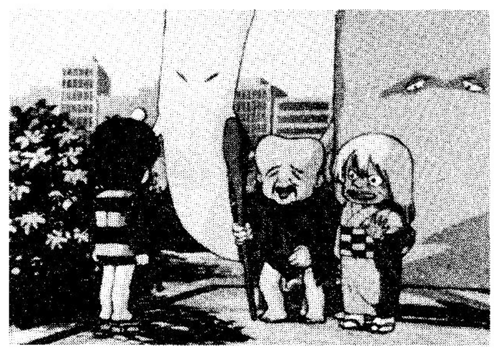


かえってきた

鬼太郎

(企画設定資料紹介)





「ゲゲゲの鬼太郎」のアニメは、過去に二回放送されている。今回、十数年ぶりに復活するにあたり、さまざまなディスカッションがおこなわれた。つぎにあげる資料は、企画当初のメモと、作成された企画書の全文である。

制作メモ

1 放送開始　10月12日(土)　PM 6：30～7：00(フジテレビ系列)

2 昭和43年(モノクロ),昭和46年(カラー)と,2度アニメ化されているので,その差異をうちだす。
- ●スタッフを一新する。(フレッシュなイメージで,現代っ子にアタック。
- ●レギュラーキャラクターの追加。(ユメコ～小学4年生)
- ●オリジナルの部分をふくらませる。(ストーリー　妖怪能力)
- ●作品のテンポは明るく。陰湿でじめじめさせない。
- ●登場人物各妖怪の動きは,原作よりオーバーアクションにして,現代的ファッション感覚をたいせつにする。
- ●舞台は,現代より50年くらいさきを想定し,妖怪の世界との対比をだしたい。
- ●色彩効果,撮影効果,音響効果の研究。

3 妖怪は,たんに恐怖だけでなく,それぞれ個性があり,おかしさ,こっけいさ,かわいらしさなどをもち,邪心をもたない子どもたちとは,友だちなのです。(E.T.)(妖怪遊び)

4 妖怪は,一種のミュータントでもあるが,それぞれの主張をもち,子どもたちにメッセージをのこす。(妖怪は死なず,封じこめられたり,流されたりする。)

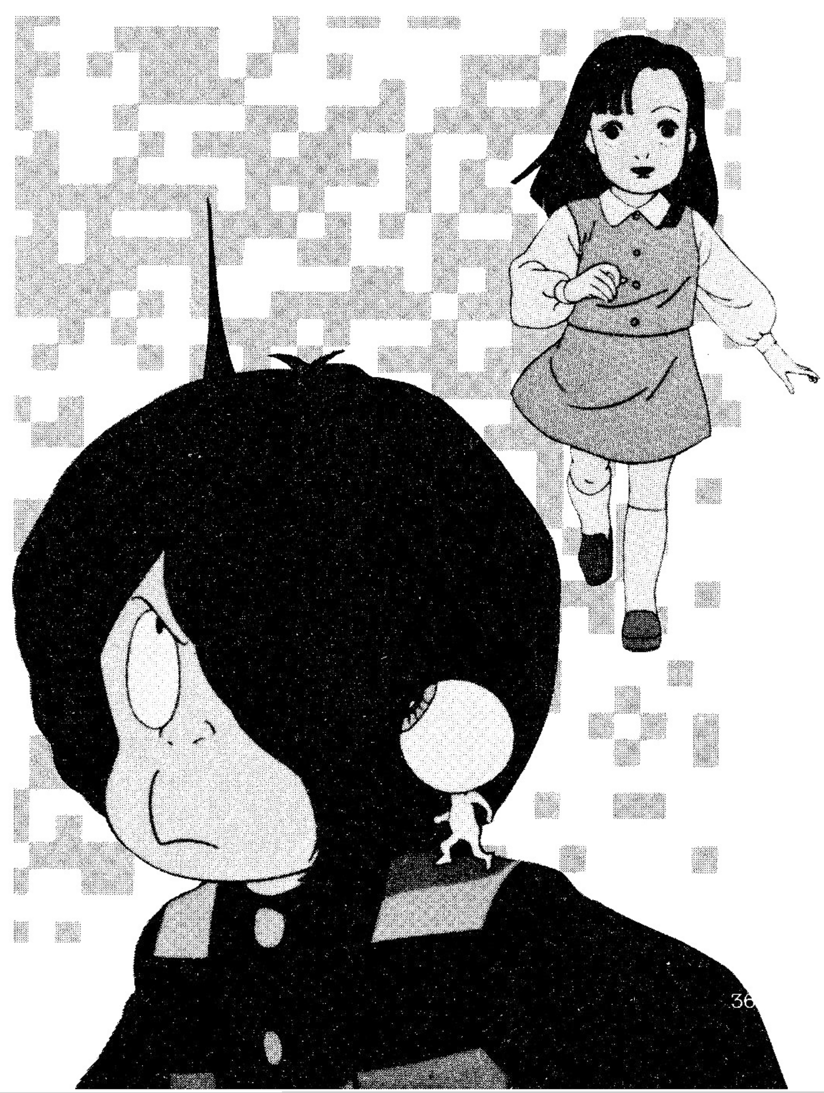
5 鬼太郎の世界では,人間と妖怪と動物は,対等の立場で会話をかわし,対等の立場でたたかうことができる。(種のちがいはあっても,平等である。)

〰〰共存の世界〰〰

6 鬼太郎の世界では,しばしば,開発・自然破壊・公害といった人災がとりあげられているが,もっとも重要なのは,それらの奥にある合理偏重,利益追求中心主義,情緒不在の現代社会の矛盾である。

7 水木まんがには,絶対の強者・英雄はいない。力はつねに相対的である。つねに勝者である鬼太郎も,その勝利は,友のたすけによる逆転勝利であったり,相手の失敗や,そのほかの偶然にすくわれるということが多い。しかも,その助力は,つねにささやかな近隣・友人からのたすけであり,多くの集団のかたちであたえられる。(子泣きじじい・砂かけばばあ・一反もめん・ぬりかべ・ねこ娘など。)

8 ゲゲゲの鬼太郎は,たんなる怪奇アニメ,ホラーアニメではなく,不毛で無機的な現代日本という背景のなかで,強者においつめられた弱者が,その権利をまもり,あるいは,よき人間が迫害されるのを,ごくかぎられた世界で,鬼太郎が代表してたたかう作品である。
だが,鬼太郎が,物質的,社会的にむくいられることは,ほとんどない。



新テレビアニメ企画
ゲゲゲの鬼太郎

タイトル／ゲゲゲの鬼太郎
種別／妖怪ファンタスティックアクション
形式／三十分カラーアニメ
局／フジテレビ系全国ネット
放送開始／昭和六十年十月スタート
放送時間／土曜日18時30分～19時
原作／水木しげる
制作／フジテレビ
　　　東映動画
　　　読売広告社

はじめに

――ゲッゲゲゲゲのゲ　たのしいな！　おばけにゃ学校も　試験もなんにもない！――

この、ふしぎな、そしてたのしいオープニングテーマにのって、あの〝ゲゲゲの鬼太郎〟がかえってきました。

大ヒットした昭和四十三年（モノクロ）、昭和四十六年（カラー）につづいて、三度めの登場です。

物語そのものは、いまさら説明するまでもなく、太古からの先住民族である幽霊族の子孫、鬼太郎が、祖先からつたえられたふしぎな力をひめた〝ちゃんちゃんこ〟と〝げた〟、そして鬼太郎自身のもつ超能力をつかって、〝妖怪ポスト〟に全国からあつまった妖怪退治の声にこたえて、この世にはびこるわるい妖怪をやっつけるというストーリーです。

おもな登場人物を紹介すれば……。

ゲゲゲの鬼太郎

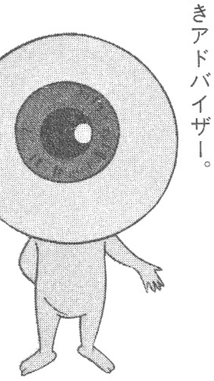
幽霊族の最後の生きのこり夫婦の遺児。かみの毛をさかだてると妖怪の存在を知ることができるのをはじめ、いろいろな超能力をもっている。

だんだらもようのちゃんちゃんこをきて、げたをはいているが、そのちゃんちゃんことげたには、ふしぎな力がひめられていて、鬼太郎の身をまもったり、妖怪攻撃の武器になる。



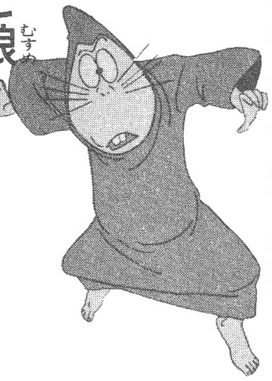
目玉のおとうさん

目玉に手足がはえたようなかっこうで生きている。たいした力はないが、妖怪に対する知識や、その対策にはくわしい。鬼太郎のよきアドバイザー。



ねずみ男

半分妖怪のC調男。まるで力はないのだが、半分妖怪なので、妖怪の存在を知ったり、その仲間として行動できる。鬼太郎とは、つかずはなれずで、そのときの損得で、敵についたり、味方になったりする。ずるがしこいが、にくみきれない小悪党。



ねこ娘

ねこの性格を、そのままもった少女の妖怪。ねこゆえに、ねずみ男とは、まったくそりがあわない。〝妖怪界の小泉今日子〟のプライドがあり、人間の少女に大人気の鬼太郎に、いつもやきもきしている。

この四人が、全国をめぐってくりひろげる〝妖怪バスターズ〟が、鬼太郎の基本物語です。



妖怪。この、こわくて、そして、なつかしい世界。

日本人が、原始時代から本能的にもちつづけている、大自然へのあこがれ、恐怖が、万物に神々がやどっているという考え方を生みだしました。

妖怪とは、そんな神々が、なにかの理由で堕落したかたちなのです。

宇宙時代をむかえた日本にも、日本人の血としての原始時代の心が、まだまだのこっているのです。

たとえば、家。

地鎮祭で土地の神さまの怒りをしずめ、上棟式で家の守り神をむかえ、お正月にはしめなわをかざり、節分にはいわしの頭を……。

わたしたち日本人、だれもがふしぎと思わずに接しているこれらの〝行事〟こそ、わたしたちが日本人であるあかしなのです。

ふしぎ大すき！　好奇心!!

現代っ子とはいえ、日本人。

子どもたちが、そんな妖怪の世界に興味をもつのは、しごくしぜんなことなのです。

おとろし・輪入道・そろばん坊主・はくそうず・子泣きじじい・ぬりかべ・てっそ・ざしきわらしなど。

一目みただけで、なんとなくなつかしくなる。そんな妖怪が、鬼太郎の世界には、なんと、二百五十以上登場します。

子どもたちが、〝ゲゲゲの鬼太郎〟に熱中するのも、当然のことといえるでしょう。

妖怪たちにもわけがある。〝造反有理〟の妖怪たち。

水木しげるの妖怪ワールドでみのがせないのは、妖怪たちへの熱い愛情です。

たとえば、田にすむ妖怪、泥田坊があばれたのは、都市化がおしすすめられ、人間たちが泥田坊のすみかをうばったためであるし、山奥深くすんでいたやまわろが人をおそったのも、ちかくに巨大ダムができたためであったといったように、妖怪たちにも、それなりのわけはあって、人間にいどんでくるのです。

〝ゲゲゲの鬼太郎〟の奥底に流れるのは、人間と妖怪の平和共存なのです。

この、妖怪への深い愛情、平和共存へのねがいこそ、〝鬼太郎〟が、たんなるアクションにおわらない……子どもたちの共感をよびおこす原動力となりうるものです。

つまり、鬼太郎は、人間と妖怪の共存のためにたたかい、さとし、人間の暴走をくいとめる、たんにスーパーヒーローにおわらない、ユニークなヒーローなのです。

もう一つ、ねずみ男のC調さ、目玉のおとうさんのキャラクターも、'85年に十分に適応するキャラクターです。

そして、みのがせないのは、鬼太郎と妖怪たちがくりひろげる世界の、なんともいえないなつかしい世界。現代っ子とはいえ、日本人ならかならずであい、愛する、〝桃太郎〟や〝金太郎〟、そして〝一寸法師〟の世界に共通する、日本的なファンタジーの世界なのです。

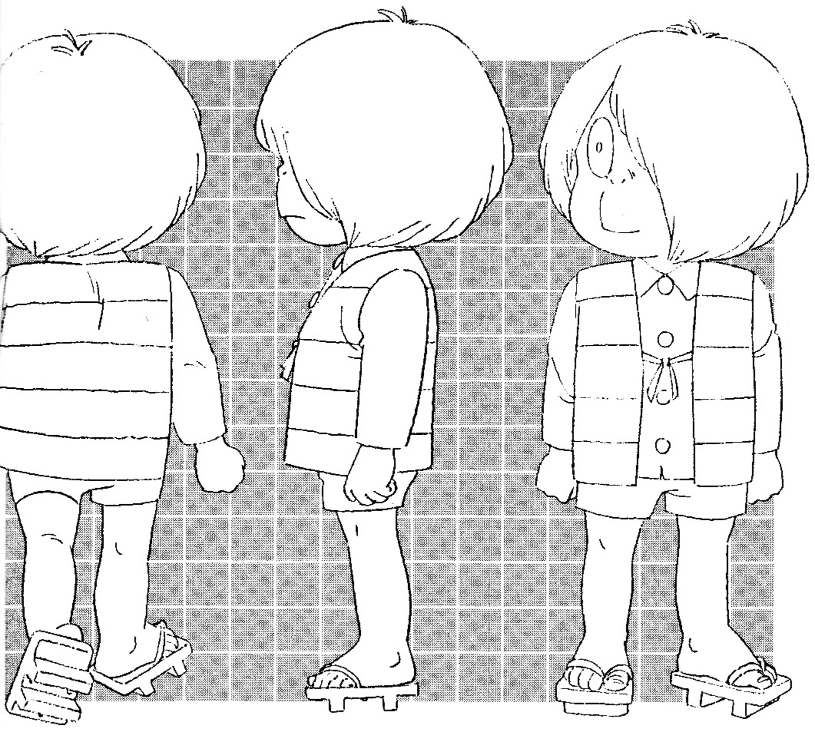
鬼太郎の世界とは、つまり、〝キン肉マン〟的なアクションの世界と、〝まんが日本昔ばなし〟的なファンタスティックな世界が調和した、ユニークな世界といえましょう。

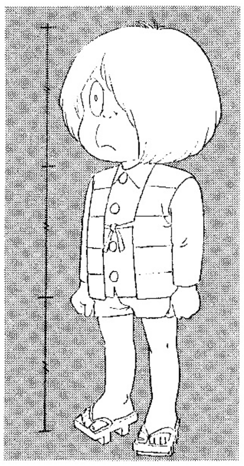
さあ、鬼太郎が、目玉のおとうさん、ねずみ男・ねこ娘、そして、仲間の正義妖怪、子泣きじじい・砂かけばばあ・一反もめん・ぬりかべたちとともに、世界をまたにかけての大活躍をはじめます。

キャラクター①
ゲゲゲの鬼太郎（声／戸田恵子）

三たびアニメ化された鬼太郎。幽霊族の正統な血をひく少年、鬼太郎は、今回も、人間と妖怪が共存共栄できる平和な世界をつくるべく、日夜、努力している。さまざまな超能力を身につけ、おなじみの必殺技で悪妖怪をたおす痛快な活躍は、いつの時代にも通用するかっこよさだ。現代の科学では理解できない、奇々怪々な事件をつぎつぎと解決し、世の中の秩序の回復をねがっている。

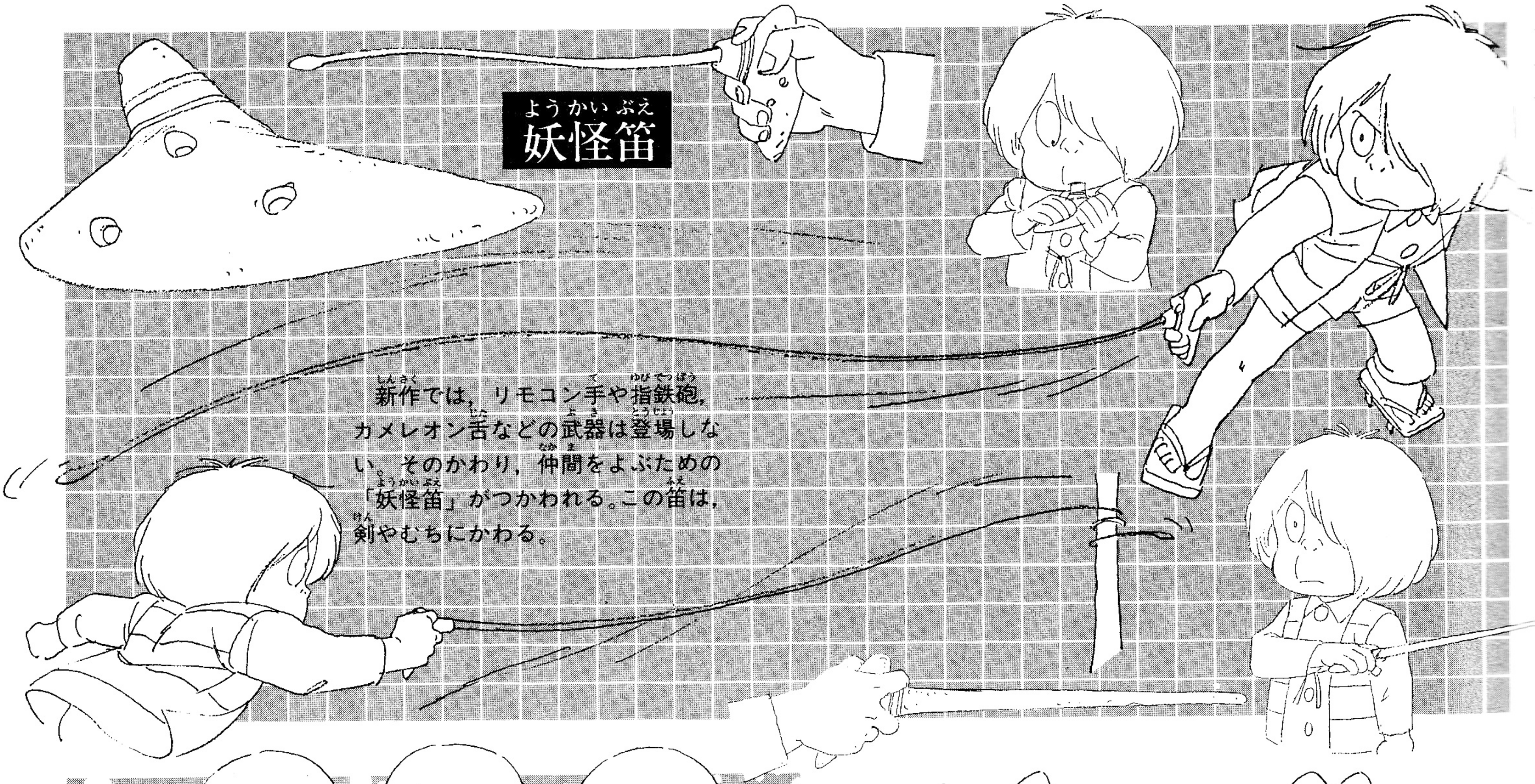
鬼太郎以下のメーンキャラクターの設定も、原作とほぼおなじである。





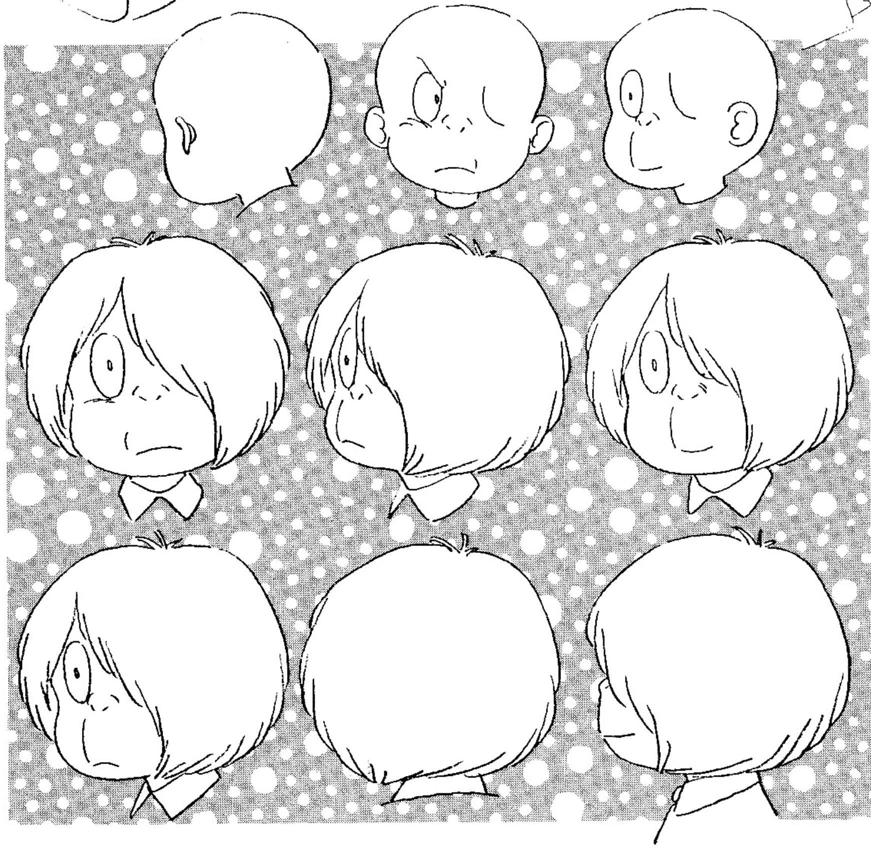


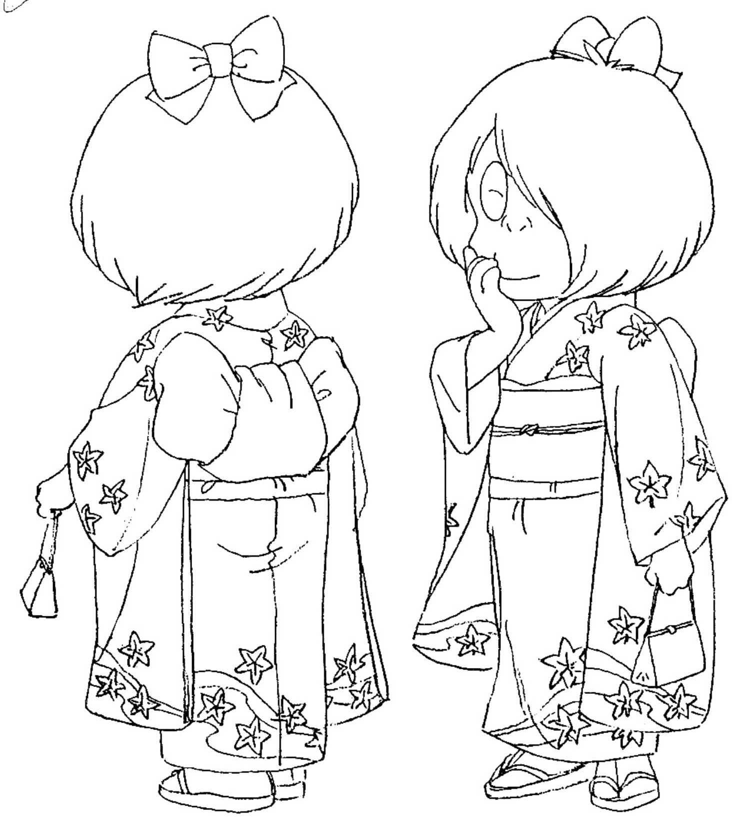




妖怪笛

新作では，リモコン手や指鉄砲，カメレオン舌などの武器は登場しない。そのかわり，仲間をよぶための「妖怪笛」がつかわれる。この笛は，剣やむちにかわる。

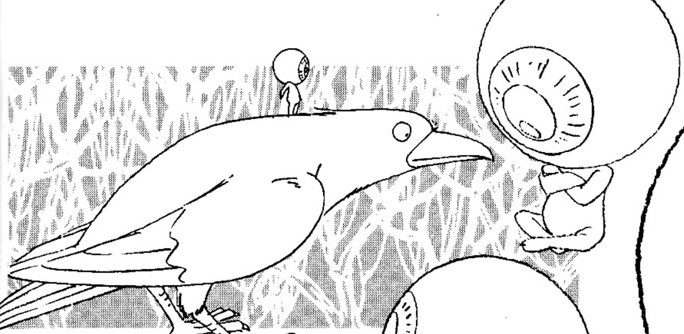


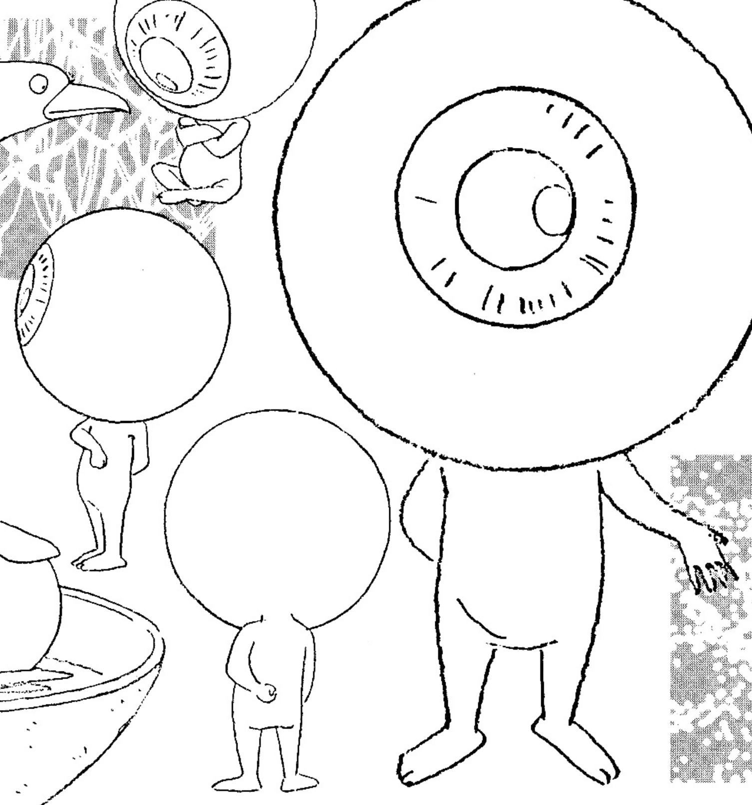


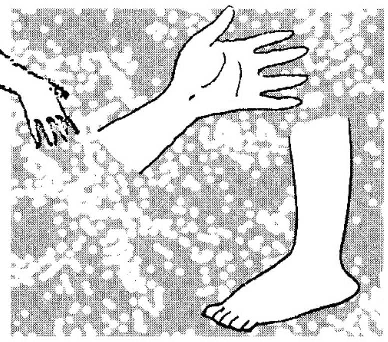
少女に変装した鬼太郎（第十二話）

キャラクター②
鬼太郎のおとうさん（声／田の中勇）

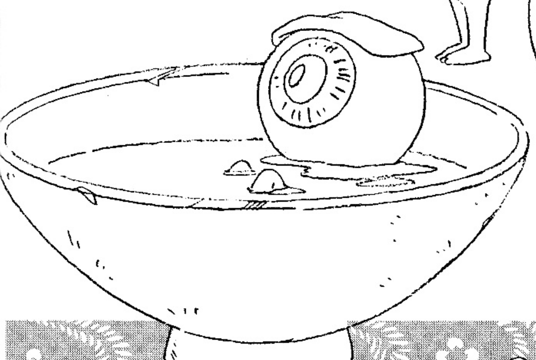
目玉だけとなって生きている鬼太郎のおとうさんは、十八年まえから声を担当している田の中勇氏のイメージとあいまって、じつに個性的なキャラクターである。鬼太郎のちえぶくろとして、常時、行動をともにする。







ちゃわんぶろが大すきなのは，原作もアニメもおなじ。鬼太郎の左目にはまるシーンは，テレビにはでない。



キャラクター③
ねこ娘（声／三田ゆう子）

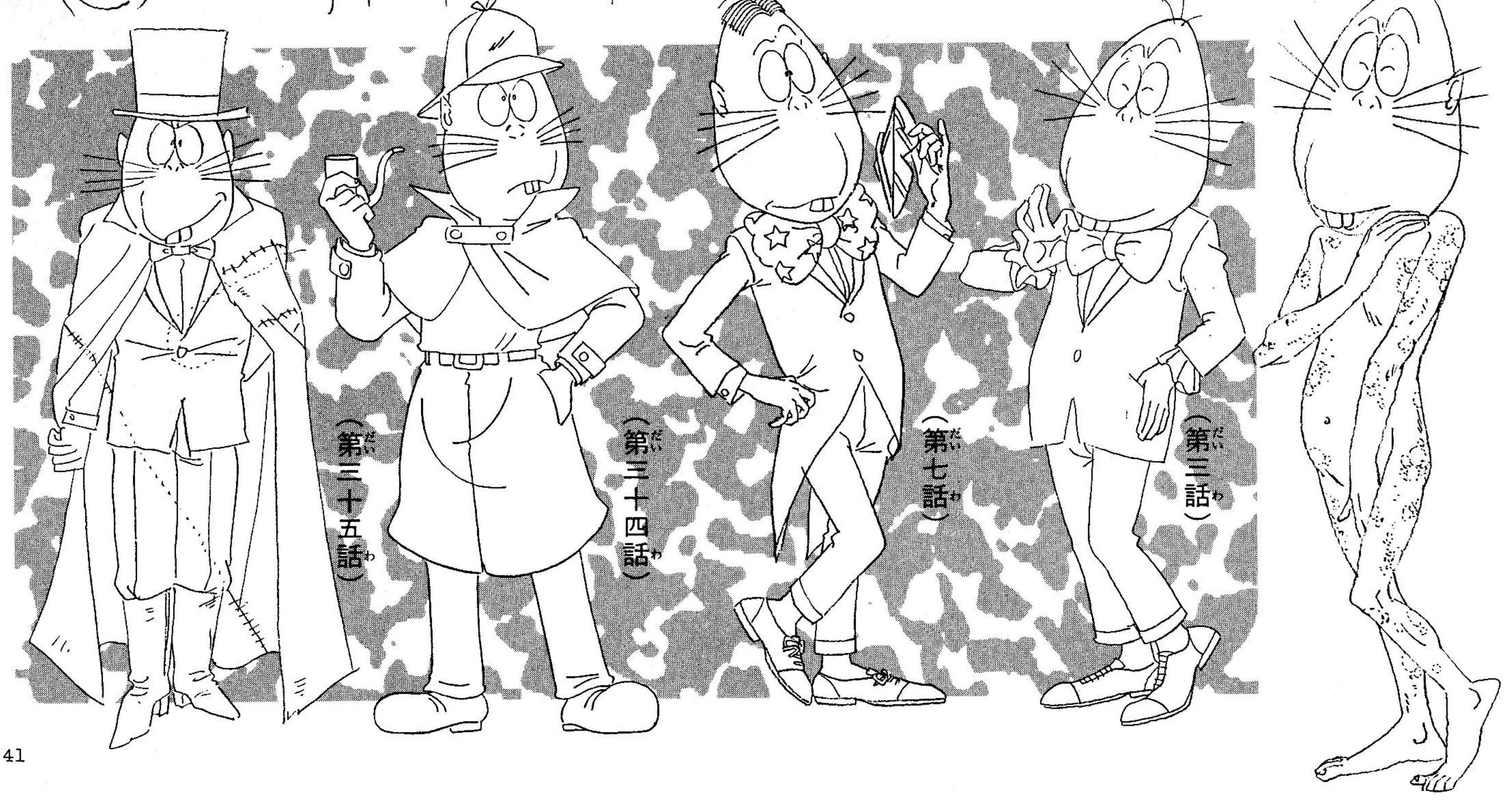
二度めのアニメ化のときレギュラー入りしたねこ娘は、鬼太郎のガールフレンド。しかし、新作では、ユメコというライバルがあらわれて、関係も複雑になってきた。気が強く、ねずみや魚をみると、たちまち、ばけねこに変身してしまう。





キャラクター④ ねずみ男（声／富山敬）

鬼太郎ワールドの、もう一人の主人公が、ねずみ男といえるだろう。鬼太郎に寄生するこばんざめのような性格で、そのくせ、金もうけのためならへいきでうらぎる。ドライな男である。新作では、ロリコン趣味となり、ユメコにせまる。

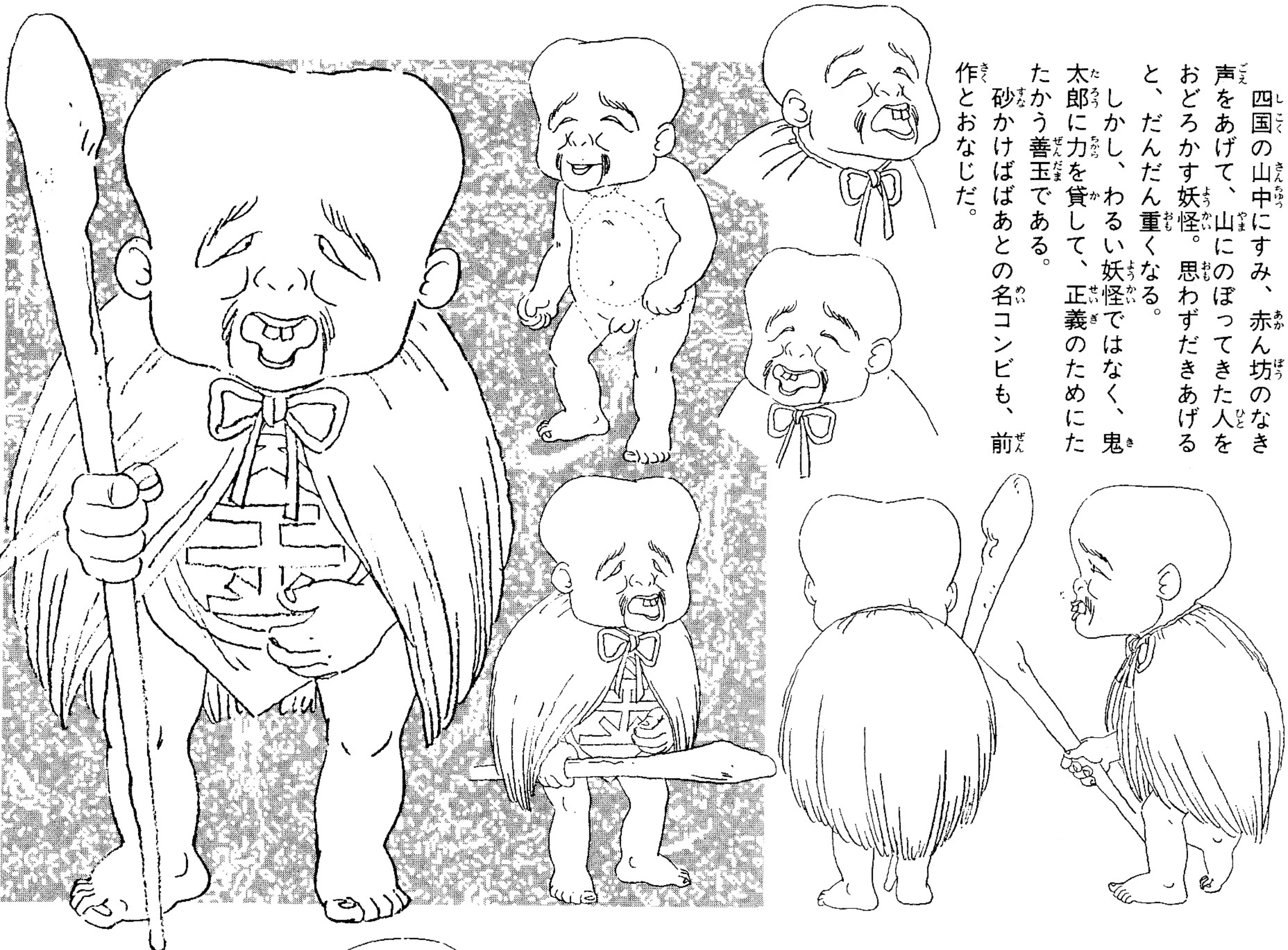


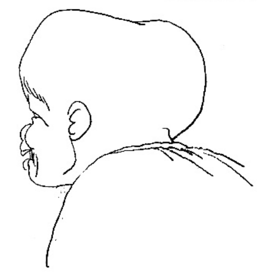
キャラクター⑤ 子泣きじじい（声／永井一郎）

四国の山中にすみ、赤ん坊のなき声をあげて、山にのぼってきた人をおどろかす妖怪。思わずだきあげると、だんだん重くなる。

しかし、わるい妖怪ではなく、鬼太郎に力を貸して、正義のためにたたかう善玉である。

砂かけばばあとの名コンビも、前作とおなじだ。





キャラクター⑥ 砂かけばばあ（声／江森浩子）

奈良県の竹やぶにすんでいる、気のやさしいおばあさん妖怪。砂を武器にして、相手の目をくらます。妖怪医学や、妖怪玉をつかった占いなどもとくいだ。

正義感が強く、鬼太郎の保護者として、まるでじつの孫のようにかわいがっている。







キャラクター⑦
一反もめん（声／八奈見乗児）

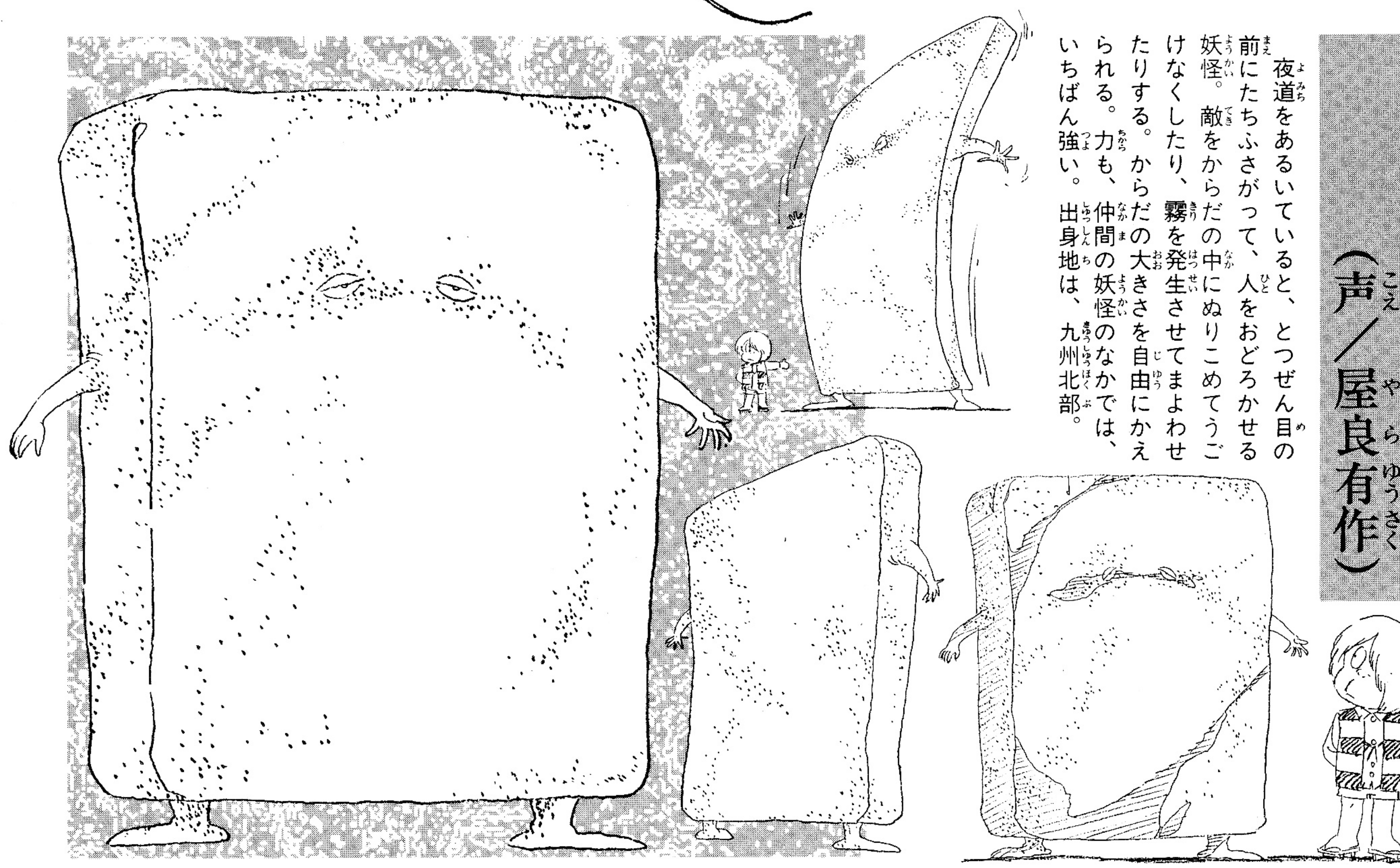
鹿児島県の大隅地方によくあらわれる妖怪。うすいからだで、ひらひらと空をまう。一見、弱そうだが、意外に強く、敵にまきついてしめあげたり、からだのへりをカッターにして、きりさいたりする。鬼太郎に協力してたたかい、出撃するときには、自力ではとべない鬼太郎をのせて、空をとんでいくこともある。

アニメでは、鹿児島弁をしゃべる。



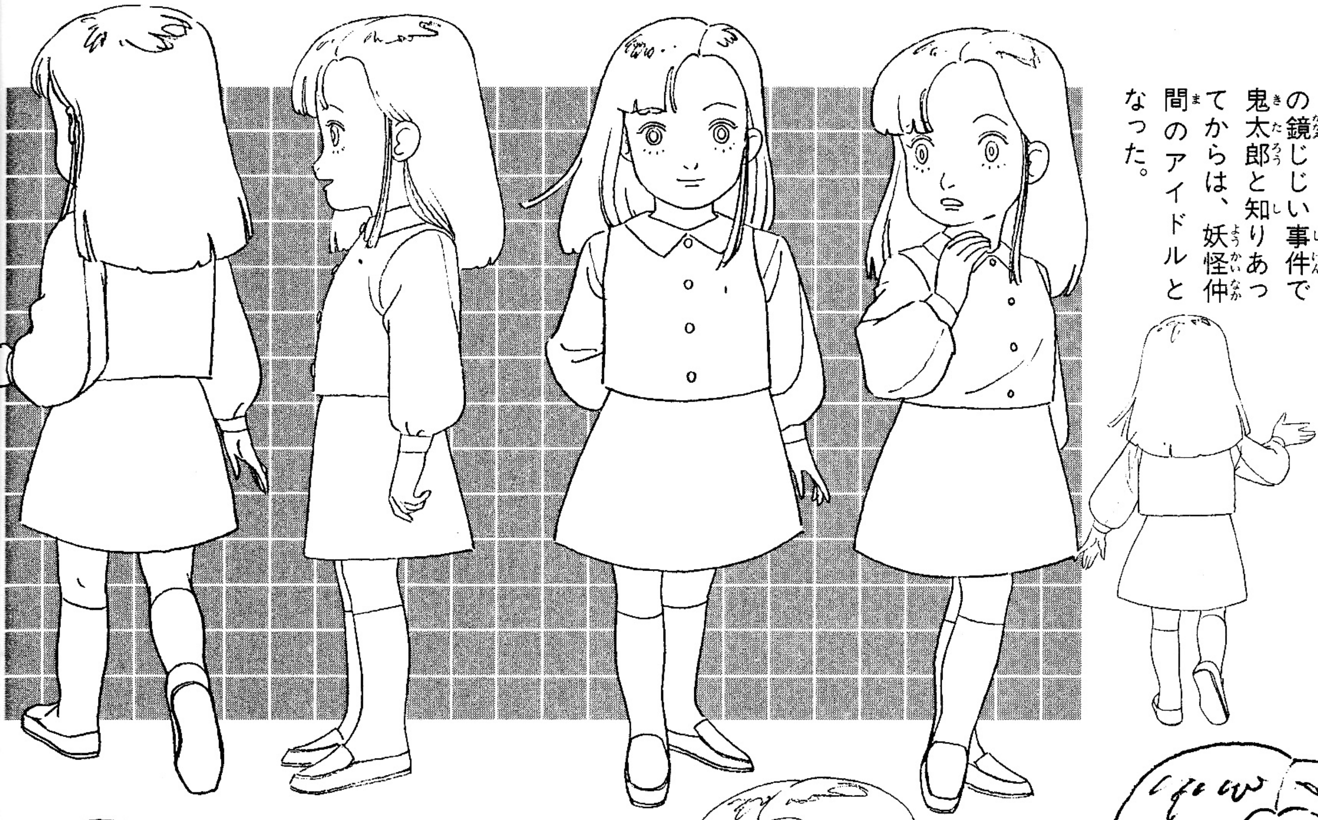
キャラクター⑧
ぬりかべ（声／屋良有作）

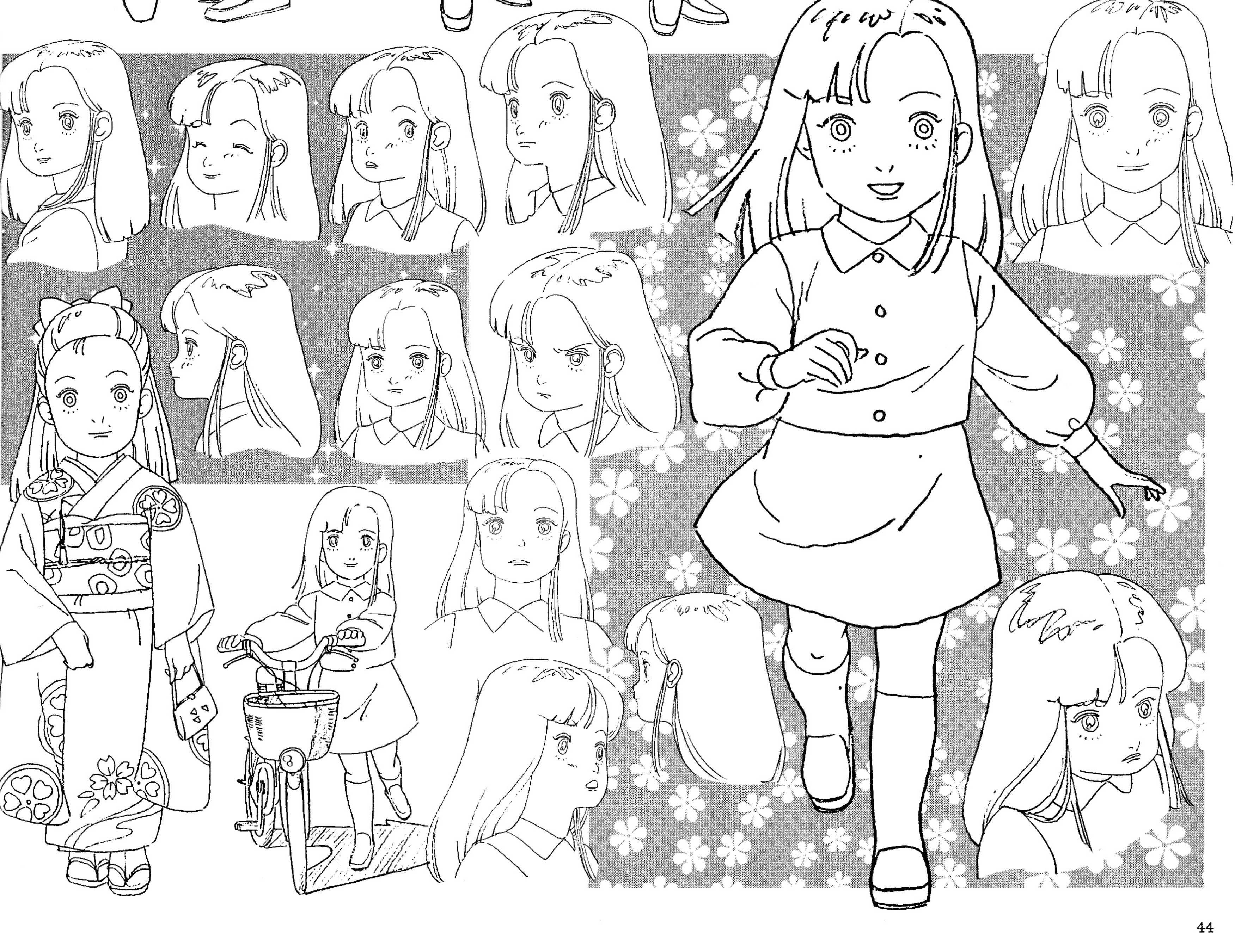
夜道をあるいていると、とつぜん目の前にたちふさがって、人をおどろかせる妖怪。敵をからだの中にぬりこめてうごけなくしたり、霧を発生させてまよわせたりする。からだの大きさを自由にかえられる。力も、仲間の妖怪のなかでは、いちばん強い。出身地は、九州北部。



キャラクター⑨ 天童ユメコ（声／色川京子）

原作にはないキャラクターで、今回のアニメ化にあたって新設定された、人間の少女である。第二話の鏡じじい事件で鬼太郎と知りあってからは、妖怪仲間のアイドルとなった。



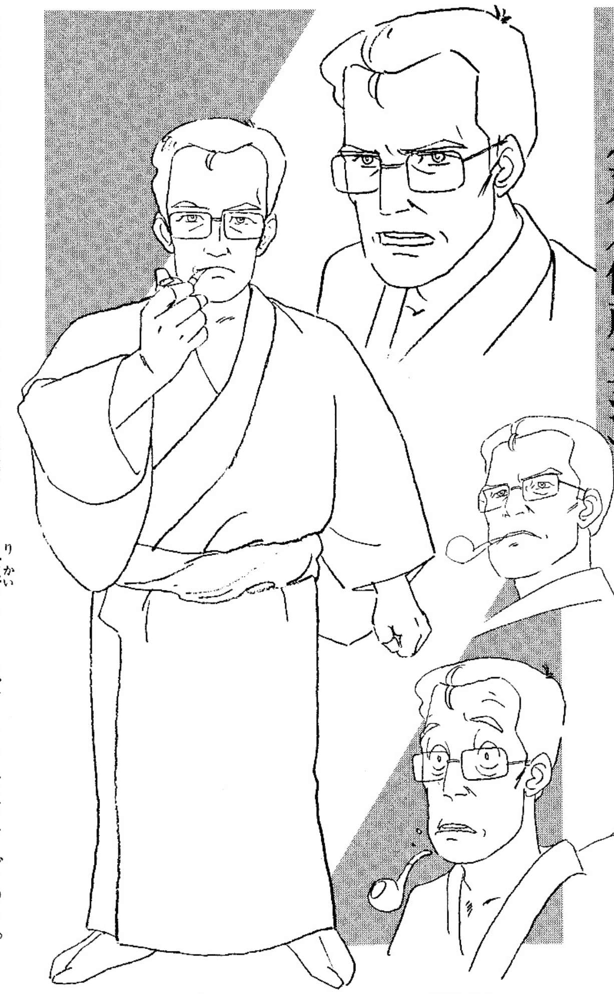


キャラクター⑩

ユメコの父

天童正夫

（声／佐藤正治）





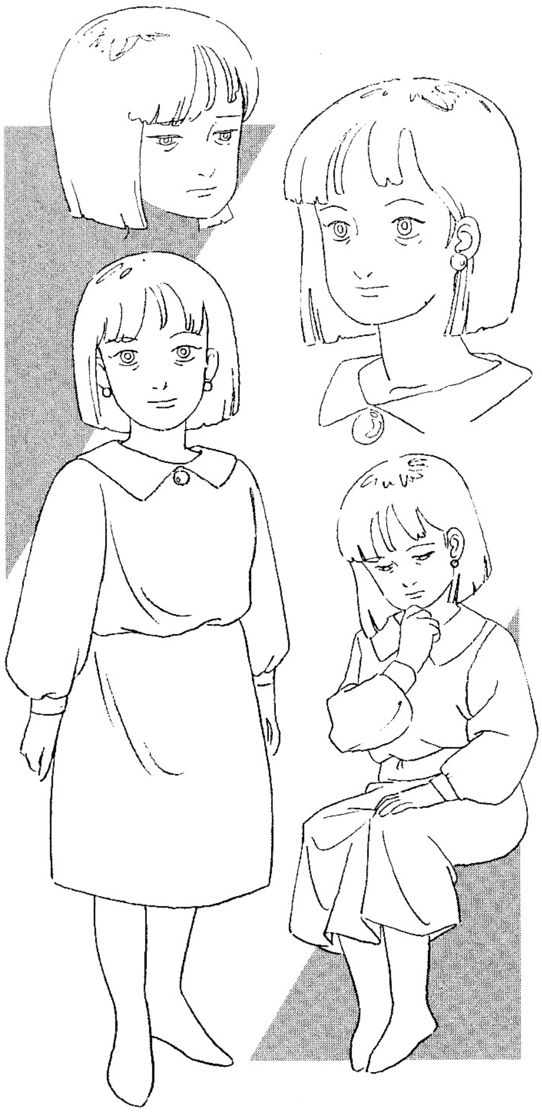
気むずかしい性格で、最初、妖怪や鬼太郎の存在をかたくなに否定していたが、いまとなっては信じざるをえなくなった。

キャラクター⑪

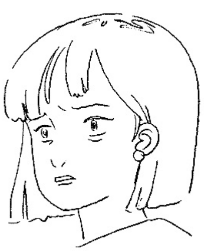
ユメコの母

天童優子

（声／川浪葉子）



理解のある、すてきなママである。彼女のいなかには、むかしから鏡じじいのいいつたえがあり、母のお玉は、鏡をだいじにしていたという。



キャラクター⑫

ユメコの弟

天童星郎

（声／高坂真琴）



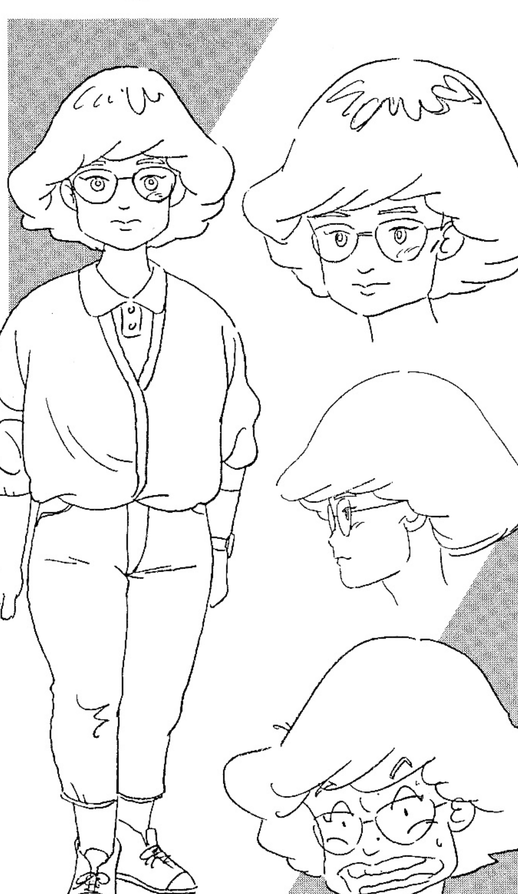
やんちゃな少年。星郎が妖怪ポストに手紙を入れたことから、鬼太郎とユメコが運命のであいをすることになった。鬼太郎の強さにあこがれている。



キャラクター⑬

若杉先生

（声／雨宮一美）

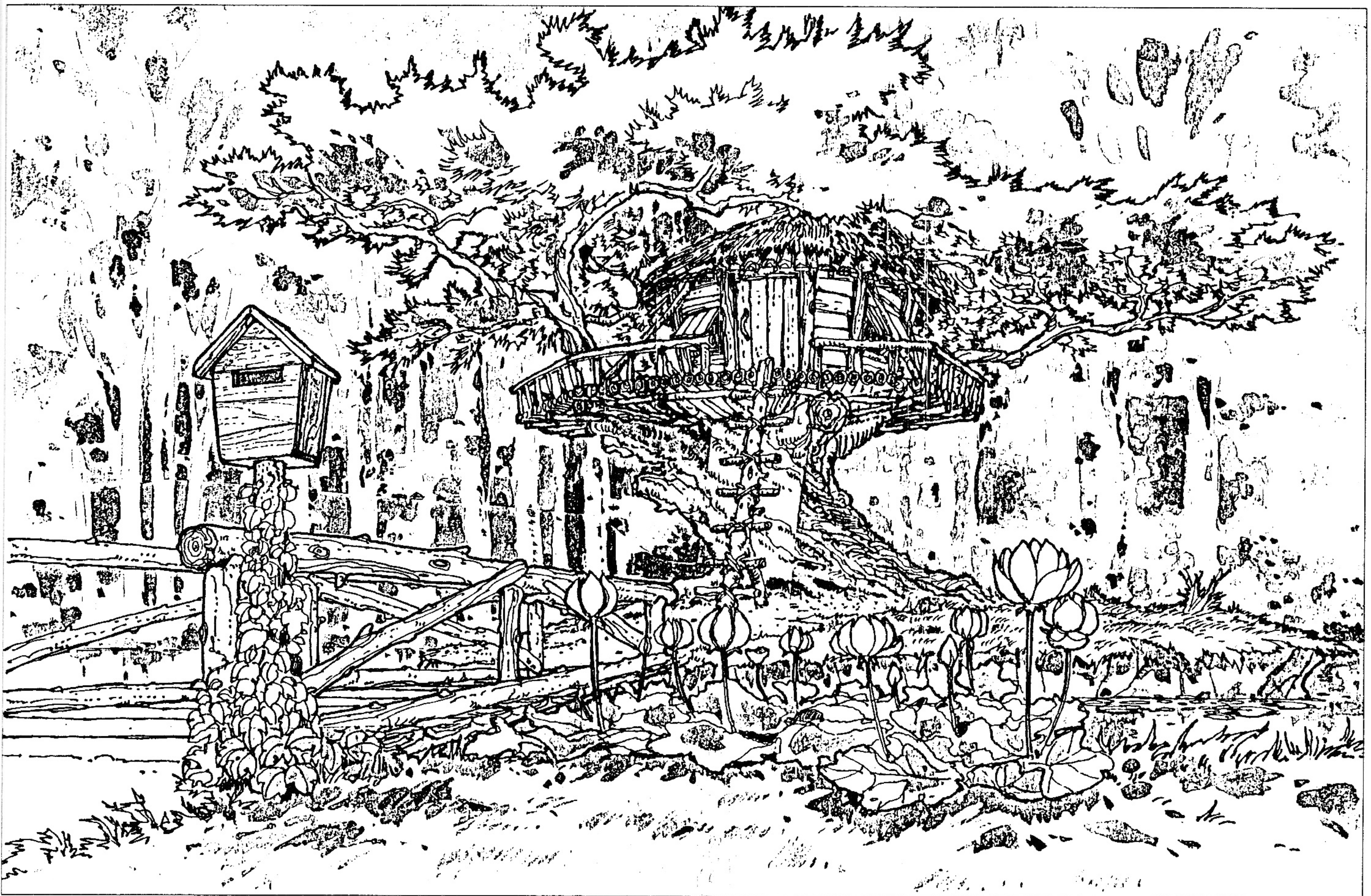




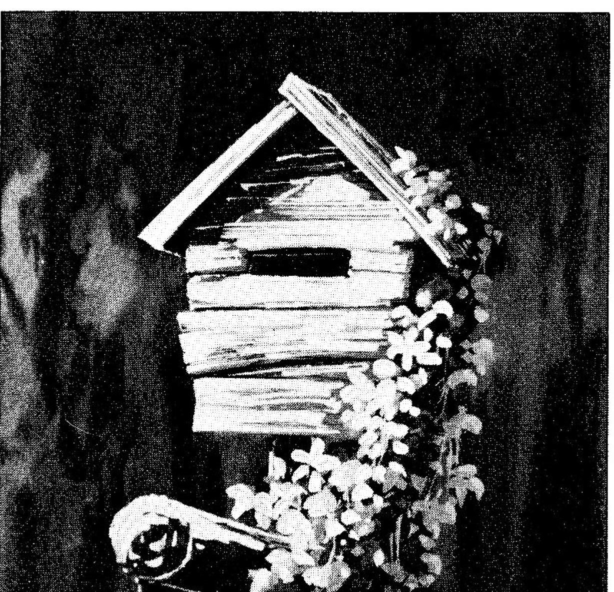
ユメコがいっている小学校の、担任の先生。第三話「ネコ仙人」からの準レギュラーだが、出演回数は多くない。

美術設定

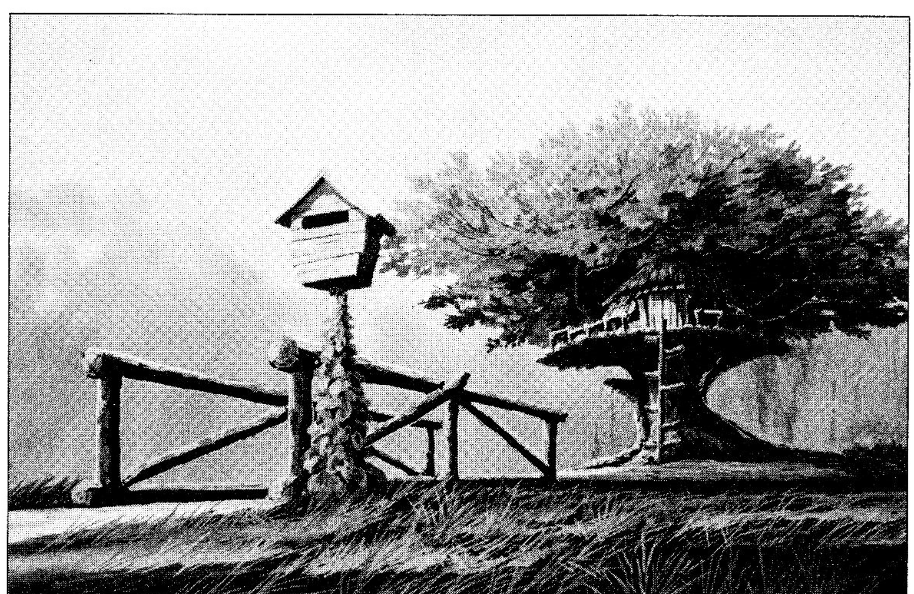
アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」では，土くさく，なつかしい情感のこもった自然の風景が描かれている。



▲鬼太郎のすむ家。原作の設定をベースにアレンジしてある。手前左に妖怪ポスト。はすの花のさく池を橋でわたると，家にたどりつく。



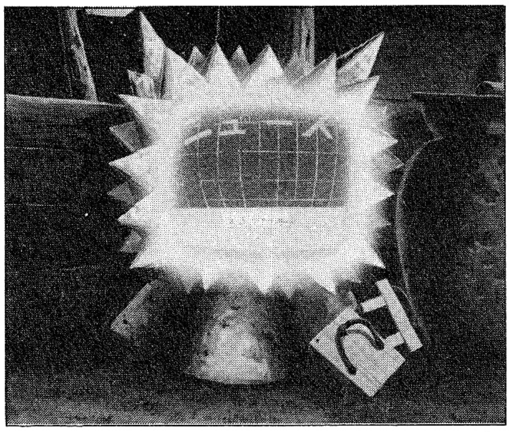
◀妖怪ポスト。別名、霊界ポスト。妖怪にくるしめられている人からの手紙がとどく。



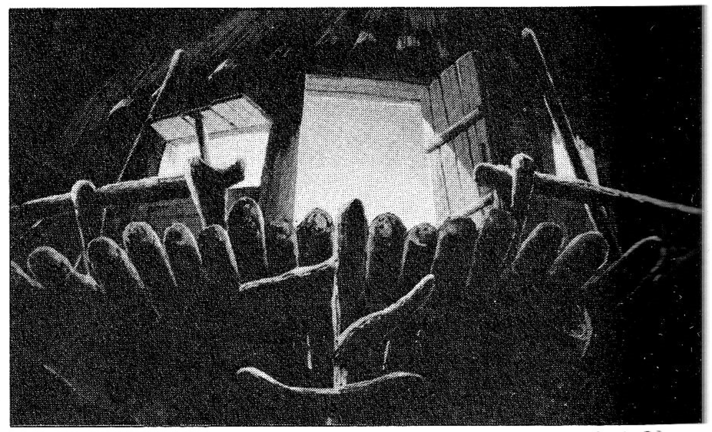
◀鬼太郎の家(遠景)。鬼太郎の家は、ユメコが自転車でいけるぐらいのところにあるが、場所は不明。



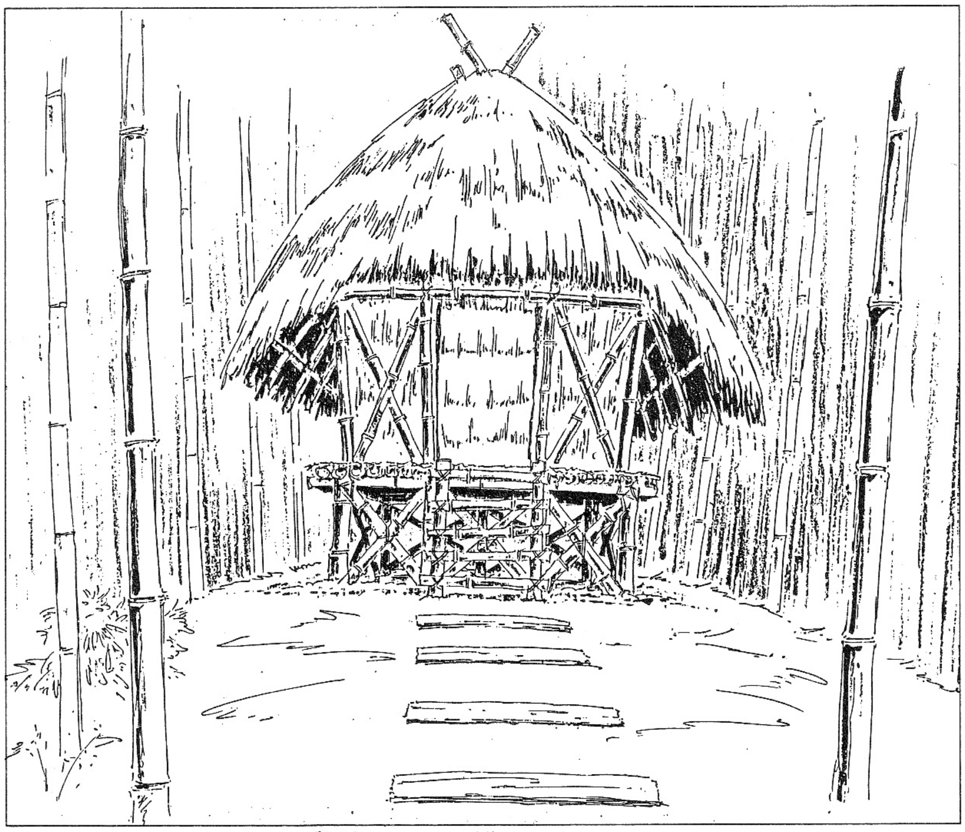
▲ちゃわんぶろに、おゆを入れるための、古びたどびん。



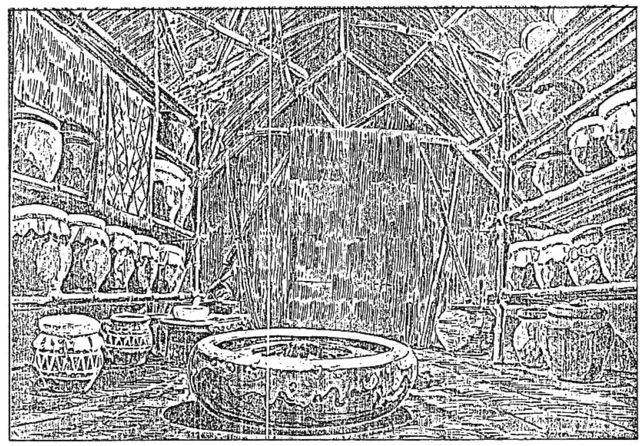
▲家の中には霊界テレビがあって，人間界のできごとが手にとるようにわかる。



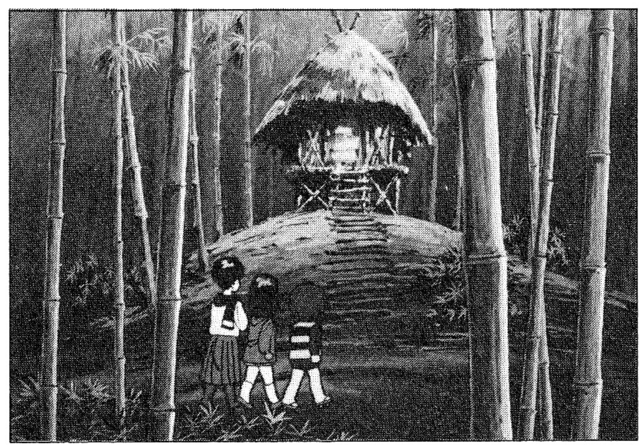
▲夜の鬼太郎の家。妖怪ランプの光がもれて，鬼太郎と父のたのしいおしゃべりがきこえてくるようだ。



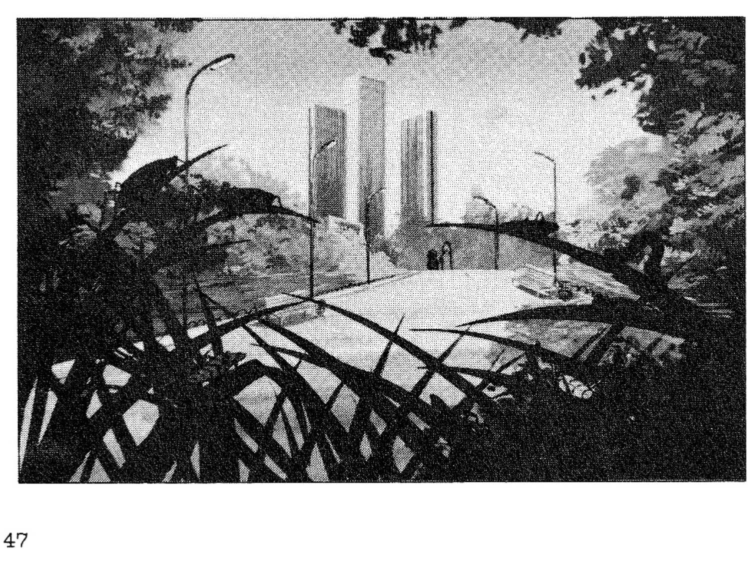
▲砂かけばばあの家は，原作どおり，竹でつくられたユニークなものになっている。ほかの妖怪の家は，まだでてこない。



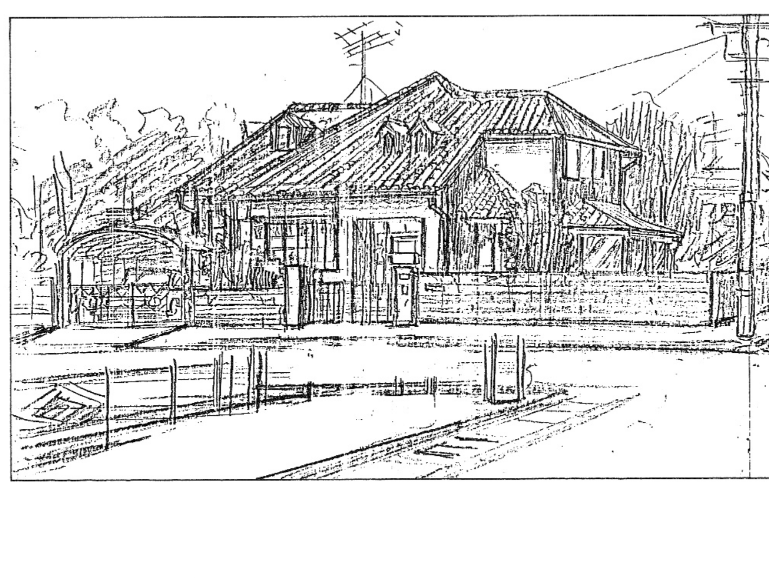
◀砂かけばばあの家の中。薬草をいれたかめが、たくさんある。



◀第十一話で初登場した、砂かけばばあの家。



◀新宿の高層ビルと自然のコントラストをきわだたせた、第六話のラスト。



◀天童家。ユメコたち四人家族がすむ。平和で、どこにでもありそうな家。

テレビストーリーガイド



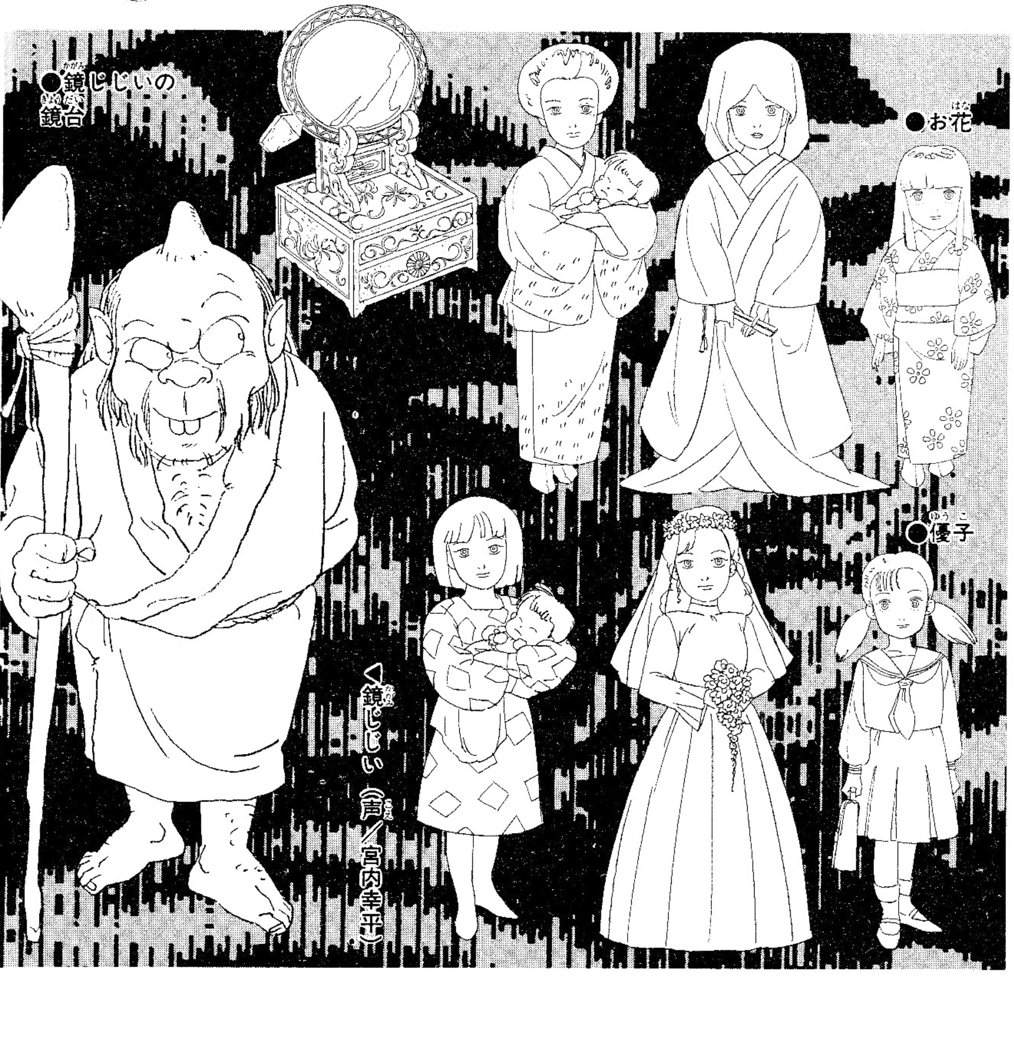
第1話 謎の妖怪城出現!!

各地で、子どもがさらわれ、いずこかへつれさられるという事件が続発した。これは、きっと、妖怪のしわざにちがいない。鬼太郎と目玉のおとうさんは、事件解明のため街にでた。強い妖気を感じて、工事現場にやってきた二人がみたものは……ビル街をバックに、地底からその姿をあらわしはじめた妖怪城だった。

真相を究明するため、鬼太郎は妖怪城に潜入した。妖怪城をとりしきっていたのは、妖怪たんたん坊とその一味であった。たんたん坊は、さらってきた子どもたちを妖怪にかえて、妖怪の領分をおかす人間たちに、復讐しようとしていたのだった。

「おまえも妖怪なら、わかるはず。むかしの人間はわれわれと、おたがいにうまくやってきた。それが、いまではどうだ。人間どもは、この世にすんでいるのは自分たちだけだと思っている。その思いあがりがゆるせんのだ!」

鬼太郎を攻撃する、たんたん坊とその一味の妖怪、二口女やかまいたち。苦戦する鬼太郎。だが、砂かけばばあや、一反もめん・ぬりかべのたすけで、妖怪城を地中に封じこめた。



第2話 鏡じじい

ユメコは小学五年生。きょうは、二つ年下の弟、星郎といっしょに遊園地にやってきた。おかしなピエロにさそわれて、ミラーハウスにはいる二人。

「ずうっと、まっていたんだよ。」

鏡の中からピエロの手がのび、ユメコはひきずりこまれてしまった。

ユメコがいなくなったのは、妖怪のしわざだと信じた星郎は、妖怪ポストに手紙をかいた。

鬼太郎とおとうさんは、さっそく、そのミラーハウスにかけつけ、姿をぬすまれたユメコをみつけた。

「やはり、これは、美少女だけを鏡にとりこむ妖怪、鏡じじいのしわざじゃ!」

ユメコの母のいなかでは、鏡じじいは女の子をみまもる妖怪といわれていた。だが、時の流れとともに、鏡をだいじにしてくれる人もいなくなり、鏡じじいはすっかりすさんでしまっていたのだ。そんなとき、むかし、やさしくしてくれた少女とうりふたつのユメコをみかけ、その少女の孫とは知らず、ユメコを鏡の中にとりこんでしまったのだった。

鬼太郎にたすけだされたユメコ。鬼太郎ファミリーが、これで一人ふえた。



第3話 ネコ仙人

猫塚村に遠足にでかけるユメコ一行をおいかけたねずみ男は、猫塚に衝突。そのときころがりでた宝の玉を手に入れた。ところが、その直後、数千匹のねこがあらわれ、ねずみ男におそいかかった。つづいてユメコたちもおそわれ、子どもたちは旅館の中に退避する。命からがらもどったねずみ男からそれを聞いた鬼太郎は、猫塚村へむかった。とりあえず、好物のまたたびで、ねこをおとなしくさせたが……。

一方、子どもたちのいる旅館に、ねこの総攻撃がはじまろうとしていた。目玉のおとうさんのアイディアで、ねずみ男にねずみの扮装をさせて、ねこをおびきだすことになった。作戦は成功し、子どもたちは救出された。だが、そこにぶきみなばけねこが出現し、ユメコをさらってしまった。正午までに、ねずみ男のぬすんだ宝玉をかえせというのだ。

敵の正体は、猫塚の地下にすむねこ仙人だった。宝玉の中には、彼の魂がふきこまれており、正午までにそれがもどらないと、復活した肉体はくちはててしまうのだ。鬼太郎は妖術をもちいて、ねこ仙人を宝玉の中に封じこめるのだった。



第4話 妖怪ぬらりひょん

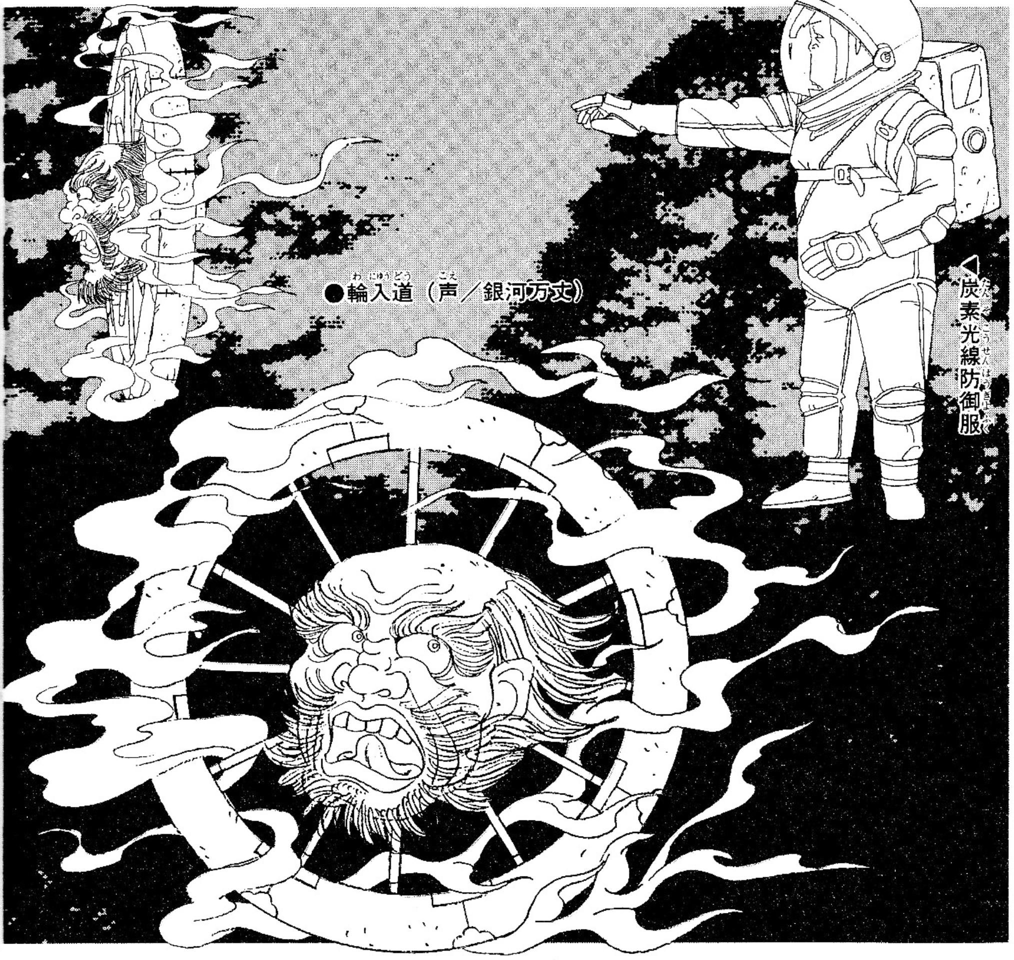
朱のぼんが、さまざまな場所にあらわれ、人をおどかしてはビルを消滅させていた。鬼太郎は、その背後に何者かの存在を感じるが、正体まではわからない。

その黒幕は、大妖怪ぬらりひょんであった。ぬらりひょんは自分の会社、ぬらり建設の業績向上のために、朱のぼんにビルを破壊させていたのだ。街ででであったねずみ男も、その配下となった。

悪事の現場を、鬼太郎におさえられ、ぬらりひょんは逃亡した。そして、じゃまな鬼太郎を殺す計画をたてた。ねずみ男が、鬼太郎を人気のない場所にさそいだす。わなと知りつつ、ついていった鬼太郎だったが、落とし穴に落とされてしまい、そのうえ、コンクリートで固められてしまった。絶体絶命の鬼太郎！

ぬらりひょんが安心したのもつかのま、彼の手に鬼太郎がのりうつったために、自分の手に殺されかけた。その間に、鬼太郎は子泣きじじいにたすけだされた。ぬらりひょんは、蛇骨ばばあの手をかりて、ふたたび鬼太郎をわなにかけようとはかった。しかし、鬼太郎は、朱のぼん・蛇骨ばばあ・ぬらりひょんを、原始時代へ先祖流しにするのだった。

第5話 ダイヤ妖怪 輪入道



◀炭素光線防御服

●輪入道（声／銀河万丈）

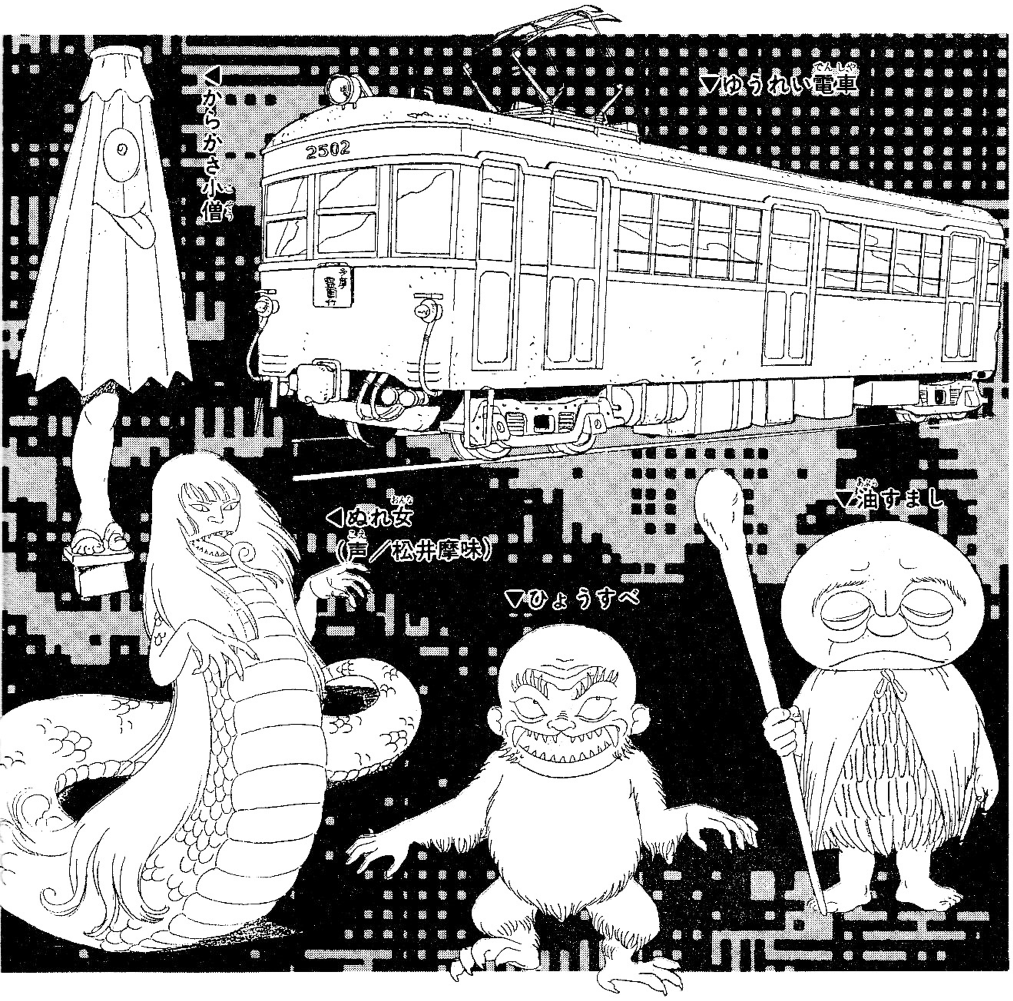
ファンシーダイヤモンド社の社長、横田は、大量のダイヤを市場にばらまき、どこかに秘密の鉱山をもっているとうわさされていた。

ユメコとねずみ男は、宇宙服のようなものを着た横田たちが、おかしな岩の下にはいっていくのを目撃した。ここがダイヤモンド鉱山にちがいないと思ったねずみ男は、地下に潜入したが、すぐにつかまり、横田の部下になった。

一方、ユメコの行方をさがしていた鬼太郎もダイヤモンド鉱山にたどりつく。ただならぬ気配を感じた鬼太郎は、ここが妖怪のすみかであると警告するが、ねずみ男にたおされてしまった。そこにあらわれた輪入道は、人間をダイヤモンドにかえる光線をはいた。人間にねむりをさまされた復讐をしようというのだ。しかし、横田たちの服は光を反射するもので、輪入道の光線もつうじない。だが、妖魔の鏡で反射され、威力をました光線は、その服を破壊してしまった。ダイヤと化する横田たち。

鬼太郎は、妖魔の鏡をうばって、輪入道の光線を反射させ、ぎゃくに輪入道をたおした。

第6話 地獄行き！幽霊電車!!



◀からかさ小僧

▼ゆうれい電車

◀ぬれ女（声／松井摩味）

▼ひょうすべ

▼油すまし

サラリーマンの黒川は、友人の吉永とはしご酒をしたあげく、あるラーメン屋台にたちよった。そこであった少年に、「おばけは実在する。」といわれて、その少年をなぐってしまう黒川。ところが、その少年は鬼太郎であり、つれはねずみ男だったのだ。

「あなたのおでこにも、こぶをつくってあげますよ。」とつげる鬼太郎。

黒川と吉永は、最終電車にのりこんだ。ところが、いつの間にか、ほかの乗客は線香をもった老人たちにかわっており、窓の外にはみたこともない風景がひろがっている。やがて老人たちは、がいこつの姿となり、からかさ小僧がべんとうを売りあるいていた。おびえた吉永は、到着した駅で電車からにげだしたが、駅から出ると、そこはふつうの街だった。

そうとは知らぬ黒川は、そのまま電車にのりつづけ、ぬれ女・ひょうすべ・油すましにおどかされつづける。とうとう電車からころがりでた黒川は、ころんでこぶをつくり、ようやくまともな駅にたどりつく。そして、自分たちののった電車が、ゆうれい電車であったと知るのだった。すべては鬼太郎の復讐だったのだ。

第7話 子連れ妖怪磯女

ステオとアワビの兄妹が、岩場でたこをとっていると、突然、磯女があらわれ、ステオをさらっていった。しかし、だれもそれを信じてくれない。ちょうどこの海は、悪徳観光会社に買いあげられ、うめたてられようとしていた。ねずみ男は、その営業マンとなっていた。

ふなむしから事件を知らされた鬼太郎は、ステオの祖父のことばから、海のうめたてに怒った磯女が出現したものと信じ、調査を開始する。姿をあらわした磯女は、鬼太郎に石よりも重くなる子どもをだかせ、のみこんでしまった。一度は脱出した鬼太郎だが、こんどは子どものほうにすいこまれてしまう。

しかし、その子どものからだをやぶって、鬼太郎は再生した。ばらばらになった子どものからだを、砂かけばばあにぬいあわせてもらい、磯女を反省させた。

だが、ほんとうにわるいのは、うめたてをしようとしている人間たちだ。

鬼太郎たちは、人魚の協力をえて、観光会社の面々を海上にさそいだし、かっぱたちに尻子玉をぬかせてしまった。これで、レジャーランドをつくる計画は、つぶされたのだった。



◀人魚
▼かっぱ
◀磯女の子ども（声／三輪勝恵）
▲磯女（声／山口奈々）

第8話 だるま妖怪相談所

さとみの父が経営するアパートに、ふしぎな訪問者があらわれた。その訪問者だるまは、最初からありもしない四階を貸してくれといい、縁起がわるいから四階はつくっていないとことわっても、金をつんで、ごういんに借りてしまった。

その日から、アパートの四階には〝だるま妖怪相談所〟の看板がかけられた。外からみると、たしかに四階にかかっているが、内側からみると、三階にも五階にもその看板はない。存在しないはずの四階に、その看板はかかっているのだ。

だるまは、ねずみ男にそそのかされて、妖怪相手の相談所をつくったのだが、金はもうからず、しまいには、てっとりばやく妖怪たちをつかって、アパートを乗っとってしまおうと考えるようになった。ふっけしばばあや油すましにおびえ、人々は、つぎつぎに転居していった。

こまったさとみは鬼太郎に相談した。やにをまぜたけむりで、だるまをいぶしだした鬼太郎は、子だるまの攻撃も、その実体をみいだすことでしりぞけて、アパートをとりもどした。そして、だるまをそそのかしたねずみ男には、アパートの宣伝をさせるのだった。



▶だるま（声／滝口順平）
◀あかなめ（声／つかせのりこ）
◀ふっけしばばあ（声／津田延代）
●妖怪アパートの住人

第9話 不死身の妖怪水虎

いじめられっ子の新一は、ある日、いじめっこたちがほりだした、古いつぼにはいっていた液をのまされてしまった。その日から、新一は夜になるとどこかへでかけていく。心配した両親は、とおりがかりのねずみ男に相談するが、ていよくだまされてしまった。

新一は、古代塚をほりおこそうとしていた。その現場をみた鬼太郎は、新一に水虎が取りついているのに気づいた。水虎は水のような妖怪で、古代塚にはそのめすがうめられているのだ。もしもめすがほりだされれば、水虎がふえて、多くの子どもたちがのっとられてしまう。一度は新一から水虎をおいだしたものの、水虎はまだ新一をねらっていた。

鬼太郎の指定で、雪のふる寒い日に、鬼太郎と水虎の決闘が開始された。からだが水でできている水虎に苦戦し、のびてしまった鬼太郎の口からはいりこんだ水虎は、鬼太郎をあやつり、凍死させようとする。しかし、これは鬼太郎の作戦だった。つめたい鬼太郎のからだの中で、水虎はこおらされてしまった。水虎はつぼに入れられ、あいたがっていためすのねむる古代塚に、うめられるのだった。



▽水虎（声／大竹 宏）

◀水虎がはいっていたつぼ

▲▼水虎の変身

第10話 悪魔のメロディ 夜叉

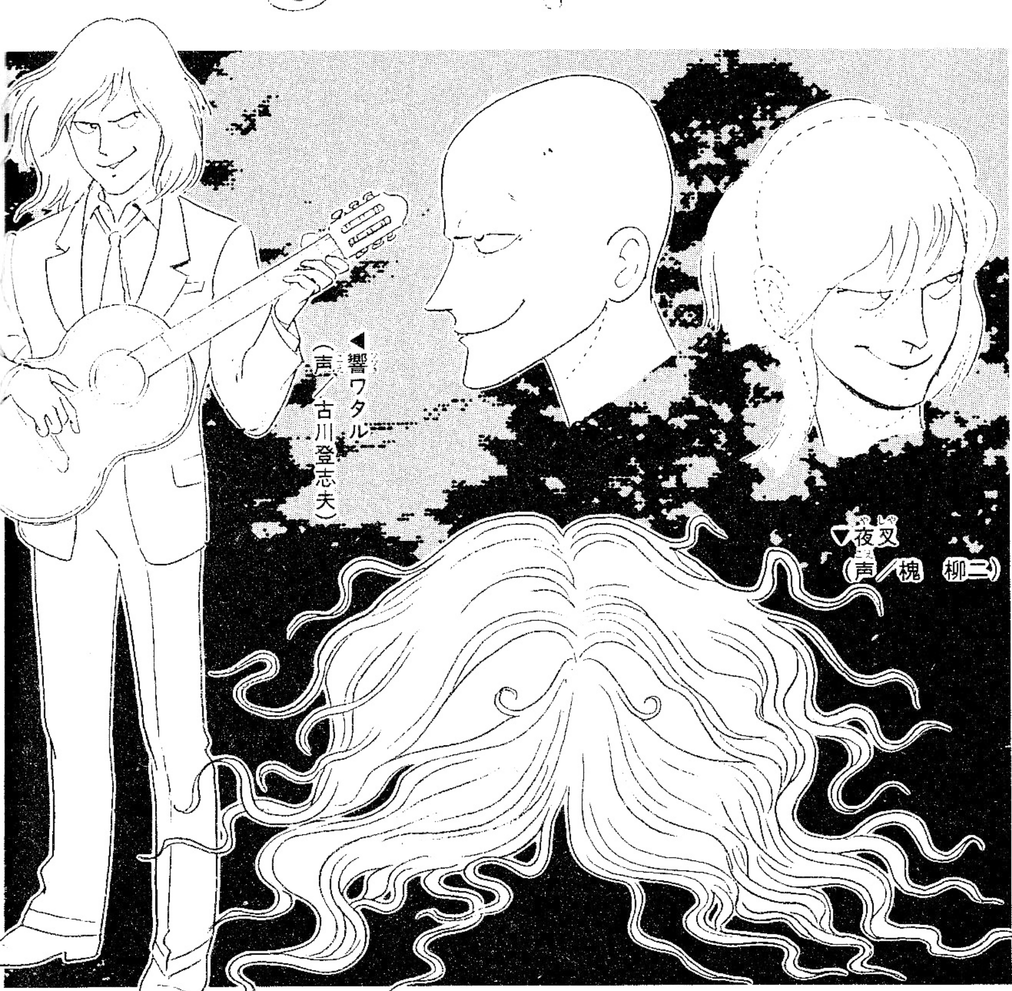
ユメコの学校の音楽授業に、響ワタルという作曲家がまねかれた。その美しいギター演奏に、うっとりとなるユメコ。しかし、響は、この曲は最後の三小節ができあがっていないという。

放課後、ユメコにちかづいた響を、鬼太郎のリモコンげたがおそった。鬼太郎は、このあたりでおこった、少女の魂がぬきとられる事件の犯人を、響と目したのだ。その少女は、妖怪音楽でよわされているうちに、魂をぬきとられたのだ。だが、響の長髪がかつらであることがわかっただけで、かつらが飛んだ響には、妖怪アンテナも反応しなかった。

響の曲のおたまじゃくし一つ一つは、人間の魂でできていた。鬼太郎のじゃまに怒った響は、妖怪夜叉の実力を見せ、鬼太郎の魂をぬきとってしまった。

鬼太郎の魂は、ふうせんにとじこめられた。目玉のおとうさんは、音痴で術が通じないねずみ男に夜叉をひきつけさせ、そのあいだに鬼太郎の魂をうばいかえした。夜叉の本体は響ではなく、かつらのほうであることを知った鬼太郎は、それに火をかけてたおす。

響は夜叉に利用されていたのだった。



◀響ワタル（声／古川登志夫）

▽夜叉（声／槐 柳二）

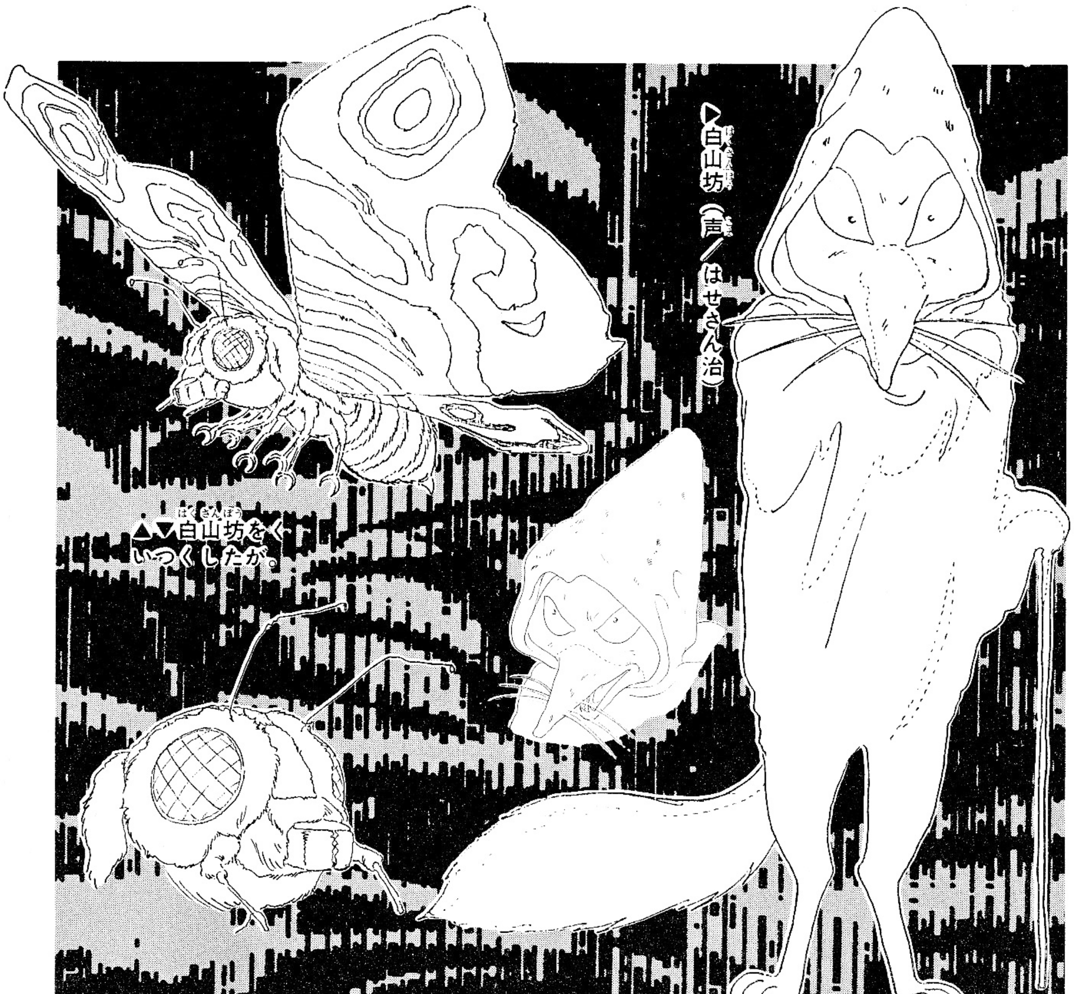
第11話 妖怪キツネ白山坊

まずしさにまけた正吉と愛子の夫婦は、赤ん坊の娘をつれて心中しようとしたところを、白山坊にすくわれた。白山坊は、金をだしてやるかわりに、娘が十六になったら嫁にくれ、という。

娘、春子は成長し、父が白山坊にいなりずしを捧げているのをみてしまう。友だちのユメコとつれだって、鬼太郎に相談する春子。白山坊とは、じつは古ぎつねの妖怪だった。

ねこ娘を春子にばけさせて、花嫁行列がしたてられた。ところが、あらわれたのはねずみ男だった。白山坊に金でやとわれたのだ。ねずみ男から白山坊のいばしょをきき、いそぐ鬼太郎。人の弱みにつけこむ白山坊を、鬼太郎ははげしくにくんだ。しかし、それはねずみ男のわなだった。鬼太郎たちがけんとうちがいの方向にいっているあいだに、白山坊は石にばけて、春子をさらってしまった。

鬼太郎と砂かけばばあは、じがばちをつかって白山坊のうごきをとめ、そのからだに、内臓をくいあらすがのたまごをうえつけた。白山坊は、たちまち、がによって、からだの中からほろぼされてしまった。



▶白山坊（声／はせさん治）

▲▼白山坊をくいつくしたが。

第12話 ざしきわらしと笠地蔵

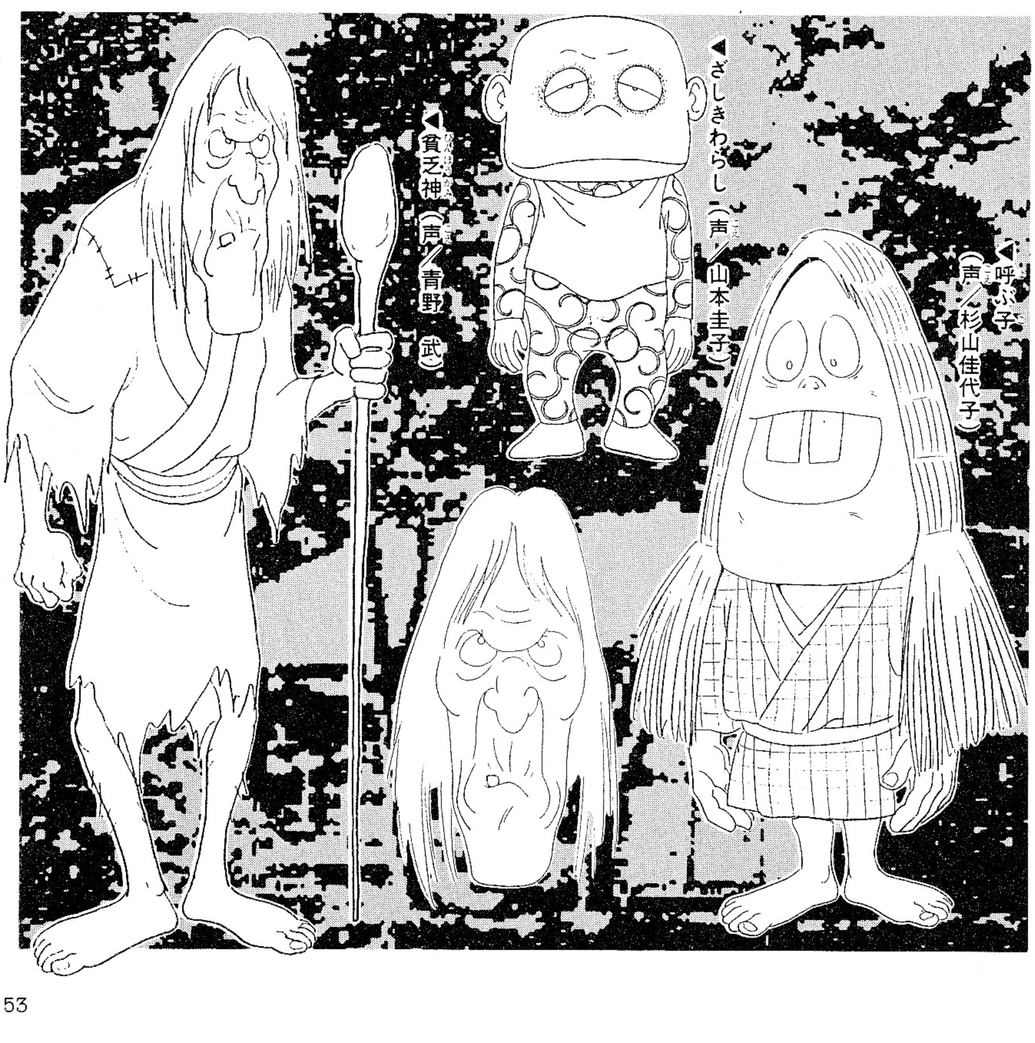
ざしきわらしは、ある家にすみついたが、その家はまずしく、たべものすらろくにないが、性格のよい夫婦が静かにくらしていた。

そのちかくにある、呼ぶ子のかまくらを、鬼太郎たちがおとずれていた。ここで年をこそうというのだ。

まずしいおじいさんは、つくったみのやかさを持って、村におりたが、なかなか売れなかった。一方、その家にいたざしきわらしは、この家に貧乏神がすみついてしまっているのを知った。ここの夫婦が、いくらはたらいてもしあわせになれなかった理由は、これだったのだ。

とうとう、かさは売れなかった。おじいさんは、雪にさらされた地蔵さんにかさをつけてやり、家に帰った。ことしは、だいこんだけのぞうにでがまんしようと笑いあう夫婦に同情したざしきわらしは、鬼太郎に相談した。

鬼太郎たちはたべもので貧乏神をおびきだし、いためつけて、その家からおいだした。そして、かさをもらった地蔵のおれいのようにみせかけて、たべものを老夫婦のまくらもとに、とどけてやるのだった。



◀ざしきわらし（声／山本圭子）

◀貧乏神（声／青野 武）

◀呼ぶ子（声／杉山佳代子）

第13話 おりたたみ入道

にせのねずみ男が出現し、おりたたみ入道でおどかして、子どもからお年玉をまきあげた。神社でうろついていたほんもののねずみ男が、警察につれていかれる。鬼太郎たちは、ねずみ男を引きとり、砂かけばばあに真偽をうらなわせた。

鬼太郎とユメコがおとりとなって、にせねずみ男とおりたたみ入道をおびきだした。巨大な入道と対決した鬼太郎は、目玉のおとうさんとともにのみこまれてしまった。しかし、おとうさんの作戦で、入道は、自分で自分をノックアウトした。

にせねずみ男は、ねずみ男にあうや、「兄さん！」とだきつき、目をうるませた。当惑するねずみ男だが、証拠のへそのおをみて、兄弟と確信、感動する。

ところが、ねずみ男がでかけると、にせねずみ男は、さっそく本性をあらわした。相手が妖怪むじなであることを知り、たたかう鬼太郎。むじなはキンタマ袋をふくらませてくるしめるが、パンクさせられてしまった。袋をぬってもらい、改心したむじなに、鬼太郎は、もうすこし兄弟のふりをしてやっていてくれ、とたのむ。あくまで弟と信じて、一夜をあかすねずみ男だった。

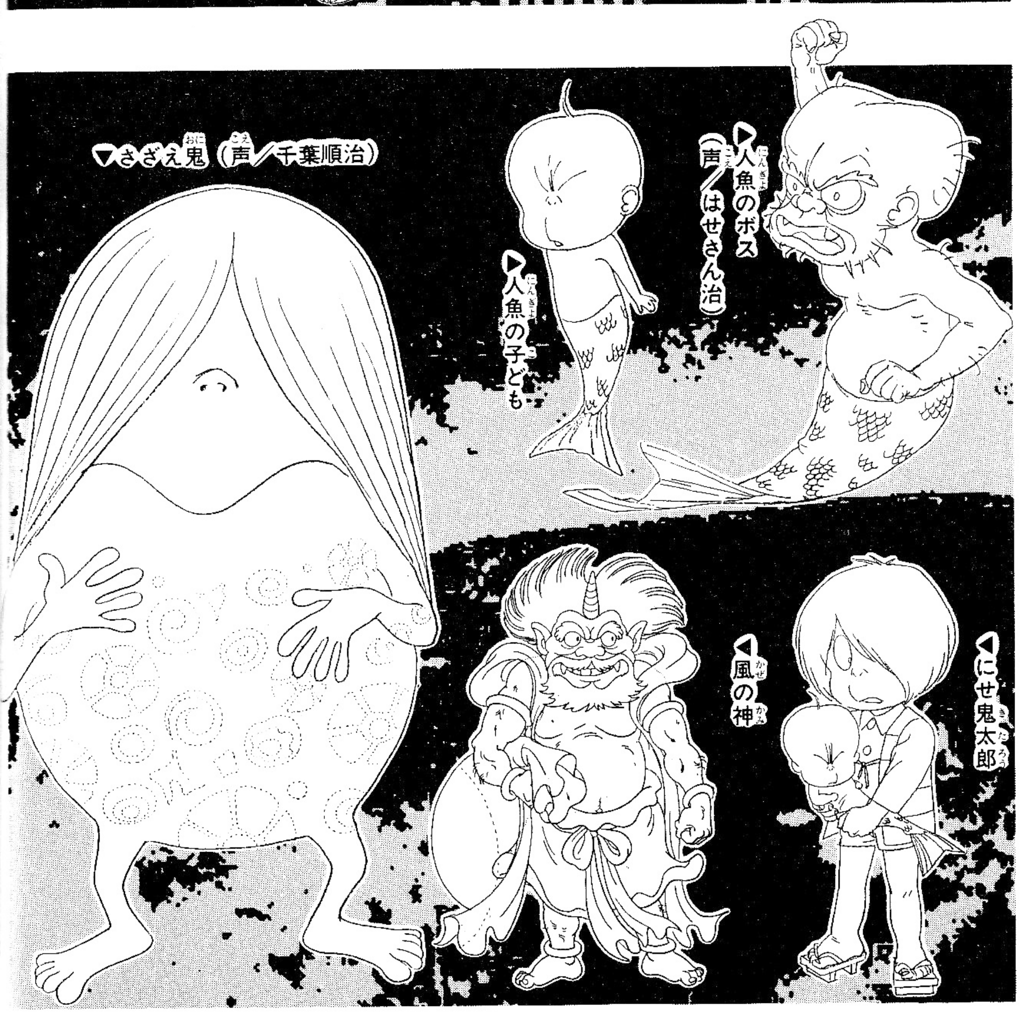


第14話 不老不死!? 妖怪さざえ鬼

「人魚の子どもはいらんかね！」と人魚をかかえて、海べの工場街をあるく鬼太郎。しかし、顔色はさえず、ゴホゴホとせきこむその姿は、いつもの彼とは思えなかった。

それを偶然にみかけたねずみ男は、海でであった人魚の親に、鬼太郎が人魚の子をつれていたことをしゃべってしまう。わが子をさらわれた人魚は激怒し、海べでみかけた鬼太郎に、子どもをかえせ、とおそいかかっていく。

ともかく、人魚をしりぞけた鬼太郎だが、彼には人魚の子をさらったおぼえなどない。ということは、どこかに自分とおなじ姿をした者がいる……。そして、ついに海岸の天狗岩で、にせの鬼太郎をみつけ、海中へおいつめた。その正体は、三百年を生きぬき、細胞を変化させたさざえ鬼であった。彼は、長年生きてきた海が汚染され、からだをわるくした怒りからやってきたのであった。やってきた人魚の親も、それをきき、おなじ海に生きる者として、さざえ鬼をゆるす。こうしてなかなおりをした鬼太郎たちは、汚水をたれながす工場に、風の神とぬりかべの力をかりて、しかえししたのだった。

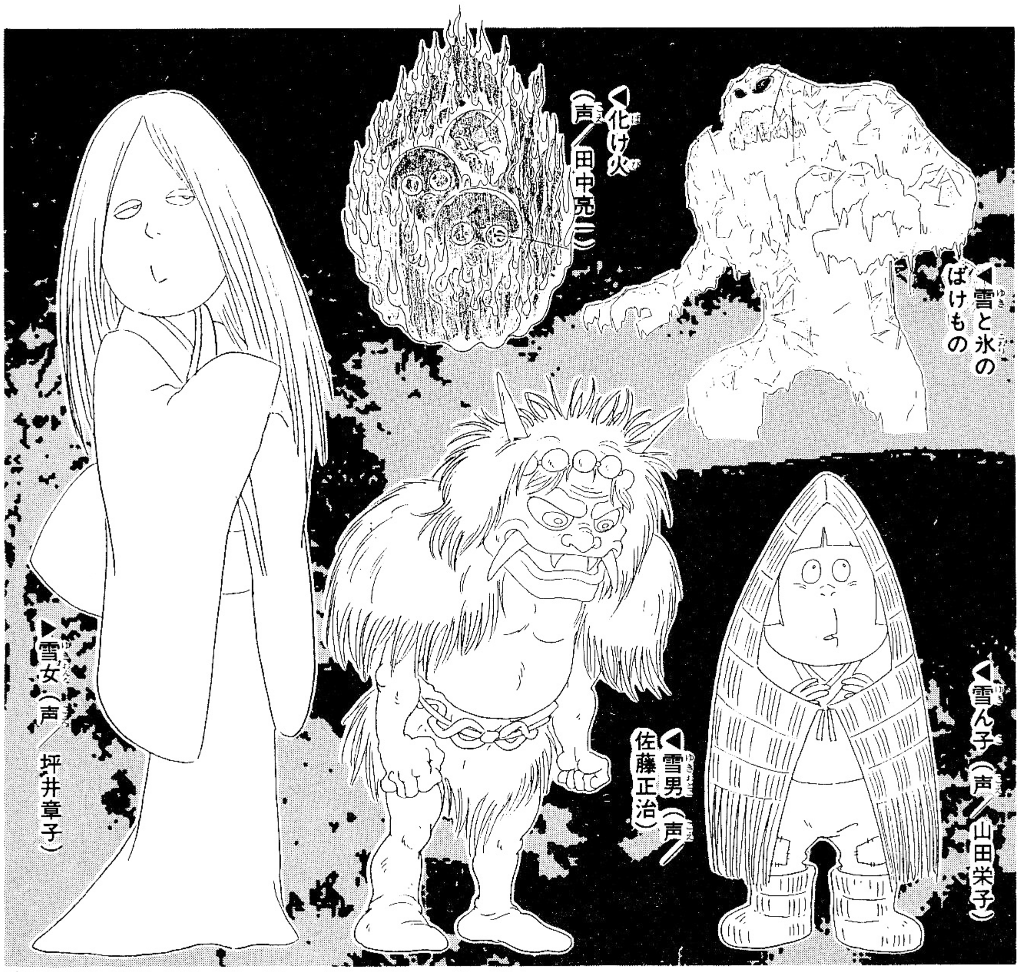


第15話 冷凍妖怪雪ん子

雪深い北海道、大雪山の少年、よしおからきた手紙をみて、鬼太郎はいそいで彼のところへとんだ。父や母、祖母たちがこおらされてしまったので、たすけてほしいのである。

さっそく調査をはじめる鬼太郎。しかし、雪山でであった少女によって、ねずみ男がこおらされてしまう。その少女の正体は、雪ん子だったのだ。あわてて雪ん子をおい、山中の洞穴へはいった鬼太郎は、そこで雪男と雪女にであい、彼までが氷づめにされてしまう。冷凍妖怪は、こおった人間から魂をぬき、それを食料にしていたのである。

一方、こおらされる直前に脱出した鬼太郎のげたにより、彼のピンチを知った目玉のおとうさんたちは、墓場からよびだした化け火とともに救出にむかう。化け火のおかげで、氷づめから解放された鬼太郎は、火のついた石炭をつかい、一度は冷凍妖怪をたおした。だが、彼らは合体して、ふたたびせまってくる。最後の手段として、鬼太郎は化け火を体内に入れ、熱をパワーアップさせて放出、ついに彼らを蒸発させ、人々の魂をとりかえしたのだった。



第16話 妖怪のっぺらぼう

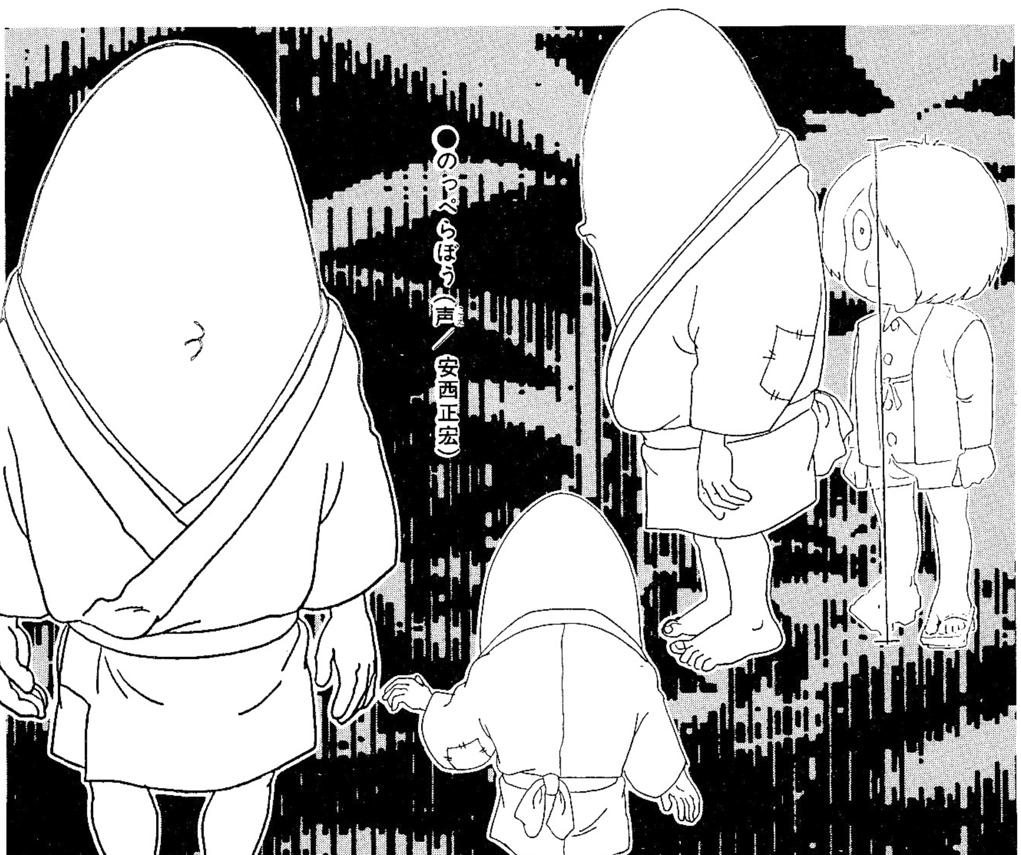
日ノ入村で続々と起る怪事件。人々の顔が、ぬすみとられてしまうのだ。こまりきった村長は、鬼太郎あてに妖怪ポストへ手紙をだした。

だが、それをみつけたのは、ねずみ男だった。彼は礼金ほしさに、鬼太郎には知らせず、一人で日ノ入村へむかう。しかし、そんなねずみ男が、あらわれた妖怪のっぺらぼうにかなうわけもなく、顔をとられてしまう。

妖怪ポストのそばにおちていた封筒を発見した鬼太郎は、なにがおこったのかを知るために、日ノ入村へとむかった。

到着した彼はねずみ男から、のっぺらぼうのうしろで、先祖流しにしたはずの妖怪ぬらりひょんが糸を引いているらしいときかされた。ぬらりひょんは、のっぺらぼうに食料であるひとだまの豊富な場所をおしえるかわりに、彼に犯罪人の顔を入れかえさせて、金をもうけていたのである。

鬼太郎は、そんなことはやめさせようと、のっぺらぼうを説得するが、ききいれられず、ついにはのっぺらぼうをたおす。人々の顔はもとにもどったが、ぬらりひょんにはにげられてしまった。

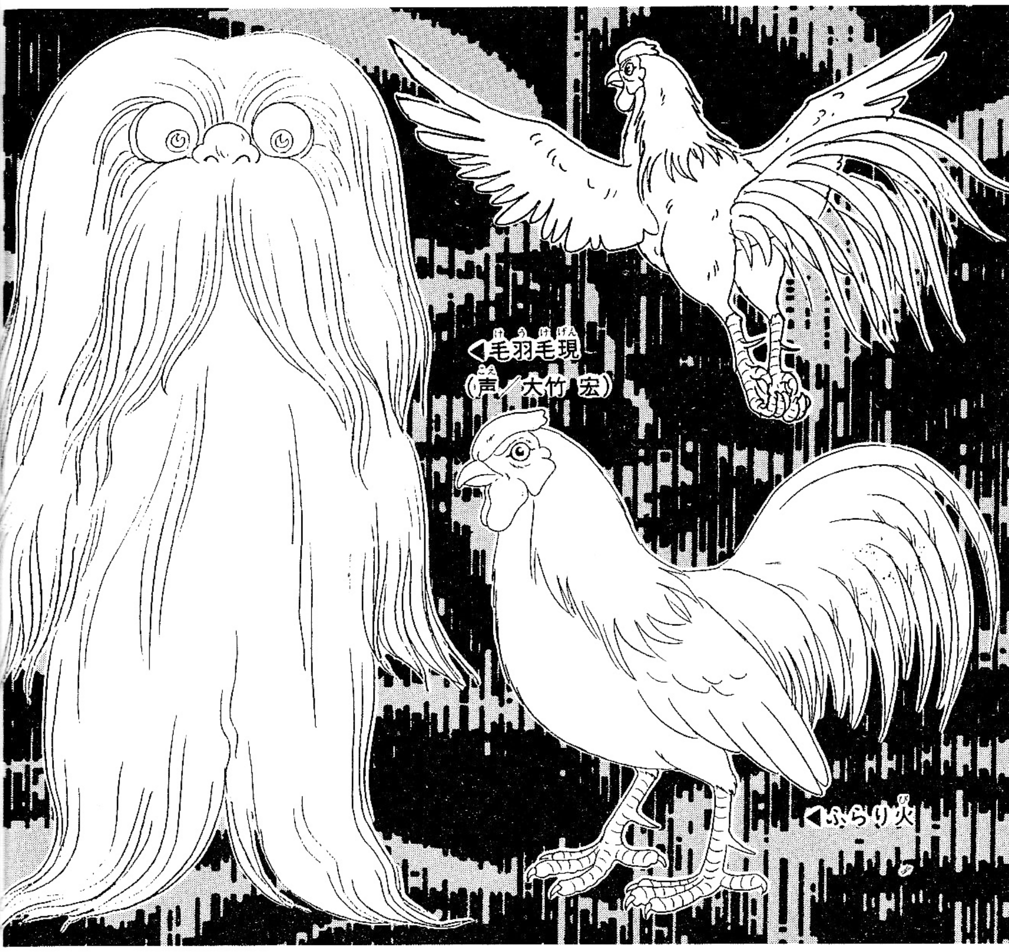


第17話 古代妖怪毛羽毛現

ユメコの宿題の化石調査をてつだいに、いっしょに山へきていた鬼太郎は、そこで、友だちをみんなつれていかれてないていた少女、キクとであい、子どもたちをさがす約束をする。そこへ、空からふらり火にのってやってきたねずみ男は、それにユメコとキクをのせる。ねずみ男の行動に疑問をもった鬼太郎もふらり火にしがみつくが、定員オーバーでおちてしまう。

おちたところには、行方不明の子どもたちがいた。彼らがみんな魂をぬかれ、ぬけがらとなっているのをみて、鬼太郎は妖怪がからんでいることを知る。そして、にげだしたねずみ男をおって、ついたのは、妖怪、毛羽毛現のかくれがだった。

毛羽毛現は、子どもたちの魂を化石にうつし、太古の世界を再現させようとしていたのだ。鬼太郎も毛羽毛現のあやつる恐竜におそわれ、魂をぬかれそうになる。脱出した鬼太郎は、一反もめんや砂かけばばあ、ぬりかべたちの協力で、毛羽毛現をくいあらためさせた。彼は、自然をこわす人間のいない世界に、ふたたびかえしたかったのである。子どもたちの魂もぶじもどり、事件は解決した。


◀毛羽毛現（声／大竹 宏）
◀ふらり火

第18話 妖怪天狐 地底王国の逆襲

地下鉄の工事現場で発生するふしぎな事件。トンネルの中に美女があらわれ、作業員が行方不明になっていくのだ。

ねずみ男までが、その事件にまきこまれてしまったことをねこ娘からきいた鬼太郎は、妖怪のしわざと思い、工事の中止か、地下鉄のコースを変更したほうがいい、と忠告する。しかし、工事会社の人々は妖怪の存在を信じず、ききいれようとしない。

鬼太郎は、ねこ娘や子泣きじじいとともに、とらえられた人々の救出にむかう。その彼らをむかえうったのは、地下にすむきつね一族の空狐たちであった。きつね一族は、自分たちの領域である地下までもが、人間にあらされていくことを怒り、鬼太郎を人間の手先ときめつけて、おそいかかってきた。鬼太郎が、あくまで自分は人間と妖怪を仲よくさせたいだけだ、といってもききいれようとはしなかった。

そんなとき、きつね一族の主領、天狐があらわれ、鬼太郎との一騎うちとなる。たたかいつつも、鬼太郎のことばを信じた天狐は、わざとあいうちにたおれ、人間たちを解放して去るのだった。


▼天狐（声／増山江威子）
◀空狐（声／塩野 翼・塩沢兼人）
▲野狐
◀空狐の変身

第19話 ゆめ妖怪まくらがえし

子どもたちが生き生きとした夢をみなくなったために、夢の世界がさびれてきたことをなげいた夢の番人、妖怪まくらがえしは、もう一度、夢の世界をさかえさせるために、ゆたかな夢をもつユメコをさらっていった。

それを知った鬼太郎は、彼女をたすけるために、ねずみ男とともにまよいの山にかかる虹をわたって夢の世界へはいっていった。しかし、そこはまくらがえしの本拠地で、鬼太郎の妖術も役にたたない。だが、それをみこしてもってきた、まくらがえしの弱点である塩をまき、ひるんだすきにユメコをとりもどして、虹がきえる寸前にもどることができた。

だが、まくらがえしはあきらめず、またユメコをさらいにやってきた。ユメコをまもろうとする鬼太郎たちは、まくらがえしのつくりだす幻覚になやまされた。みんな、自分のいちばんいやなものをみせられたのだ。鬼太郎は、母の幻にくるしめられた。しかし、まくらがえしの天敵であるばくをよびよせて、逆転勝利した。

まくらがえしは、もうこんなことはしないと、妖怪証文をいれてちかった。



第20話 半魚人の恋

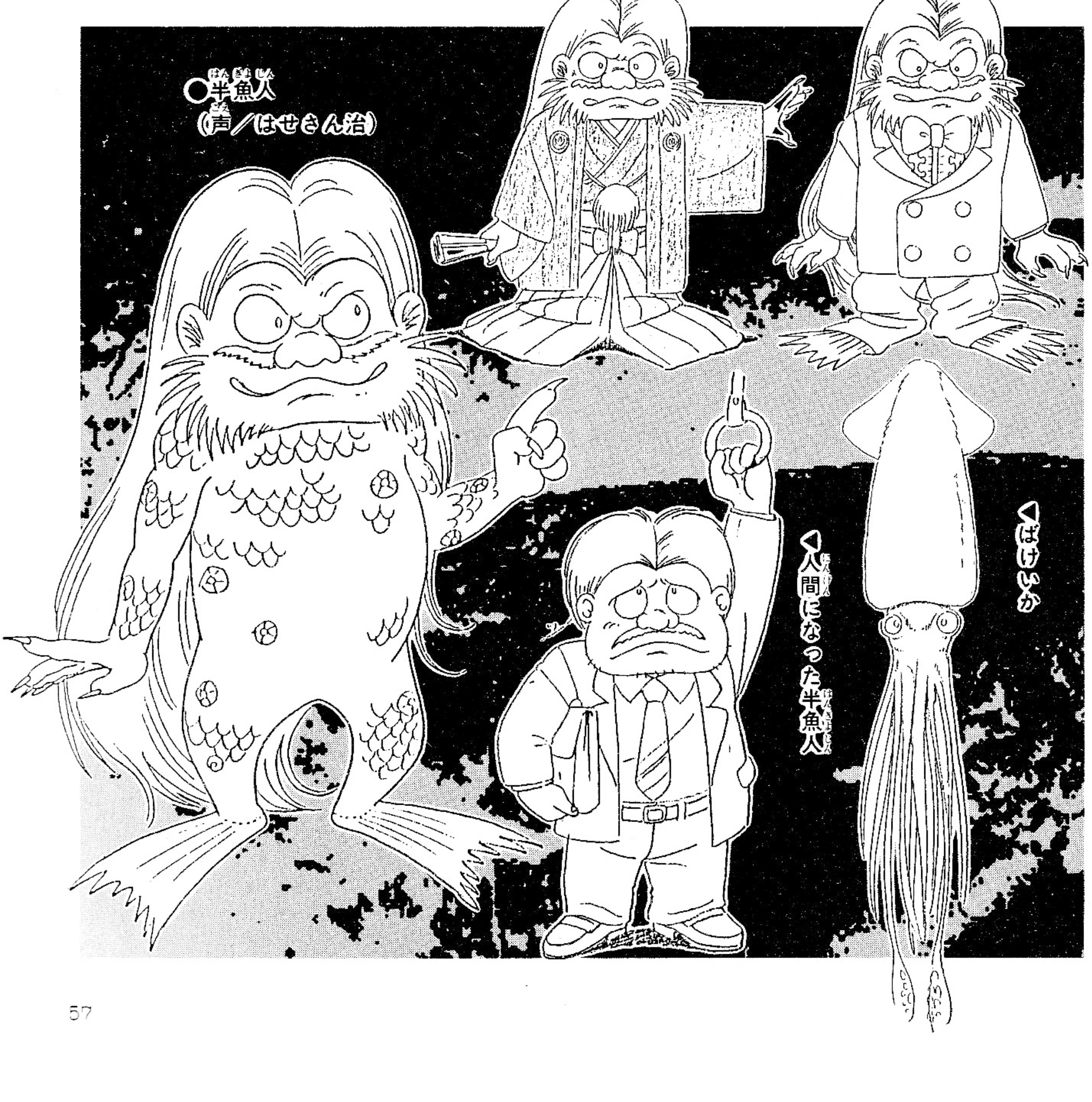
海であわびをとって生活している娘、茜のところへ、ある日、縁談がまいこんだ。だが、なんと相手は、半魚人だった。海へもぐる茜の姿に、一目ぼれしたという。もちろん、茜はことわったが、ねずみ男が強引に話をすすめようとする。ねずみ男は、半魚人の宝をねらっていたのだ。こまりはてた茜の両親は、わらにもすがる思いで鬼太郎をよぶ。しかし鬼太郎は、半魚人のあやつるばけいかのために、あこや貝にとじこめられ、真珠にされてしまった。

茜はねずみ男にさらわれ、むりやり祝言の場につれてこられた。三三九度のさかずきには妖怪ほれ薬がはいっており、これをのんだものは、最初にみたものにほれてしまうのだ。

さかずきに口をつける茜。しかし、そのとき、復活した鬼太郎がとびこんできて、半魚人をおいはらった。

しょせん、妖怪は人間に恋することなどできないのか、と落胆する半魚人に、鬼太郎は、恐山の妖怪病院にいけば人間になれるとおしえる。よろこぶ半魚人。

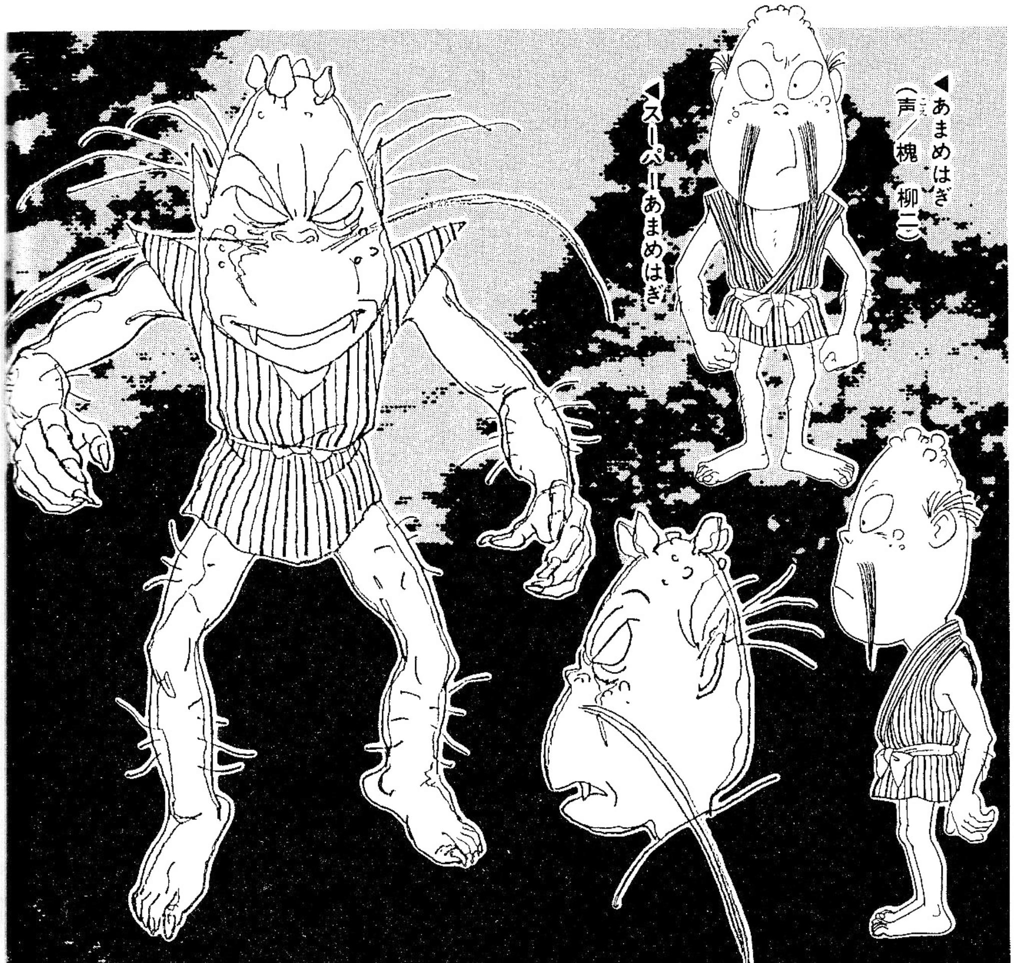
しかし、半魚人をまっていた人間社会は、くるしいことばかり・・・。



第21話 コマ妖怪あまめはぎ

能登の山奥で、百年以上も冬眠しつづけた妖怪あまめはぎ。ねずみ男におこされたあまめはぎは、ひさしぶりに山をおりて街へいった。街についたあまめはぎは、世の中があまりにもかわってしまっていてびっくり。それに、だれも彼の名前をおぼえていないし、彼をみてもこわがらない。人間は恐怖をわすれてはならないし、妖怪は人間におそれられてこそ妖怪である。そう考えたあまめはぎは、鬼太郎をやっつけることが、てっとりばやい方法だと思いついた。

まんまと鬼太郎を、妖術がまったくつかえなくなるキノコ谷へさそいだしたあまめはぎ。鬼太郎を生きうめにし、勝ったと思いこんだあまめはぎは、街じゅうをきのこだらけにしてしまう。なんとか脱出した鬼太郎が街へかけつけてみると、そこらじゅうきのこでいっぱい。あまめはぎをみつけてたたかう鬼太郎。とくいの妖怪ごまを武器に、鬼太郎とこま合戦をするあまめはぎ。心の闇をなくした人間は、きっといつか、妖怪をほろぼす、という彼のことばをわからないでもない鬼太郎。しかし、鬼太郎はかみの毛ばりであまめはぎをやっつけた。



▲あまめはぎ（声／槐 柳二）

▲スーパーあまめはぎ

第22話 いじわる妖怪 天邪鬼

ある日、鬼太郎のもとへ、健太という少年から手紙がとどいた。やさしかった彼のおじいさんの源次が、きゅうに人がかわって、人のいやがることばかりするようになったので、なんとかしてほしい、という内容だった。手紙といっしょにはいっていた写真をみた目玉のおとうさんはびっくりぎょうてん。なんと、そこには、源次といっしょに、封じこめられているはずの天邪鬼がうつっていた。天邪鬼は、老人をたいせつにせず、どんどんさまがわりしていく世の中に不満をもっていた源次をつかって、自分の封印をとかせたのであった。

ひねくれもののいじわる妖怪天邪鬼は、幸福な人間をみるとむねがむかむかするので、源次をつかってわるさをしていたのであった。鬼太郎は、砂かけばばあからもらったねむり薬で天邪鬼をつかまえようとするが、敵の心をよむことができる天邪鬼に大苦戦。なにも考えずにたたかうのだ、というおとうさんのことばを実行する鬼太郎。心がよめずに混乱した天邪鬼はたおされ、ふたたび大岩の下に封じられる。そして、源次も、もとどおりのおじいさんにもどるのだった。



▲源次（声／石森達幸）

▲魔よけの毘沙門天

▲天邪鬼（声／峰 恵研）

▲石の風車

第23話 電気妖怪かみなり



科学者の雨山博士は、かみなりの電気を吸収するエレキテルⅡという装置を発明した。この装置をつかえば、電気代もかからず無制限に電気がつかえるという、たいへん便利なものだった。画期的な発明だとよろこぶ人間たち。だが、一方では、この発明のために、たいへんめいわくしている妖怪もいた。電気をたくわえ、エネルギーにする電気妖怪かみなりであった。それを知った雨山博士の息子コウは、父に研究をやめるようにたのむが、父は、妖怪など非科学的だととりあってくれない。そこでコウは、鬼太郎にたのむのだった。

しかし、鬼太郎がやってきたときにはすでにおそく、電気妖怪かみなりは、研究所からエレキテルⅡをうばっていた。科学と妖力の二つの力をもったかみなりは、街じゅうの電気をぬすみだしてしまう。電車も信号もとまり、大混乱する人間たちをみて、よろこぶかみなり。鬼太郎は、東京タワーをアースとしてつかって、かみなりに電気をつかいはたさせることを思いつく。電気エネルギーがなくなり、気絶したかみなりを、鬼太郎は空へかえしてやるのだった。

第24話 子供が消える!? 妖怪うぶめ



腹をすかしていたねずみ男は、昼食とひきかえに、妖怪うぶめをよみがえらせてくれと、村山という男にたのまれる。村山は、うぶめをみせものにしてもうけようと考えていたのだ。よみがえったうぶめは、村山のもとからにげだし、病院からつぎつぎと赤ん坊をさらった。この事件をききつけてやってきた鬼太郎たちは、うぶめが子どもをさらうのは、自分も子どもをうしなっており、子どもがこいしくて、自分の子どもにしようとしているためだと、人々につたえる。

鬼太郎は、つぎにうぶめが子どもをさらいにきたときにそのあとをつけて、つれさられた子どもたちをたすけることにした。うぶめがつぎにねらったのは、村山の子、秀夫であった。秀夫のふとんに、うぶめの足あとがついていたのだ。うぶめは、つぎにねらう子どものふとんに足あとをつけるのだ。うぶめがくるのをまっていた鬼太郎だったが、うぶめの姿をみて、ついとびだしてしまう。鬼太郎の考えをみぬいたうぶめは、ぎゃくにふいうちをかける。苦戦する鬼太郎だったが、なんとかうぶめを、ふたたび石像にもどし、子どもたちをたすけだした。

第25話 妖怪ぶるぶる



○ぶるぶる（声／中谷ゆみ）

人間がヒャッとしたときにでる冷気をたべる妖怪ぶるぶる。ある旅館のかけじくの絵に封じこめられていたのだが、その旅館にユメコがくることを知ったねずみ男が絵をもやしてしまう。封印がとかれて復活した妖怪ぶるぶるは、ユメコの父親にとりついた。旅館へむかうユメコと家族をのせた車は、温泉へおちてしまう。ユメコのピンチを知り、かけつけた鬼太郎は、妖怪めがねをつかって、ふつうは姿のみえないぶるぶるをみつけだし、かみの毛ばりで木のみきにはりつけて、ひものにする。

しかし、ねずみ男のかんちがいで、ユメコは、ぶるぶるがのりうつったきのこのはいったきのこ鍋をたべてしまう。体温がどんどんさがり、凍死しそうになるユメコ。鬼太郎は、いそいで彼女を温泉につけ、からだの中からぶるぶるをおいだす。ぶるぶるは、熱と煙が弱点なのだ。おこったぶるぶるは、こんどは、大型バスを旅館につっこませる。鬼太郎は、ばけ火をよびよせ、ぶるぶるを岩壁に封じこめてしまうのだった。危機をのがれた鬼太郎は、ユメコたちといっしょにドライブをたのしむのだった。

第26話 おばけナイター



◀がんぎ小僧

◀からかさ小僧

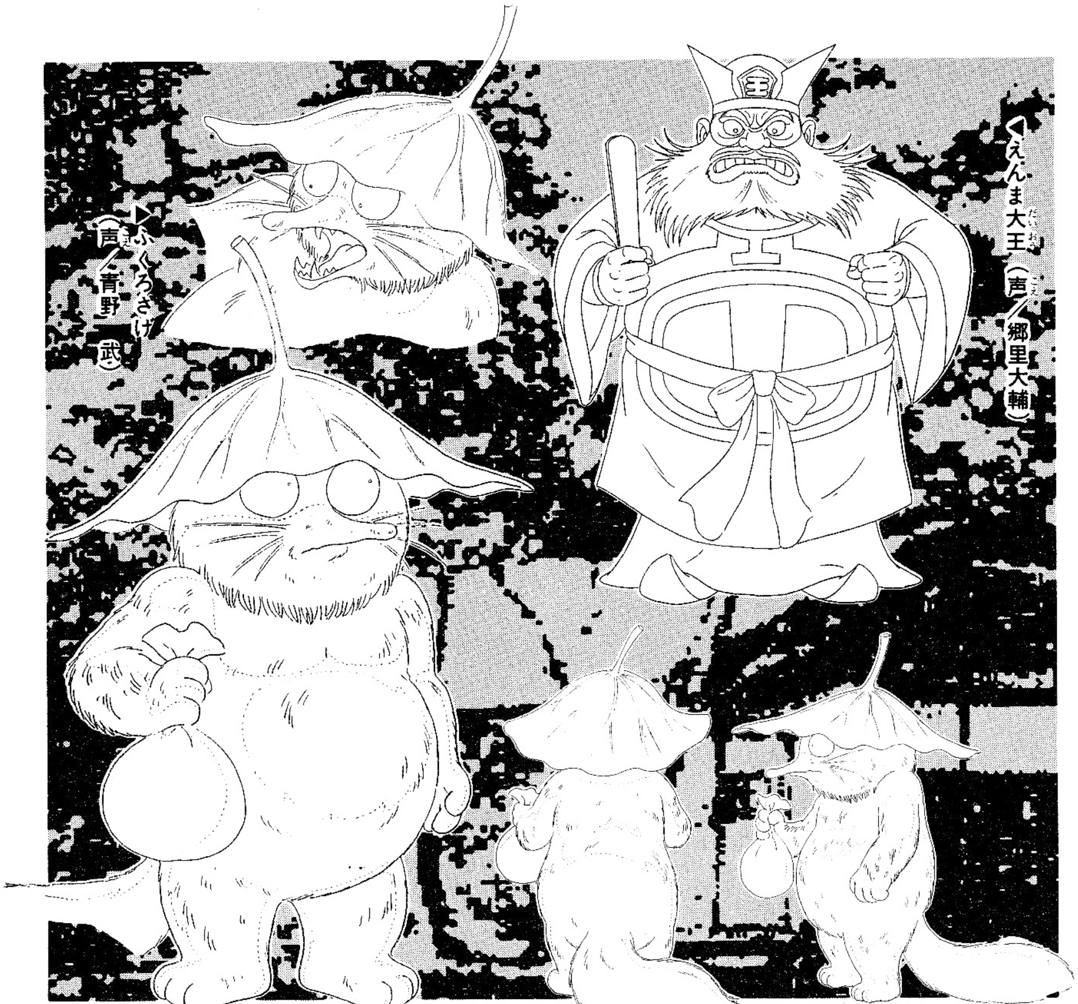
△福の神（声／大竹 宏）

◀マンモス男（声／屋良有作）

野球好きの少年、万年は、ある日墓場でひろったバットをつかいだしてから、打率十割というすごいバッターになった。じつはそのバットは鬼太郎たち妖怪野球チームのために、福の神が樹齢二千年の霊木からつくりだしたもので、妖怪がつかえばただのバットだが、人間にとっては魔法のバットだったのである。万年のうわさをききつけ、やってきた鬼太郎は、バットをかえしてくれるようにたのむ。しかし万年は、このバットは自分のものだといいはり、鬼太郎にかえそうとしない。こまった鬼太郎は、妖怪チームと万年たちラッキーズが野球で勝負して、勝ったほうがバットをとることにした。

試合は真夜中にはじまった。ラッキーズの少年たちは、妖怪チームの野球をみてびっくり。なんと、妖怪たちは、それぞれの妖力をいかして野球をするのであった。ラッキーズは妖力バットとファインプレーの連続で、妖怪たちは妖力で、延長二十三回まで0対0と白熱した試合がつづき、夜があけたためにひきわけとなった。バットは鬼太郎のもとにもどらなかったが、福の神によって、その妖力はとりはらわれた。

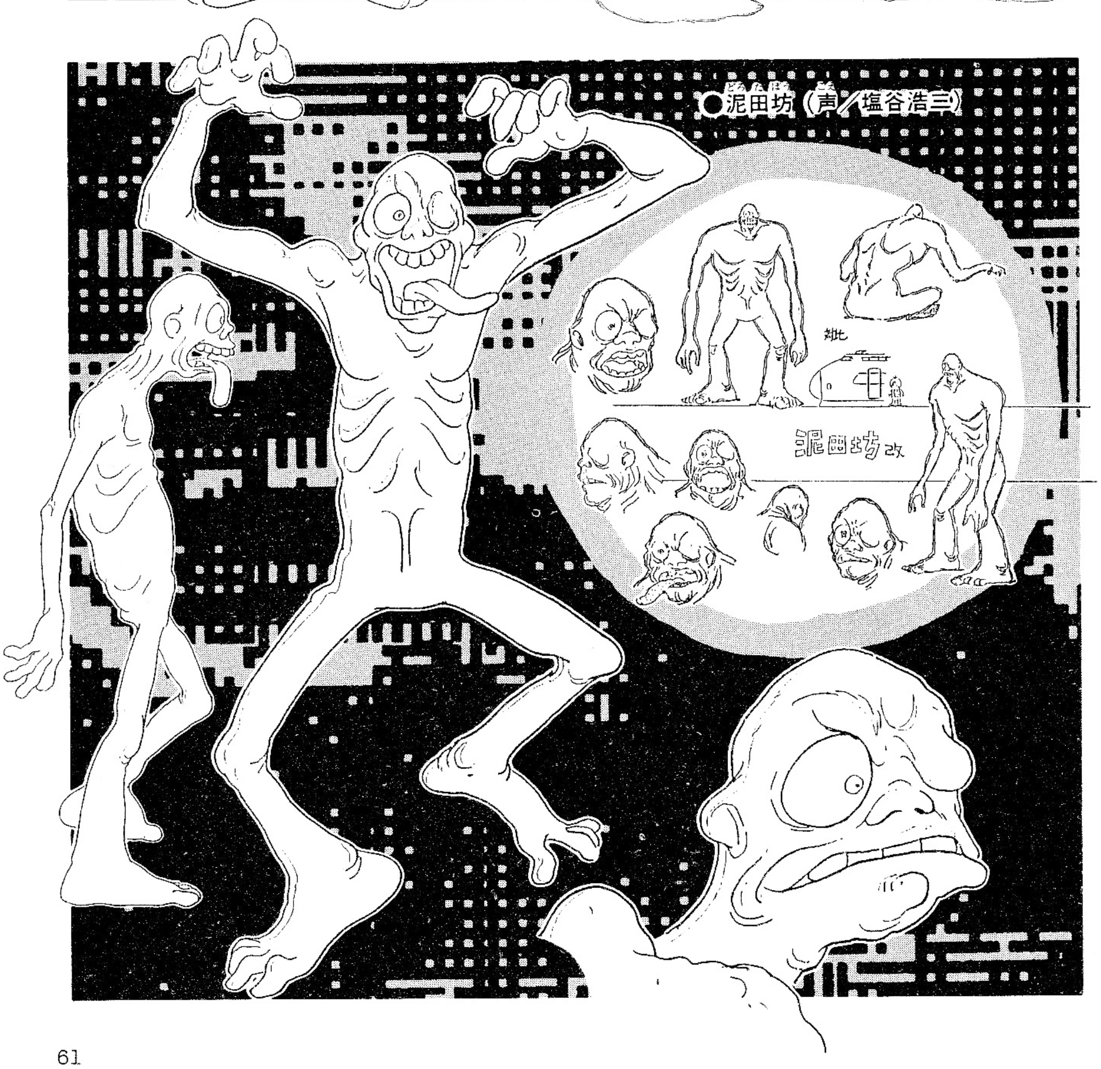
第27話 妖怪ふくろさげ



妖怪エネルギーをすいとってしまうために、大昔の妖怪たちが、力をあわせて封じこめた妖怪ふくろさげ。そのとじこめられている箱を、ねずみ男は宝の箱だと思ってあけてしまう。中からあらわれたふくろさげは、ねずみ男のエネルギーをすいとってしまう。ふらふらと、鬼太郎にたすけをもとめにいったねずみ男は、ことのしだいをはなす。このままでは、妖怪たちすべての危機だ。鬼太郎は妖怪仲間にこのことを知らせにはしるが、すでに砂かけばばあ、子泣きじじい、ねこ娘もエネルギーをすいとられてしまっていた。そして、鬼太郎自身もふくろさげにエネルギーをすいとられそうになるが、目玉のおとうさんの犠牲でなんとかたすかる。このままでは、妖怪たちは全滅だ。こうなったら、えんま大王に妖怪エネルギーをもらうしかない。鬼太郎は魔界へいそぐ。

ふくろさげは、妖怪と人間を仲たがいさせようとたくらんでいた。魔界からもどった鬼太郎は、ふくろさげに妖怪エネルギーをすきなだけすいとらせ、ふくれあがったところをひとつきにし、ふくろさげを破裂させるのだった。

第28話 妖怪泥田坊



夜中の田んぼのまん中を、疾走していく新幹線。その近代科学の結晶ともいうべき電車の前にたちはだかり、事故を発生させるなぞの泥人形があらわれた。

その正体は、田んぼをまもる妖怪泥田坊であった。自分がそれまですんでいた田んぼをつぶして建設された新幹線を、うらんでしたことだったのである。

泥田坊が、田を売った父親のもとに毎夜あらわれるのでこまっているという、健太からの手紙をうけとった鬼太郎は、泥田坊をなんなくたおした。

しかし、泥田坊は死んではいなかった。泥田坊は水さえあれば、いくらでも再生する能力をもっていたのだ。雨のなか、総力をあげておそいかかる泥田坊に、鬼太郎は苦戦する。たおせばたおすほど、泥田坊の数がふえていくのだ。

いっきに勝負をつけるべく、ばけ火をよんだ鬼太郎は、みずからの体内へばけ火をすいこみ、炎をパワーアップさせて泥田坊にあびせるという危険な技をつかい、なんとかやっつけることができた。くるしみ、にげだす泥田坊の本体。彼は、もう新幹線をおそったりしないと鬼太郎にちかうのだった。

第29話 妖怪ひでり神

絵をかくのが大好きな妖怪ひでり神は、洞窟の中で静かに壁に絵をかいていた。それをみたねずみ男は、ひでり神にまんがをかかせてひともうけし、ユメコにダイヤの指輪をおくろうと考えた。

週刊ヨーカイの編集部は、売りあげをのばすよい機会だと、ねずみ男の話にのり、編集者の森田をひでり神の担当記者とした。

しかし、ひでり神のまんがは、とても読めたものでなく、森田はあせるばかりだった。一方、ひでり神もはらがへっておこりだし、ねずみ男といっしょに森田を誘拐して、身の代金をとろうとする。

そのことを森田のむすこ、ヨシミツからきいた鬼太郎は、森田をたすけだそうとする。しかし、あらゆるものをエネルギー源にするひでり神には、鬼太郎の力でも歯がたたない。そこで、なんでも電気そうじ機のようにすいこんでしまう妖怪野づちを冬眠からさまし、ひでり神のパワーをすいとらせて、よれよれにしてしまう。森田をたすけにいった鬼太郎がみたのは、ねずみ男に必死にまんがをかかせている森田の姿であった。鬼太郎は、ただあきれるばかりであった。



▼ひでり神（声／はせさん治）

▲エネルギーを吸われたひでり神

▲ひでり神の変身した炎の怪物

◀野づち（声／大森章督）

第30話 妖怪見上げ入道

林間学校へやってきたユメコたち。ユメコのクラスメートのガキ大将俊夫は、神物石であそび、そこに封じこめられていた見上げ入道をよびだしてしまう。学校へもどった俊夫のもとへ、見上げ入道があらわれ、勉強がきらいであそぶことが大好きな俊夫こそ、妖怪学校にはいるのにふさわしいと、山奥へつれさった。

ユメコからその話をきいた鬼太郎は、俊夫をたすけだすために妖怪学校に潜入する。しかし、ねずみ男に正体をばらされた鬼太郎は、入道の手によって特殊なバリヤーにとじこめられてしまう。

鬼太郎が行方不明であることをきいてあつまった砂かけばばあたちは、水晶玉をつかって鬼太郎がとじこめられていることを知る。鬼太郎だけの力ではぬけでることができないことに気づいた仲間たちは、力をあわせて、ついにバリヤーをやぶることに成功する。

再度、見上げ入道とたたかう鬼太郎。風をすいこんで、からだの大きさをかえる見上げ入道に、鬼太郎はのみこまれてしまう。しかし、鬼太郎は見上げ入道ののどを、ちゃんちゃんこでふさいで、なんとかたおすのだった。



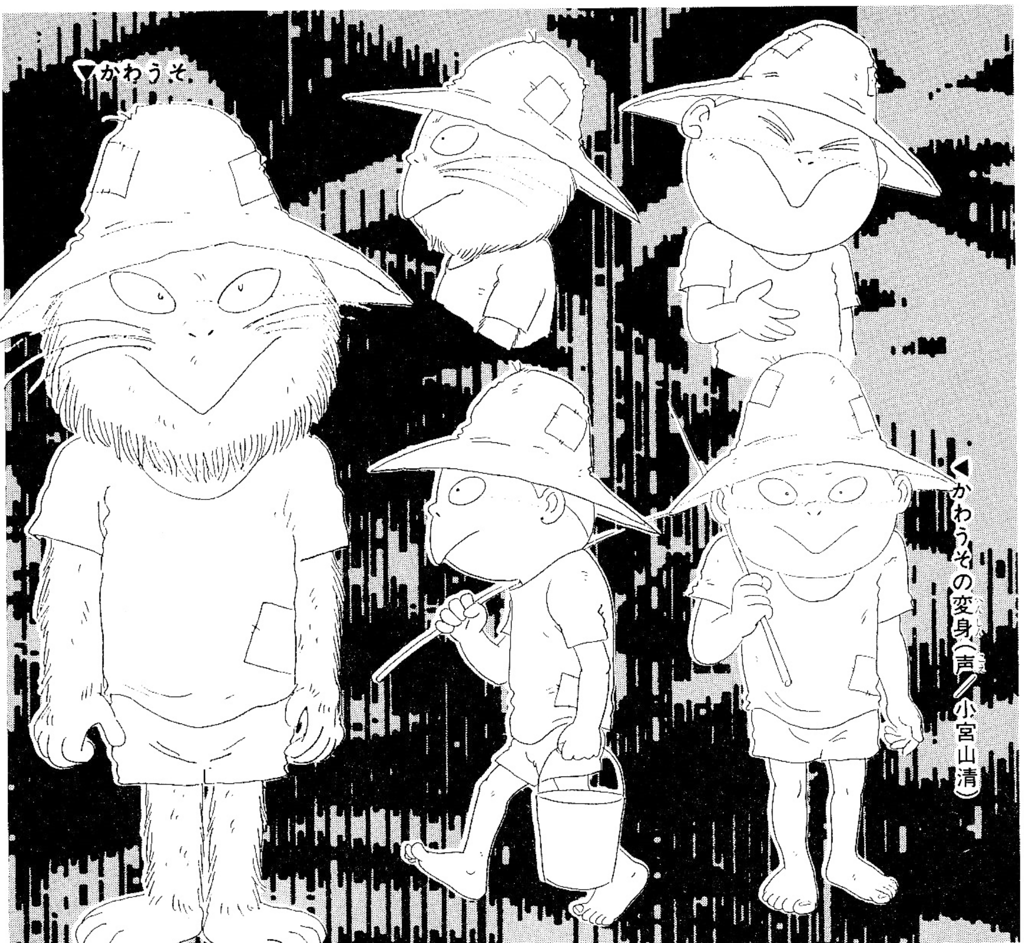
●見上げ入道（声／田中康郎）

第31話 オベベ沼の妖怪

オベベ沼にすむ妖怪かわうそは、人にいやがらせばかりしているきらわれもの。ある日、オベベ沼に、ユメコや鬼太郎たちがあそびにやってきた。そこにあらわれたかわうそは、ユメコたちにいやがらせをする。なぜか、かわうそと気があうねずみ男は、かわうそといっしょになっていやがらせをするしまつだ。

鬼太郎は、かわうそのいたずらが限度をこえるものだったので、お灸をすえることにした。かわうそは、鬼太郎を水中にさそいこみ、ひるやかめをつかって攻撃してきた。にがての水中戦にくるしむ鬼太郎であったが、そこに目玉のおとうさんの知りあいのかっぱがあらわれた。

目玉のおとうさんの話をきいて、鬼太郎に加勢するかっぱたち。形勢は逆転し、かわうそは降参した。とらえられたかわうそを、一人かばうねずみ男。きらわれ者だって、好きで一人でいるんじゃないと、必死にかわうそを弁護する。ねずみ男は、かわうその中に、きらわれ者の自分をみたのかもしれない。かわうそは鬼太郎たちに、自分の身の上をはなし、ふたたびよい妖怪となったのである。



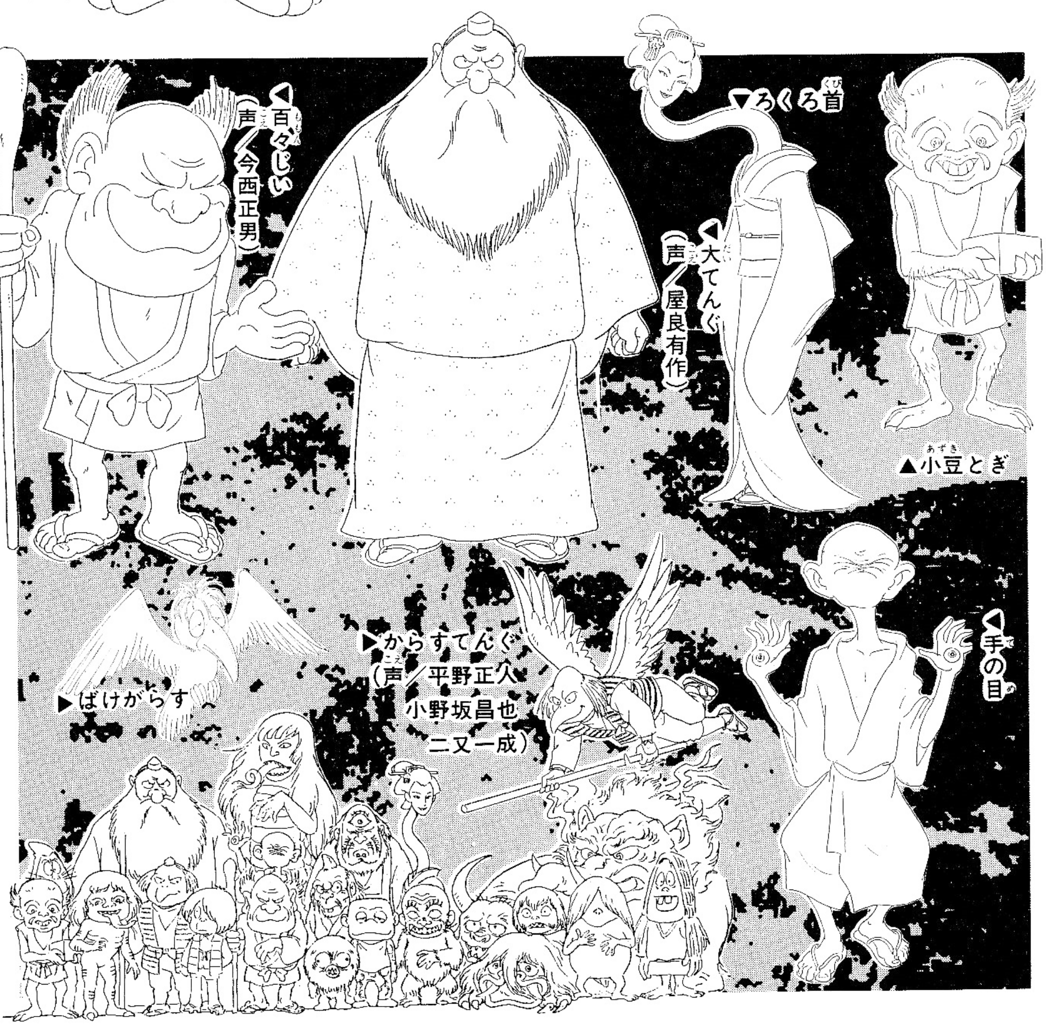
第32話 妖怪大裁判

妖怪大裁判とは、大てんぐの前でおこなわれる裁判のことで、妖怪社会において、重大な事件をさばくときにひらかれるものだった。

あるとき、人間界では一本の映画が、たいへんな話題となっていた。その映画には、妖怪たちのパーティーのようすがこまかくうつしだされていたのだ。この映画の撮影のてびきをしたのが鬼太郎だということも、話題となっていた。

このパーティーは、本来、人間には絶対知られてはならないもので、その禁をやぶった鬼太郎に妖怪たちの非難があつまり、ついに鬼太郎は、妖怪裁判にかけられることになった。しかし、今回の事件はすべて、鬼太郎をじゃまに思っていた百々じいの計略であった。

妖怪裁判では、つぎつぎに鬼太郎に不利な証言がなされていく。彼に味方する妖怪たちはみな、百々じいにおどされていて発言しない。鬼太郎の弁明もむなしく、大てんぐの判決がくだった。鬼太郎は、五百年間ドロドロにとかされて、つぼに封じられることになった。危機一髪、カメレオンの術で脱出した鬼太郎は、百々じいをたおし、無実を証明した。

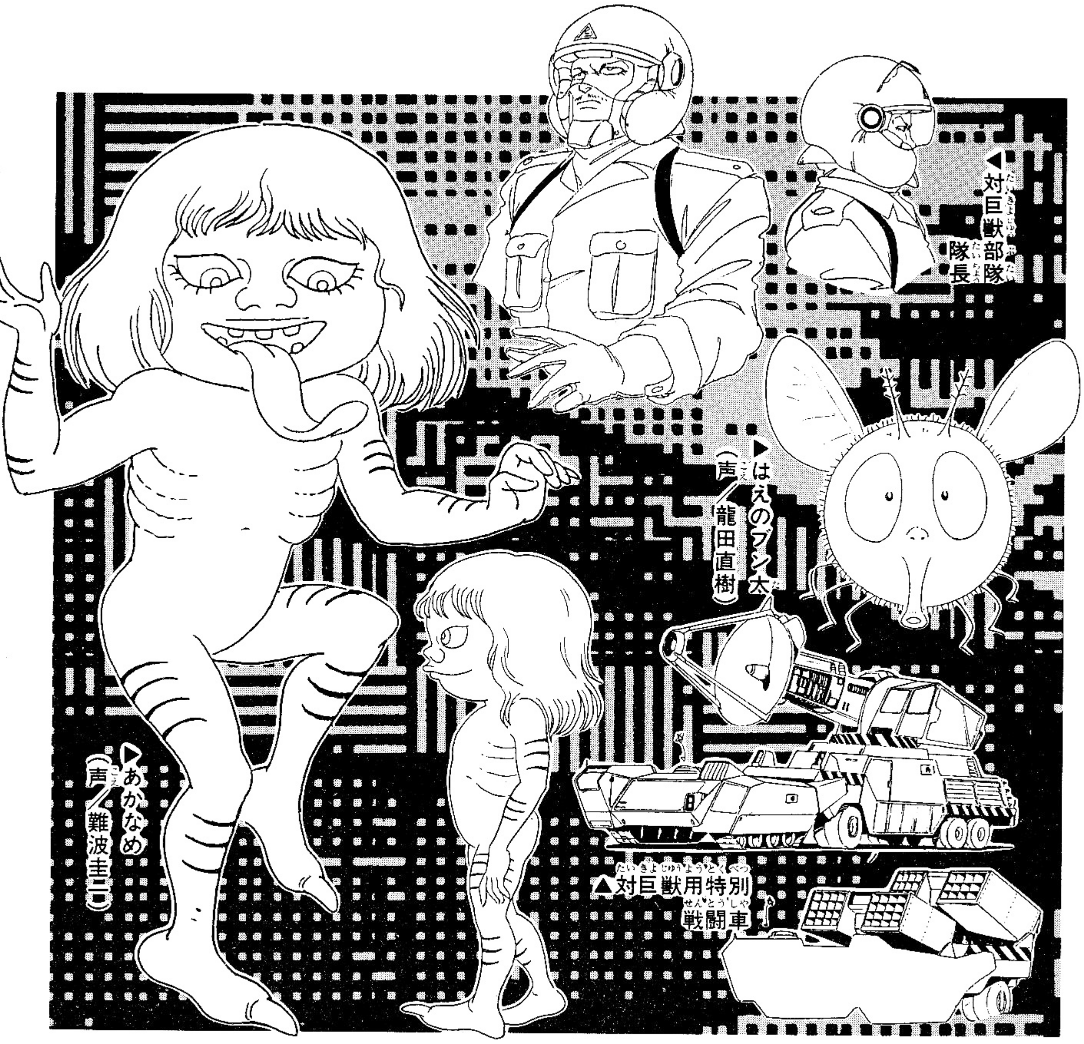


第33話 妖怪あかなめ 哀しみの逆襲

ごみの山のなかをうろつくねずみ男。まだまだつかえるものばかりのごみの山をかきわけるねずみ男のそばへ、はえのブン太がやってきて、東京があぶないと忠告する。これから、たいへんなことがおこるというのだ。

その直後、ごみの山をわってあらわれたのは、鬼太郎の友だちだったあかなめであった。だが、むかしとはようすがちがう。あかなめは、人間のすてた化学物質のごみをたべたため巨大化し、自制心をうしなってあばれまわるのだった。警察や自衛隊の攻撃をものともせず、東京を破壊していくあかなめを、必死に説得する鬼太郎。だが、いまのあかなめには、そんな鬼太郎の声もきこえず、ついに鬼太郎は、赤なめにのみこまれてしまう。

目玉のおとうさんたちは、えんま大王におしえられて、あかなめに豊かの木の実をのませた。豊かの木とは自然のめぐみをあたえてくれる木であり、その種はいまでも神社にまつられていたのだ。体内で芽をだした豊かの木によって、巨大あかなめはたおされ、もとのやさしいあかなめにもどった。



▲対巨獣部隊隊長

▶はえのブン太（声／龍田直樹）

▷あかなめ（声／難波圭一）

▲対巨獣用特別戦闘車

第34話 ばけ猫国道0号線

ある日、鬼太郎のもとに、健二という少年から一通の手紙がとどいた。その手紙には〝ねこうち症〟にかかった父をなおしてほしいとかかれていた。〝ねこうち症〟とは、国道0号線で事故をおこした自動車にのっていた人たちがかかる、しぐさがまるでねこのようになってしまう奇病で、治療方法がまったくわからない難病であった。鬼太郎はとりあえず事故現場の国道0号線へいくが、なぞの暴走トラックにおそわれる。その話をきいた目玉のおとうさんは、それはばけねこのしわざだという。自動車にひきころされたねこたちが、人間と車をうらんだすえの事件だったのだ。

そんなねこたちの復讐を思いとどまらせるために、ばけねこの本拠地へのりこむ鬼太郎たち。ねずみ男のもってきたまたたびのおかげで、鬼太郎はばけねこをやっつけることができた。だが、自動車にひかれ、きずついたねこたちをみて、とどめはささず、人間と仲よく生きていく道をみつけるようにさとすのだった。怨念はきえさり、健二の父の奇病もなおった。鬼太郎は、死んでいったねこたちのために、慰霊碑をたてるのだった。



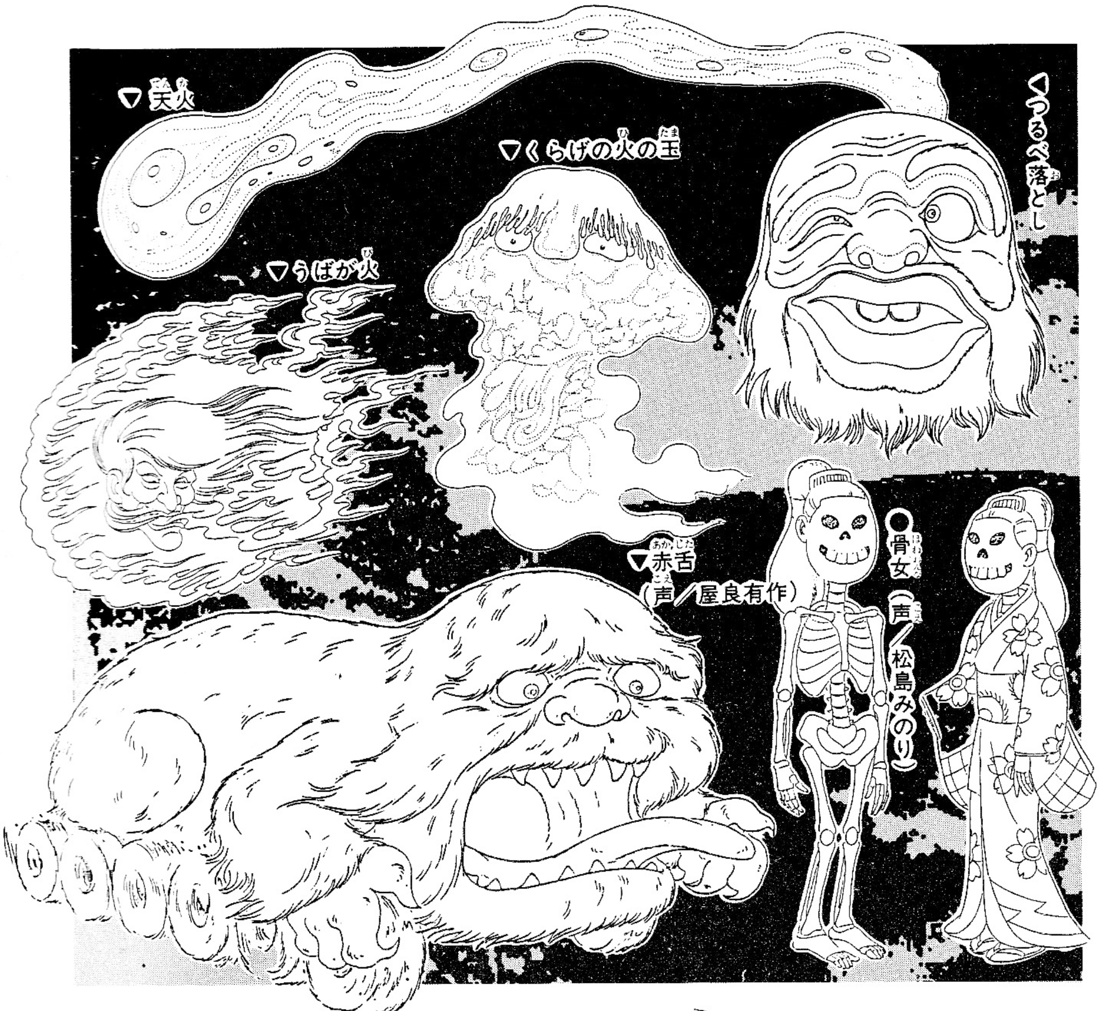
●ばけねこ（声／京田尚子）

第35話 妖怪赤舌の千年王国

わるぢえのはたらく骨女は、赤舌をよみがえらせて、千年王国をつくろうと計画する。復活した赤舌は骨女と協力し、世の中に不満をもつ人間たちをだましてあつめ、つぎつぎと石や柱にかえてしまうのであった。

鬼太郎のもとには、きえてしまった人たちの子どもたちからの手紙がたくさんとどいた。原因をつきとめるべく、赤舌と骨女をさがす鬼太郎。しかし、赤舌は水を自由にあやつり、鬼太郎は大苦戦。仲間にたすけをもとめる鬼太郎だったが、赤舌によってみんな水分をぬかれてしまい、まったく歯がたたない。

水をあやつる赤舌には、火で対抗するしかないと考えた鬼太郎は、ばけ火、つるべ落とし、天火、うばが火、くらげの火の玉の、炎の妖怪五人衆をよびよせ、仲間の妖怪たちと力をあわせて赤舌とたたかった。赤舌が大きな口をあけたすきに、その体内にはいる鬼太郎と炎の妖怪たち。一致団結して強力な炎を放出し、とうとう赤舌は水分をすべて蒸発させられた。骨女の計画は失敗におわり、石にされた人々ももとにもどって、ふたたび不満にみちた人間界へとかえった。



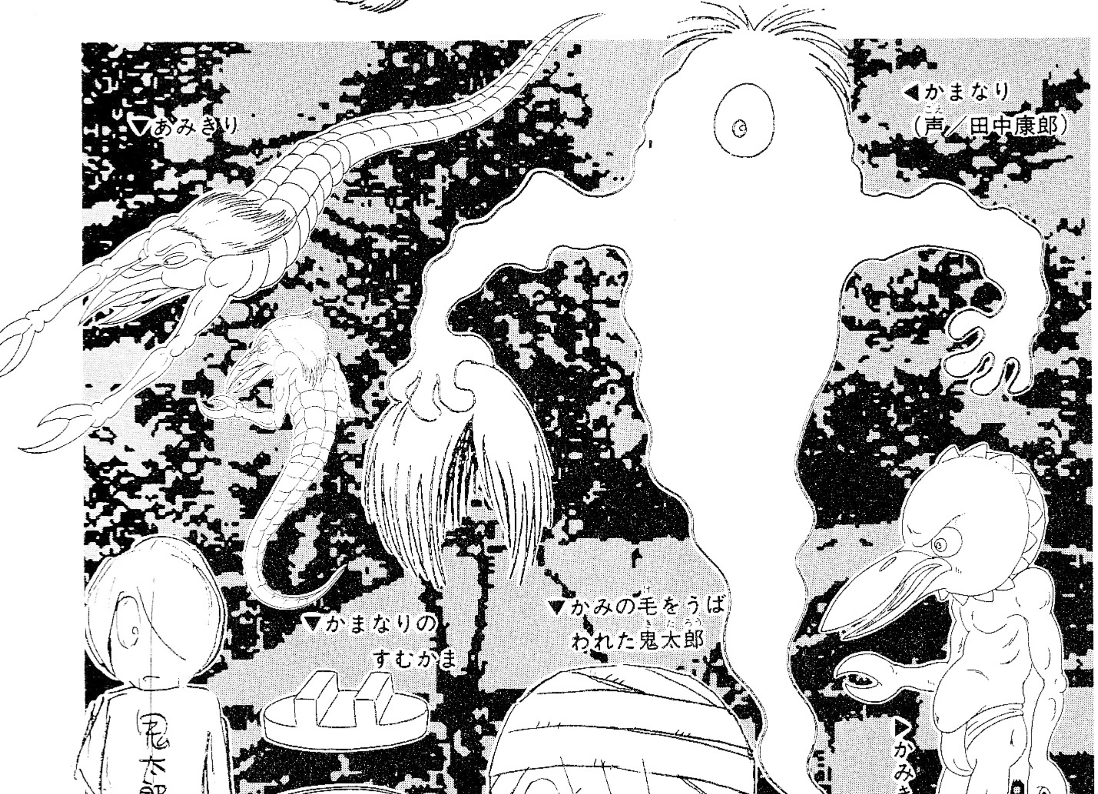
第36話 異次元妖怪かまなり

鬼太郎のもとに、一通の手紙がとどいた。その手紙には、「わたしは山にすてられたさびしい老人だ。鬼太郎さん、たすけてくれ」とかかれていた。手紙にかかれた山奥へやってきた鬼太郎は、そこで空とぶかまにおそわれる。頭にすっぽりかぶさったかまがとれると、なんと鬼太郎の頭はつるつる。妖力の源であるかみの毛をとられてしまったのだ。

鬼太郎のかみの毛をぬすんだのは、妖怪かまなりであった。かまなりは、自分のまつられている祭壇を子どもたちにこわされたことに腹をたて、鬼太郎をにせの手紙でさそいだしたのだった。

つぎつぎに行方不明になる子どもたちのことをきき、責任を感じる鬼太郎。妖力のおとろえたからだでかまなりとたたかうが、かまの中へすいこまれてしまう。

それを知った目玉のおとうさんたちは、妖怪あみきりやかみきりたちとともに、かみの毛をうばいかえす。妖力がもとにもどった鬼太郎は、かまなりをかみの毛ばりでたおす。負けたかまなりは反省し、人々もかまなりのために祭壇をつくりなおすのであった。



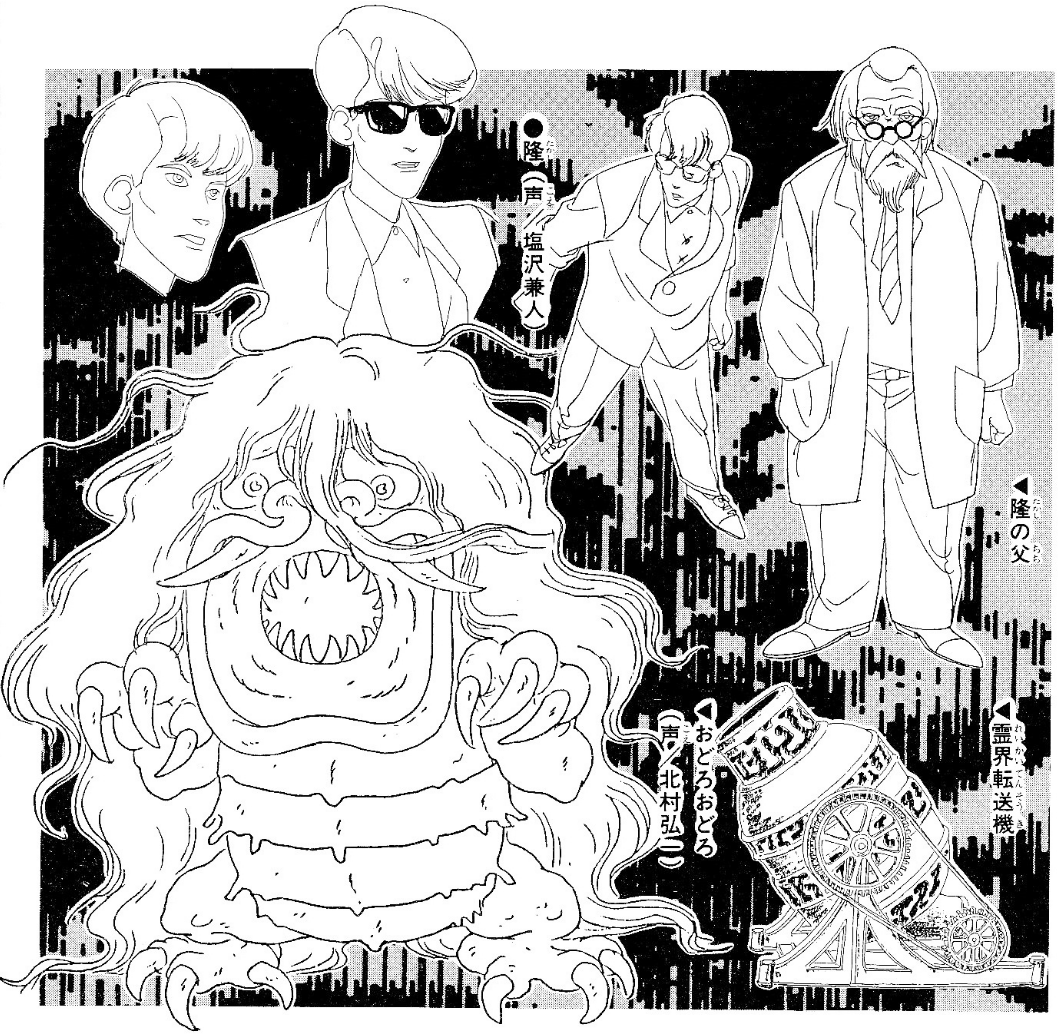
第37話 妖怪おどろおどろ

子どもがつぎつぎに誘拐される事件がおきていた。しかし、鬼太郎は、犯人が若い男であるときき、自分の出番ではないと考える。だが、妖怪ポストに犯人からの手紙がとどき、犯人は妖怪であることを知る。罪のない子どもたちをたすけるために、すすんでわなへはいっていく鬼太郎。犯人のかくれがで、妖怪おどろおどろとであう。おどろおどろは、心をうしなった人間を変身させ、子どもたちの血をあつめていたのであった。

おどろおどろの霊界転送機によって、霊界へとおくられてしまう鬼太郎。そこには誘拐された子どもたちもいた。

やっとの思いで霊界を脱出した鬼太郎。そこでは、おどろおどろにとりつかれた人間とそのむすこの隆が、いくら父親のためとはいえ、罪のない子どもたちをこれ以上犠牲にはできない、とあらそっている最中であった。しかし、おどろおどろがそんなことをきくはずもなかった。

すきをみておどろおどろをたおす鬼太郎。隆は、子どもたちをもとにもどし、無残にかわりはてた父の姿をみて涙をながし、警察へとむかうのであった。



第38話 タタリだー!? 妖怪土ころび

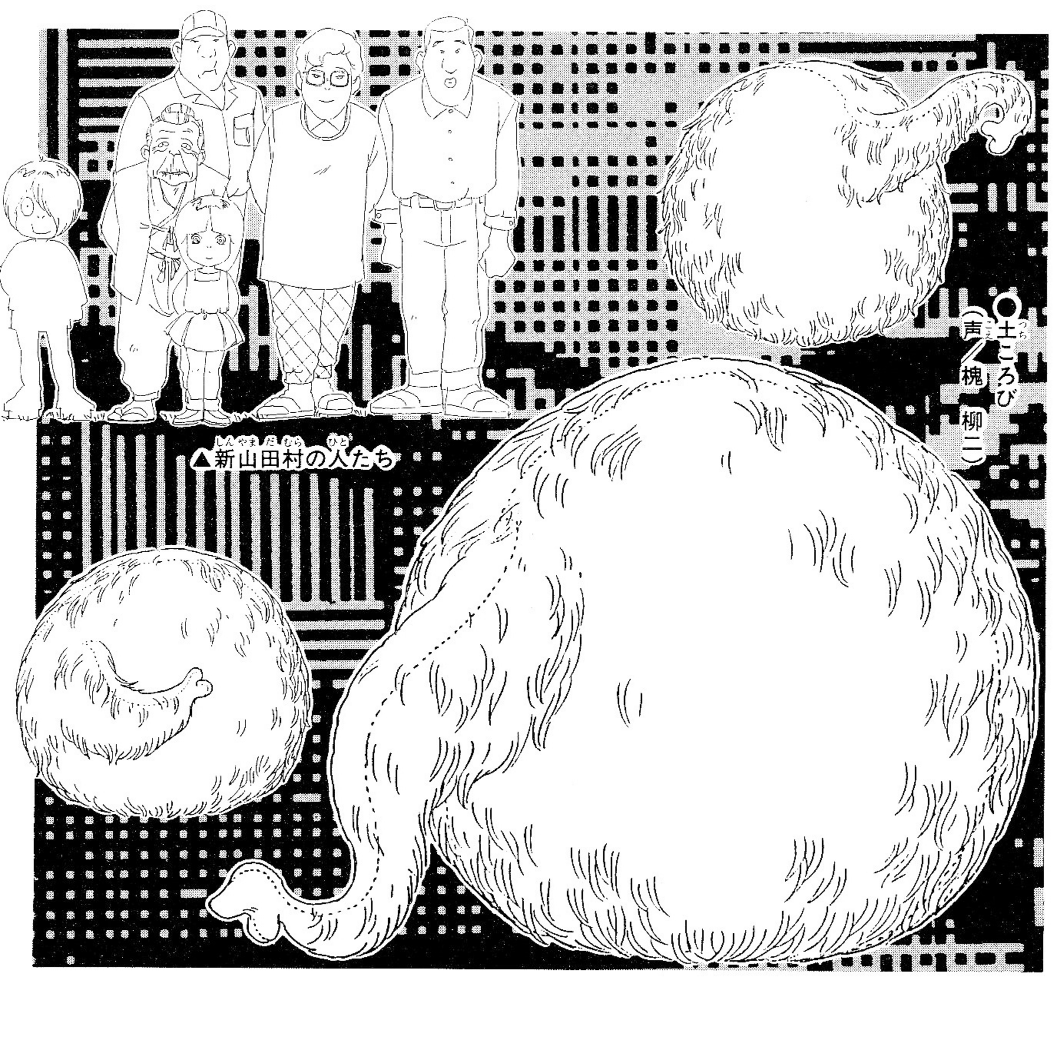
ダムのちかくにある新山田村。最近、この村だけ、突然電気がこなくなってしまった。こまりはてた村人たち。少女、君子は、鬼太郎にこの事件のなぞをといてほしい、と手紙をだした。

さっそく鬼太郎は、村の調査をはじめるが、なかなか原因をつかむことができない。そんなときに、ねずみ男が村人たちに電気をうりつけているのをみつける。こっそりねずみ男のあとをつけた鬼太郎は、今回の事件の犯人が妖怪土ころびであることを知る。

土ころびは、ダムが建設されたために、自分のやしろが水没してしまったことをおこって人間たちをこまらせていたのであった。鬼太郎の説得にもおうじない土ころび。長い鼻をつかって、鬼太郎を体内にすいこもうとする。

ちゃんちゃんこの連絡で鬼太郎のピンチを知った目玉のおとうさんは、がんぎ小僧やぬりかべ、子泣きじじいたちをよんで、鬼太郎をたすけにむかう。あぶないところを仲間にたすけられた鬼太郎は、土ころびをぶじにおとなしくさせる。

村人たちは、土ころびのために、新しいやしろをつくってあげるのだった。



第39話 三途の河のだつえばばあ



夜のさかり場で、三人のおとなが行方不明となった。若くて美しい女の妖怪が、男たちをどこかへつれさる、といううわさがながれ、人々はさかり場へいかなくなった。客足がおちてこまった水商売の人々は、鬼太郎へ手紙をだした。

さかり場をおとずれた鬼太郎は、犯人の女妖怪をみつけておうが、その妖怪は、えんま大王しかもっていないはずの万有自在玉をつかって、地獄へとにげてしまう。それをおう鬼太郎たちも、妖怪と死人しかのることのできない地獄列車にのって、地獄へとむかうのだった。

地獄でふたたび犯人をみつける鬼太郎。その正体は、地獄の入り口で死者の衣服をとり、その罪の重さをはかる妖怪だつえばばあであった。彼女は生まれたときから年よりで、若いときを経験したことがなく、若がえるために男たちをさらったのだった。万有自在玉のまえになすすべもない鬼太郎。だが、えんま大王のたすけで自在玉はその力をうしない、鬼太郎はあぶないところをすくわれた。

その後、だつえばばあは、えんま大王のさばきをうけて、人間の赤ん坊にされたのだった。

第40話 富士山大噴火!? 妖怪大首



富士山の洞窟の中から、妖怪大首がよみがえった。その能力で骨女を配下とした大首は、いろいろな墓からがいこつをよみがえらせていった。

ねずみ男は町で、もっともにがてな骨女とあい、大首の部下となる約束をさせられる。大首はとおくから、よみがえらせたがいこつたちをあやつって、かんづめ工場ではたらかせていた。その工場では、墓場でつかまえた霊魂をかんづめにしているのだった。

墓場から骨や霊魂がきえていることに気がつく鬼太郎。じゃま者をけすため、骨女は、強力なねずみ男のおなら入りかんづめ爆弾で、鬼太郎たちの全滅をたくらむ。間一髪たすかった鬼太郎たちは、かんづめ工場を逆襲するが、目玉のおとうさんがかんづめにされてしまった。

大首は富士山を噴火させ、東京を全滅させて、日本を支配しようとしていた。そのための栄養源として、霊魂をあつめていたのだ。鬼太郎は、妖怪風船で大首に接近、霊食きのこをその頭にふりかけて、大首をもとの石にもどすのだった。大首にコントロールされていた骨たちも、みなもとにもどり、事件は解決した。



第41話

妖怪関ケ原の戦い!!

山中を歩いていたねずみ男は、突然、女の声をきき、その声の命ずるままに、ある石をどけてしまった。そのために、がまになっていた妖怪邪魅がよみがえってしまい、かわりにねずみ男が、がまの姿になってしまった。

　ねずみ男のSOSをうけた鬼太郎は、ねずみ男のかわりにがまにされてしまった。容易ならぬ事態とみた目玉のおとうさんは、自分をがまとすることで鬼太郎をすくった。ところが直後、姫の姿にばけた邪魅の術にはまった鬼太郎は、邪魅の部下にされてしまった。邪魅は鬼太郎をつかって、百年間がまにされていたうらみをはらそうというのだ。

　邪魅の部下となって、町の人にわるさをする鬼太郎を案じる目玉がまは、ユメコとともにがま仙人のもとへむかった。がま仙人は、ユメコの鬼太郎を思う気もちにめんじて、鬼太郎を妖術のきかない妖怪関ケ原にひきこみ、邪魅の毒から解放した。

　鬼太郎は、がま仙人からかりた杖で邪魅をたおした。邪魅は、もとのがまの姿にもどり、目玉のおとうさんも、もとにもどった。



第42話

何ッ!? 鬼太郎が牛鬼に!!

禁漁区で釣りをしていた若者は、ひょんなことから手ぢかにあった霊石をどかしてしまった。そこからなにか気体のようなものが出現して、若者にとりつき、若者を牛鬼へとかえてしまった。

　つぎの日、おなじ禁漁区にはいりこんだねずみ男は、魚を釣るつもりで牛鬼を釣ってしまい、しかも一口でたべられてしまった。それをみていた子どもたちが、鬼太郎にたすけをもとめた。

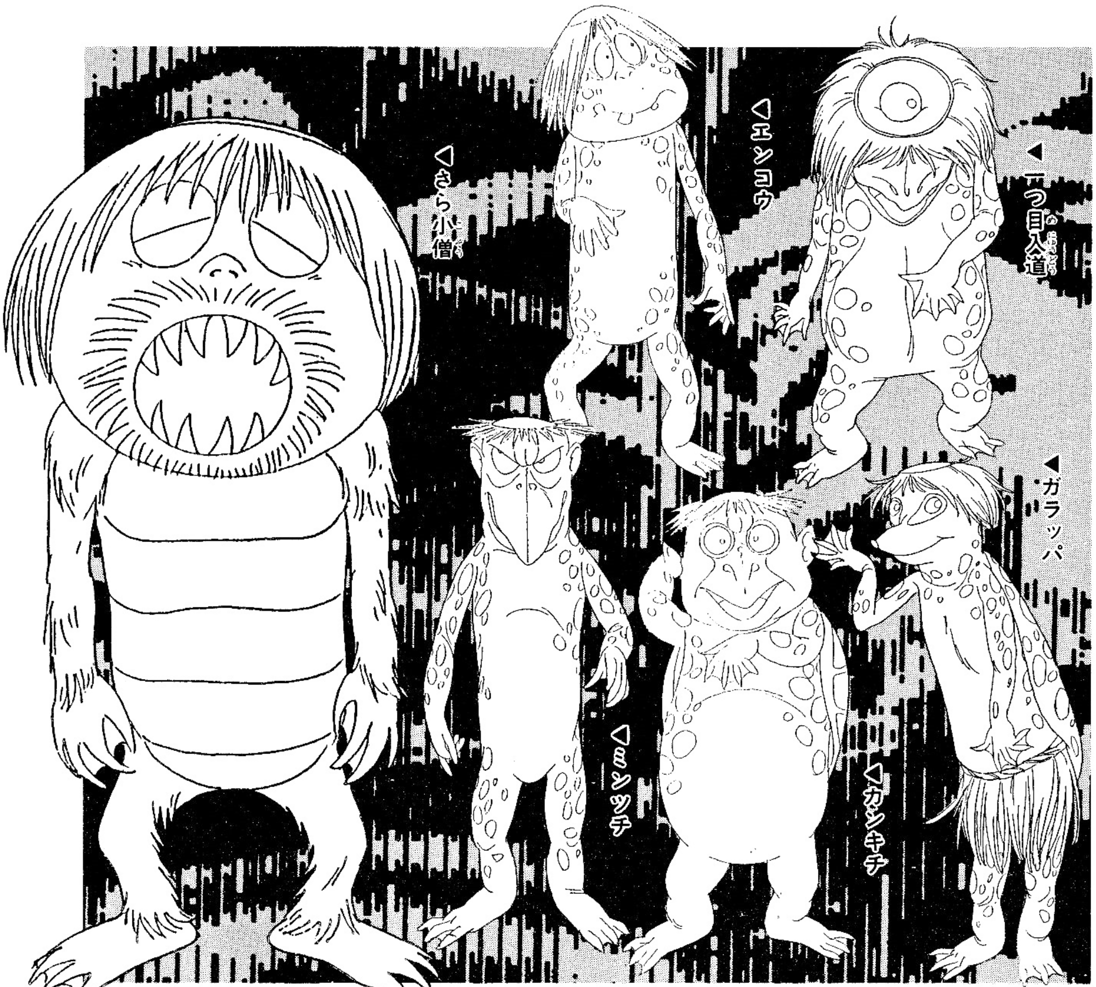
　鬼太郎は、一反もめんと協力して牛鬼をたおし、ねずみ男をたすけだした。牛鬼は若者の姿にもどった。ところが、そこにたちのぼった気体は鬼太郎にとりつき、鬼太郎を牛鬼にかえてしまった。

　もしかしたら牛鬼をたおしたものは、牛鬼にかえられてしまうのかもしれない。村をあらされながら、人々は牛鬼にてだしできなかった。こまった村人たちは、長老のいいつたえから、迦楼羅をまねくことになった。

　いいつたえどおり、迦楼羅は出現した。そして、かつて牛鬼を封じこめたように、その本体を布袋に封じこめ、鬼太郎をすくったのだった。牛鬼の本体は岩の下深くにほうむられた。

第43話

さら小僧 妖怪歌謡大賞



まったく歌がヒットしない歌手、ボブ＝タケシは、歌をあきらめようと、河童淵にレコードをすてにいく。そのときタケシは、突如あらわれたさら小僧が、ふしぎな歌を口ずさんでいるのを耳にした。

タケシは、仲間とビンボーブラザーズというバンドを結成し、さら小僧の歌を盗作してうたった。その歌はまたたくまに大ヒットし、タケシたちは歌謡大賞をねらえるまでになる。タケシは、足が不自由な娘を勇気づけるために、賞をとりたかったのだ。

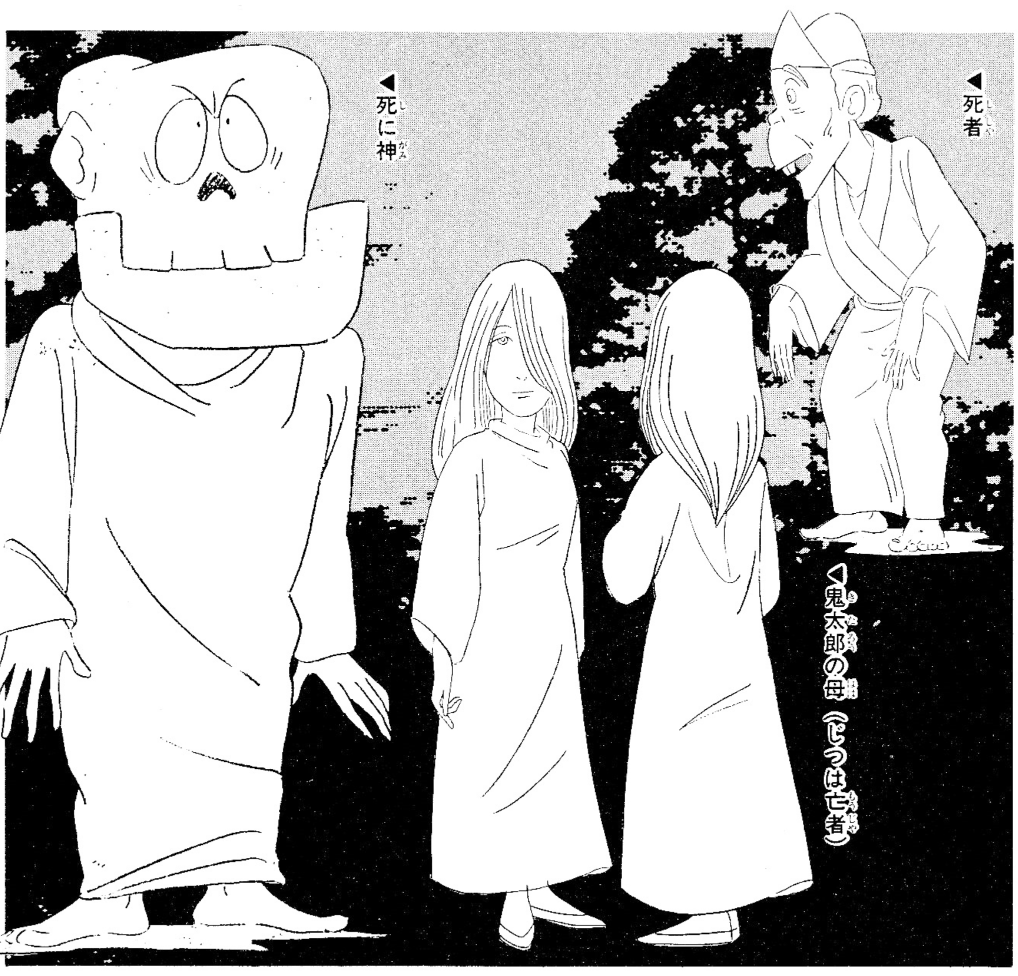
タケシたちがうたった歌は、じつは、かっぱ以外はうたうのを禁じられている歌だった。歌をぬすまれておこったさら小僧は、仲間のかっぱを総動員して、タケシのバンド仲間をつかまえてしまう。

事情を知った鬼太郎は、タケシをつれてかっぱのかくれ里にむかった。

そこでは、仲間の二人が尻子玉をぬかれそうになっていた。美声で知られたさら小僧は、人間が自分よりも歌がじょうずなことにはらをたてていたのだ。鬼太郎は、ひでり神にさら小僧のさらの水を蒸発させた。反省したさら小僧は、タケシにあの歌をゆずるのだった。

第44話

あの世からの使者 死神



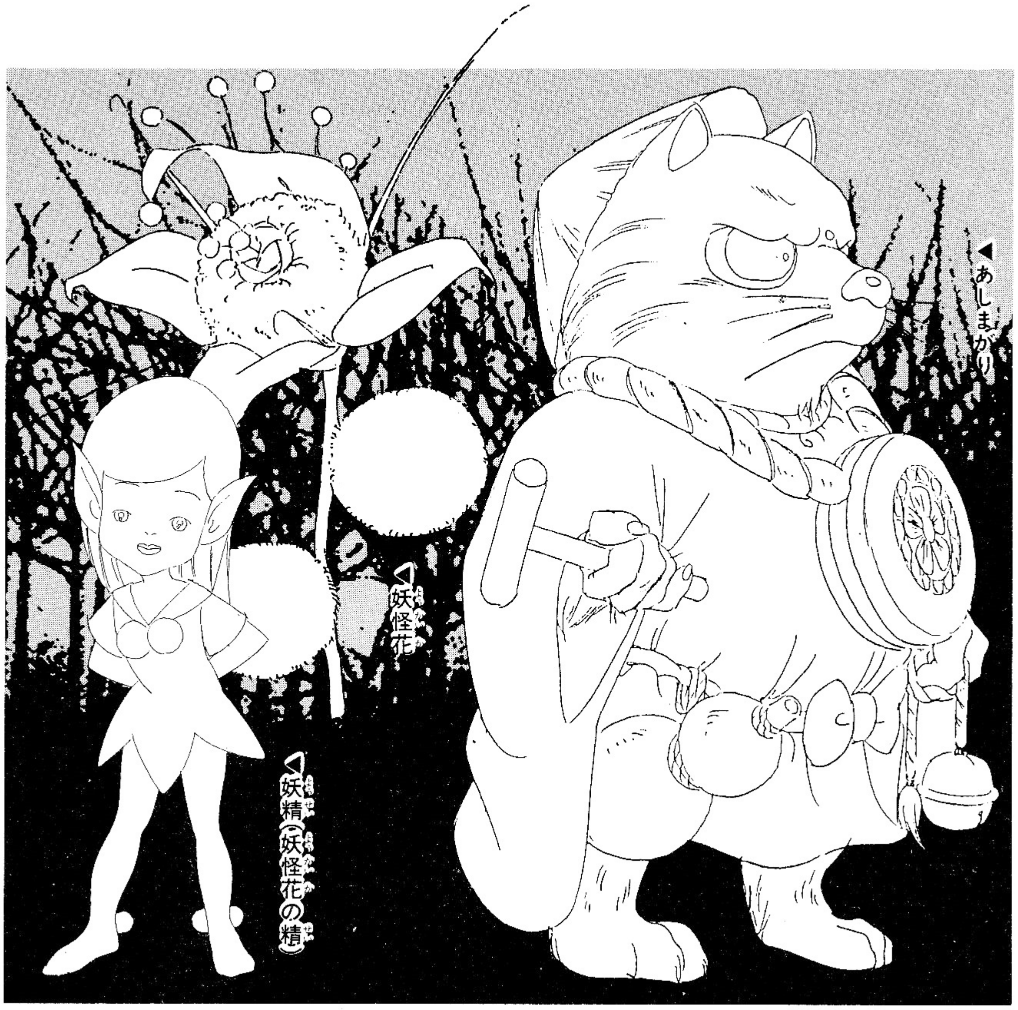
死者を、死の国へまよわずにつれていくのが死に神の仕事。だが、死に神は、毎日死者をかついではこぶ下働きにいやけがさし、かってに退職して人間界にすむことにした。それには鬼太郎親子がじゃまだと考えた死に神は、ねずみ男をだまして協力させる。

目玉のおとうさんを、宇宙につれていくといってつれだし、宙にうちあげて爆発させてしまう。つぎに、亡者を鬼太郎の母にしたてててゆだんさせ、食べ物に妖怪コロリを入れさせた。だが、この計画は、鬼太郎に情のうつった亡者のために失敗し、亡者は鬼太郎のかわりにたおれた。

真実を知った鬼太郎は怒り、死に神とたたかう。死に神の息のために、老人にされてしまう鬼太郎。砂かけばばあの若返りマッサージによって蘇生した鬼太郎は、生還した目玉のおとうさんのたすけをえて、死者の国の一歩てまえで死に神をつかまえ、こらしめた。母の幻を利用した死に神に、はげしい怒りをぶつける鬼太郎。

反省した死に神は、もとの仕事をつづけることを約束して、死の国へと帰っていった。

第45話 妖怪花を救え!!



ある高原に、さびれたホテルがあった。そのホテルの裏庭には、人知れず、妖精のすむ妖怪花がさきほこっており、ホテルの主人は、いつまでもそれらの花をまもることを妖精と約束していた。ところがそこに、金もうけのにおいをかぎつけたねずみ男があらわれた。ねずみ男は主人をときふせると、ホテルを妖怪城ふうに改造してしまった。

ところが、その改造がばかうけしてしまい、気をよくしたねずみ男は、鬼太郎たち妖怪仲間もホテルに招待する。ところが、その客のなかに、ぬらりひょんと朱のぼんがいた。ぬらりひょんは主人を監禁すると、主人になりすましてホテルをのっとり、妖怪花のさく裏庭をレジャーランドにしようと、整地をはじめた。

妖精は主人の心がわりにおどろき、鬼太郎に真相をさぐってもらった。その鬼太郎のまえに、ぬらりひょんがのった用心棒あしまがりがたちふさがった。あしまがりのために雲にとじこめられた鬼太郎だが、リモコンげたで形勢逆転、ぎゃくに、あしまがりを雲にとじこめ、ぬらりひょんと朱のぼんをホテルからおいだした。

第46話 妖怪大統領



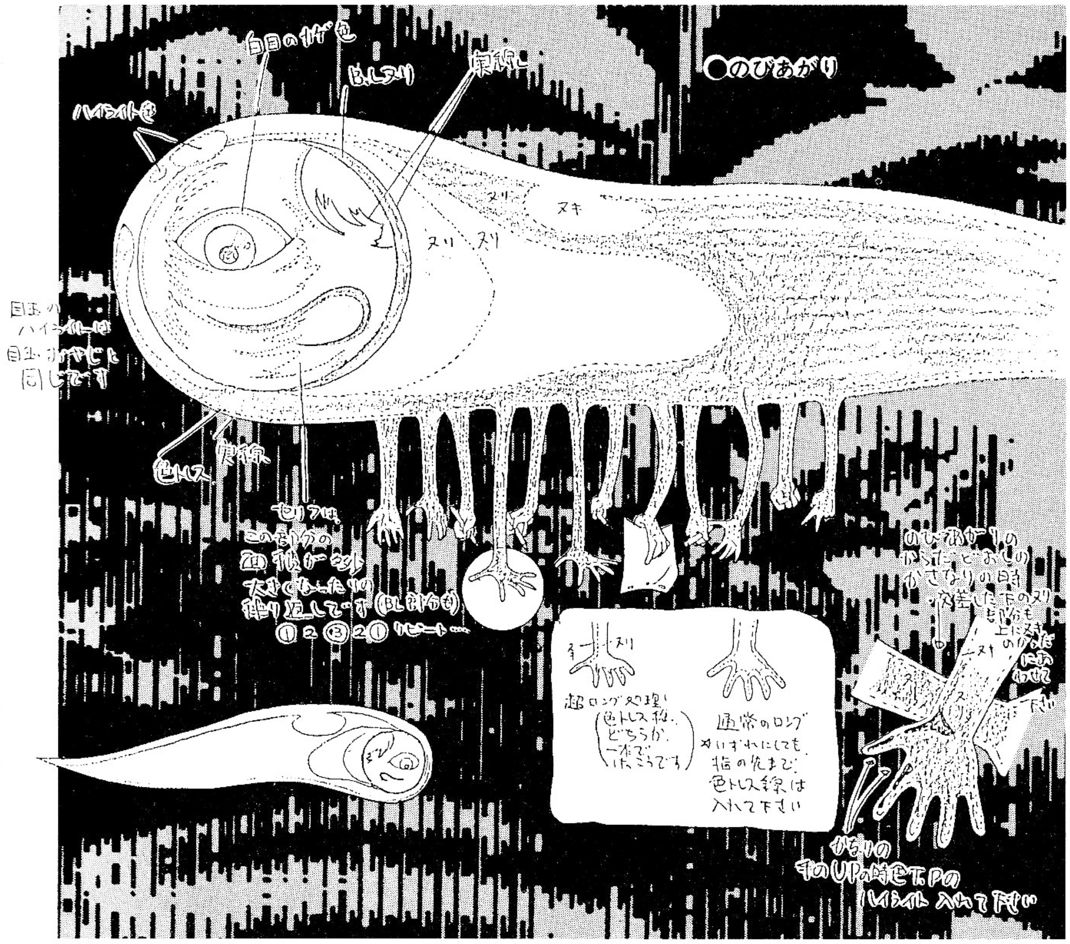
アメリカの妖怪たちのあいだで、妖怪大統領がえらばれた。えらばれたのは、妖怪バックベアードだった。バックベアードは、一票差でやぶれた政敵こうもりねこを、国外追放にしてしまう。

復讐をちかったこうもりねこは、さいの河原の葬頭河ばばあに相談した。鬼太郎をたおそうという野心をもっていたばばあは、人間が発明した老化煙のはいった玉手箱を利用するよう、こうもりねこにもちかける。

鬼太郎は、老化煙を発明した科学者にたのまれて、玉手箱をすてにいくが、こうもりねこにうばわれてしまう。こうもりねこをおいかけた鬼太郎たちは、洋館にさそいこまれ、老化煙のために老人にされてしまう。さいの河原へにげるこうもりねこをおった鬼太郎は、ばばあの妖術で石につめられ、河にながされる。

目玉のおとうさんとねこ娘は、えんま大王にたのみ、さいの河原の時間をすこしだけもとにもどす。すると、鬼太郎たちは、若がえることができた。鬼太郎は、こうもりねこと葬頭河ばばあをたおすと玉手箱を二度とみつからないように、石につめて河にしずめるのだった。

第47話 妖怪のびあがりと吸血木



杉作と松代は恋人同士だった。しかし、むかしからいがみあっていた両家は、二人の結婚をみとめようとはしなかった。

そこで、二人はかけおちを決意したのだが、にげるとちゅう、松代が木の姿にかわってしまった。これは松代だけでなく、村全体でおこっている怪事だった。まねきにおうじてやってくる鬼太郎。

その木は、現地の研究者によって、吸血木と名づけられていた。からだじゅうにはった植物の根が血をすって、全身を木にかえてしまうのだ。

それは、二万年のねむりからさめた妖怪のびあがりのしわざだった。のびあがりは、人間が植物をそまつにしているのをおこっていたのだ。鬼太郎にも、吸血木の種がうえつけられた!

鬼太郎は、榊の灰と体内電気で、のびあがりを撃退しようとするが、ついに全身が木になってしまった。しかし、鬼太郎は木の中で生命のたたかいに勝ち、実となって蘇生した。ぬりかべをよびよせた鬼太郎は、熔岩の流れの中にのびあがりをほうむるのだった。

のびあがりの死とともに、木になっていた人々ももとの姿にもどった。

第48話 妖怪いやみのイロ気作戦



山にはいった人間が、妖怪いやみを百年のねむりからさましてしまった。いやみは、女装して、おかまことばをつかうへんな妖怪だが、一度息をすえば、あたりの人間のしあわせな気分を、すべてすいとってしまうのだった。

そのため、人々はたのしい心をうしなっていった。さらに、いやみのはきだすイロ気は、人を色気づかせてしまう。これにやられた鬼太郎とねずみ男は、ユメコちゃんをうばいあうしまつだった。てあらい方法で、鬼太郎を正気にもどす仲間たち。

いやみにうばわれた人間のしあわせな気分をとりもどすため、鬼太郎はちゃんちゃんこでイロ気をふせいで、いやみにせまった。どうにか、しあわせな気分はとりもどしたものの、鬼太郎は、みにくい実体をさらけだしたいやみにつかまってしまった。だが、砂かけばばあや一反もめんのたすけで、いやみをとりおさえ、ふたたびねむりにつかせた。

イロ気にやられたためとはいえ、鬼太郎にプロポーズされたユメコちゃんは、まんざらでもない気分で、学校へもどっていくのだった。

第49話 妖怪殺人事件 おんもらき



●おんもらき

ある若くて美しい女性が死んで、埋葬された。その墓のまわりには、死者にとりつくという妖怪おんもらきをおそれて、僧たちがあつまっていた。しかし、突然あらわれたおんもらきにおどろき、みんなにげてしまう。おんもらきは、女性の死体にのりうつってきえた。

数日後、鬼太郎はユメコの招待をうけ、ユメコの叔父の別荘にとまることになった。そこには、叔父と結婚するというルリコという女性もきており、いつのまにかねずみ男もくわわっていた。最近、この別荘には小さな妖怪がでて、夜な夜な魔よけのお札をさがすという。その話をきいたねずみ男は、その正体をさぐるが、気づかないうちにその小妖怪をたべてしまった。

翌朝、ルリコの死体が発見され、鬼太郎が犯人とうたがわれる。だが、やがて、ルリコはよみがえった。ルリコは、おんもらきにあやつられた死体で、ねずみ男のからだからにげだしたおんもらきが、のりうつって生きかえったのだ。

人の愛をもてあそぶおんもらきに、鬼太郎の怒りが爆発。お札で正体をみせたおんもらきは、海にしずめられた。

第50話 妖怪海座頭の怒り



▲海座頭

▶船幽霊

アキオの父は、海のあれた日、漁にでて、仲のわるい島の船とであい、けんかになった。そのとき、船幽霊と巨大なさめがあらわれて、船はしずめられ、人々も海にちった。

アキオは、父がかえらないのは妖怪のせいだと考え、鬼太郎をよんだ。事件は船幽霊のしわざらしいが、船幽霊はおとなしい妖怪のはずだった。鬼太郎は、がんぎ小僧といかだをつくって、海にのりだした。

いかだのまわりにあらわれる船幽霊。船幽霊とは、海座頭に魂をうばわれたもののことだ。アキオの父も船幽霊になっていた。海座頭のつかいのさめを、子泣きじじいの協力でたおした鬼太郎は、魂をとりもどすべく、海にもぐった。

海底であった海座頭は、鬼太郎にふしぎな光景をみせた。海座頭の役目は、源平の合戦で死んだものの魂をしずめることだが、地上ではあらそいがたえず、これでは源平の強者もうかばれないと、怒りのために出現したのだという。

海岸でこれをみていたアキオは、歴史をまなび、たたかいをくりかえすあやまちを、おかさない決心をするのだった。

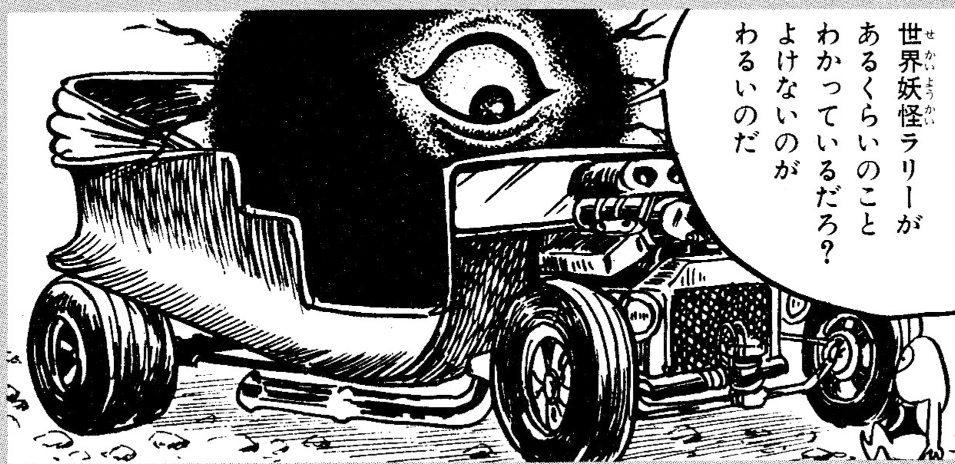
第51話 世界妖怪ラリー

世界妖怪ラリー。それは、各国の代表妖怪がスピードをきそい、勝った国の妖怪は、以後、負けた国の妖怪を支配できるというルールの自動車レースだった。

ぬらりひょんは、各国の弱い妖怪に世界妖怪ラリーへの参加をよびかけ、日本代表として自分の部下である朱のぼんをだして優勝させようと画策していた。そうすれば、ぬらりひょんが、世界の妖怪を支配できる。ところが、どこで連絡をまちがえたのか、日本にきたのは、魔女・狼男・フランケンシュタイン・バックベアード・水虎というそうそうたるメンバーで、とても朱のぼんの手におえるものではない。ぬらりひょんは日本代表を鬼太郎におしつけて、姿をくらましてしまった。

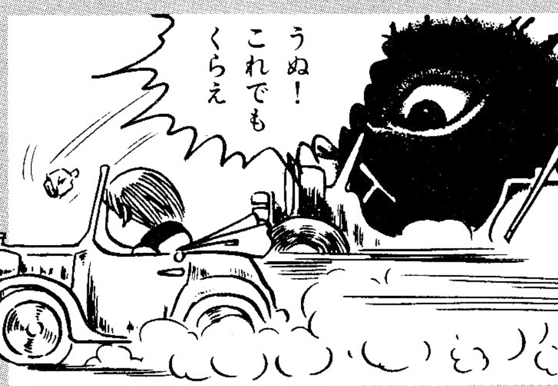
鬼太郎は、しかたなくレースに参加した。しかし、だれもがきたない手で勝利をねらってくる。ただ一人、鬼太郎だけは、敵にもなさけをかけてレースをし、デッドヒートのすえ、バックベアードをぬき、一位でゴールインした。

しかし鬼太郎は、最初からほかの妖怪を支配する気などなかった。各国の妖怪は、鬼太郎の心いきにうたれ、それぞれひきあげていくのだった。



▲バックベアード





東映動画プロデューサー 横山賢二氏にきく 「ゲゲゲの鬼太郎」のストーリー構成

今回、前作が終了してから十四年ぶりのリバイバルをはたした「ゲゲゲの鬼太郎」ですが、新作に着手するにあたっての大きな方針として、旧作を意識しない、まったく新しい作品をつくるという心がまえでとりくみました。

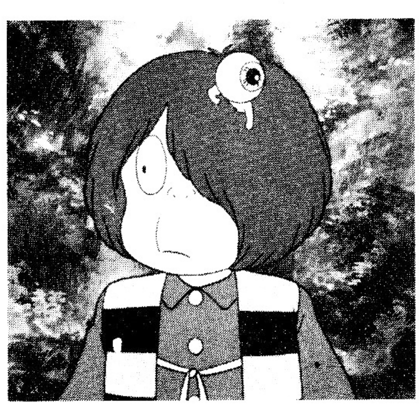
旧作はすばらしい作品でしたが、それはそれとして、スタッフも、できるだけ新メンバーで編成してあります。声優も一新するため、全員、一度オーディションをして決定しました。目玉のおとうさん役の田の中氏だけは、この人しかいないということになり、あえて、かえずにおきました。

ストーリーは、まえにベースになったものとおなじ、少年マガジン版と少年サンデー版を、'80年代の今日にあった内容にするため、水木先生の承諾をえて、自由に潤色させていただいています。新キャラクター、ユメコをだして、人間と妖怪のかかわりあいを、さまざまな角度から描いていき、各話には、妖怪から人間にむけてのメッセージをつたえるように心がけています。

妖怪のデザインなどは、なるべく水木先生のオリジナルをくずさないようにしています。ストーリーは、「キン肉マン」的な活劇あり、「日本昔ばなし」的な民話調ありと、バラエティーゆたかなものに製作していく方針です。



昭和14年3月生まれ。立教大学卒業後，東映動画に入社，現在にいたる。「魔法使いサリー」「マジンガーZ」「銀河鉄道999」などヒット作をてがける。

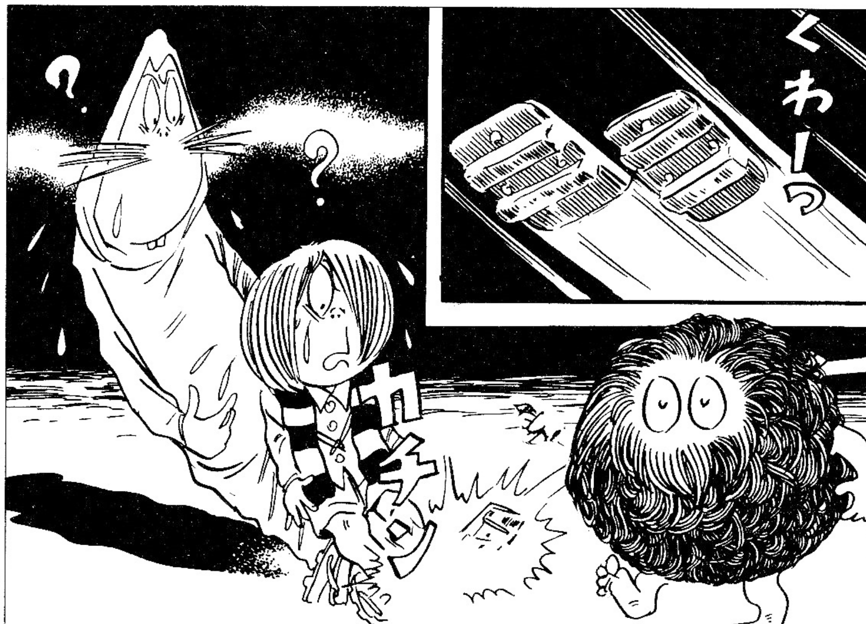


最新情報 これが、来年一月までの鬼太郎アニメのラインナップだ!

本誌独占! 来年一月三日放送予定の第六十話までのタイトルが決定した。ストーリーは、すべて、過去に少年誌に連載された原作がベースになっている。名作ストーリーがどのようにアレンジされるかは未定だが、原作のあらすじを紹介しておこう。

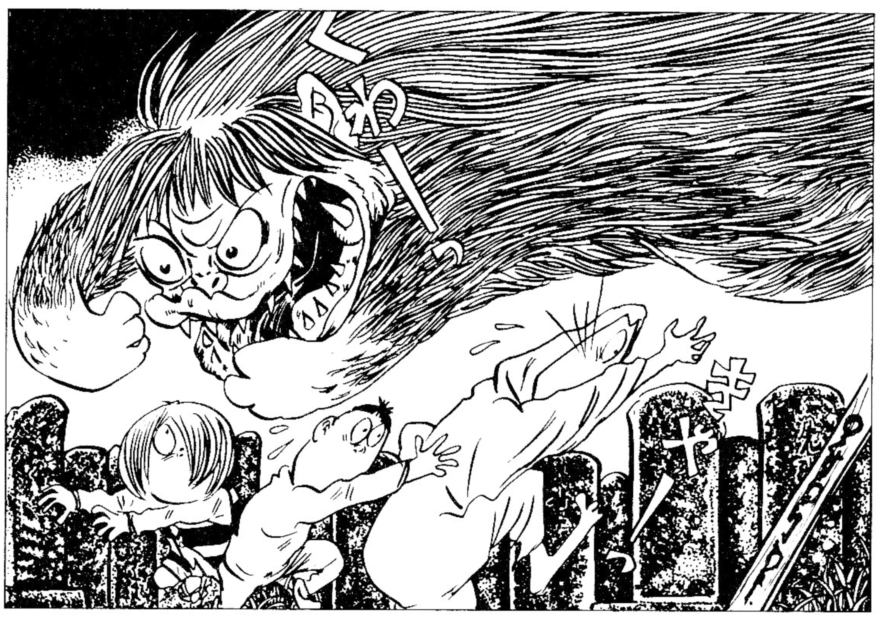
第52話 げた合戦

新作映画「最強妖怪軍団! 日本上陸!!」で初登場した丸毛が主役。妖怪逆柱に子どもを人質にとられた丸毛が、貯金箱にばけて、妖精花子のお金をうばう。



第53話 妖怪モウリョウ

墓をあらして死体をぬすむ妖怪モウリョウが出現。死体から死体へとのりうつるモウリョウと、墓をまもる鬼太郎の対決を描く。



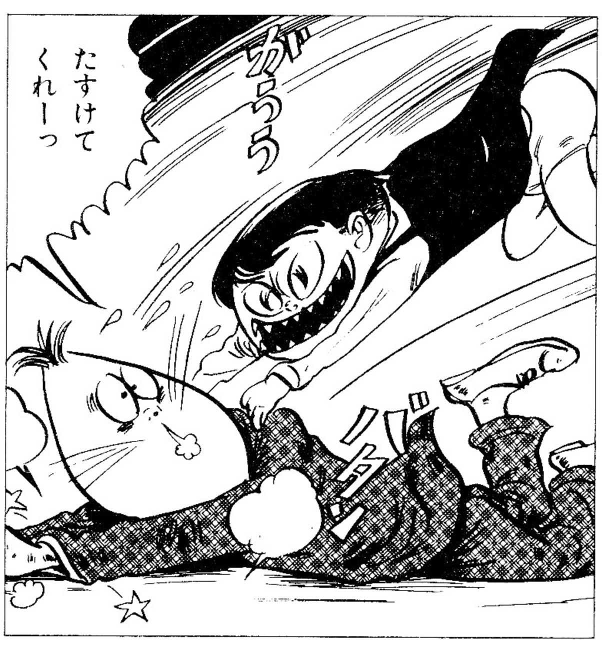
第54話 悪魔ベリアル

鬼太郎が、はじめて悪魔とたたかう。ポルトガルからやってきたベリアルが、数々の魔術で鬼太郎をおそう。目や口、耳などにわかれた怪物は、凄絶である。



第55話 猫娘とねずみ男

原作では、このお話で、ねこ娘が初登場する。ねずみ男を殺すよう、鬼太郎がえんま大王にたのまれる。アニメでは、鬼太郎とねずみ男の友情が描かれる予定。



第56話 妖怪獣・前編

第57話 妖怪獣・後編

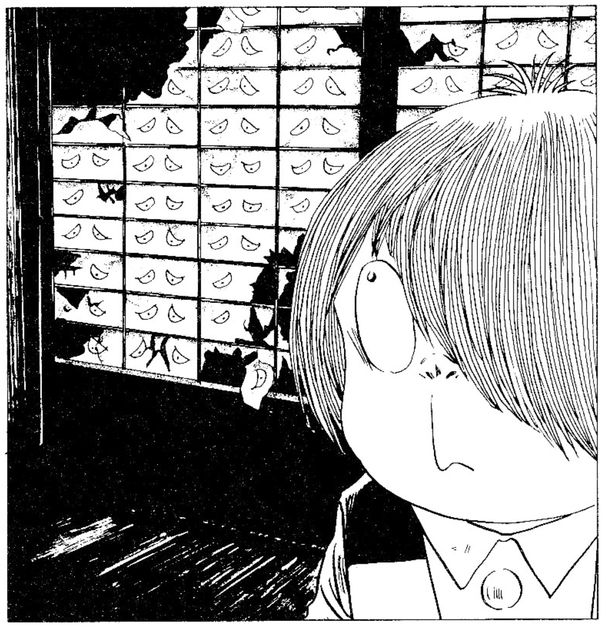
初の前・後編作品で、オールスターキャスト。四国の地底からよみがえった八百八だぬきが、妖怪獣、蛟竜や、妖怪なまずをあやつって、人類に挑戦する。





第58話 目目連

からだを光のつぶにかえ、いろんなものにのりうつる妖怪目目連が登場する。壮大な「妖怪城」も、そのすがたをあらわす。

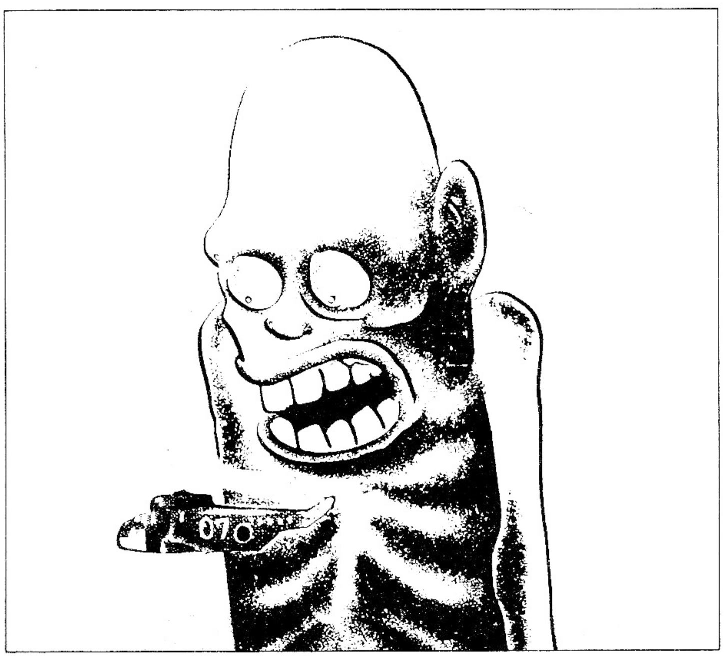


第59話 後神

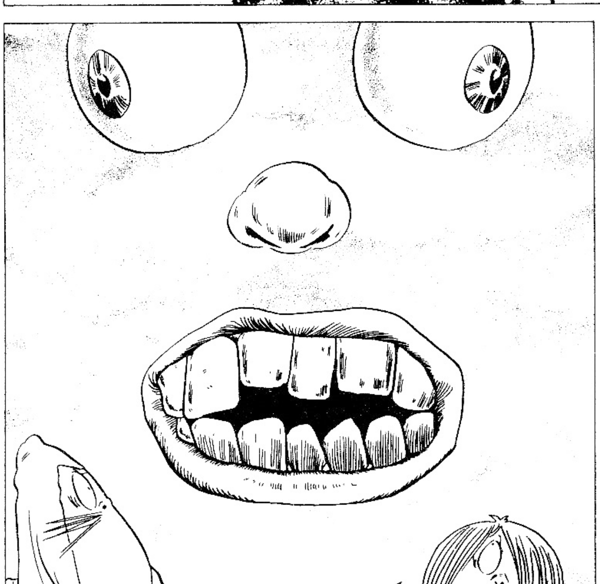
妖怪サボテンとコンビを組み、人間の家をのっとろうとする、妖怪後ろ神のお話。後ろ神は力が弱いので、妖怪サボテンと鬼太郎が激突する。



第60話 ダイダラボッチ



原作中で、もっともスケールの大きいものの一つ。千年まえに、からだをばらばらにされ、日本各地に封じこめられていた大巨人ダイダラボッチが、現代に復活。



ゲゲゲの鬼太郎放送リスト

★毎週土曜日，夜6時30分～7時，フジテレビ系で放送。
★カラー　30分作品
★制作／フジテレビ・読売広告社・東映動画

放映No.	製作No.	放映日	タイトル	脚本	美術	作画監督	演出	原作タイトル	出典	視聴率(%)(ビデオリサーチ)
1	1	昭和60年10月12日	謎の妖怪城出現!!	星山博之	阿部泰三郎	清山滋崇	葛西　治	妖怪城	KC④	16.8
2	2	10月19日	鏡じじい	武上純希	阿部泰三郎	音無竜之介	芝田浩樹	鏡　爺	KC⑦	19.5
3	3	10月26日	ネコ仙人	武上純希	阿部泰三郎	石黒　育	棚沢　隆	猫仙人	KC①	21.0
4	5	11月2日	妖怪ぬらりひょん	大橋志吉	阿部泰三郎	山本福雄	今沢哲男	ぬらりひょん	KC③	23.0
5	6	11月9日	ダイヤ妖怪　輪入道	並木　敏	阿部泰三郎	山口泰弘	葛西　治	ダイヤモンド妖怪	KC⑤	17.2
6	4	11月16日	地獄行き！　幽霊電車!!	星山博之	伊藤信治 金島邦夫	柳瀬譲二	石田昌久	ゆうれい電車	KC⑥	20.8
7	7	11月23日	子連れ妖怪　磯女	武上純希	阿部泰三郎	兼森義則	芝田浩樹	磯　女	KC④	19.8
8	8	11月30日	だるま妖怪相談所	星山博之	鷲崎　博	入好さとる	西沢信孝	だるま	KC⑦	23.3
9	9	12月7日	不死身の妖怪　水虎	並木　敏	藤田　勉	清山滋崇	石田昌久	水　虎	KC⑤	22.4
10	10	12月14日	悪魔のメロディー　夜叉	武上純希	伊藤信治 金島邦夫	石黒　育	葛西　治 棚沢　隆	夜　叉	KC①	19.1
11	11	12月21日	妖怪キツネ　白山坊	大橋志吉	鷲崎　博	下田正美	芝田浩樹	白山坊	KC④	22.3
12	12	12月28日	ざしきわらしと笠地蔵	星山博之	藤田　勉	山本福雄	今沢哲男	笠地蔵	KC⑫	24.3
13	13	昭和61年1月4日	おりたたみ入道	武上純希	伊藤信治 金島邦夫	入好さとる	芹川有吾	おりたたみ入道	KC⑨	18.2
14	14	1月11日	不老不死!?　妖怪さざえ鬼	武上純希	鷲崎　博	兼森義則	西沢信孝	さざえ鬼	KC⑥	23.1
15	15	1月18日	冷凍妖怪　雪ん子	大橋志吉	藤田　勉	古川達也	小山　崑 福留政彦	雪ん子	KC⑧	22.7
16	16	1月25日	妖怪のっぺらぼう	星山博之	伊藤信治 金島邦夫	山口泰弘	芝田浩樹	のっぺらぼう	KC⑨	22.2
17	17	2月1日	古代妖怪　毛羽毛現	大橋志吉	鷲崎　博	清山滋崇	石田昌久	毛羽毛現	KC⑤	21.6
18	18	2月8日	妖怪天狐　地底王国の逆襲	星山博之	藤田　勉	松本　清	棚沢　隆	天　狐	KC⑨	25.4
19	19	2月15日	ゆめ妖怪　まくらがえし	武上純希	山本善之	山本福雄	今沢哲男	まくら返し	KC④	23.1
20	20	2月22日	半魚人の恋	武上純希	鷲崎　博	入好さとる	芹川有吾	かまぼこ	KC⑫	24.5
21	21	3月1日	コマ妖怪　あまめはぎ	並木　敏	藤田　勉	清水　明	白土　武 山寺昭夫	コマ妖怪	KC⑫	23.2
22	22	3月8日	いじわる妖怪　天邪鬼	大橋志吉	山本善之	松本朋之	芝田浩樹	天邪鬼	KC⑤	24.2
23	23	3月15日	電気妖怪　かみなり	武上純希	鷲崎　博	山口泰弘	石田昌久	電気妖怪	KC⑤	25.0
24	24	3月22日	子供が消える!?　妖怪うぶめ	山崎晴哉	藤田　勉	清山滋崇	西沢信孝	姑獲鳥	KC⑫	29.6
25	25	3月29日	妖怪ぶるぶる	武上純希	山本善之	金子康良	棚沢　隆	峠の妖怪	KC⑤	22.2
26	26	4月5日	おばけナイター	星山博之	鷲崎　博	山本福雄	今沢哲男	おばけナイター	KC①	26.0
27	27	4月12日	妖怪ふくろさげ	大橋志吉	藤田　勉	入好さとる	芝田浩樹	ふくろさげ	KC⑬	24.4
28	28	4月19日	田を返せ!!　妖怪泥田坊	山崎晴哉	鷲崎　博	清水　明	白土　武 山寺昭夫	泥田坊	KC⑧	25.6
29	29	5月3日	妖怪ひでり神	武上純希	伊藤雅人	松本朋之	芹川有吾	ひでり神	KC⑧	21.9
30	30	5月10日	妖怪見上げ入道	星山博之	藤田　勉	山口泰弘	石田昌久	見上げ入道	KC④	22.3

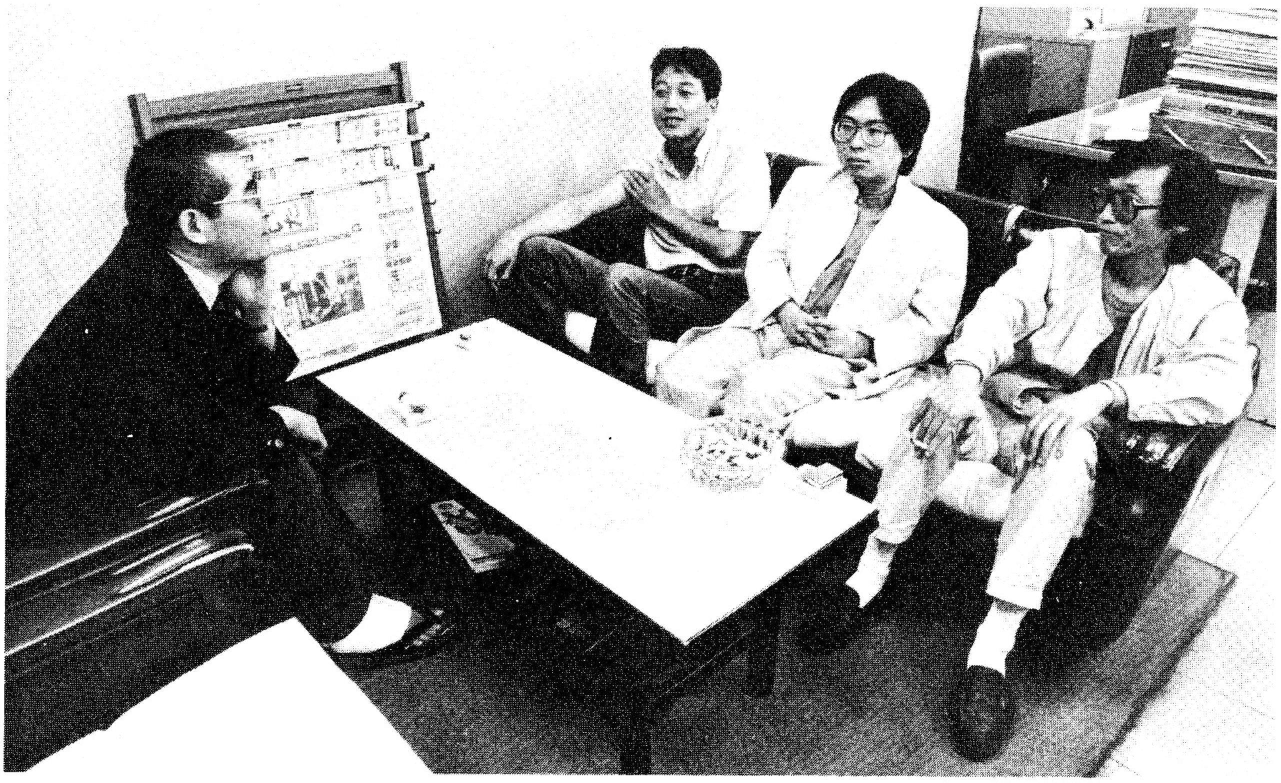
企画／清水賢治(フジテレビ)・木村京太郎(読広)　制作プロデューサー／横山賢二　シリーズディレクター／葛西 治・芝田浩樹　制作担当／松下健吉　キャラクターデザイン／兼森義則　美術デザイン／阿部泰三郎　音楽／川崎真弘(from竜童組)　主題歌／徳間ジャパン

放映No.	製作No.	放映日	タイトル	脚本	美術	作画監督	演出	原作タイトル	出典	視聴率%
31	31	5月17日	オベベ沼の妖怪	大橋志吉	鷲崎　博	松本勝次	芝田浩樹	オベベ沼の妖怪	KC⑧	21.8
32	32	5月24日	鬼太郎危うし！　妖怪大裁判	武上純希	藤田　勉	清山滋崇	明比正行	妖怪大裁判	KC⑧	22.9
33	33	5月31日	妖怪あかなめ　哀しみの逆襲	星山博之	鷲崎　博	平田かほる	永丘昭典・今沢哲男	あかなめ	KC⑭	20.3
34	34	6月14日	ばけ猫国道0号線	星山博之	藤田　勉	入好さとる	芝田浩樹	ばけ猫	KC⑦	22.5
35	35	6月21日	妖怪赤舌の千年王国	大橋志吉	鷲崎　博	松本朋之	葛西　治	赤　舌	KC⑭	25.3
36	36	7月5日	異次元妖怪　かまなり	武上純希	藤田　勉	清水　明	山寺昭夫	釜なり	KC⑬	24.7
37	37	7月12日	妖怪おどろおどろ	星山博之	丸森俊昭	松本勝次	石田昌久	おどろおどろ	KC③	22.8
38	38	7月19日	タタリだー!?　妖怪土ころび	大橋志吉	鷲崎　博	稲野義信	生頼昭憲	土ころび	KC⑬	
39	39	(8月2日)	三途の河のだつえばばあ	武上純希	藤田　勉	入好さとる	明比正行	奪衣婆	KC⑭	
40	40	(8月9日)	富士山大噴火!?　妖怪大首	大橋志吉	鷲崎　博	平田かほる	今沢哲男	大　首	KC⑭	
41	41	(8月23日)	激戦！　妖怪関ケ原	武上純希	藤田　勉	清山滋崇	葛西　治	妖怪関ケ原	KC⑦	
42	42	(8月30日)	妖怪牛鬼	星山博之	鷲崎　博	松本朋之	石田昌久	牛　鬼	KC⑨	
43	43	(9月6日)	さら小僧　妖怪歌謡大賞	武上純希				さら小僧	KC④	
44	44	(9月13日)	あの世からの使者　死神	大橋志吉				死　神	KC⑭	
45	45	(9月20日)	妖怪花を救え!!	星山博之				妖怪花	KC⑬	
46	46	(9月27日)	妖怪大統領	大橋志吉				妖怪大統領	KC⑥	
47	47	(10月4日)	妖怪のびあがりと吸血木	武上純希				吸血木	KC①	
48	48	(10月11日)	妖怪いやみのイロ気作戦	星山博之				いやみ	KC⑬	
49	49	(10月18日)	妖怪殺人事件　おんもらき	武上純希				陰摩羅鬼	KC⑫	
50	50	(10月25日)	妖怪海座頭の怒り	大橋志吉				海座頭	KC③	
51	51	(11月1日)	世界妖怪ラリー	星山博之				妖怪ラリー	KC⑥	
52	52	(11月8日)	燃えるネズミ男げた合戦	武上純希				げた合戦	KC⑨	
53		(11月15日)	妖怪モウリョウ　(仮題)	大橋志吉				モウリョウ	KC⑤	
54		(11月22日)	悪魔ベリアル　(仮題)	武上純希				悪魔ベリアル	KC⑤	
55		(11月29日)	猫娘とねずみ男　(仮題)	星山博之				猫娘とねずみ男	KC②	
56		(12月6日)	妖怪獣（前編）　(仮題)					妖怪獣	KC③	
57		(12月13日)	妖怪獣（後編）　(仮題)					妖怪獣	KC③	
58		(12月20日)	目目連　(仮題)					目目連	KC⑭	
59		(12月27日)	後　神　(仮題)					後　神	KC⑫	
60		昭和62年(1月3日)	ダイダラボッチ　(仮題)					ダイダラボッチ	KC⑬	

●「出典」の項で「ＫＣ④」という表記は，その原作が，講談社コミックス「ゲゲゲの鬼太郎」第④巻に収録されているという意味です。
●放映日に（　）がついているものは，放映予定日です。

どうなる!?　これからの鬼太郎ワールド!

■出席／（左から）横山賢二氏，大橋志吉氏，武上純希氏，星山博之氏■



●テレビの「ゲゲゲの鬼太郎」も、放送開始から一年がたとうとしている。そこで、今回、プロデューサーの横山氏を中心に、メーンシナリオライターの星山氏、武上氏、大橋氏におあつまりねがい、現在までの展開と、秋から冬にむけての方針をかたっていただき、シリーズの核心にふれてみたいと思う。
　また、来年一月までのストーリー構成も決定したので、各氏の、今後の「鬼太郎」にかけるいきごみなども、いろいろうかがうことにしよう。



――「鬼太郎」も、昨年の十月に放送がはじまってから、もう一年めにちかづこうとしていますが、こんなに人気がでると、予測していましたか？

横山　いや、正直いって、びっくりしています。もちろん、ヒットをねらって放送するわけですが、まさか、常時二十パーセントの視聴率をとるとは、思いもよりませんでした。子どもからおとなまで、幅広いファンにみていただいて、ほんとうにうれしいです。

――そろそろ原作（過去にテレビ化されたときベースとなった、少年マガジンと少年サンデーに連載された作品）も、半分以上すぎたようですが。

横山　ええ。来年二月あたりで、ほぼつかいきってしまいます。原作の何本かは、テレビ化しないものもでてくると思います。いろいろと内容的なことで……。でも、妖怪だけつかうとか、話の一部だけ使用するとかはしていきます。

――では、今後は、どういう展開になっていくのですか？

横山　当分、テレビのほうはつづきますので、これからはオリジナルの要素もふんだんに導入されていくと思います。内容的には、ほかにいくつもある鬼太郎の短編（K



▶このままつっぱしります、と横山氏。

Cスペシャル」「新ゲゲゲの鬼太郎」など）や、現在コミックボンボンで連載中の「最新版ゲゲゲの鬼太郎」、週刊少年マガジンに連載中の「ゲゲゲの鬼太郎」など、まだまだねたはつきませんよ。旧作のアニメでもやったように、水木先生の「鬼太郎」以外の短編をベースにしたものも入れていきたいと考えています。



——では、レギュラーメンバーの変動などは……？

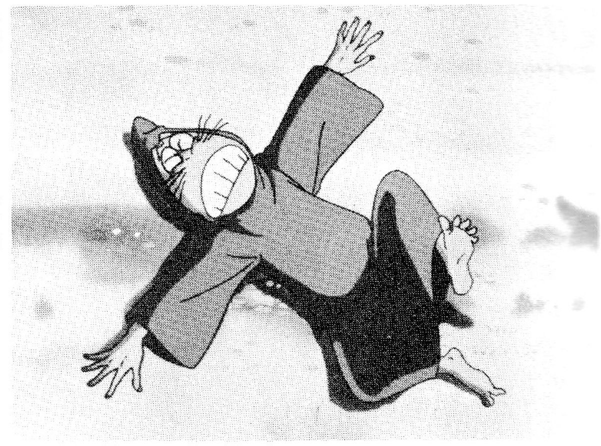
横山　いえ、とくにはかわりません。いままでどおりの方向でいきます。ただ、以前たおされた妖怪が仲間になったり、ぬらりひょんのように、準レギュラー的な悪玉がでたりはしますが。これからは、外国妖怪もでてきますし、原作にはない、水木先生の妖怪画集の妖怪もでてきます。

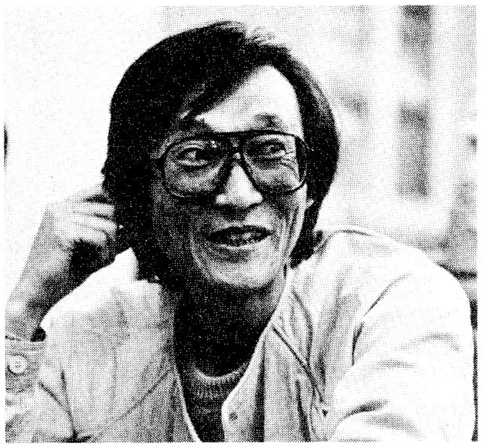
——シナリオをおかきになるうえで、なにか、ごくろうは……？

星山　いえ、まったくないです。プロデューサーの横山さんが、妖怪の設定や形、ストーリーをよりわけて、ぼくたちにわりふりしてくれますし、水木先生の原作が、じつにおもしろいので、パターンにとらわれず、毎回、内容をかえながら、かきまくっています。

武上　なんか、文章をかいているうちに、しぜんといろいろな方向へ、筆がいっちゃうんですね。

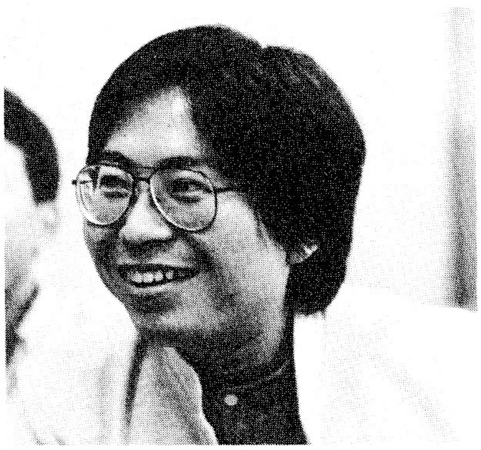
大橋　やっぱり、妖怪の設定がよくできているからでしょう。ついつい、妖怪の気もちになって、いれこんじゃうときもあるくらいですから……。





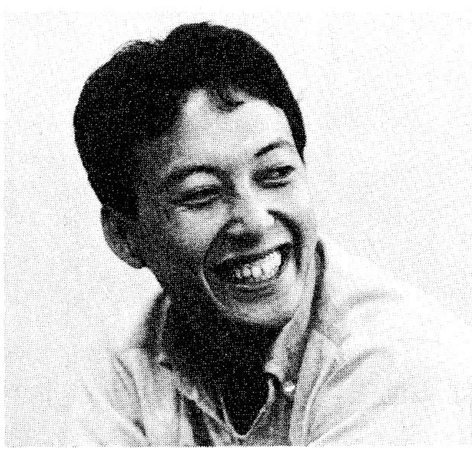
星山博之氏

水木先生の原作がとてもすばらしいので、いろんな方向に話をふくらませられて、たのしくやらせていただいています。三十分、充実したお話をつくりたいですね。



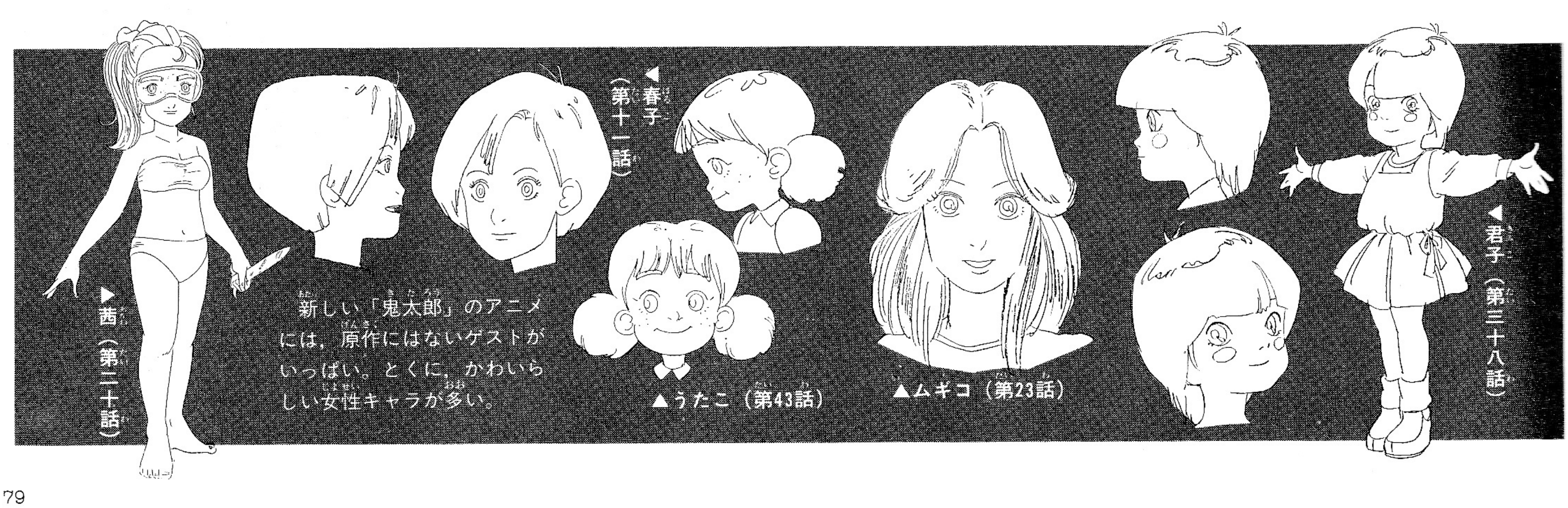
武上純希氏

とくに制約もなく、自由にやらせていただいています。いまは、鬼太郎とであえたことが、いちばんうれしいです。子どもにたっぷりたのしんでもらいたいですね。



大橋志吉氏

「鬼太郎」をシナリオ化することが、とてもいい勉強になっています。毎回出てくる妖怪のバリエーションが豊富で、シナリオをかくのにもはりあいがあります。



▶茜（第二十話）

◀春子（第十一話）

▲うたこ（第43話）

▲ムギコ（第23話）

◀君子（第三十八話）

新しい「鬼太郎」のアニメには、原作にはないゲストがいっぱい。とくに、かわいらしい女性キャラが多い。



――原作を、どういうふうにアニメの脚本にしていくわけですか？

星山　まず、こんな感じのストーリーにしますという、原稿用紙数枚のプロットをプロデューサーに提出します。それにＯＫがでれば、かきはじめます。

――オリジナルキャラクターやユメコちゃんも、そのときに決定されるわけですね。

大橋　ええ。ユメコちゃんは、よく武上くんの話にはいるんだ（笑い）。

武上　ぼくのシナリオは、アクションも多いし、原作をふくらませすぎて、話が長くなるって、おこられることもあります。

横山　長いといえば、ことしの年末の「妖怪獣」は、初の前・後編なので、期待していてください。妖怪も、オールスターキャストで大活躍します。

――「妖怪獣」は、まちかねていた作品です。「大海獣」や「吸血鬼エリート」の登場も期待しています。

横山　なるべくバラエティー豊かにしたいと思っていますので、ちょっとまっててください。アクションの多いの、民話的なもの……いろいろ吟味しながらやっていきますから。

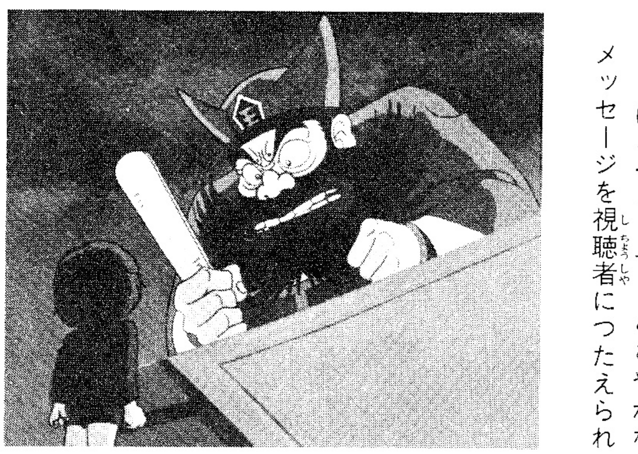


――これまでの放送をみてますと、原作ではやられてしまうはずの妖怪が、仲なおりしてしまうパターンが多いんじゃないでしょうか。男の子には、すこしものたりないんじゃないかと思いますが。

横山　ええ、それは十分承知しています。たしかに、わるい妖怪はやっつけないと気がすまないんじゃないかということも、よくいわれます。

――では、どういった理由で、妖怪を生かしておくと……。

横山　そこなんです。これは、番組を制作するまえからのポリシーですが、最近のさつばつとしたアニメが多いなかで、わざとそうしたわけは、子どもたちに、相手に対する思いやりやたすけあい、共存の心をおしえてあげたいからなんです。最近のいじめや自殺も、そういったことが子どもたちに欠けているからでしょう。アニメ制作者たちがみうしなってしまった、ほんとうに子どもたちをよろこばせるものをつくるには、やはり純粋な姿勢で接しなければいけません。妖怪と人間をつうじて、いまの管理化された社会の子どもたちのよりどころになるものをつくれればよいと思い、スタッフ一同、がんばっています。



――なるほど、いまのアニメは、だれのためにつくっているのかわからないようなものもありますね。その点、考えてつくっている番組は、ちゃんといい視聴率をとっていますからね。

横山　テレビは、むかしから万人のためにあるわけです。一部のマニアにこびているようでは、テレビ制作者として失格ですね。

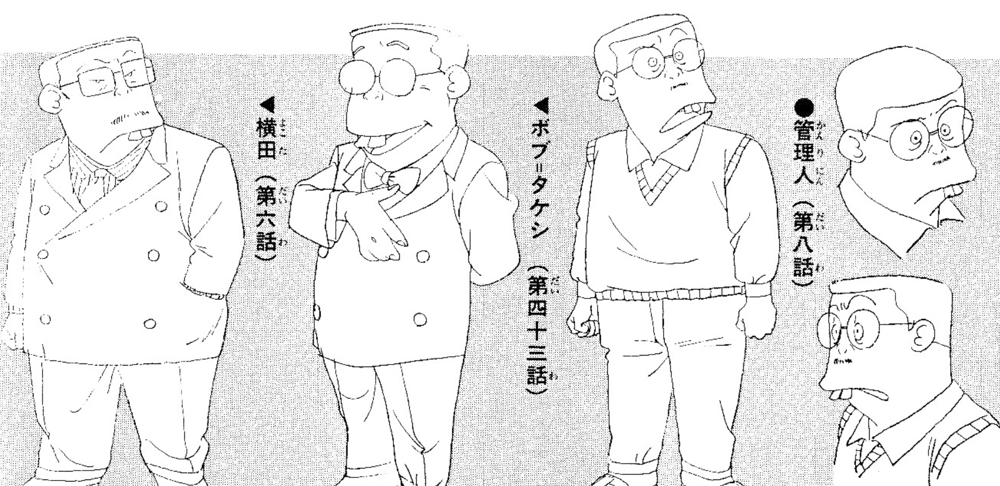
――そういった意味では、「鬼太郎」は、かなり幅広い層にうけていますから。

武上　シナリオライターが、妖怪のことばをつうじて、ささやかなメッセージを視聴者につたえられ

旧シリーズでアニメ化されたが、現シリーズでは放送未定の原作。

作品タイトル

手	（ＫＣ④）
地獄流し	（ＫＣ⑦）
大海獣	（ＫＣ①）
吸血鬼エリート	（ＫＣ②）
手の目	（ＫＣ⑥）
鏡合戦	（ＫＣ⑥）
朝鮮魔法	（ＫＣ⑤）
妖花	（ＫＣ⑫）
人食い島	（ＫＣ⑦）
穴ぐら入道	（ＫＣ⑥）
血戦小笠原	（ＫＣ⑥）
朧車	（ＫＣ⑦）
ほうこう	（ＫＣ⑨）
雨ふり天狗	（ＫＣ⑫）
髪の毛大戦	（ＫＣ⑫）
逆モチ殺し	（ＫＣ⑬）
傘ばけ	（ＫＣ⑬）
まぼろしの汽車	（ＫＣ⑬）
悪魔ブエル	（ＫＣ⑭）
魔女人形	（ポケット百科妖怪大事典）



●管理人（第八話）

◀ボブ＝タケシ（第四十三話）

◀横田（第六話）

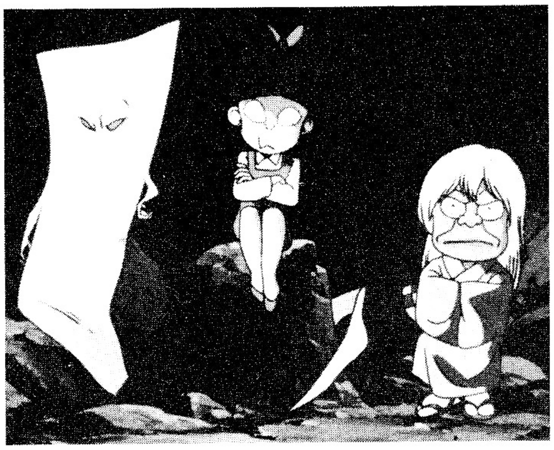
おなじみの水木キャラも、デザインをかえずに出演。水木ワールドの、どくとくのムードをわすれていないのがうれしい。

たらいいですね。

横山　「鬼太郎」のファンは、けっこう女性が多いんです。とくに母親が、ノスタルジックなものを感じてみてくれているようです。鬼太郎にも、一種の母性本能を感じているらしく、ねこ娘は強い女の子だから、少女に人気があるようです。

——「鬼太郎」の世界では、おじいさんやおばあさんも元気に活躍していますね。ファミリー的な要素が自然描写とあいまって、とてもよい作品だと思います。

横山　和製ファンタジーになればと、当初から考えていました。



——水木先生の、あたたかみのある世界だから、なしえたわけですね。

横山　「鬼太郎」を十数年ぶりにリバイバルさせようと企画をだしたときも、だいじょうぶかって、けっこういわれたんですよ。でも、視聴率は高いし、マーチャンダイジングは、どの商品も成功しています。

——今後、鬼太郎とユメコちゃんのラブロマンスがあるとか、鬼太郎誕生のひみつがあかされるとかもお考えですか。

横山　いやいや、そこまでは、まだ。とにかく、一本一本をきちんとつくっていくことが先決です。



星山　鬼太郎とねずみ男の友情は、ぼくの第五十五話でやってみました。

横山　ねずみ男は、人間と妖怪の両方をいったりきたりする愛すべきキャラクターですね。人間と妖怪のハーフというのは、じつに、魅力的な性格です。人間と妖怪の共存こそが平和への道となるという意味でも……。

——鬼太郎は、桃太郎や金太郎とおなじ、日本のヒーローですね。

横山　まだまだ、テレビはつづきますので、応援してください。

——きょうは、どうも、ありがとうございました。

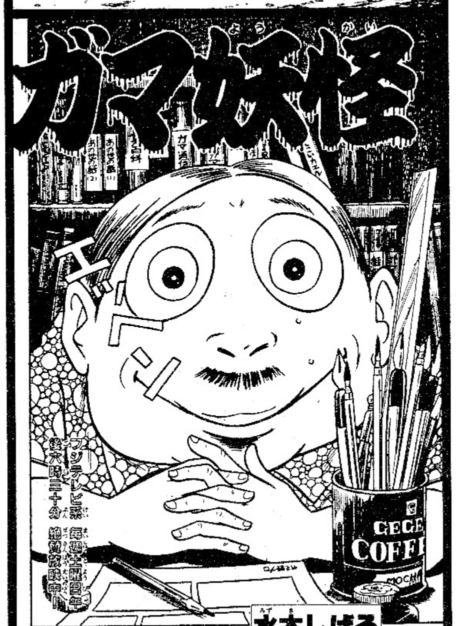


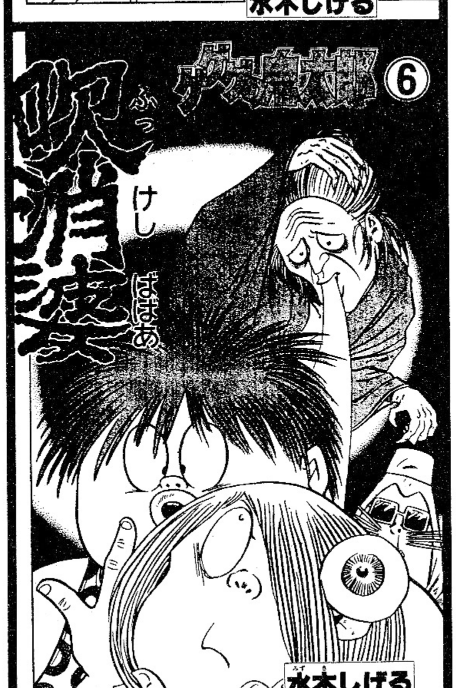
週刊少年マガジン連載

ゲゲゲの鬼太郎

毎週，１話完結で，鬼太郎の活躍がみられるとあって，人気ばつぐん。







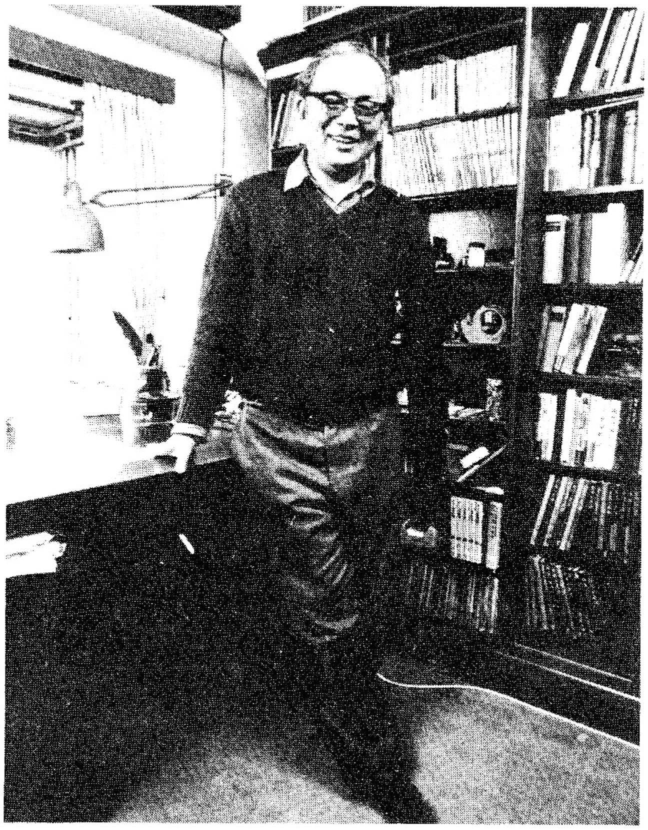


コミックボンボン連載（水木プロ作品）

最新版「ゲゲゲの鬼太郎」

アクション中心のストーリー構成となっている。左側の絵は、第一回の「妖怪がしゃどくろ」。

水木先生が鬼太郎アニメにアドバイス！



●水木先生は、いまのアニメをごらんになって、どんな感想をおもちなのか、だれもが知りたいことを、たずねてみました。

――先生は、テレビの「鬼太郎」のなかで、どんな話が気に入られましたか？

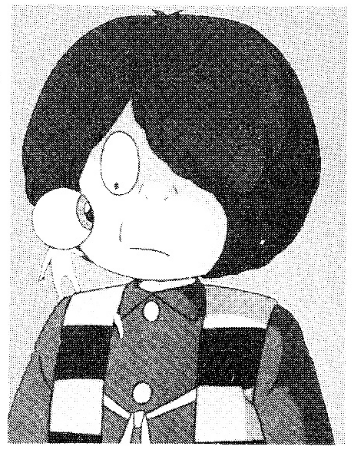
水木　そうですね。「だるま」なんか、すごくよかった。シナリオから演出。音楽の入れ方もうまかったです。

――ほかには、どんな作品がよかったですか？

水木　「ぶるぶる」もよかった。温泉を舞台にしたり、うまくやってましたね。演出がいい。あと、「見上げ入道」もなかなかでした。

――では、ずばり、つまらなかった作品は？

水木　はははっ。う〜〜〜ん、「幽霊電車」は、ちょっと首をかしげてしまいます。だって、冒頭から悪人の回想にはいったら、その後、彼らが幽霊電車でどんなこわいめにあっても、視聴者は、どうせたすかるんだからと思って、気にかけてくれませんからね。



　あと、「あかなめ」は、もうひとくふうほしかった。むかしかいた原作が公害をあつかってたからといって、あのままではね……。「オベベ沼の妖怪」は、ちょっと美しすぎるんじゃないですか。あまり正しすぎても、子どもはかえってしらけますよ。それから、ナイターを入れるのはよくありません。あんなことをしていると、視聴率がおちますし、子どももかわいそうですよ。

――なにか、アニメスタッフに対して、アドバイスでもあれば、おきかせください。

水木　とくに、ストーリーのところでいいたいのですが、もっとおもしろいものができてもいいじゃないかと思います。テーマとかは二のつぎでも、とにかくおもしろくしてください。四本に一本は、わたしでさえびっくりするように原作をおもしろくアレンジしてくれていますが、二本は首をかしげる話だし、一本は、はっきりいって改悪です。最初のころの話にくらべ、ここのところちょっとおもしろさに欠けます。視聴率がいいとか、人気があるからと安心したときに思わぬおとし穴がまっているのがこの世界です。つねに全力投球のつもりで、心をひきしめてつくってください。油断大敵です。

　世の中、あまくはないわけですから、だれでも仲よくなれるという話ばかりをなっとくするほど、子どもはおめでたくはありません。こびへつらうと、すぐみぬかれてしまいます。また、テーマとか文明批評とかを前面にだしすぎると、話がだんだんおかしな方向へずれていく危険性があります。

　おもしろくするにはどうしたらいいかを、まず、スタッフ全員がしっかり頭に入れておけば、かならずよい作品が完成します。おもしろいことが、いちばんです。



▶第八話「だるま妖怪相談所」は、先生がいちばん気にいっている作品だ。

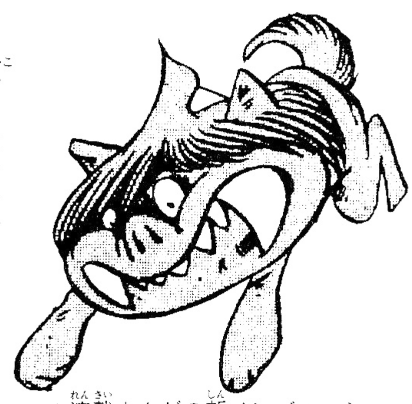
――絵のほうは、いかがでしょう？

水木　色が強すぎる。もっとすなおな色にしてください。その点、「風の谷のナウシカ」はうまい。

　ユメコは、あれでいいでしょう。彼女がいないと、むさくるしいやつばかりですから、鬼太郎の世界は。

――貴重なご意見、ありがとうございました。





▲連載まんがの新メンバー，シーサー。アニメ登場は，いつかな？

ゲゲゲの鬼太郎

劇場版3作品の世界

劇場で公開された、映画版「ゲゲゲの鬼太郎」三作の世界を大公開！　キャラクター設定からストーリー紹介まで、テレビではみられない大スケールの魅力を紹介！　最新作「最強妖怪軍団！　日本上陸!!」のシナリオも全編収録！

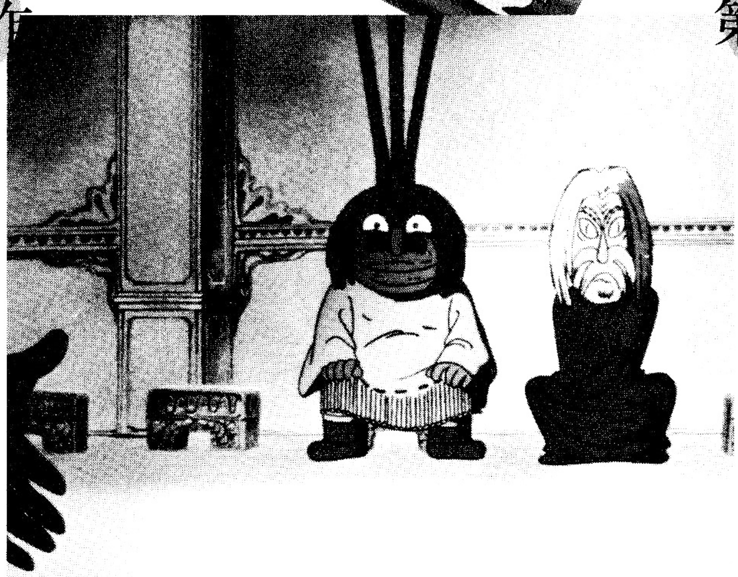




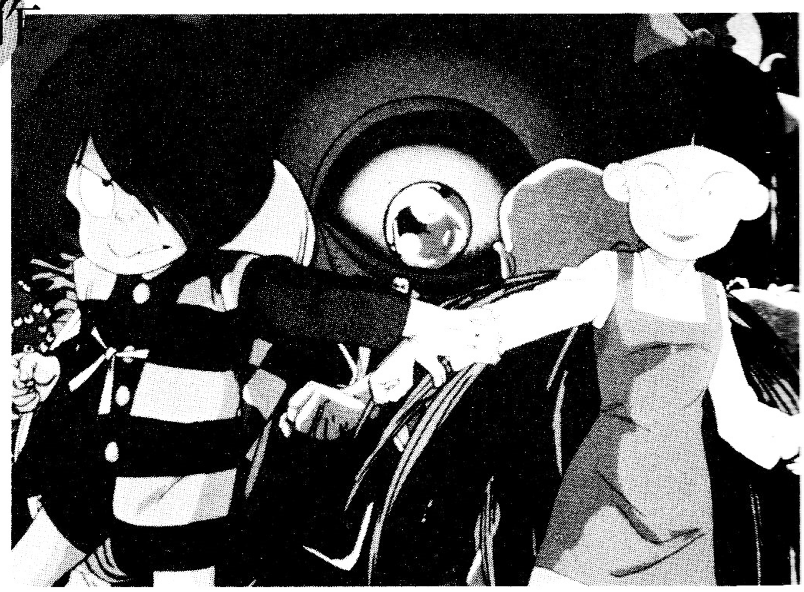


最新版　ゲゲゲの鬼太郎　最強妖怪軍団！　日本上陸!!

第1作　ゲゲゲの鬼太郎



第2作　ゲゲゲの鬼太郎妖怪大戦争



Cinema

第1作ゲゲゲの鬼太郎

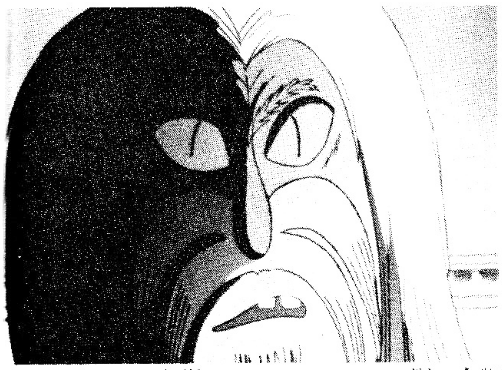
（昭和60年12月21日公開）

●スタッフ●

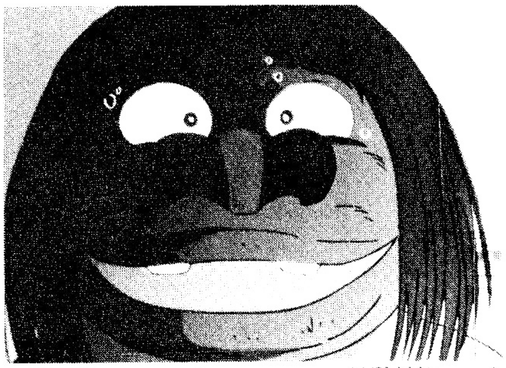
製作総指揮　今田智憲
プロデューサー　横山賢二
原作　水木しげる
脚本　星山博之
音楽　川崎真弘
作画監督　山口泰弘
美術監督　伊藤岩光
製作担当　松下健吉
監督　白土　武

●同時上映●

（'86お年玉東映まんがまつり）
「キン肉マン　晴れ姿！　正義超人」
「キャプテン翼　危うし！　全日本Jr.」



▲やし落としの相棒，アカマタ。ねずみ男に寄生する。



▲頭の上にやしの木がはえている南方妖怪やし落とし。

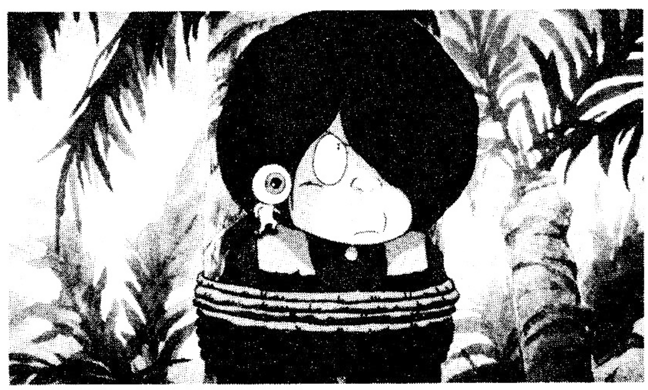


◀植物園を舞台に、南方妖怪に決死のたたかいをいどむ鬼太郎。アカマタの粘液攻撃を、ジャンプでかわす。



◀最後に姿をあらわす妖怪獣、蛟竜。原作「妖怪獣」にさきがけて映画に初登場。鬼太郎とねこ娘をおそう。

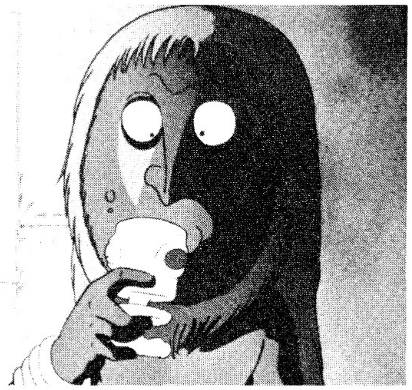








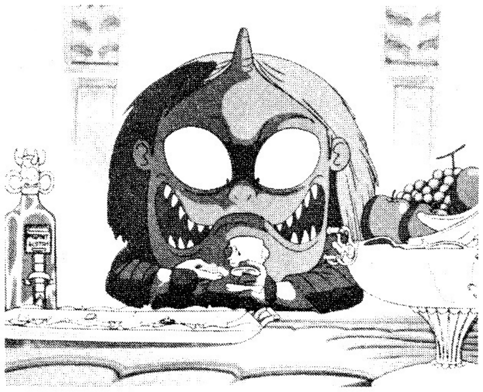
◀ねずみ男は、またまたうらぎって、南方妖怪の味方になり、鬼太郎をねらう。しかし、ユメコのことを思うあまり、ふたたび鬼太郎のもとへかえる。



◀南方妖怪を指揮する妖怪チンポ。日本侵略をたくらむ。



◀日本妖怪の総大将ぬらりひょん。この映画から、声が青野武にかわる。



◀ぬらりひょんの子分、朱のぼん。テレビ版第四話につづいての登場。

●ものがたり

日本の妖怪たちを支配しようとたくらむ南方妖怪チンポは、仲間の妖怪たちと船で日本にのりこんできた。それをむかえたのは、あわよくば人間どもをけらいにしてしまおうと考える、日本妖怪の総大将ぬらりひょんだった。

ぬらりひょんは、人間たちと仲よくしようとする幽霊族の生きのこり、鬼太郎をにくんでいた。チンポは、日本妖怪征服の手はじめとして、鬼太郎抹殺を指令する。

チンポとぬらりひょんにそそのかされて、ねずみ男はユメコを誘拐して鬼太郎を植物園におびきよせる。そこには、南方妖怪アカマタとやし落としがまちかまえていた。やし落としが頭を大きくふると、頭の上のやしの木がゆれて、すごい風がおき、弾丸のごとく、やしの実が鬼太郎めがけてとんでくる。アカマタは、口から粘液を火のようにはきだして鬼太郎をおそう。

ねこ娘の機転で、鬼太郎は危機一髪のところを、仲間の妖怪、砂かけばばあ・子泣きじじい・一反もめんたちにすくわれた。つるべ火は、ねずみ男のからだの中にはいりこんだアカマタに妖気をすいとられてしまった鬼太郎をたすけた。また、ぬりかべは、巨大な口でなんでものみこんでしまう蛟竜から鬼太郎をまもるのだった。

仲間の妖怪たちの協力で、チンポに監禁されていたユメコをたすけだした鬼太郎は、チンポたちの船を撃破する。

ぬらりひょんのモーターボートでにげだすチンポたち。だが、船の上で仲間われをおこし、ボートは岩礁に激突してしまう。なげだされたぬらりひょんは海にしずむが、チンポは三連チンポからいきおいよく燃料噴射しながら、南方へとにげさった。

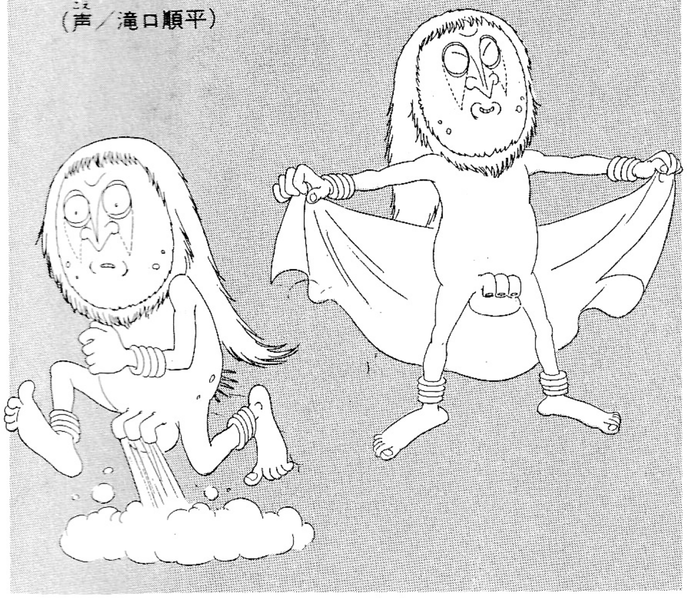
鬼太郎たち日本妖怪のチームワークには、南方妖怪も歯が立たなかったのである。

映画「ゲゲゲの鬼太郎」キャラクター Cinema

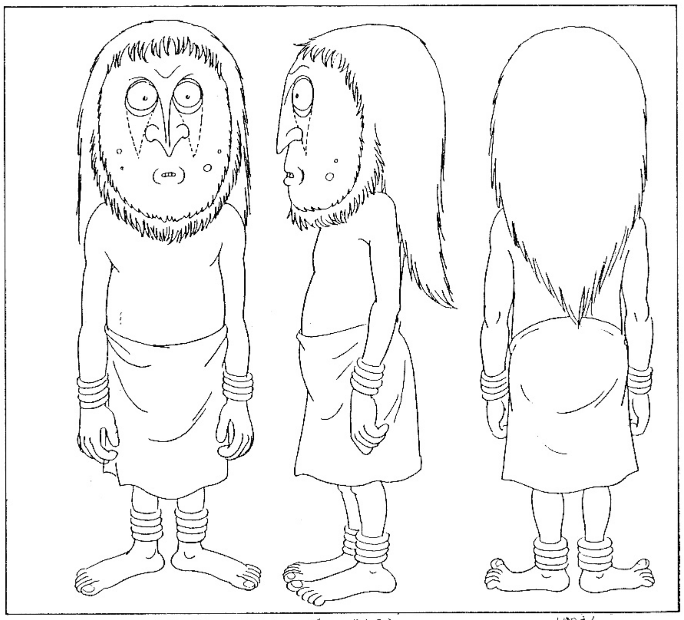
この作品は、昭和四十三年四月に週刊少年マガジンに連載された「妖怪軍団」をベースに構成されている。やし落とし、アカマタのほかに、原作には登場しない、ぬらりひょん、朱のぼん、チンポ、キジムナーを配して、スケールを拡大した。

チンポ

(声／滝口順平)



▲"三連チンポ噴射"は，ちゃんと映倫をクリアー。



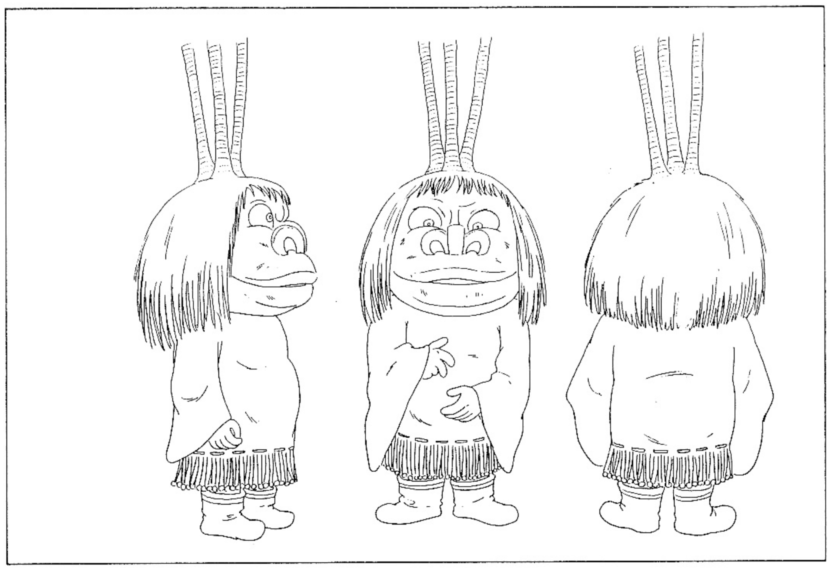
▲チンポは,「鬼太郎の世界お化け旅行」からのゲスト出演。

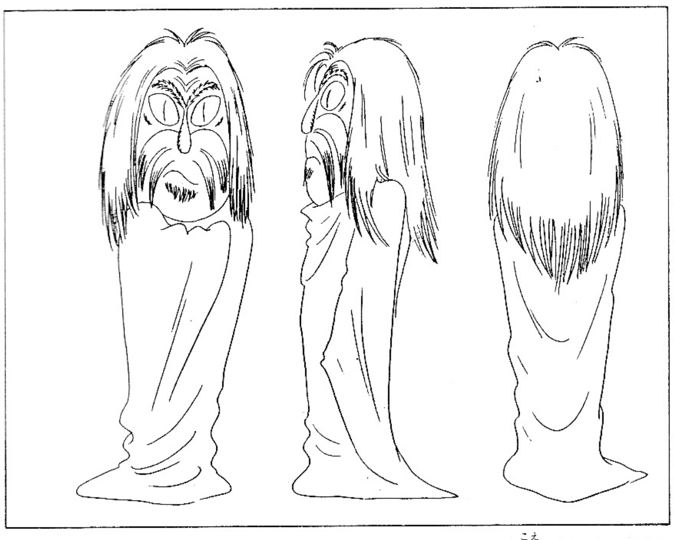
やし落とし・アカマタ



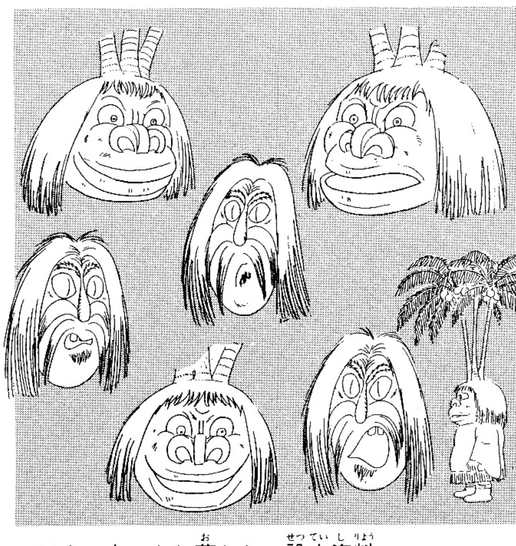
▶やし落としは、頭のやしの木で強風をおこす。

(声／山下啓介)





(声／宮内幸平)



▲アカマタ，やし落としの設定資料。

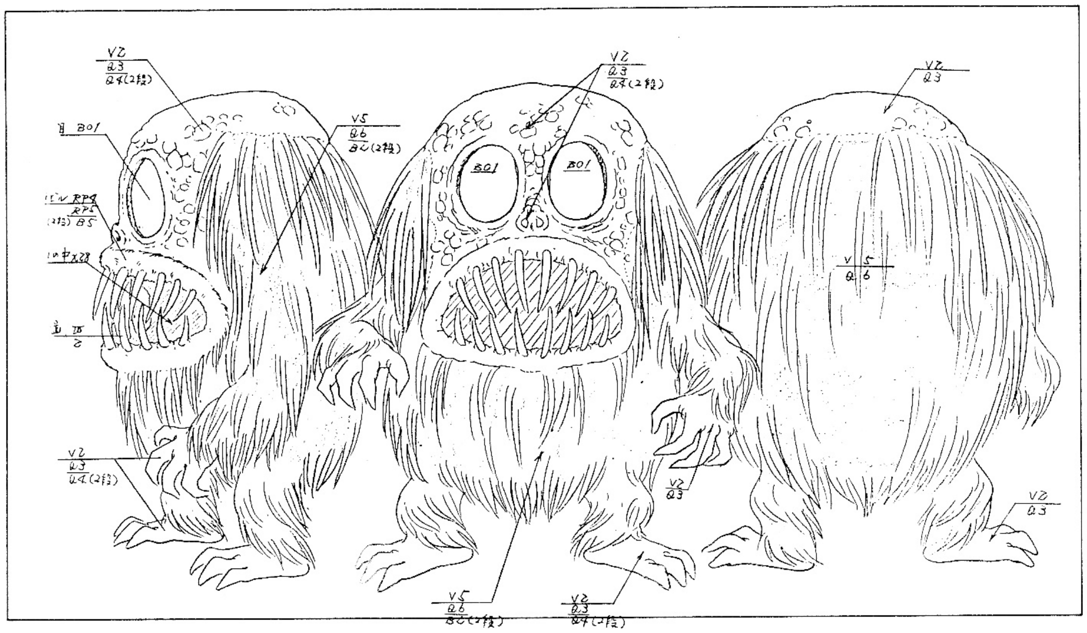


▲アカマタの横顔。

蛟竜

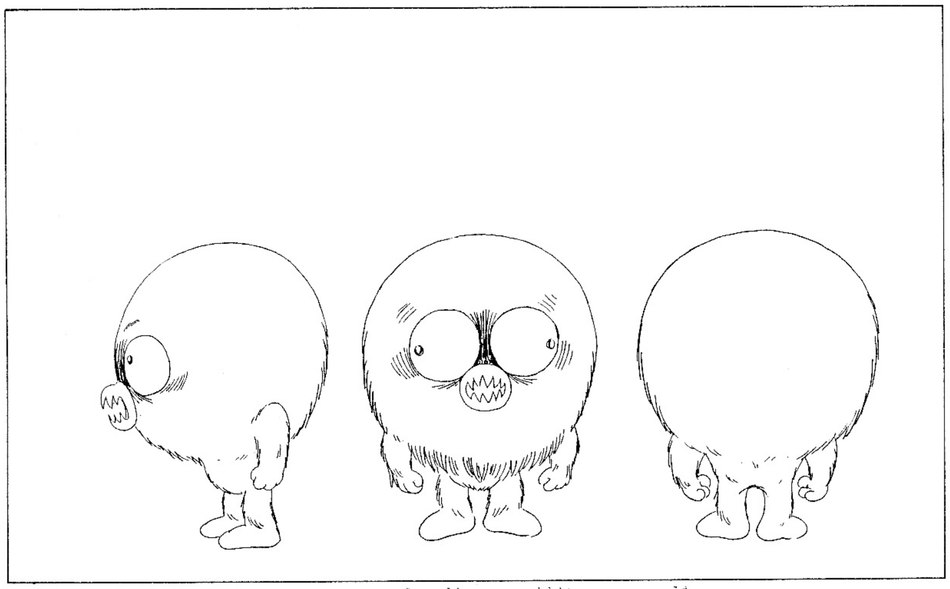


▶映画ポスターの背景になったシルエット。

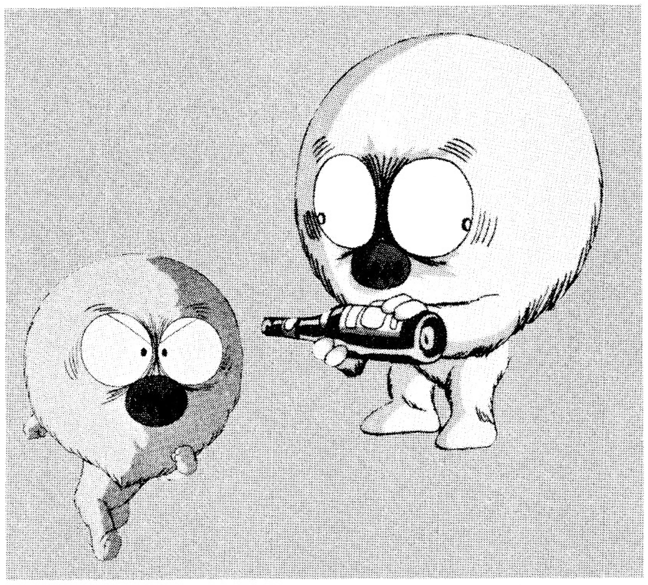


▶南方妖怪の手下となってゲスト出演。

キジムナー



▲キジムナーは，沖縄のガジュマルの木の上にすむ妖怪である。（声／松井摩味）

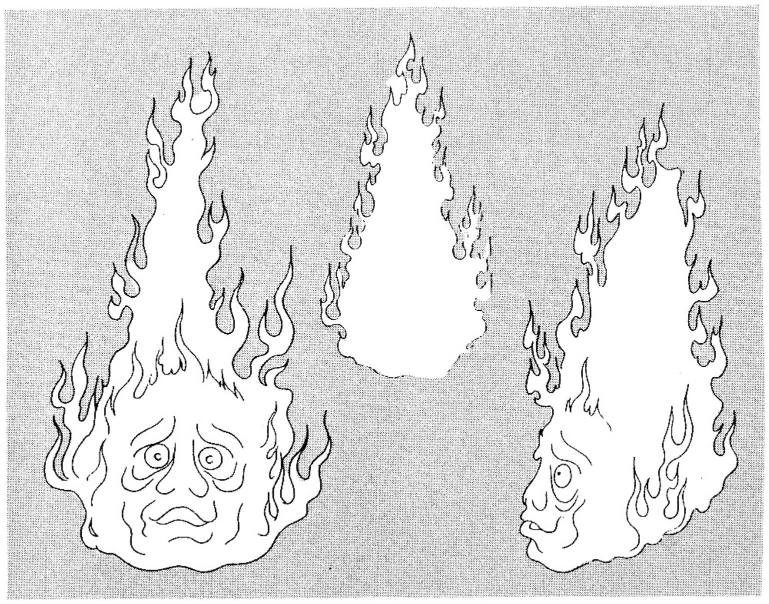


▲映画で初登場。テレビでは，第32話「妖怪大裁判」から。

つるべ火



▶原作にも登場するつるべ火。アニメでは、これが初登場。



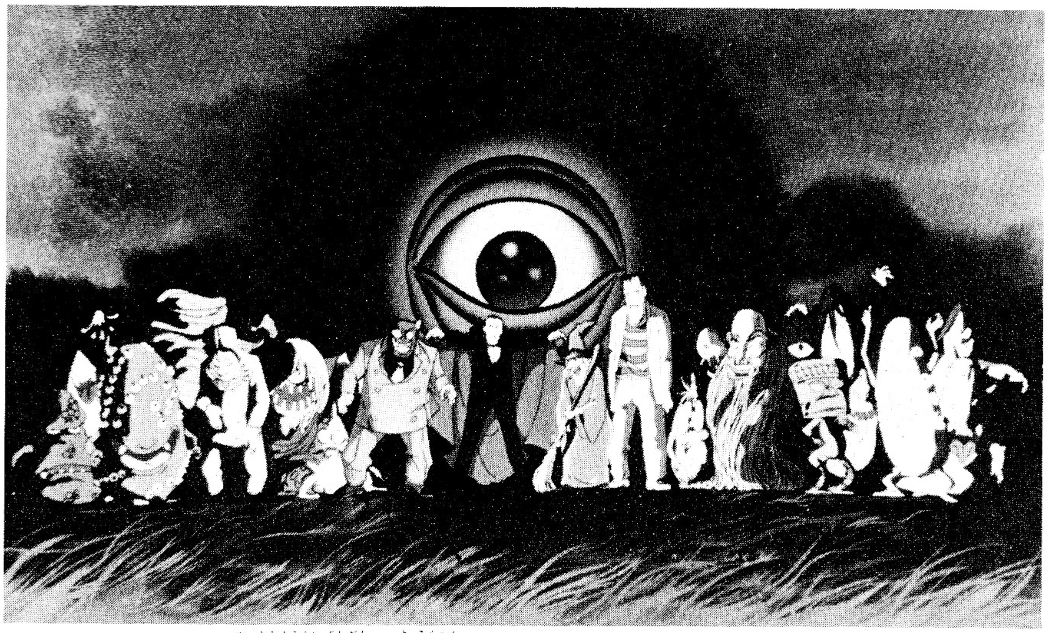
▶つるべ火は、妖怪ランプの異名をもつ炎の妖怪だ。

Cinema

ゲゲゲの鬼太郎

第2作 妖怪大戦争

（昭和61年3月15日公開）



▲バックベアードと，西洋妖怪軍団。(予告編より。)

●スタッフ●

製作総指揮　今田智憲
プロデューサー　横山賢二
原作　水木しげる
脚本　星山博之
音楽　川崎真弘
作画監督　兼森義則
美術監督　土田　勇
製作担当　松下健吉
監督　葛西　治

●同時上映●（東映まんがまつり）

「キン肉マン　ニューヨーク危機一髪！」
「キャプテン翼　明日に向って走れ！」
「超新星フラッシュマン」



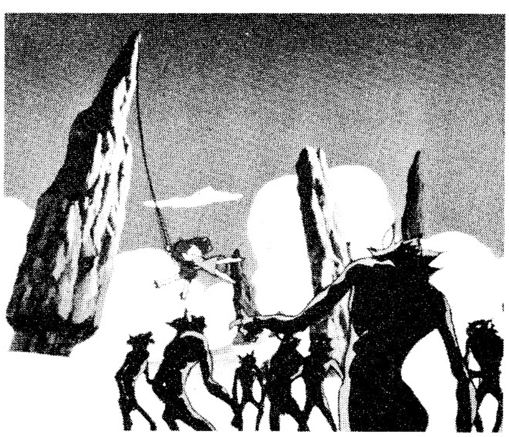


▲ホウキボシ島についたとたん，フランケンシュタインの攻撃がはじまる。

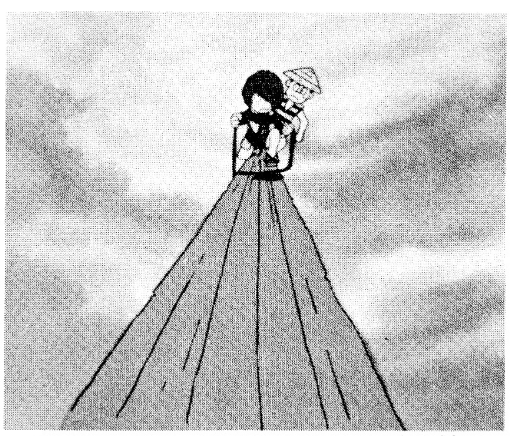


▲予告編に登場する魔女の服はブルーだが，本編ではピンクに変更された。

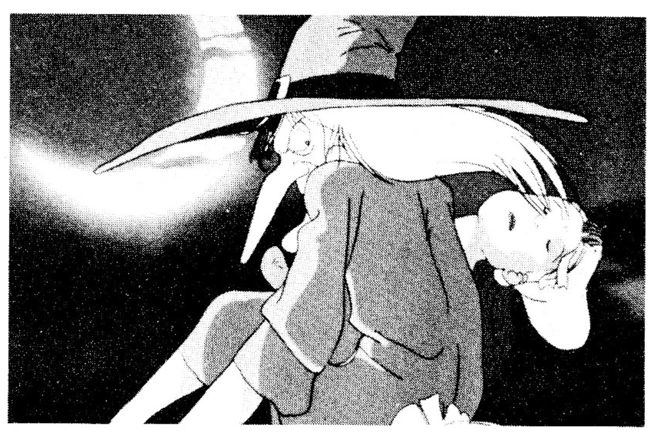




▲西洋妖怪の戦闘員，吸血狼から，やっとのことでのがれる鬼太郎たち。



▲島の少年アキオ（声／頓宮恭子）と鬼太郎は，大ピンチに！





◀映画の製作まえに、宣伝スチール用にかかれたセル画。

●ものがたり

日本征服をねらう、西洋妖怪のドン、バックベアードは、その本拠地にすべく、ホウキボシ島にのりこんだ。ドラキュラ、フランケンシュタイン、狼男、そして魔女をけらいに、この島の頂上に城をきずこうというのだ。島民たちは全員、妖術でかなしばりにされ、城建築の強制労働をさせられていた。

だが、ただ一人、アキオだけは島を脱出した。都会の歩行者天国でたすけをもとめるアキオを信じたのは、鬼太郎だけだった。アキオにのこっている妖気を、敏感に感じとったのだ。えたいの知れない西洋の妖怪を相手に、鬼太郎とともにたたかおうというのは、砂かけばばあ、子泣きじじい、一反もめん、ぬりかべ、ねこ娘、そして目玉のおとうさん。ねずみ男は、アキオがお礼にともってきた砂金をみて、金鉱さがしのつもりでいる。

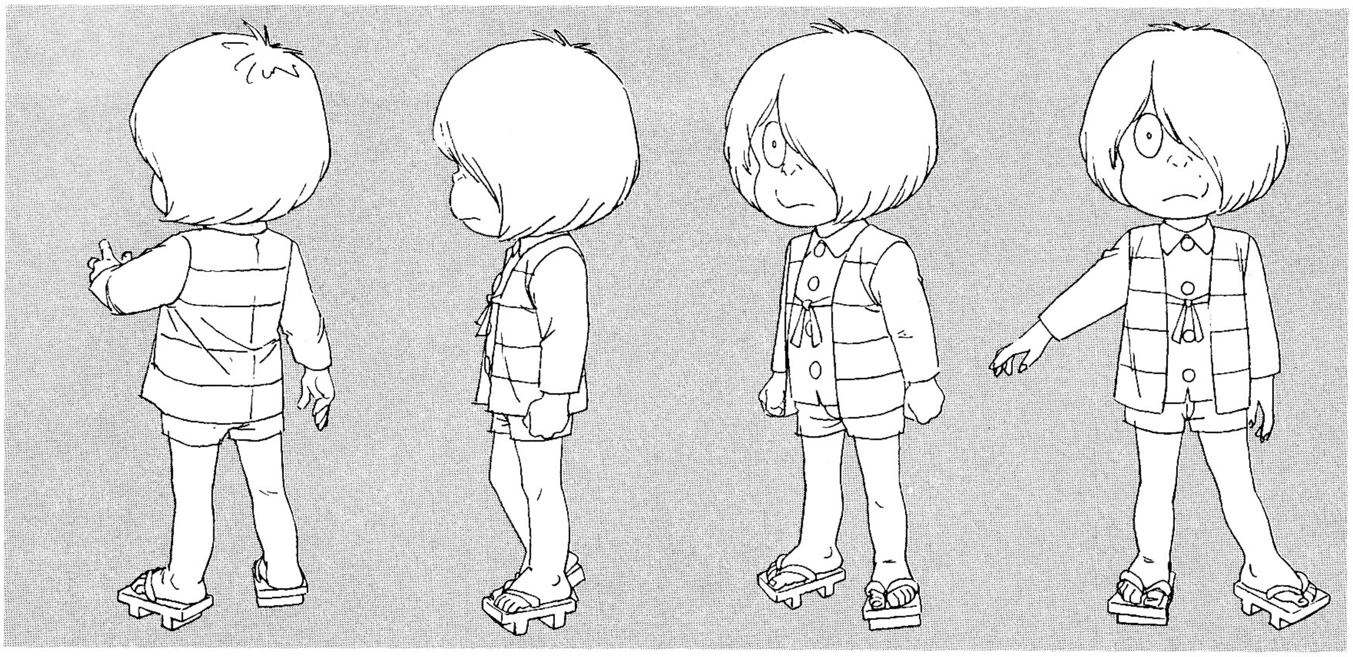
島についた鬼太郎たちは、さっそく魔女やドラキュラたちの、てあらいでむかえをうけた。双方いりみだれての大乱戦となった。鬼太郎対ドラキュラ、砂かけばばあ対狼男、子泣きじじい対魔女。目玉のおとうさんは、ドラキュラをたおす方法を思いつく。からだに砂金をぬったぬりかべに光を反射させ、その強烈な光をあびてドラキュラは絶命。フランケンシュタインや狼男も、みんなの力でたおすことができた。そして、いよいよバックベアードが姿をあらわした。ねずみ男のうらぎりで、一時は苦境にたった鬼太郎だが、仲間のたすけで、しだいにバックベアードをおいつめていく。

鬼太郎の分身の術に怒るバックベアードの目にむけて、かみの毛ばりが発射される。あばれるバックベアードと鬼太郎の空中戦がくりひろげられているとき、突然、巨大なうずまきがおきた。西洋の妖怪をたおすには、このうずまきを利用するしかない。鬼太郎と一反もめんは、みずからの命をかけてうずまきにむかう。それをおう西洋妖怪たち。鬼太郎たちをのみこんだうずまきは、たつまきとなって空に上昇していく。やがて、鬼太郎と一反もめんがたつまきから脱出した。命をかけた鬼太郎の勝利だ。

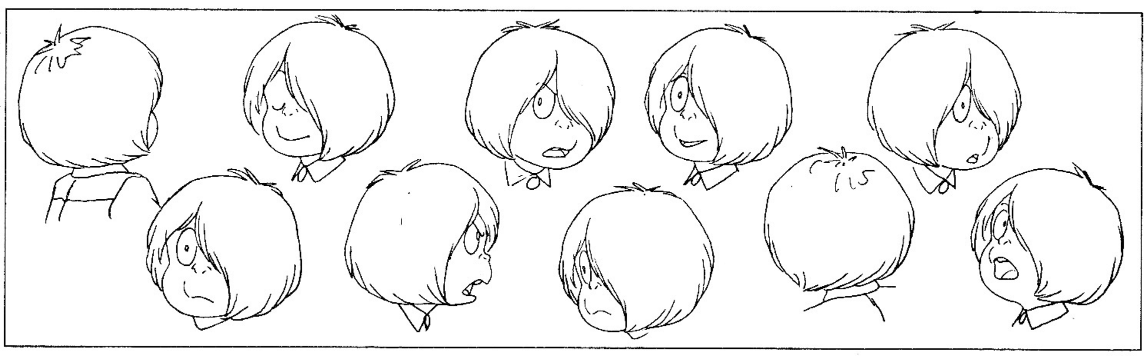
映画「ゲゲゲの鬼太郎 妖怪大戦争」キャラクター① Cinema

鬼太郎

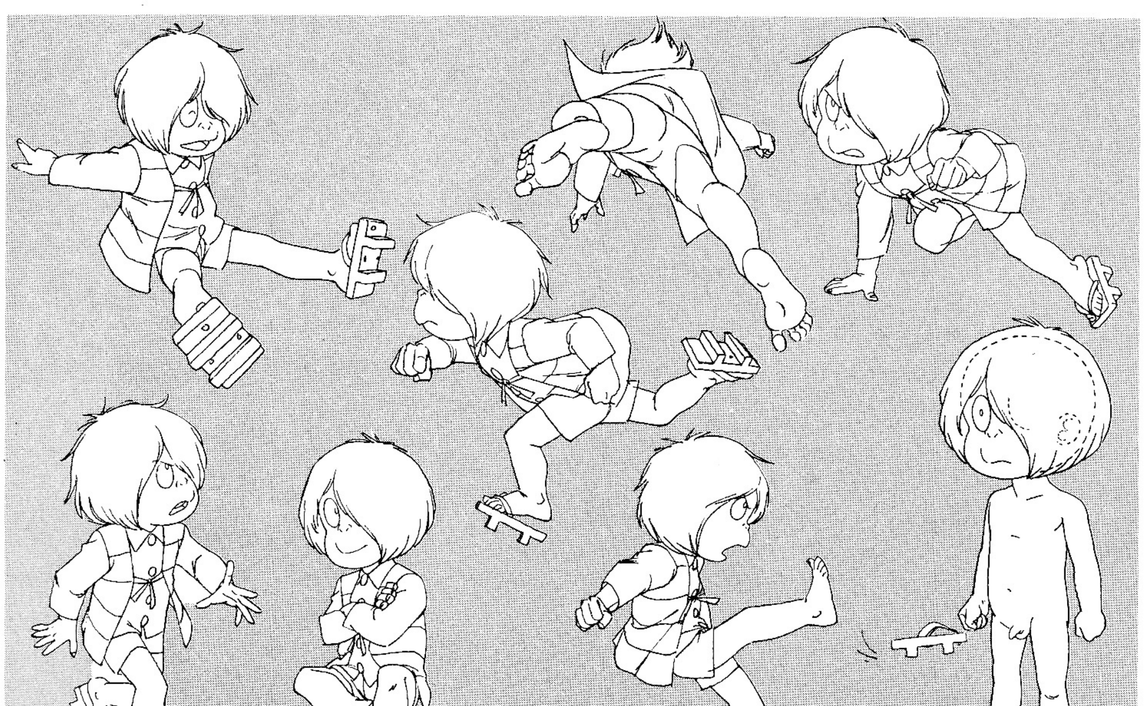
昭和四十一年四月から週刊少年マガジンで連載された同名作品の映画化。日本妖怪対西洋妖怪の死闘を描く、鬼太郎作品中、もっとも人気がある物語である。



▶新たに設定された鬼太郎のキャラクター。



▶表情も微妙にテレビとちがう。



▶テレビと同様、兼森義則氏がデザイン。

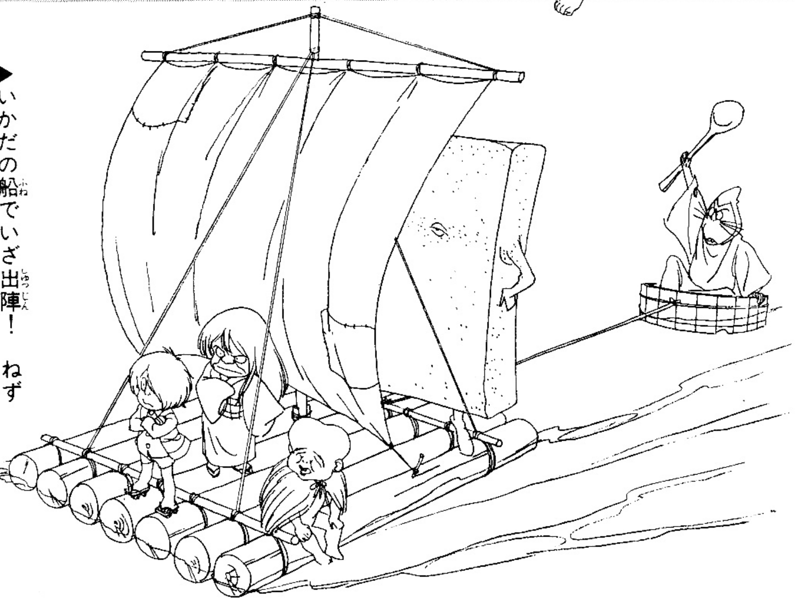


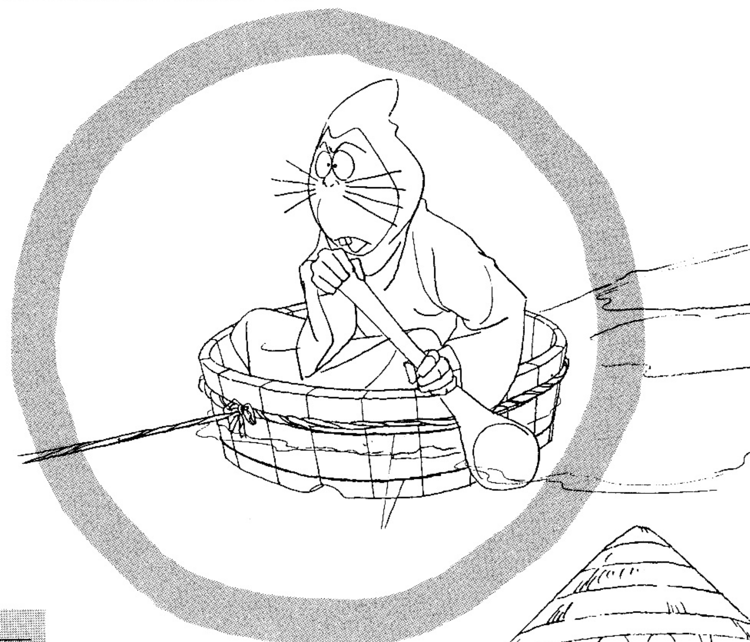
▲テレビ版よりちょっと戦闘的？でかっこいい映画版の鬼太郎。

ねずみ男

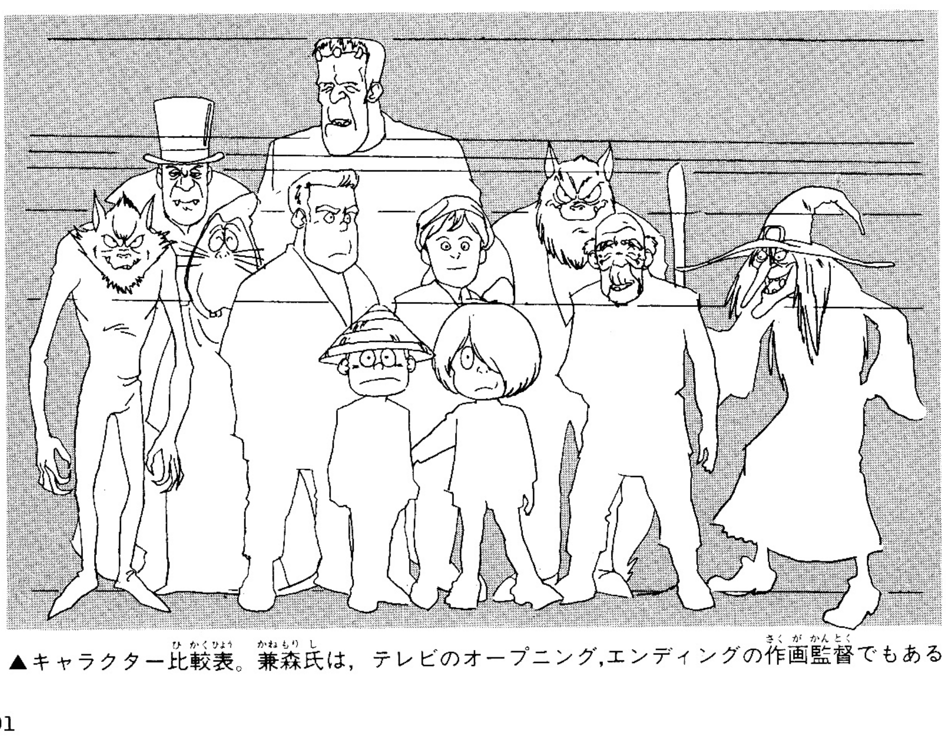


▶ねずみ男も新設定が描かれたが、テレビ版とたいした変化はない。





▶いかだの船でいざ出陣！　ねずみ男は原作とおなじく、たらい船。



きとう師



アキオ



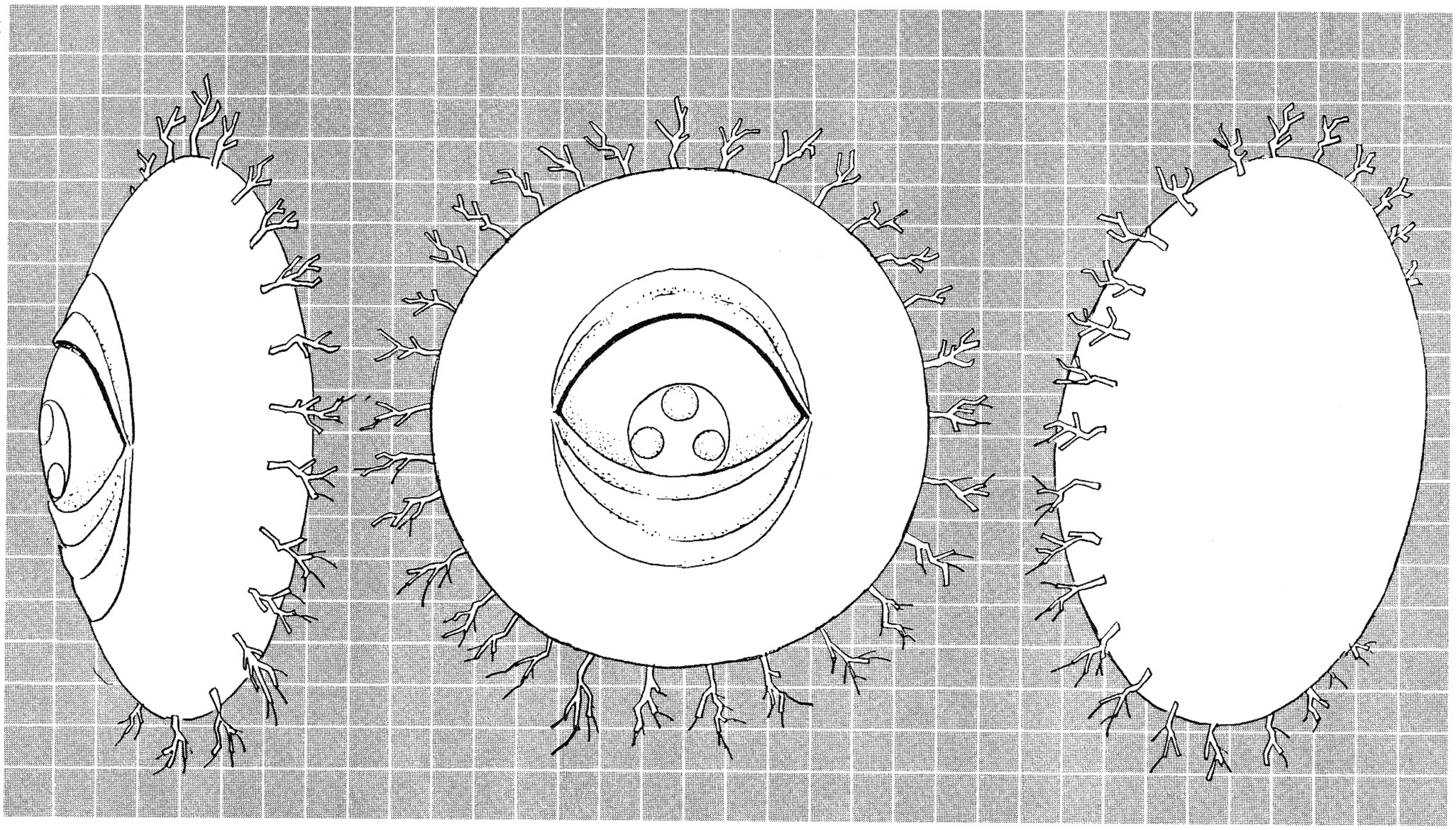
▲キャラクター比較表。兼森氏は，テレビのオープニング,エンディングの作画監督でもある。

映画「ゲゲゲの鬼太郎妖怪大戦争」キャラクター②

Cinema

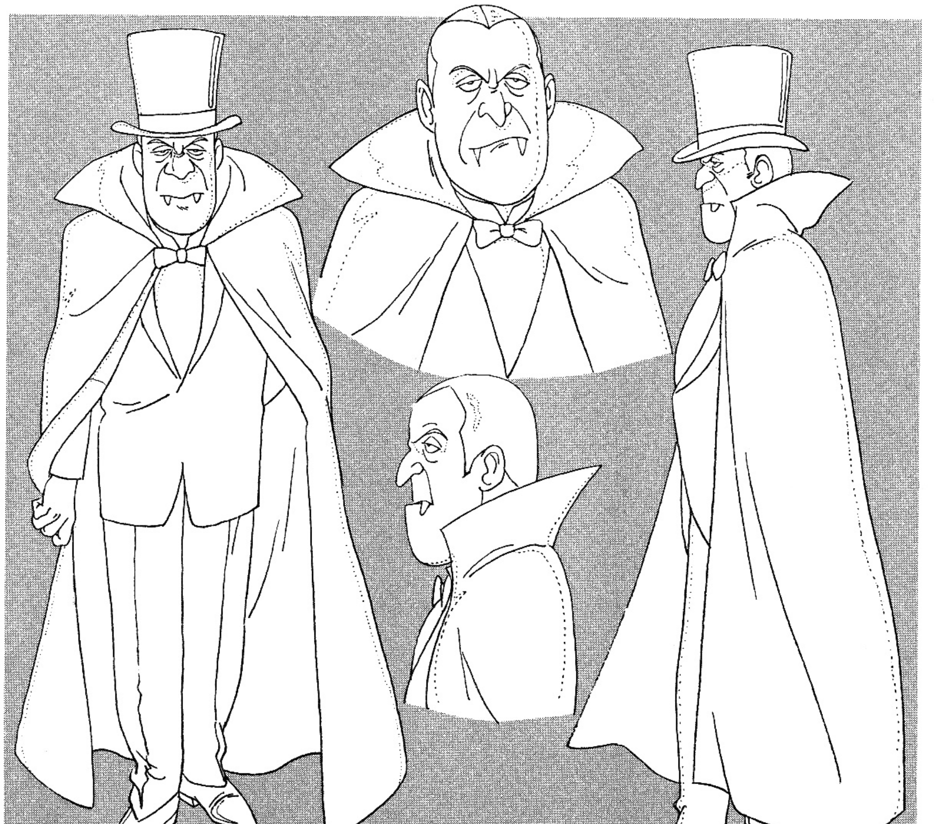
バックベアード

（声／柴田秀勝）



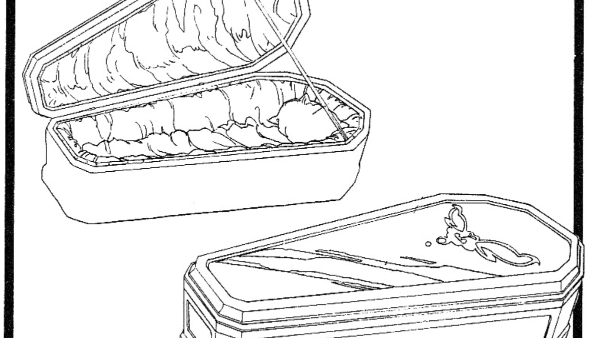
吸血鬼ドラキュラ

（声／村越伊知郎）

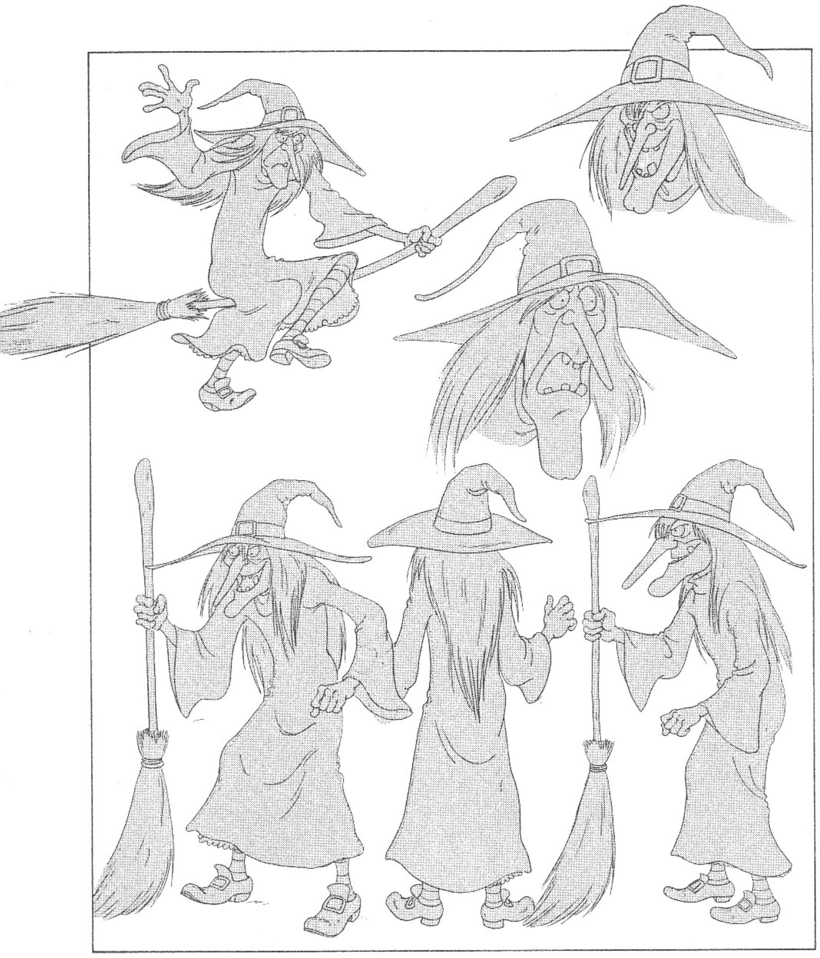




▶棺からあらわれるドラキュラ。

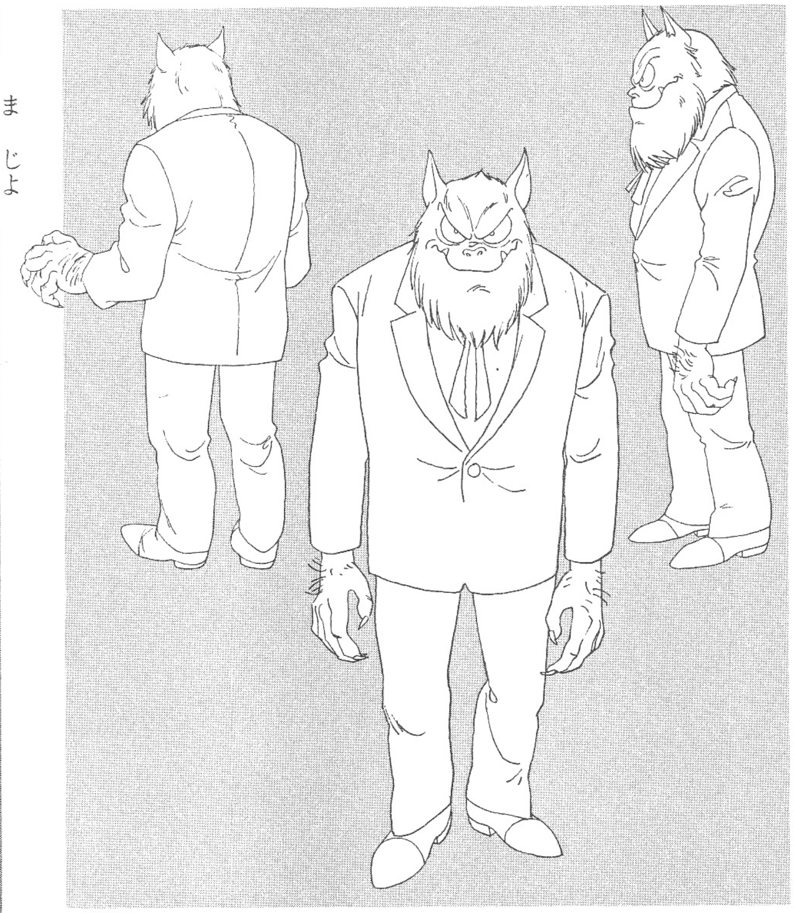


▶ドラキュラの棺



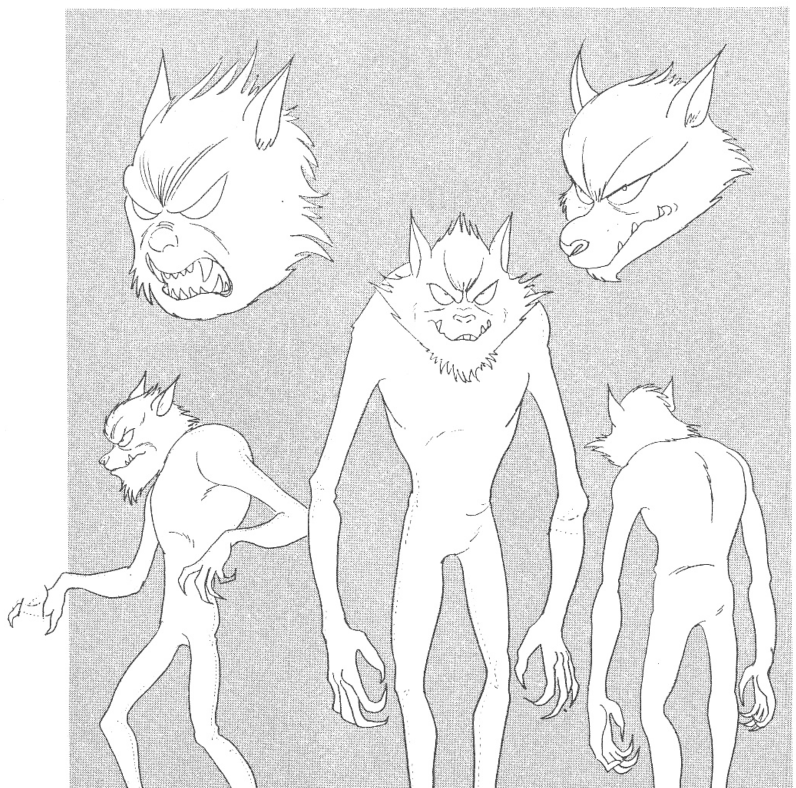
魔女

（声／三輪勝恵）



ロンドンの狼男

（声／大竹　宏）



吸血狼

（声／小林通孝，田中和実，平野正人）



フランケンシュタイン

（声／西尾　徳）

Cinema

ゲゲゲの鬼太郎 第3作 最強妖怪軍団！日本上陸!!

（昭和61年7月12日公開）

●スタッフ●

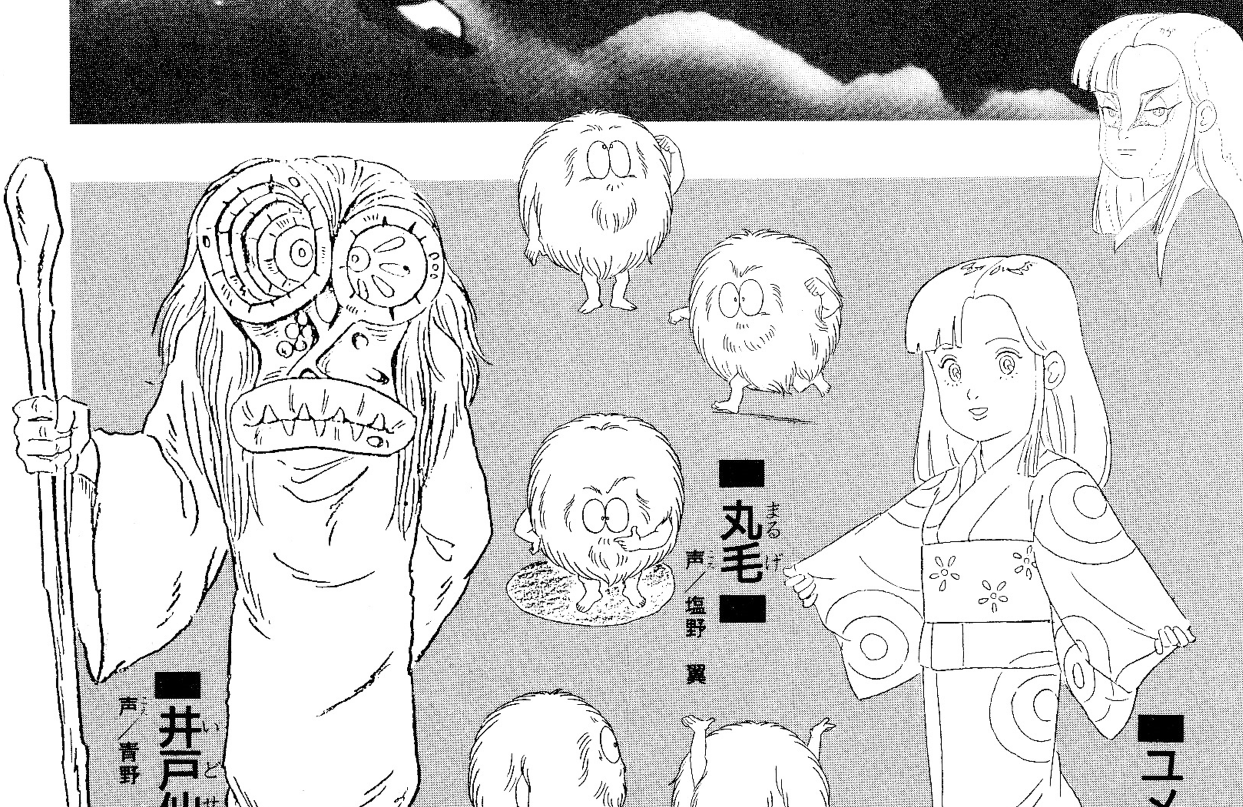
製作総指揮……今田 智憲
プロデューサー……横山 賢二
原作……水木しげる
脚本……星山 博之
音楽……川崎 真弘
作画監督……山口 泰弘
美術監督……内川 文広
製作担当……松下 健吉
監督……芹川 有吾
主題歌……吉 幾三

●同時上映●（東映まんがまつり）

「ハイスクール奇面組」
「キャプテン翼 世界大決戦!! Jr.ワールドカップ」
「メイプルタウン物語」






井戸仙人
声／青野 武
丸毛
声／塩野 翼
ユメコ

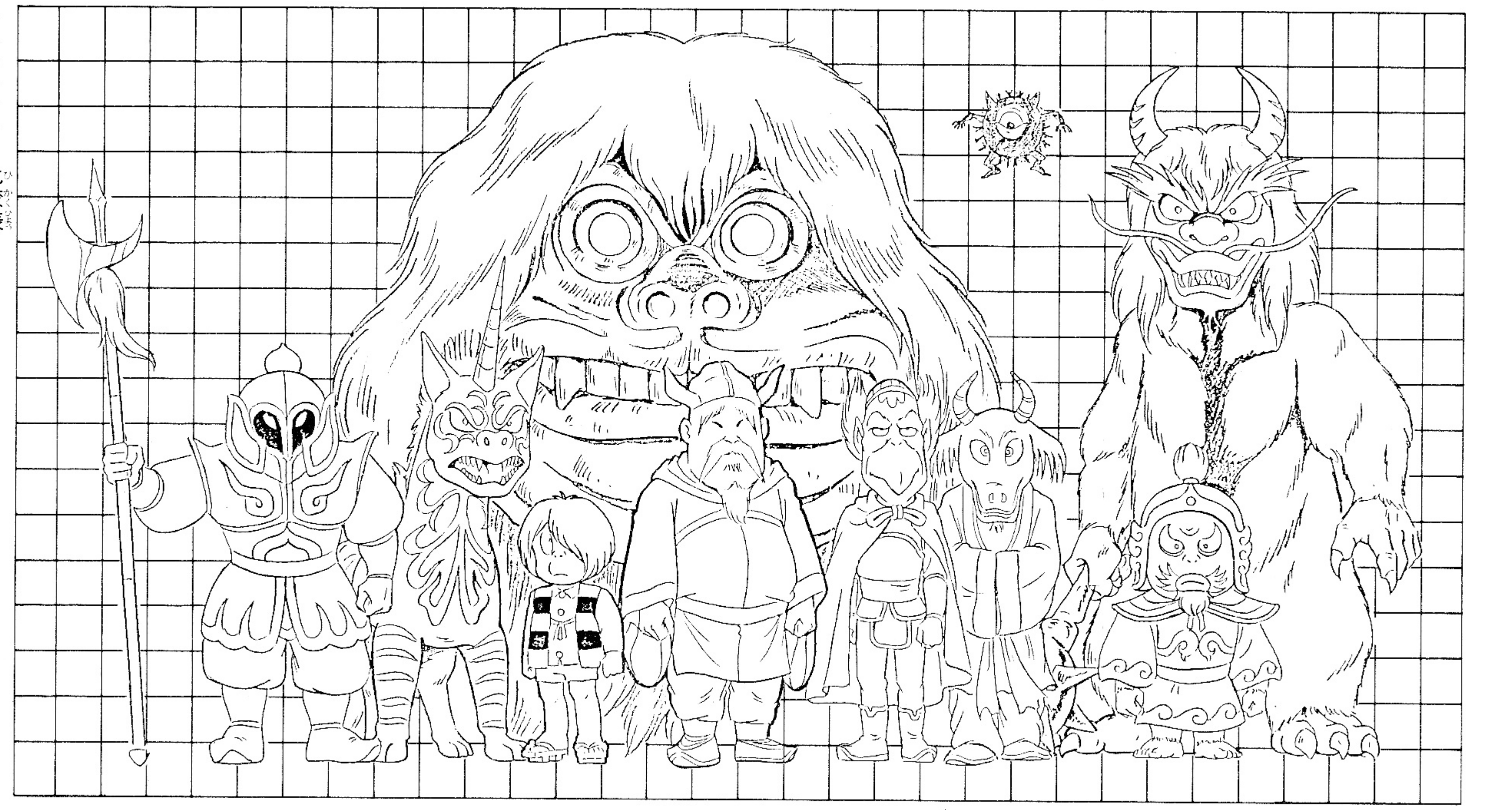




映画「ゲゲゲの鬼太郎最強妖怪軍団！　日本上陸!!」キャラクター

Cinema

第三作は、昭和四十四年の二月から週刊少年マガジンで連載された「妖怪反物」がベースとなっており、上映時間は三本のなかでいちばん長い。南方、西洋とつづいた映画版は、今回、中国妖怪を設定。原作ではキャラクターの明確でない中国妖怪軍団も、すべて新しく、水木先生の妖怪画からセレクトされている。

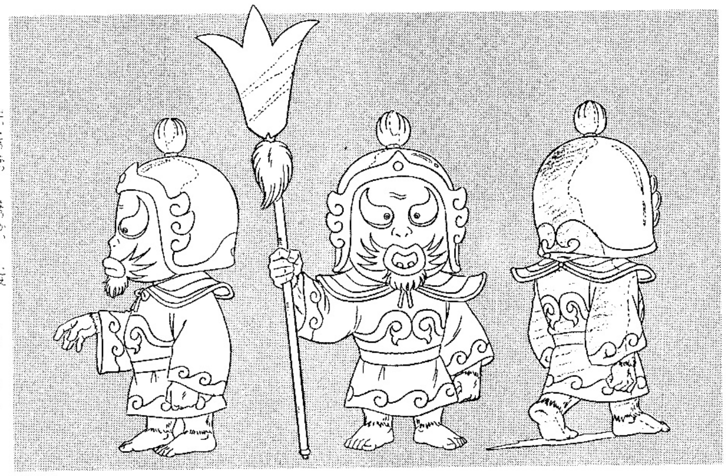


▶キャラクター比較表



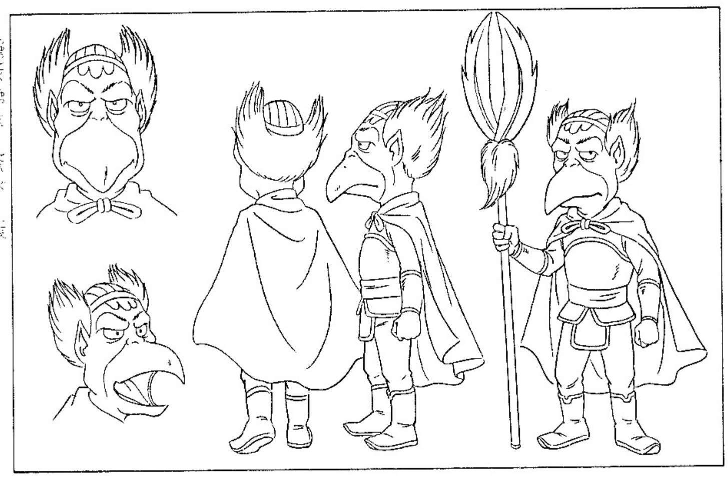
山魈

▶かにが大好物の妖怪。（声／小宮山清）



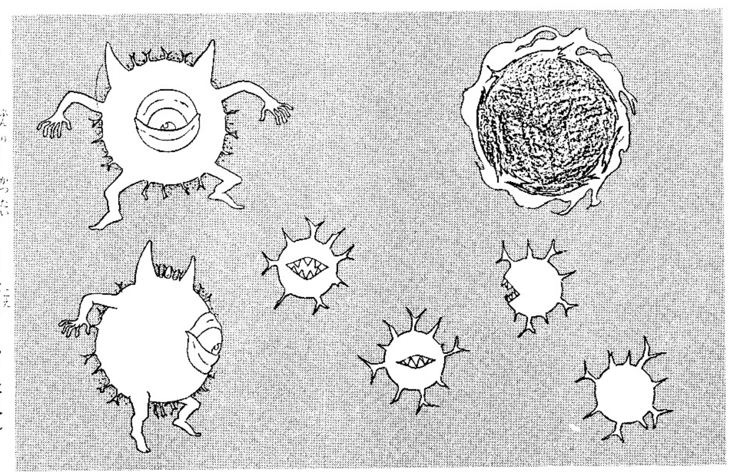
天狗

▶中国出身の天狗。（声／若本紀昭）



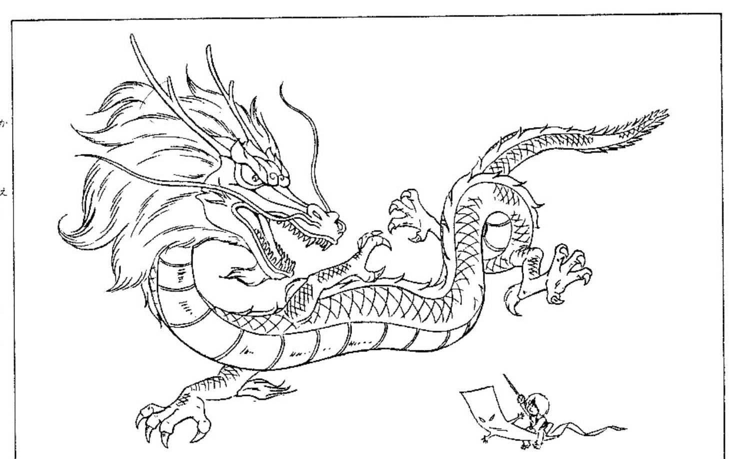
くしゃみの精

▶四つに分離、合体する。（声／丸山裕子）



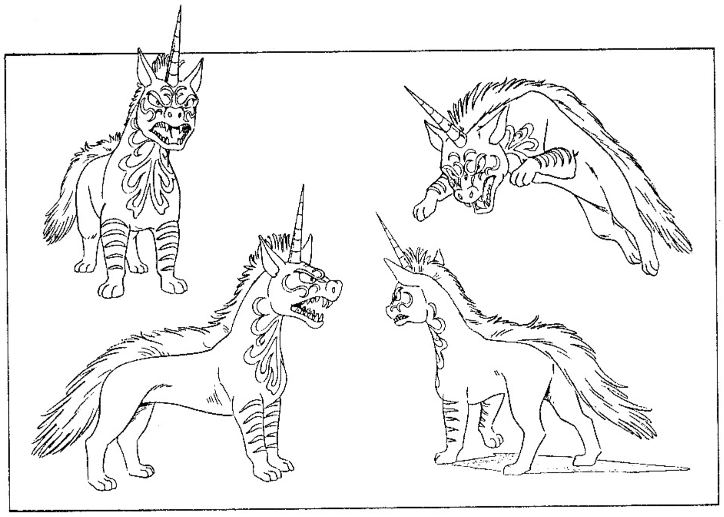
妖神

▶チーが描いた絵からうまれた。



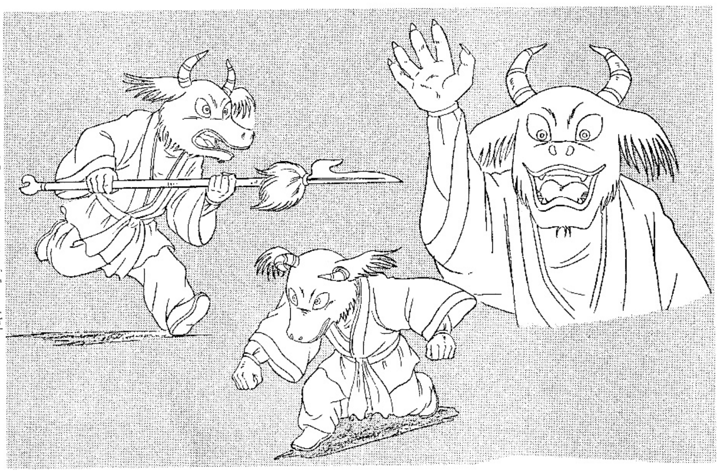
角端獣

▶一日に約七万キロをはしる。



妖犬

▶牛のような角を持つ妖怪。（声／戸谷公次）



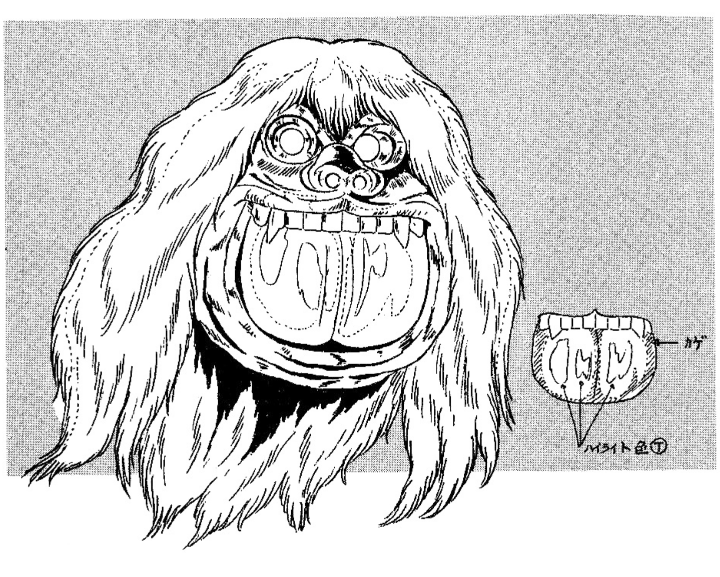
黒怪物

▶とげのついた棒をふりまわす。（声／塩屋浩三）



画皮

▶口からものすごい風をふく。



「最強妖怪軍団！日本上陸!!」

Scenario
シナリオ

■登場キャラクター

鬼太郎
目玉のおとうさん
子泣きじじい
砂かけばばあ
ぬりかべ
一反もめん
ねこ娘
ねずみ男
呼ぶ子
丸毛
がんぎ小僧
だるま
井戸仙人
つるべ火
天火
うばが火

くらげの火の玉
ユメコ
星郎
ユメコのママ
チー（九尾のきつね）
天狗
妖犬
山魈
くしゃみの精
角端獣
黒怪物
画皮
妖神

1
東北　那須高原（夏）

溶岩の上にたつ人影の後ろ姿。
その視線の先——見おろす感じのところに"殺生石"遺跡がある。遺跡の前では、家族づれが休憩し、たのしげに弁当などをひろげている。
ユメコ一家（父親はいない）の姿もある。
数本ずつたばねた反物を肩でふりわけにして、溶岩の上にたっていたのは、中国妖怪のチー（人間の姿）であった。
チー、スーッと宙に視線をうつして、

チー　「姉さん、見ていてください……きっと、かたきはとってみせます。」

2
森の中（東京郊外の山の中）

「ぬりかべ〜〜〜！　ぬりかべ〜〜〜！」
はねるようにきたねこ娘が、足をとめてキョロキョロ。

ねこ娘　「ぬりかべまでいないのォ？　盆踊り大会の案内状をもってきてあげたっていうのにィ。」

手には何通もの白い封筒をもっている。

×　×　×

さらに奥へいったところ。
ぬりかべが山ぶどうの実をとってたべている。

ぬりかべ　「ここに、こんなうまいものがあったとはな……。」

草をふみしだく音がして、中国妖怪のチーがあらわれ、ちかづいてくる。

ぬりかべ　「？」

チー　「こんにちは。わたし、中国の妖怪、チーあるよ……日本の妖怪となかよくしたい。おちかづきのしるしに、とてもおいしいものプレゼントするあるよ。」

いって、変わり玉（丸薬）をとりだす。

ぬりかべ　「すまんな。だったら、おれはこれを。」

と、手にしていた山ぶどうをあげる。

チー　「あなた、いい人あるね。」

てわたされた山ぶどうをたべる。
ぬりかべも変わり玉を口にほうりこむ。

ぬりかべ　「ううん、いい味だ。」

つぎの瞬間、目をかっとみひらいて、うめき、胸をかきむしるようにしてよろける。

×　×　×

「ったく……どこへいったのかしら。」
さがして、あるいてくるねこ娘。
ぬりかべのうめき声がして、ドスンと草の上にたおれる音。

ねこ娘　「ん？」

音のしたほうへはしって、ぎょっとなる。

ねこ娘　「ぬりかべ……!?」

×　×　×

たおれているぬりかべが、アイスクリームがとける感じで、一枚の布になる。
にたっとほくそえんだチーが、こしょうびん（染色剤）をとりだして、布の上にふりかける。
と、あぶりだしのようにもようがあざやかにうきあがって、美しい反物となる。

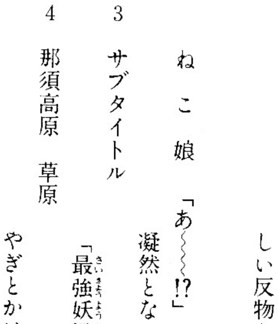
×　×　×

ねこ娘　「あ〜〜!?」

凝然となっているねこ娘の顔で——。

3
サブタイトル

「最強妖怪軍団！　日本上陸!!」



4
那須高原　草原

やぎとかけっこをしているユメコと星郎。
そのサイレントの絵に、手紙をよむユメコの声がかぶる。

声　「鬼太郎さん、わたしはいま、ママと弟の三人で那須高原にきています。この手紙がとどくころには、もうかえっています……わたしにとって、なによりのおみやげは、とても安い布地を売っていたのでママがそれを買い、わたしのゆかたをつくってくれるというのです。鬼太郎さんたちがひらく盆踊り大会には、そのゆかたを絶対に着て参加するつもり……いまからたのしみにしています。それじゃ、また……ユメコ。」

声が、とちゅうからつぎのシーンにこぼれて、かぶっていく。

5
墓地の広場（鬼太郎の家のちかく）

目玉の指示のもと、ねずみ男、子泣きじじい、呼ぶ子、一反もめんが、盆踊り大会のためのやぐらづくりをしている。すでにできている会場入り口のアーチには、「人間と妖怪 友好盆踊り大会」の文字がしるされている。一角に腰をおろしている鬼太郎が、ユメコからのはがきをよみおえる。
ねずみ男が、うきうきときて、

ねずみ男　「当日は露店をだして、バッチリかせがせていただくぜ！　まずは

たこ焼き屋にかき氷だろ、それに綿あめにとうもろこし……あっ、金魚つりなんてエのもいいな……ん？」
鬼太郎、はがきを手にしたまま、ぼんやりしている。
ねずみ男「その手紙、砂かけばばあからか？」
鬼太郎「だと思ったんだけど……（ちかくにいるからすに）ありがとう、また、ポストにはいってたら、もってきてくれ」
からす、一声ないてとびさる。
鬼太郎「どうしちゃったのかな、砂かけばばあ」
ねずみ男「実行委員は、三日まえには鬼太郎のうちに全員集合っていいだしたのは、あのばあさんなんだぜ」
鬼太郎「だからなんだ。みんなに踊りをおしえるって、いちばんはりきってたのも砂かけばばあ……だから、よけい気になって」
ねずみ男「それで、さえないつらしてんだな」
鬼太郎「連絡がつかないのは、砂かけばばあひとりだけじゃないからだ……いつもなら案内状をおくれば、みんなからすぐにへんじがきた。だけど、ことしは」
ねずみ男「なんかあったのかな……」
鬼太郎「ねこ娘もだ。案内状をもってでたまま、もどってきてない……」
気になって、宙に視線をなげる。

6
ある村の中
大きな布（ぬりかべ）を肩にかけ、さらには、腕にかけてセールスをするチー。
村の主婦がとりかこんでいる。
「ほんとに、そんな安く売ってくれるのかい⁉」
チー「わたし、うそいわない」
「わたし、もらうわ！」
「あたしも！」
主婦たちが、それぞれに布をひっぱる。
チー「これ、とても大きな生地。一人にあげては不公平……みんなでなかよくわける。それいちばんいいことね」
主婦たち、コクンとうなずく。
チー、はさみをとりだす。
ものかげにかくれて、みているねこ娘。
ねこ娘「あいつ、いったい、なにもんなんだ……よう〰〰し！」

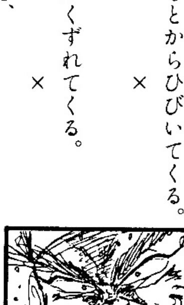
7
森の中（山道）
村の主婦たちにみせていた、あいそのいい人物とは別人のような表情をみせるチーが、足ばやにあるく。
つけてきているねこ娘が、みえがくれする。

8
山の中　大きな洞窟の前
スタスタときたチーが、中にはいっていく。
尾行してきたねこ娘が、あたりに人影のないことを確認、洞窟の中へとしのびこんでいく。

9
洞窟の中　広い空間
うすぐらいろうそく照明の中に、香のけむりがながれ、神秘的なムード。チーの部下の天狗が、大きなどらをたたいてならすと、四方にひらいている脇穴から、流線が弧をえがくようにつぎつぎととびだしてきて、着地。
同時に、そこから妖気かげろうがボワッとたちこめて、妖怪がつぎつぎと出現する。
角端獣——妖犬——山魈——画皮——そして黒怪物と。

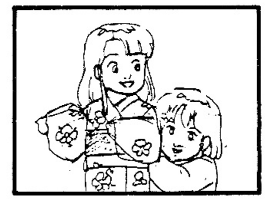


さらに、天じょうから、おなじようにして出現する、くしゃみの精。天狗が、サッとみんなのところへならんで、はいってきたチーをむかえる。
天狗「おかえりなさいませ」
チー、はいってきた足で、ひかえる天狗たちの前——一段高いところへすすむ。
×　×　×
しのびこんできたねこ娘が、えっ⁉ となって、一同がみわたせるところへすすみ、ものかげにかくれてみまもる。
ねこ娘「……」
チー「みなのもの、ことはすべて、順調にはこんでいる」
天狗「それもみな、チーさまのお力によるもの」
チー「よくきけ、みなのもの。日本の妖怪など、おそれるにたりぬ！」
はりのある声が、空間にひびきわたる。
チー「日本の妖怪は、わたしの術によって一人のこらず反物にしてみせる！　そして、その反物を人間どもに売り、その布地でつくった服を着たものは、すべてわたしの意のままにうごくしもべとなる！　……わたしの作戦はいま、みのろうとしている！　……同時にすすめていた城も完成したァ！」
「ウォ〰〰！」——と、部下がほえる。
同時、ぶきみな地鳴りが足もとからひびいてくる。
×　×　×
ねこ娘「あっ⁉」
天じょうからバラバラ土砂がくずれてくる。
×　×　×
しだいに高まる地鳴りの中で、
チー「みなのもの、わたしとともにたて！　われら中国妖怪が、日本の妖怪どもとすべての人間を征服し、支配するのだァ！」
「ウォー！」部下の声がつぎのシーンに、



10
洞窟の外
すぐちかくの山が音をたててくずれ、その中から完成している中国風の妖怪城が出現する。
その全容——。
洞窟の中からとびだしてきたねこ娘が、城をみあげて凝然とたちつくす。
ねこ娘「あ〰〰⁉」
からすにぶらさがった丸毛が急降下してくる。
ねこ娘「丸毛？」
丸毛「鬼太郎にいそいでしらせないと！」
ねこ娘、コクンとうなずく。

11
ユメコの家　居間
つくってもらったゆかたを着たユメコが、かかしのようにたっている。
ユメコ「ママ、はやくはやく！」
ユメコの前でひざまずいているママが、おびをしめおえ、じっとみて、
ママ「たけもピッタリ……いいわよ」
ユメコ、まちきれなかったといった感じで姿見の前にはしって、自分のゆかた姿をうつしてニッコリ。
ママ「よくにあうわ」



ユメコ「鬼太郎さんにみせてこようかしら！」
ママ「当日のおたのしみにとっておいたら」
ユメコ「そうね。でも、せっかく着たんだから、そのへんあるいてこようかしら！」
ママ「ユメコったら。」
と、ルンルン気分。
針箱を手に、へやをでていく。
もう一度、ユメコが鏡にうつして、へやをでていこうとしたときだ。ユメコが、かなしばりにあったようにうごかなくなって——一瞬、目の色がかわる。

12 家の前道

グローブをとおしたバットをかついでかえってきた星郎(ほしろう)が、ふっと足をとめて、
星郎「(パッと)姉ちゃん、かっこいいよ！」
ゆかた姿のユメコが家からでてきて、星郎のほうにくる。
星郎「みせびらかしにいくのかよ！　…？」
表情一つかえないユメコが、なにかにつかれたように無言で、星郎のわきをすりぬけていく。
星郎「…姉ちゃん？」
と、けげんにみおくる。
ユメコのわきにとびだしてきた車が、急ブレーキでとまる。
ユメコ、マイペースであるきさる。

13 鬼太郎の家 中

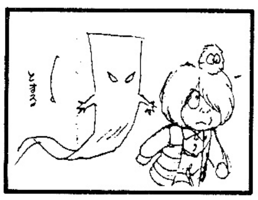
えっ!?　となっている鬼太郎、目玉、子泣きじじい、呼ぶ子、ねずみ男、一反もめん、それに丸毛もいる。
鬼太郎「ほんとうか、その話!?」
一同の前に、ハアハア息をきらせているねこ娘がいる。
ねこ娘「ほんともほんと、この目でちゃんとみてきたんだから！　ちょっと、水のませて、のどかわいちゃった。」
テーブルの上においてあるちゃわんに手をのばす。
目玉「あっ、それは。」
ねこ娘、一気にのみほす。
目玉、頭の上にのせているぬれてぬぐいを、あわててかくす。
ねこ娘「なに？」
目玉「な、なんでもない。」
ねずみ男「鬼太郎、ひょっとすると砂かけばあも、その中国妖怪とやらに!?」
鬼太郎「よし、この目でみてくる。丸毛、案内してくれ！」

14 郊外　奥深い山間

上空——鬼太郎と丸毛をのせた一反もめんが飛来する。
視線の先——森のきれた一画に出現している妖怪城。
丸毛「あれだよ！」
鬼太郎「!?」
鬼太郎「城の中にはいってみよう！」
一反もめん、城にむかっていく。

15 城　最上階にちかい一室

枠だけの窓からとびこんでくる一反もめん。
鬼太郎がストンと床にとびおりて、室内をみまわす。
だれもいない。
鬼太郎がそっと廊下のほうへでてようとしたときだ。
「フ、フ、フ…。」

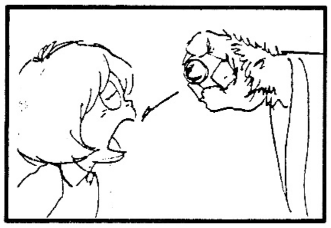


どこからともなくあざわらう声。
鬼太郎、ハッとなる。
声「気がつかないとでも思っていたのか。」
鬼太郎「だれだ！」
と、壁の中からスーッと出現した人形(ひとがた)の妖気がきえ、チーがあらわれる。
鬼太郎、ハッととびのいて、
鬼太郎「だれだおまえは!?　中国妖怪のボス、チーか！」
チー「そうだ…そういうおまえは。」
丸毛「知らねえのか、鬼太郎だ！」
チー「そうか、おまえがうわさにきく」
丸毛「鬼太郎がいるかぎり、日本でかってなまねはさせねエぞ！」
チー、ジロリと丸毛をみる。
丸毛、サッと鬼太郎の後ろにかくれる。
鬼太郎、みがまえて、
鬼太郎「おまえたちのたくらみは、全部わかっている。おとなしく日本からでていけ！」
チー「できるかな。」
鬼太郎「なにっ…腕ずくでもおいだしてやる！」
と、かみの毛針をとばす。
同時に、チーがサッと手を上下にふる。
と、指先からでたピンクの妖気が、一枚のうすい絹のふろしき状になる。毛針がそのふろしきにプスプスとささる。
鬼太郎「あっ!?　…くらえ！」
毛針攻撃をかわされた鬼太郎が、ジャンプ一番、げたキックをとばす。
チーがサッと半身になって、布を片手にもちかえ、大きくふりおろす。
と、布にあたったげたが、宙でこまのように急激回転して、ブーメランのように鬼太郎にもどって、胸を直撃。
「ウッ！」
チー「日本の妖怪はそのていどか。」
いったつぎの瞬間、口からばら色の気体（妖気）を、ヒューッとはく。
気体をあびた鬼太郎が、かなしばりになってうごけなくなる。
鬼太郎「く、くそ…。」
「よくも！」
一反もめんがとびかかっていく。
チー、手にもつ布でたたきはらう。
一反もめん、壁までとび、たたきつけられる。
「う…。」
チー、鬼太郎をじっとみて、
チー「おまえを、いま、すばらしいところに案内してやる。」
いって、サッと鬼太郎を指さす。
と、鬼太郎以外の風景がきえ、周囲が桃源郷の世界と化す。

× × ×

桃源郷の中にたっている鬼太郎。
小鳥のさえずり、せせらぎの音。
スーッと目をあけた鬼太郎が、ここはどこだといった感じで、あたりに目をやる。

Scenario シナリオ●最強妖怪軍団！　日本上陸!!



鬼太郎　「んう…」
視線のさきにたつ美しい中国娘が、くだものなどをのせた器を手に、てまねく。
鬼太郎、ちかづいていく。
娘が、ちかづいてきた鬼太郎に、器から丸薬をつまんで、ほほえみ、鬼太郎にみせる。
鬼太郎がうけとる。

× × ×

現実。さしだされているチーの手から丸薬をとった鬼太郎が、口の中にほうりこむ。
とたん、鬼太郎がカッと目をみひらき、うめいて、胸をかきむしり――バタンとたおれる。

丸　毛　「(ハッと)鬼太郎!?」
鬼太郎のからだがとけ、まだらもようの一枚の布と化す。
一反もめんと丸毛が、ギョッとなってとびのく。

一反もめん　「鬼太郎!?」
チ　ー　「フッフフフ…わたしにさからうとどうなるか、もどって仲間につたえろ。おとなしく降伏しろとな！　日本の妖怪全部にだ！」
一反もめん　「く、くそォ…。」
一反もめんがにげるように窓からとびだしていく。
寸前、丸毛が一反もめんにとびのる。

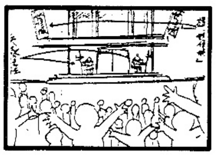
チ　ー　「フフ…。」
と、そのとき、ろうかをバタバタはしる音がして、天狗と妖犬が、「チーさま！」と、とびこんでくる。

天　狗　「早くも布の術がきいて、しもべとなった人間どもが、各地からあつまってきやした！」
妖　犬　「ごらんください。」
と、窓べへあるく。
チー、窓べへあるいてみおろす。

16 城の外
催眠術をかけられた人々が、手に手にくわ・かま・棒をもって四方からあらわれ、城にむかってくる。
ゆかた姿のユメコの姿もある。

17 もとのところ
天　狗　「(よろこんで)ケッケッケケ。」
チ　ー　「日本征服は、もう時間の問題…。(大声で)とまれ！」

18 城の外
あるいていた人々の足が、いっせいにとまる。
城の一室から顔をだしているチーの声がふりそそいでくる。



チーの声　「おまえたちは、たったいまから、わたしのしもべとなって、はたらくのだ！」
と、人々がいっせいに声をそろえ、
「チーさま、ばんざい！」「中国妖怪、ばんざい！」の歓声をあげる。

× × ×

耳にとびこむ人々の声。
満足げにみているチー。

19 城　最上階　反物保管室
まるめた布（鬼太郎）をかついではいってきた天狗が、長びつをあける。
ビッシリつまっている、色さまざまな反物。
天狗、布をおさめて、ふたをしめる。
「ケッケケッ…。」と、わらってへやをでていく。

20 暗い長びつの中
砂かけばばあの声　「だれだ、いま、いれられてきたのは。」
鬼太郎の声　「その声はおばば？」
砂かけばばあの声　「鬼太郎か!?」
鬼太郎の声　「やっぱり、おもったとおりだったか。」
砂かけばばあの声　「不覚じゃった。盆踊りをたのしみにしておったのに、このていたらく。」
鬼太郎の声　「のんきなことをいっている場合じゃないよ。ここをでる手をかんがえなくては。」
となりあわせた布が、しゃべるたびにかすかにうごく。
砂かけばばあの声　「どうあがいてもむだじゃ。だれかが外から、わしらをだしてくれんかぎり、もうだめじゃ…。」
鬼太郎の声　「くそ…。」

21 鬼太郎の家　中
子泣きじじい　「降伏しろじゃと!?」
殺気だつ子泣きじじい、呼ぶ子、ねこ娘たちの前に、もどってきている一反もめんと丸毛がいる。
ね　こ　娘　「鬼太郎までが。」
目　玉　「鬼太郎…。」
呼　ぶ　子　「ちくしょう！」
子泣きじじい　「ということは、おそらく砂かけばばあもおなじめに…。」
一瞬、沈黙がながれて、
ねずみ男　「こりゃだめだ、もうだめだ、相手のいうとおり、すなおに降伏したほうがりこうだ。」
子泣きじじい　「なんじゃと！」
ねずみ男　「おれたちの大将がやられちまったんだ。もう、勝負はきまったもおなじじゃねエか。」
ね　こ　娘　「だから、あいつらの言いなりになれっていうの！」
呼　ぶ　子　「鬼太郎は、まだ死んだと決まったわけじゃないんだ！」
ね　こ　娘　「そうよ！」
子泣きじじい　「たたかうんじゃ！　このままひっこんだとあっては、日本妖怪の恥。鬼太郎をたすけだし、とことんたたかってやる！」
呼　ぶ　子　「みんなに声をかけよう。みんなで一致団結すれば！」
子泣きじじい　「よし、きまりじゃ。」
ねずみ男　「ちょっとまってくれよ！」
一同が、ジロリとみる。
ねずみ男　「マジに、中国妖怪と一戦をまじえる気かよ！」
子泣きじじい　「いやなら、おぬしは戦列にくわわらなくてもいい。」
ねずみ男　「んな、つっぱってころされるより、家来になったほうがいいって。」
ね　こ　娘　「いくじなし～～～！」
ねずみ男にとびかかって、つめでひっかく。
ねずみ男　「あ、いて～～～！　よせ、やめろ！」
ね　こ　娘　「おまえには、プライドっていうものがないのか！」
ねずみ男　「くえないもんと金になんねえもんは、おれ、信用しねえんだ…。いて！　や、やめろ～～～！」
ね　こ　娘　「それでも男か！」
はいずってにげるねずみ男にのしかかって、ズタボロにつめを

たてていく。
目玉と子泣きじじい。

22
城ちかくの森の中

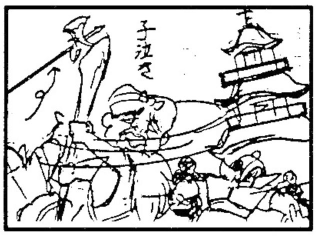
目玉「子泣きじじい」
子泣きじじい「わしはやるぞ!」
スクッとたつ。
一反もめん「みんなにしらせてくるバイ。」
あつまっている日本の妖怪たち。
はちまきをしめた子泣きじじいたちのほか、だるま、がんぎ小僧、からかさ小僧、油すましなどの顔もある。
子泣きじじい「おやじ、鬼太郎のほうはたのむぞ。」
目玉「まかせておけ。」
子泣きじじい「みなのもの、いくぞ!」
「エイ、エイ、オー!」
ときの声をあげて、一団が城にむかってかけだす。

23
城内の一室

きこえてくる日本妖怪のおたけびの中、窓べにたち、背をみせているチー。
「チーさま! 日本の妖怪が!」
天狗と妖犬が、あわただしくとびこんでくる。
チー「うろたえるな。」
妖犬「かなりの数でやんすよ。」
チー「おろかなものたちよ…いま、おもい知らせてやる!」
と、よゆうをみせる。

24
城の外

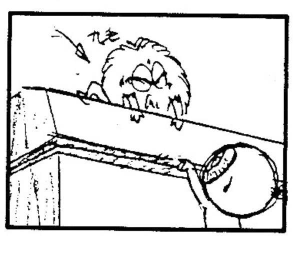
森の中から喚声をあげてとびだしてくる子泣きじじいたち。
× × ×
おなじく、城内からとびだしてくる中国妖怪。
角端獣、黒怪物、そして画皮。
× × ×
子泣きじじいたち、ハッとたちどまる。
子泣きじじい「ひるむでないぞ!」
とびだしてきたその足で、ジャンプ一番、おそいかかってくる角端獣、そして黒怪物。
宙からは巨大な顔の画皮——口をガバッとあけ、すさまじい風をふきつけてくる。
子泣きじじい、とびはね、手にした杖で、座頭市ばりに角端獣の攻撃をかわし、せめる。
だるま、呼ぶ子、ねこ娘たちにおそいかかる巨大な黒怪物。さるのように木をよじのぼったがんぎ小僧が宙にジャンプ、黒怪物にとりついてかみつくが、はらいおとされる。
同じくねこ娘。
だるま、ピョンとはねて頭つきをねらうが、厚い胸いたではじきかえされる。
宙の画皮には一反もめんがむかうが、強風にちかづけない。
双方、いりみだれてのはげしい戦闘がつづく。
その上空。
目玉「いまじゃ!」
丸毛「よし!」
からすにぶらさがった丸毛と目玉(各二羽ずつ)が、城にむかっていく。



とびこんでくる目玉と丸毛。

25
最上階　反物保管室

丸毛「このあたりにちがいない。」
目玉「鬼太郎! …鬼太郎〰〰!」
鬼太郎の声「ここだ。父さん、この中だ!」
目玉「ん?」
へやのすみに黒ぬりの大きな長びつがある。
丸毛と二人でかけよる。
丸毛は、ピョンとふたの上にとびのる。
目玉は、必死にふたまではいあがる。
二人でふたをあけようとするが、ふたは重たく、ビクとももちあがらない。



砂かけばばあの声「おやじ、たのむぞ!」
目玉「(ハッと)砂かけばばあ!? おぬしもおるのか!…まっておれ。うー〰〰ん!」
力をいれるが、ふたがすこしうきあがるだけ。
丸毛「だめだ、おれっちたちの力じゃ。」
目玉「手をかしてくれ!」
宙にういているからすに声をかける。
(この間、城外からの戦闘音声がずっときこえている。)

26
城の外

苦戦をしいられている子泣きじじいたち。
防戦だけでせいいっぱいである。
城門の前。
両手首を服のそでの中にいれたまま、よゆうで戦況をみまもっているチー。
その両側に、天狗と妖犬。
「うわア!」
風にとばされてきた一反もめんが、城壁にたたきつけられて、力なく天狗たちのそばにおちる。
天狗「ケッケケ。布になってるとは、てまがはぶけていいや。」
妖犬と二人でタオルをしぼるようにして両端をもち、よったびもにしていく。
「ウ〰〰ッ!」と、一反もめんの悲鳴。
だるまがなげとばされ、チーの前にころがってくる。
おなじくがんぎ小僧。
チー、あえぐ二人の口に、サッと丸薬をとばしてなげいれる。
二人のからだがとけはじめる。

27
城内　反物保管室

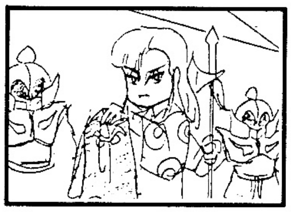
目玉と丸毛が箱の中(ふたはあいている)をのぞきこんでいる。
目玉「鬼太郎!」
鬼太郎の声「外のあの声は?」
目玉「子泣きじじいたちじゃ。」
丸毛「おやじさん、全部はこびだすのはむりだぜ。」
目玉「そうじゃな。とりあえず鬼太郎と砂かけばばあを…ほかのものはすまんが、まってくれ。」
「気にするな!」
「それより、あの中国の妖怪を!」
何人かの声が長びつの中からする。

丸　　毛「いそごう！」

28
城の外（森にちかいほう）
後退をよぎなくされている子泣きじじいたち、生存者。
子泣きじじいのわきに、ねこ娘がかけよってきて、
ねこ娘「一反もめんたちがつかまったわ！」
子泣きじじい「くそっ……ん？」
上空。二羽ずつにわかれたからすが、二つの反物をつりさげてとびだしてくるのがみえる。
子泣きじじい「退却！　ひけ、みなのもの。いったんひくんじゃ！」
と、森の中ににげこんでいく。
つづく呼ぶ子、ねこ娘たち――。

×　　　×　　　×

城門の前。
何枚もの布ができ、ひろがっている。
ユメコたち人質が、無言でそれをみている。
チー、ユメコたちに、
チー「たたんで、中へしまっておけ」。
ユメコたちがはじけて、布をまるめはじめる。
チー、ニタッとほくそえむ。
角端獣（かくたんじゅう）、画皮（がひ）たちがもどってくる。
チー「よくやったぞ……中にはいってうまいものでもたべておれ……」。



29
森の中
おりたっている目玉たち。
ガサガサ音（おと）がして、子泣きじじいたちがかけこんでくる。
子泣きじじい「鬼太郎はぶじか！」
砂かけばばあの声「わしもじゃ！」
子泣きじじい「砂かけばばあ？」
砂かけばばあの声「みたとおり、このざまじゃ」。
ねこ娘「どうすれば、もとの姿にもどれるの？」
子泣きじじいたち、目玉をみる。
呼ぶ子「おやじ！」
目玉「（ハッと）そうじゃ、井戸仙人（いどせんにん）じゃ」。
ねこ娘「井戸仙人？」
目玉「中国の妖怪にくわしいお人でな、古井戸の中に、もう千年以上もむかしから、メタンガスだけをすっていきておられる仙人じゃ」。
子泣きじじい「よし、わしがよんでくる」。

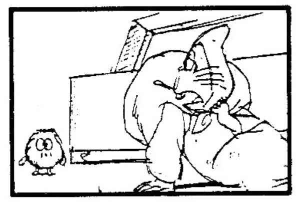
30
ある野原
雑草がおいしげる中に、こけむした古井戸がある。
「だれじゃア、わしをよぶのはア」。
井戸の中から声がひびいて、
奇怪な風貌をした井戸仙人が、ヌーッと姿をみせる。
子泣きじじいがいる。
子泣きじじい「井戸仙人、たのみがあるんじゃ」。

31
城門の前
天　　狗「保管室へはこびこめ！」
ユメコたちととらわれの人々が二人一組になって、まいた反物を城の中にはこびこんでいく。
みまもっている天狗と妖犬。
天　　狗「売りものだからな、だいじにあつかえよ！」
と、一方から白旗（ふんどしを棒につけた）を手にしたねずみ男が、ヘラヘラちかづいてくる。
ねずみ男「遠路はるばるごくろうさまでございます」。
妖　　犬「なんだ、きさまは！」
天　　狗「やつらの仲間だな」。
ねずみ男「べつ、べつ！　あんな礼儀を知らないやつらといっしょにしないでくださいよ……。（白旗を指さし）これ、わかりますよね、万国共通ですから……ほんと、みなさんがきてくれるのを首を長くしてまってたんすよ……。（大声で）中国妖怪ばんざい！」
天狗と妖犬、いぶかしげにみかわす。

32
城内　チーの居室
豪華な中国の調度品が配置されている。
チーが箱からだしたつぼをならべる。
「いてて、ぼ、暴力はいけませんや！」
天狗と妖犬に連行されてきたねずみ男が、チーの前にほうりだされる。
チー「？（と、みる。）」
妖　　犬「チーさまのもとではたらきたいと、投降してきた日本の妖怪でやんす」。
チー「妖怪？」
ねずみ男「ねずみ男というケチなやろうでございます……先生のもとではたらけるなら、日本の支部長でもなんでも、もうよろこんで、ハイ」。
チー「（ジッとみて）……いいだろう」。
ねずみ男「あっしを支部長に!?　ありがとうござんす！」
と、床に顔をすりつける。
チー「反物管理室のみはりとしてだ」。
ねずみ男「みはり？　……てェいいますと、つまり番兵ってことに？」
チー「案内してやれ」。
天　　狗「へい……」。
ねずみ男「トホト……」。
ショボンとなる。

33
森の中　目玉たちのところ
布（鬼太郎）を手にとり、みている井戸仙人。
子泣きじじい、目玉たちが、井戸仙人のへんじをまつ。
井戸仙人「だいじょうぶじゃ……もとの姿にもどれる」。
ねこ娘「（パッと）どうすればいいの！」
井戸仙人「この布を水にひたし、どくだみの葉の汁をかけてもみあらいし、かわかせば、もとの姿になる」。
目　　玉「ありがとう、井戸仙人」。
井戸仙人「しかし、とんでもないやつらだ……」。
呼ぶ子「さ、いそいでいわれたとおりにしよう！」
目　　玉「丸毛、おぬしはほかのものがどうなっているか、もう一度、城にしのびこんでみてきてくれ！」
丸　　毛「OK！」

34
城内　反物保管室
長びつの上で一人、ゴロッとあおむけにねそべっているねずみ男。なにかをひらめいて、ガバッとはねおきる。
ねずみ男「そうだよ〜〜！　ここにはいってる反物をかっぱらって売りさばけば、ガッポガッポじゃねエか……みはり番なんて、あほらしくてやってられるかい！」
ダッと戸口まではしり、ろうかにだれもいないことを確認し、



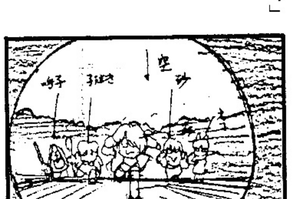
ひきかえしてくる。
そして、あわただしく長びつのふたをあけるや、いちばん上の反物を床にふろしきがわりにおき、反物をつぎつぎととりだす。
そこへ、窓からからすにぶらさがった丸毛がとびこんできて、

丸　毛「ねずみ男!?　…なにやってんだ!」
ねずみ男「(ハッとみて)お、おどかすない…なにやってるか、みりゃわかるだろ!　これもいただいていくか。」
反物を全部だしたうえに、ちかくにあったびんやら小物類までほうりこんで、ふろしきをしばる。
丸　毛「まさか売りさばく気じゃ?　…その布はみんな仲間だぞ!」
ねずみ男「布にされたんじゃ、もう、どうしようもねエよ。」
丸　毛「鬼太郎がもとの姿にもどって、まもなくここへせめてくる!」
ねずみ男「(ギョッと)生きかえったのか?　やべえ!」
ふろしきを首にとおし、せおってへやをとびだそうとしたときだ。
目の前にフワッと人形(ひとがた)の妖気があらわれて、チーが出現する。
ハッとなるねずみ男。
丸毛、サッとものかげにかくれる。
チ　ー「なにをしている。」
ねずみ男「いえ、あの、そのですね…先生のかわりに、これを売りにいこうと。」
チ　ー「わたしは、そんなにあまくはない。」
ねずみ男「え?」
チー、荷物をもとのところへもどせと、指でしめす。
ねずみ男「わ、わかりやしたよ。」
と、そのときだ。窓からくしゃみの精がとびこんできて、
くしゃみの精「チーさま、たいへんです!　みんなで鬼太郎を生きかえらせています!」
チ　ー「なんだと!?」
ねずみ男「(ごまをすり)こまったもんすね。」
チ　ー「そこにはいってろ!」
ねずみ男「あ〜〜〜!」
ふたのあいている長びつの中に、ふろしきをせおったままのねずみ男をたたきこんで、ふたをしめ、かぎをかける。チー、それがおわるや、かたわらにおいてあった遠眼鏡(とおめがね)をつかんで、窓べへ。
「だ、だしてくれよォ〜〜〜!」
長びつの中であばれるねずみ男の声。
丸毛がサッと長びつのところへとびでてきて、中に声をかける。
丸　毛「(小声で)しずかにしていろ。」
と、あたりをキョロキョロ。
棚の中に木槌(きづち)があるのに気づく。
丸　毛「(小声で)チャンスをみて、かならずだしてやる。」
と、長びつの中に声をかける。

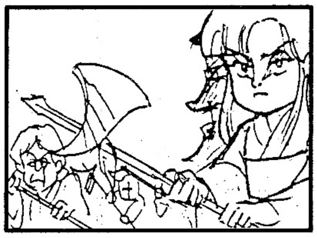
35　森の中　川のほとり
たおれている鬼太郎と砂かけばばあが、スーッと目をあける。
ちかくにいた呼ぶ子が、一方に大声で、
呼ぶ子「鬼太郎とおばばが気がついたぞ!」
森の中から子泣きじじいたちがとびだしてくる。
たちあがった鬼太郎が、遠眼鏡のフレームになって、

36　反物保管室　窓べ
チーが遠眼鏡から顔をはずして、
チ　ー「なぜ、わたしの術が!?」

37　森の中　川のほとり
鬼太郎、砂かけばばあをかこんでいる一同。
鬼太郎「そうか、一反もめんたちも…。」
目　玉「丸毛がもどってきたら、どうなっとるかはっきりする。せめるのは、それからじゃ!」
鬼太郎「井戸仙人、たたかうまえに、ボスのチーというやつの正体を知っておきたい。やつは何者なんです。」
仙　人「でてきたついでじゃ。よかろう、わしの万能ガラス玉で透視してしんぜよう。」
ふところからとりだしたガラス玉に手をあててこする。
そっと手をはずしたときだ、のぞきこんでいた鬼太郎たちの顔がハッとなる。
鬼太郎「これは!?」
(ガラス玉はみせない。)
目　玉「そんなばかな!?　仙人、悪のかぎりをつくしたこいつは、そのむかし、日本にわたってきて、武将に殺されたはず。」
井戸仙人「あれは姉。こいつは、その武将にほうむられた姉の弟じゃ。」
鬼太郎「えっ!?」
一同が仙人をみる。
井戸仙人「わかったぞ、チーは日本でころされた姉のふくしゅうにやってきたのだ。」
鬼太郎「ふくしゅう!?」
井戸仙人「チーの姉は、那須高原の殺生石と化した…そのふくしゅうにきたのにまちがいない。」
鬼太郎「(ハッと)那須高原!?」
よみがえるユメコの声。
ユメコの声「(エコー)…とても安い布地を売っていたので、ママがそれを買い、わたしのゆかたをつくって(リフレーンし)、わたしのゆかたをつくって…。」
鬼太郎「!?」
目　玉「どうしたんじゃ?」
鬼太郎「まさか、ユメコちゃんは!?」
つぎの瞬間、鬼太郎がダッとかけだす。
ねこ娘「鬼太郎〜〜〜!」
子泣きじじい「丸毛のやつ、いくらなんでもおそすぎる。なんかあったんじゃ!」
呼ぶ子「いこう、おれたちも!」
砂かけばばあ「人をのしいかにしおって。礼はさせてもらうぞ!」
目玉、みんなをおおうとして、
目　玉「仙人!」
井戸仙人「わしゃ、かえってねる。」
×　×　×
城にむかってはしる鬼太郎。
ねこ娘たちがおっていく。



38　反物保管室
チ　ー「鬼太郎め、思い知らせてやる…。」
片手にもつ半紙に、筆でサラサラと妖神(竜)の絵をかいているチー。



それをジッと見ている丸毛。

×　　×　　×

チーがかきおえた妖神の絵に、ばら色の息をはきかける。

と、どうだ――その絵が床にぬけでて実体化し、咆哮。

みるみる巨大化していく。

×　　×　　×

39　城の外

丸　　毛「あっ!?」

喚声をあげてせめこんでいく鬼太郎たち。

同時に城の中から、角端獣、画皮、黒怪物がとびだしてくる。

鬼太郎「どけ！」

ジャンプ一番、角端獣に急降下キックをみまっていく。

間髪を入れずおそってくる黒怪物。

鬼太郎、かみの毛針をとばし、さらには呼び笛をむちにして攻撃していく。

子泣きじじい「つづけ！」

砂かけばばあが、棒を手につづく。

子泣きじじいたち、いきおいをえて攻勢に転じていく。

鬼太郎、宙から急降下してきた画皮にむちをひっかけ、宙ぶらりんとなって半転、

あざやかな身のこなしで画皮にとりつき、はずしたむちでたたきつける。

その鬼太郎の顔がハッとなる。

×　　×　　×

城門の前。中からとらわれの人々が、手に手に棒きれ・かま・くわをもってとびだしてきて城門をかため、侵入しようとした子泣きじじいたちをおいはらう。

その中に、棒を手にしているユメコ。

それらの人々を指揮する天狗。

「一人たりとも入れるな！」

×　　×　　×

鬼太郎「ユメコちゃん!?　……よし！」

鬼太郎、画皮にはげしくむちをうつ。

宙であばれる画皮が、バランスをくずして地上に激突。

寸前、鬼太郎がとびおりて城門にむかってはしる。

「ユメコちゃ～～～ん！」

そのときだ。

あたりが一瞬暗くなって、雷鳴と閃光。

鬼太郎がハッとたちどまってあおぐ。

と、城内から巨大な妖神があらわれ、鬼太郎にむかって降下してくる。

「あ～～～！」

城門とは反対方向にはしってふせる。

その頭上すれすれのところを、妖神が咆哮をあげて通過。

すぐに反転して、長い舌をヌーッとだして鬼太郎をねらってくる。

「鬼太郎！」

合流してくる子泣きじじいたち。

「はなれていろ！」

鬼太郎、ちゃんちゃんこでむかってくる舌をはらい、胸にとびつこうとするが、しっぽではたかれ、地面にたたきつけられる。

その鬼太郎をめがけ、妖神がなおも攻撃してくる。

鬼太郎、ころげながらちゃんちゃんこではらう。

だが、長いからだでうごかれ、歯がたたない。

「あの中だ！」

鬼太郎、森の中にダッとかけこんでいく。

妖神が木をバリバリなぎたおしておっていく。

鬼太郎、太い木のあいだを右に左へとにげる。



×　　×　　×

おなじく森の中。

ひとかたまりとなってにげる子泣きじじい、砂かけばばあたち。呼ぶ子の肩の上に目玉。角端獣がおっていく。

40　城内　チーの居室の窓べ

森の上空にみえがくれする妖神をみているチー。

チ　　ー「たおせ。こうなったら、一人のこらずみな殺しにしろ！」

「たいへんでガス！」

妖犬が血相を変えてとびこんできて、

妖　　犬「長びつがこわされ、反物が全部、ぬすまれました！」

チ　　ー「なんだと!?　おえ。おって、とりもどせ！」

41　城門

中からとびだしてくる天狗、妖犬、そして山魈。

「あそこだ！」

大きなふろしきづつみをせおったねずみ男と、その荷物の上でひもにされた一反もめんをくわえた丸毛が、森にとびこんでいくのがみえる。

三人がおう。

×　　×　　×

はしってにげるねずみ男。

ねずみ男「恩にきるぜ！　これ売ってかせいだら、わけまえをやるからな！」

後ろをふりかえっている荷物の上の丸毛。

丸　　毛「いそげ。いそげ！」

手にしたひも（一反もめん）を、うまのたづなのようにねずみ男の首にかけて後方をふりかえったときだ。

丸　　毛「あ～～～！」

はりだしている枝にからだをぶつけて、荷物の上からとばされ、草むらの中におちて目をまわす。そのすぐちかくを、天狗たちがねずみ男をおってかけぬけていく。

42　森の中

ダッと来た角端獣が、相手をみうしなってたちどまる。

と、つぎの瞬間、

「エ～～～イ！」

つるにつかまったねこ娘が、ターザンのようにあらわれて、角端獣をける。

もんどりうつ角端獣。

と、そのたおれたすぐそばの木の上から、子泣きじじいがストンととびおりてきてのしかかる。

そのあまりの重さに、角端獣が地面の中にめりこんでしまう。

「くらえ！」

砂かけばばあが、指でバッと砂をかけてうめてしまう。

「こっちだ！」

子泣きじじい、ねこ娘が一方へにげる。
かくれていた呼ぶ子たちが、とびだしてきておう。

× × ×

森の中、べつなところ。
かけこんできた鬼太郎が、サッと太い木にはりつく。
と、その姿が木と同化して、わからなくなる(カメレオンの術)。
木をなぎたおし、おってきた妖神のうごきがフッととまる。
鬼太郎をみうしなったのだ。
妖神、森の奥へとむかって姿をけす。
鬼太郎が術をといて、もとの姿にもどる。



鬼太郎「あぶなかった……」
そのとき、いくつもの足音がして、
「鬼太郎〜〜〜!」
はしる子泣きじじいたちが、鬼太郎に気づいてかけよってくる。
鬼太郎「ぐずぐずはできない。はやくあいつをたおして、ユメコちゃんたちをたすけださないと。」
目玉「ユメコちゃん?」
鬼太郎「とらわれているのを、この目ではっきりとみたんです!」
目玉「そうか。」
「まて!」
ねずみ男が天狗たちにおわれて、ちかくにあらわれる。
鬼太郎「ねずみ男!?」
ダッとかけだし、天狗たちの前へとびだす。
ギョッとなる三人。
つぎの瞬間、とびかかってくる妖犬。
だが、鬼太郎になげとばされる。
かけつける子泣きじじいたち。
「タァ!」
砂かけばばあが天狗にとびけりをみまう。
着地と同時に、ねこ娘にタッチ。
ねこ娘「もう一つおまけに!」
たとうとした天狗に、さらにとびけりをみまう。
「あ〜〜〜!」
おそれをなした天狗と山魈(さんしょう)がにげだす。
妖犬があわてておい——きえる。
息をきらし、ふらついているねずみ男。



ねずみ男「あ〜〜〜……へとへと。」
子泣きじじい「丸毛をみなかったか。」
ねずみ男、背中を指さして、
ねずみ男「一反もめんといるだろ。」
子泣きじじい「一反もめん? ……このひもか!?」
ねずみ男「もうだめ……。」
かついだ荷物の重さにたえかねて、前へドテンとたおれる。
後頭部にずれてきた荷物に、ねずみ男の顔が地面にめりこむ。
子泣きじじい「鬼太郎、一反もめんじゃ!」
鬼太郎「一反もめん!?」
かけよってきて、ねずみ男の首にかかっているひもをぬきとってほどく。
子泣きじじいが手をかす。
「フウ……。」
一反もめんが息をふきかえす。
鬼太郎「だいじょうぶか?」
一反もめん「くるしかったですたい。」
鬼太郎「よし、一反もめんさえもとどおりになってくれれば。」
目玉「勝てる自信はあるのか。」
鬼太郎「あいつのからだにとびうつれさえすれば、なんとか。」
ねこ娘「(ハッと)きたわ!」
妖神がもどってくる。
一反もめん「鬼太郎、のれ!」
鬼太郎がとびのるのと同時に急浮上。
ふせる子泣きじじいたち。
せまってきた妖神が、おって急上昇。

× × ×

森の上空。
一反もめんをおう妖神。
一反もめんが旋回、移動してかわす。
とびうつるタイミングをまつ鬼太郎。
だが、妖神がからだをくねらせ、なかなかチャンスができない。



43 城の外 城門付近

天狗たちの指揮のもと、棒などを手にしたとらわれの人々が、城門をまもっている。
それをさらにまもる、画皮、黒怪物。
鬼太郎たちの再攻撃にそなえた布陣だ。
あおいでいる妖犬たち。
妖犬「たたきおとしてやれ〜〜〜!」

44 森の中

草むらの中にたおれている丸毛が、気絶からさめ、ブルッと頭をふる。
「タァ〜〜〜!」
上空からきこえてくる咆哮。
あおいだ丸毛がハッとなる。
苦戦している鬼太郎がみえる。

× × ×

「あ〜〜〜!」
宙をとび、妖神にとびうつろうとした鬼太郎が、スルッとかわされ、しっぽで大きくたたかれる。
鬼太郎が森の中へ落下していく。

× × ×

「鬼太郎!」
地面にたたきつけられた鬼太郎のもとに、丸毛がかけよって、
丸毛「あいつは紙だ!」
鬼太郎「丸毛?」
丸毛「紙でできてるんだ。」
鬼太郎「えっ!?」
丸毛「チーが紙にかいているのをみたんだ。そしたら、その絵が本物に!」
鬼太郎「そうか、紙の精をつかって妖神をよみがえらせたのなら、紙の精をやっつければいい……(パッと)火だ、火をつかえばいい!」
丸毛「そうか!」
鬼太郎「よし、火の妖怪をあつめるぞ!」
呼び笛をだしてふく。

シナリオ●最強妖怪軍団！　日本上陸!!

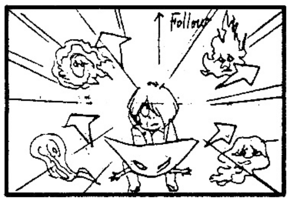
「鬼太郎！」
一反もめんが妖神におわれて急降下してくる。
鬼太郎がサッととびのって、
鬼太郎「たおす手がわかった！」
一反もめん「えっ？」
鬼太郎「ぼくにまかせておけ！」

45　森の上空
一反もめんの上の鬼太郎が、ちゃんちゃんこをまるめてたいまつのかわりに棒状にする。
鬼太郎「こっちだ！」
四つの火の妖怪が接近してくる。
つるべ火、天火、うばが火、くらげの火の玉。
鬼太郎「火をくれ！」

46　城内　チーの居室　窓ベ
ハッとなるチー。
チー「まずい！（大声で）画皮、やつらをおいはらえ！」

47　空
せまる妖神からにげる一反もめん。
鬼太郎のもとに火の妖怪たちがちかづき、鬼太郎がちゃんちゃんこ棒に火をつけようとしたときだ。
浮上してきた画皮が、火の妖怪たちを風でふきとばす。
鬼太郎「あっ!?」
妖神が鬼太郎をねらってくる。
一反もめん、あやうくかわす。
火の妖怪たち、それぞれ妖神に体あたりしようとするが、画皮の風にじゃまされ、ちかづけない。
鬼太郎も風にあおられる。

48　森の出入口付近
丸毛をかこんでいる子泣きじじいたち。
ねこ娘「紙でできてるっていうの？」
丸毛「そうだよ！」
目玉「それで鬼太郎は、火の妖怪を」
と、あおぐ。



49　空
つるべ火「みんなあつまれ、一つになるのだ！」
ちっていた四つの火の妖怪が、一か所にあつまって合体。
つるべ火「鬼太郎！」
一つにとけあった火の玉（純粋な火）が、まさに火の玉となって、鬼太郎にとぶ。
風の中を矢のようにとんだ火の玉が、鬼太郎のもつちゃんちゃんこ棒の先にとりつく。
鬼太郎「みていろ！」
もえるたいまつを手にした鬼太郎が、妖神にたちむかう。
鬼太郎「くらえ！」
むちをふるように、大きくちゃんちゃんこ棒をふりおろす。
と、先端についていた火の玉だけが、フルスピードで宙をはしって、妖神のからだに命中する。
と、どうだ！
妖神のからだにボーッと火がつき、炎につつまれていく。
炎の中からぬけでた四つの火の玉が、それぞれもとの姿になる。

チー「ギー!!」
炎につつまれた妖神が、すさまじい悲鳴をあげ、くるったように身もだえしてあばれ、仲間の画皮にぶつかり、たたきおとす結果になる。その画皮が、さらに地上の黒怪物に激突。
黒怪物がたおれる。
ちかくにいたユメコたちが、にげてふせる。

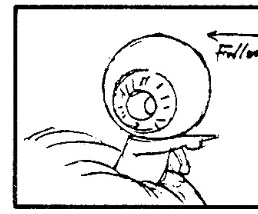
×　×　×

子泣きじじいたちのところ。
ねこ娘「やったア。やったわ！」



50　城内　チーの居室
けわしい表情のチー。
チー「鬼太郎、こんなことで勝ったと思うなよ〜〜〜！」

51　城の外　城門付近
「ユメコちゃ〜〜〜ん！」
一反もめんからとびおりた鬼太郎が、かけだしたときだ。
すごい地鳴りがして、足をとられる。
たっていられないほどになったときだ。
鬼太郎「あっ!?」
妖怪城がゴーッとうなりを上げ、地下にしずみはじめる。
城門付近にいたユメコたち、悲鳴をあげて四方ににげだす。
「ユメコちゃん！」
その姿を人ごみの中にみうしなう。
天狗たち、城にとびこもうとして、地面とのあいだにできたすきまに落下する。
「あ〜〜〜！」
鬼太郎、危険を感じてあとずさる。
そのわきに、子泣きじじいたちがかけよってくる。
子泣きじじい「にげたぞ。わしらの勝ちじゃ！」
鬼太郎「まて！」
砂かけばばあ「な、なんじゃあれは!?」
一同、ギョッとなる。
城のほとんどが地中にしずんだとき、上空にむかってはしる九つの炎。
その一つ一つにちがった顔があらわれる。それらの顔がぶきみにわらって、輪となって宙空でグルグルまわる。
やがて九つの顔が中心部にあつまり、一つとなって――ばら色のかたまり（妖気）になる。
その妖気の中から姿をあらわす九尾のきつね。
子泣きじじい「九尾のきつねじゃ。」
鬼太郎「本性をあらわしたな！」
宙にういていた九尾のきつねが急降下、笑い声とともに着地。
チーの声「鬼太郎、わたしの最後の術をうけてみろ！」
とたん、ふたたび妖気につつまれて姿をけす。
が、つぎの瞬間、ばら色の気体がそのあたりからちりひろがり、ドライアイスのようになって、鬼太郎たちにむかってくる。
ハッとなる鬼太郎たち。
鬼太郎「な、なんだこれは!?」
目玉「毒気じゃ！　つつまれたら最期じゃ！」
鬼太郎、ギョッとなって後退――。
鬼太郎「ユメコちゃん！」



52
森の中

目玉の声　あたりをせわしなく目でさがす。
「鬼太郎、にげるんじゃ！」
鬼太郎、ふっきってみんなをおい、森の中へ。
はしってにげる鬼太郎たち。
地面でうつぶせにたおれていたねずみ男が、あわただしい足音に顔をあげて、ん？　となる。
ちかくをかけぬける鬼太郎たちをおうように、けむりがかなりのスピードでせまってくる。

ねずみ男　「なんだ、このけむりは？」
おきようとしたとき、はしってきたねこ娘が、知らずに顔をふみつけていく。

ねずみ男　「あたァ〜〜〜！」
ねこ娘が気づいて、ふりかえる。

ねこ娘　「そのけむりあびたら、あの世いきよォ〜〜〜！」

ねずみ男　「あの世いき!?　じょ、じょうだんじゃねえよ！」
ふろしきづつみを首からはずしてにげようとするが、なかなかほどけない。
せまってくるけむり。

ねずみ男　「ま、まってくれよ！」
かけだしたとたん、大きな荷物がクルッと胸のほうにまわってくる。

ねずみ男　「どけよ、前がみえねえよ！」
後ろへ手ではらいのけて、悪戦苦闘——こけつまろびつにげる。

×　　×　　×

起伏にとんだ岩場地帯。にげる鬼太郎たち——。

×　　×　　×

来た鬼太郎たちが、ハッとたちどまる。
ゆくてが、そそりたつがけになっている。

鬼太郎　「いきどまりだ！」
鬼太郎、サッとふりかえる。
おってきているけむり。

鬼太郎　「こっちだ！」
さけんで、一方へかけだす。
と、そのゆくてからもけむりがあらわれる。
鬼太郎たちを包囲するように、せまってくるけむり。



「たすけてくれ！」
ねずみ男が合流してくる。

ねずみ男　「おい、鬼太郎たち、がけを背にしてにげ場をうしなう。

鬼太郎　「おまえがしょっているのは、ぼくたちの仲間、しっかりまもってやれよ！」

ねずみ男　「はずしてェんだけどよ、むすびめが首んとこにくいこんじまって（と泣き声）」。

ねこ娘　「鬼太郎！」

鬼太郎　「……!?」
けむりは、あと数十メートルとせまってきている。
「鬼太郎〜〜〜！」
一反もめんと、それにのった丸毛がとんでくる。

一反もめん　「みんな、のるバイ！」

鬼太郎　「全員はむり。二回にわけよう！　さ、いそげ！」

ねずみ男　「おれものっけてくれよ！」

鬼太郎　「おまえはぼくとあとからだ。ねこ娘、いそげ！」

ねずみ男　「ちょっと！」

ねこ娘　「レディーファーストってことば、知らないの！」

ねずみ男　「生きるか死ぬかってエときに、レディーファーストもセカンドもあるか！」
のろうとするが、ねこ娘が一反もめんの上から、ガオッとつめをたてる。
ねずみ男、のれない。

鬼太郎　「父さんも、いそいで！」

目玉　「わしはあとでいい。さ、おばば、いそげ！」

砂かけばばあ　「レディーファースト、失礼！」
ねずみ男をふみ台にして、一反もめんにのる。

鬼太郎　「一反もめん、いってくれ！」

一反もめん　「すぐもどってくるバイ！」
子泣きじじい、砂かけばばあ、呼ぶ子、ねこ娘をのせて、急浮上していく。のこる鬼太郎、目玉、ねずみ男。



目玉　「最後まであきらめちゃいかんぞ！」

鬼太郎　「負けませんよ！」
けむりは十メートルとちかづいている。
「たすけてくれよ〜〜〜！」
ねずみ男、ぶざまなかっこうで、必死にがけをはいあがっている。
が、垂直にちかく、よじのぼるのはむりだ。
「あ〜〜〜！」
ドスンと地面にころげる。と、そのとき、ふろしきづつみの中からいくつものびんがこぼれでて、そのいくつかのふたがあいてころげていく。中からとびだしてくる丸薬。
鬼太郎、ちゃんちゃんこでけむりを必死にはらいもどそうとうごく。けむりがせまり、鬼太郎の周辺だけ空間ができるかたちとなる。

鬼太郎　「一反もめん、いそいでくれエ！」
「鬼太郎〜〜〜！」
と、みんなをおろしてきた一反もめんが、急降下してくる。

鬼太郎　「ん？」
けむりのうごきがピタリとやみ、きえていく。

目玉　「どういうことじゃ!?」
きた一反もめんも、みんなをのせるのをわすれてみる。
潮がひくようにきえていくけむりのあとから、いくつものびんがあらわれる。

鬼太郎　「ねずみ男、おまえがもちだしてきたのは反物だけか！」

ねずみ男　「まわりにあるもの、かたっぱしから……あのびんもおれが」。

鬼太郎　「父さん、チーが術をつかうのにつかっていた薬かもしれませんよ」。

一反もめん　「布だ！」
鬼太郎と目玉が、えっ!?　となってみる。
けむりが、霧がはれるように周辺から完全にきえると、地面に一枚の大きな布地がひろがっている。

鬼太郎　「なんだ、この形は……」。

×　　×　　×

鬼太郎たちが背にしているがけの上。
えっ!?　とみおろしているねこ娘たち。
眼下——九尾の白ぎつねがうつぶせにひろがった形の白布がみえる。

×　　　×　　　×

目　玉「しっぽが九つ……九尾のきつねじゃ。」
鬼太郎たちがその布にちかづいたときだ。
森の中から喚声があがり、手に棒などをもったとらわれの人々がとびだしてくる。
「チーさまをまもれ！」
人々、森をでてきたところでとまる。
その中にユメコの姿がある。
鬼太郎「ユメコちゃん！」
鬼太郎がむかってかけだしたとき、地面にひろがっていた白布が、もそもそとうごく。
鬼太郎「あァ!?」
チーの声「(悲痛に)鬼太郎……わたしの負けだ……。」
うごきがとまって、もとどおりになる。

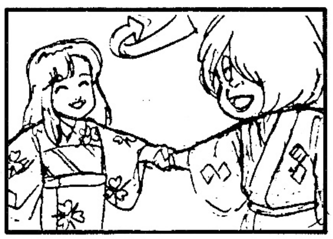
×　　　×　　　×

と同時に、催眠をかけられていた人々が、ハッとわれにかえる。
ユメコ、自分が手にしている棒をみて、おどろいて手ばなす。
サッと一方をみて、
ユメコ「鬼太郎さん!?　…鬼太郎さ〜〜〜ん！」
鬼太郎にむかってかけだす。

×　　　×　　　×

鬼太郎の前にかけよってくるユメコ。
鬼太郎「よかった、ぶじで。」
ユメコ「わたし、なにをやってたの？」
鬼太郎「みんなこの九尾のきつねのしわざだよ。」
ユメコ「九尾のきつね？　…（ハッと）わたし、この九尾のきつねのいわれがある殺生石をみてきたばかりよ！」
鬼太郎「チーはおそらく、そこへあつまっている観光客にも、妖怪でつくった反物を売ったんだ。」
ユメコ「ええ、中国人が安く売ってたの。それをママが。」
鬼太郎「その、売ってた男の正体が、こいつだよ。」
ユメコ「え？」
と、布地をみる。
その布地が地面にしみこむようにきえて、跡形もなくなる。
ねずみ男「中国妖怪がくたばったとなりゃ、盆踊り大会はひらけるってわけね…へ、へ、金もうけはそっちで」
と、ほくそえむ。
鬼太郎とユメコのところ。
ユメコ「この服をぬぐって？　いまここで？」
鬼太郎「この布地は妖怪。もとどおりにしてやらないと、また、なにがおこるか。」
ユメコ「いいわ。むこうむいてて。」
そのとき、一反もめんがとんできて、ゆかたをぬごうとするユメコをかくす。
一反もめん「おいどんでよければ。」
ユメコ「ありがとう。」
ユメコの足もとにおちるゆかた。
ユメコ、一反もめんをからだにまいていく。
一反もめん「いい感じでごわすバイ。」
「鬼太郎！」
と、砂かけばばあがきて、
砂かけばばあ「ぬりかべたちをもとどおりにしたら、はやいとこもどって、盆踊りのしたくじゃ！」
鬼太郎「(ニコッと)ようし、ことしは盛大にやるぞ！」
〝鬼太郎音頭〟のイントロがながれだして、

53　盆踊り大会会場（墓場の広場）
夜の闇の中に、色とりどりのちょうちんのあかりが美しい。
やぐらの上——子泣きじじいが音頭にあわせてたいこをたたいている。
おどる砂かけばばあ、だるまとそのむすこたち。
そして呼ぶ子、ねこ娘、さらに井戸仙人。
やぐらの下——真新しいゆかたを着たユメコが、鬼太郎とならんでおどっている。
ユメコ「このゆかた、ママが一晩でつくってくれたの！」
鬼太郎「すてきだよ、とっても。」
二人のすぐ後ろを、小さいコンビの目玉と丸毛がおどっている。
みなれた妖怪のほか、人間のおとな、子どももおおぜいつめかけ、まざりあって、たのしげに踊りの輪をひろげている。
踊りの輪の外。
ぬりかべが胸に的をかき、子どもたちにボールをぶつけさせている。
ちかくには屋台がならんでいる。
金魚つり、綿あめ、かき氷、やきとうもろこしの屋台など。
それらの店を、ねずみ男がただ一人でとりしきっている。
「綿あめちょうだい！」
「おじさん、氷まだかよ！」
「はやく金魚つらしてよ！」



ねずみ男「はい。はい、はい！」
右へ左へと屋台のむこうで、めまぐるしく移動する。
とうもろこしへはしったかと思えば、あつくて手をはなし、そのあいだ、まわりっぱなしの綿あめ機からは、綿あめがあふれでているというありさま。
「あっ、いけねえ！」
はしったとたん、コードにつまずき、金魚つり池の中につんのめる。
「キャア！」
水をあびるゆかた姿の子どもたち。
おどる鬼太郎、その肩に目玉。
鬼太郎「よかったですね、みんな、こんなにたくさんきてくれて！」
目　玉「妖怪と人間が共存共栄する、それがいちばんいいことなんじゃ。」
鬼太郎「そうですね！」
鬼太郎、ユメコたち(星郎もいる)、いつまでもおどりつづける。
妖怪、人間——だれの顔もあかるい。
〝鬼太郎音頭〟が、夏の夜にいつまでもひびきわたって——。

——おわり——

鬼太郎 最新コレクション

曲名	作詞	作曲	編曲	歌
ゲゲゲの鬼太郎	水木しげる	いずみたく	野村　豊	吉　幾三
おばけがイクゾ〜〜	吉　幾三	吉　幾三	野村　豊	吉　幾三
燃えろ！　鬼太郎	森雪之丞	小林亜星	川崎真弘	戸田恵子
目玉オヤジの数え歌	冬杜花代子	川崎真弘	川崎真弘	田の中勇
一反もめんが空をいく	嘉門達夫	嘉門達夫	川上　了	八奈見乗児
闇夜に気をつけろ	吉田健美	川崎真弘	川崎真弘	大竹宏ほか
ビビビのねずみ男	水木しげる	川崎真弘	川崎真弘	富山　敬
おばけ今昔物語	冬杜花代子	小林亜星	川崎真弘	杉並児童合唱団
100%妖怪ＣＡＴ	誘里亜	川上　了	川上　了	野宮真貴
泣く子も黙るぬらりひょん	秋元　康	戸田誠司	戸田誠司	佐々木志伸
オジサンは泣いている	誘里亜	川上　了	川上　了	永井一郎
鬼太郎音頭	浦川しのぶ	川崎真弘	川崎真弘	戸田恵子
オ・ト・メ・チックな恋	浦川しのぶ	川崎真弘	川崎真弘	色川京子

主題歌・挿入歌・BGMレコード（徳間ジャパン）

「鬼太郎」アニメのレコードは、徳間ジャパンから、シングル二枚、LP二枚が発売されている。

一枚めのシングルは、水木しげる作詞、いずみたく作曲の旧テーマ曲を、現代風にアレンジしなおし、吉幾三がうたっている。二枚めのシングルの二曲は、テーマ曲集LPには収録されていない。



▲シングル「ゲゲゲの鬼太郎」「おばけがイクゾ〜〜」（７JAS-47　700円）

アニメの音楽は、「鬼太郎」がはじめてです。テレビのばあい、映画とちがって、映像ができるまえにある程度のイメージをつかんでつくらなければならないので苦労しました。むかしからすきだった作品の音楽を担当できてうれしいです。（音楽／川崎真弘氏談）



▲ＬＰ「燃えろ！　鬼太郎」　歌全11曲を収録。（25AGL-301　2800円）



▲ＬＰ「音楽編」Vol.１　歌２曲とＢＧＭを収録。（25AGL-3015　2500円）

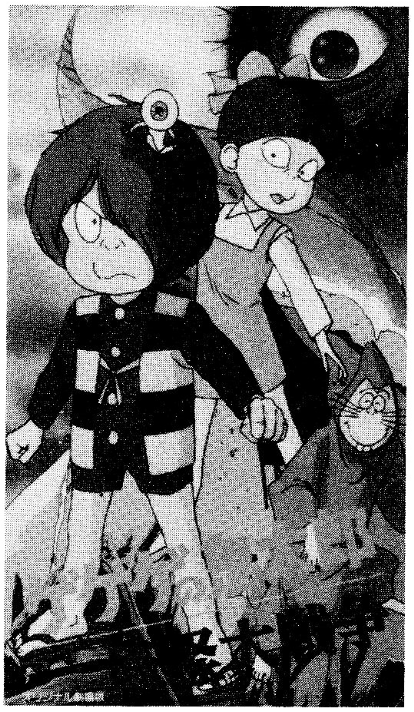


▲シングル「鬼太郎音頭」「オ・ト・メ・チックな恋」（７AGS-８　700円）

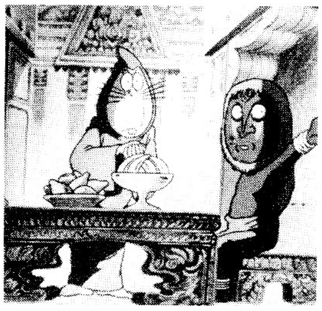
オリジナル新作劇場版ビデオ（東映ビデオ）

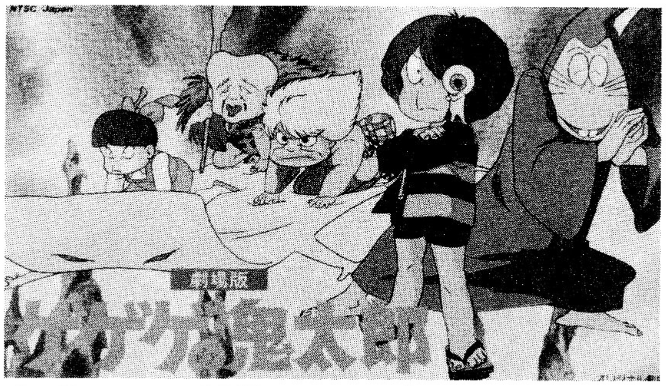
鬼太郎の劇場用オリジナル新作は、いまのところテレビ放送の予定はないが、東映ビデオからビデオソフトが発売されている。

第一作「ゲゲゲの鬼太郎」と、第二作「ゲゲゲの鬼太郎　妖怪大戦争」は、すでに好評発売中であり、第三作「ゲゲゲの鬼太郎　最強妖怪軍団！　日本上陸!!」も、今秋発売の予定である。各ビデオには、その作品上映時の予告フィルムも収録されている。（写真左のフランケンのカットは、本編では未使用で、予告にだけ使用されたもの。）また、劇場では上下がカットされたビスタサイズで上映されたが、ビデオではフレームがノーカットでしっかりおさめられているのもファンにとってはうれしいことだ。









第２作「ゲゲゲの鬼太郎　妖怪大戦争」（カラー　39分）ＴＥ—Ｍ947　5800円

第１作「ゲゲゲの鬼太郎」（カラー　25分）ＴＥ—Ｍ923　5800円

講談社発売オール鬼太郎ブックカタログ

小社発売の鬼太郎関係の出版物は、幼児絵本をのぞいて、すでに三十冊をかぞえる。このほかにも、まんがや画集が多数発売されている。

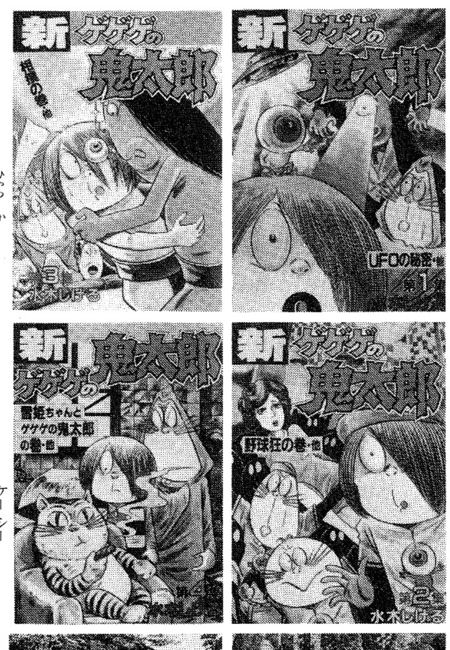


■KC
ゲゲゲの鬼太郎（①〜⑰）
テレビの原作を中心に単行本化した新書判。カバーはすべてかきおろし。（各三百七十円）

■ポケット百科
ゲゲゲの鬼太郎アニメ大百科
児童向けに発売中のアニメ版鬼太郎図鑑。カバー原画は山口泰弘。（四百八十円）



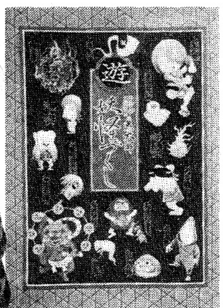
■KCスペシャル
新ゲゲゲの鬼太郎（①〜④）
一般週刊誌に発表した青年版鬼太郎や、鬼太郎の妹「雪姫」の活躍するKC未収録のもので構成。（各五百八十円）



■ポケット百科
ゲゲゲの鬼太郎
妖怪大事典
原作をもとにした妖怪百科。資料も豊富。（五百五十円）



■遊
ゲゲゲの鬼太郎
妖怪づくし
シールや絵はがきなどのおもしろ豪華本。（八百五十円）



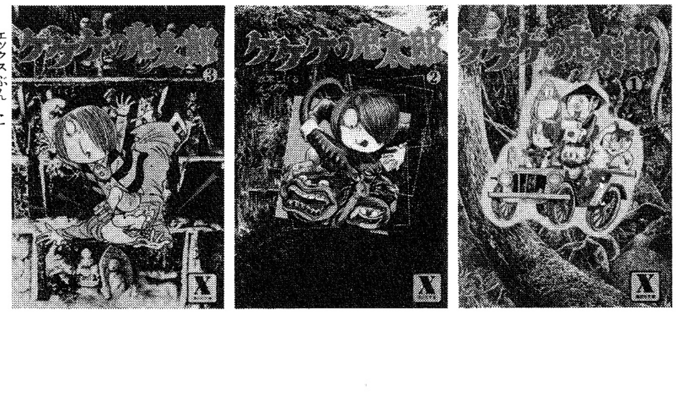
■ボンボンKC
最新版
ゲゲゲの鬼太郎
コミックボンボン連載版。秋に新刊発売。（三百七十円）



■ボンボンスペシャル
ゲゲゲの鬼太郎
妖怪大魔境
バンダイのファミコン必勝攻略ブック。（三百五十円）



■X文庫
小説ゲゲゲの鬼太郎（①〜③）
原作漫画をノベライズした文庫版。各巻の口絵はかきおろし。（各四百二十円）



■X文庫 ゲームブック
ゲゲゲの鬼太郎
鬼界ケ島のたたかいをベースに構成。（三百円）





現在、アニメ「鬼太郎」の特集は、テレビマガジンで連載中。山口泰弘氏かきおろしの原画によるセルなど、たのしいページがいっぱい。（左の写真はアトラクション用の鬼太郎ぬいぐるみ。）

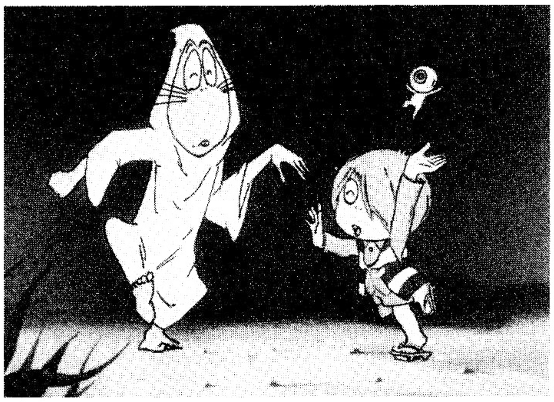
ゲゲゲの鬼太郎 メモリアルアニメグラフィティ

■昭和43年版■昭和46年版■

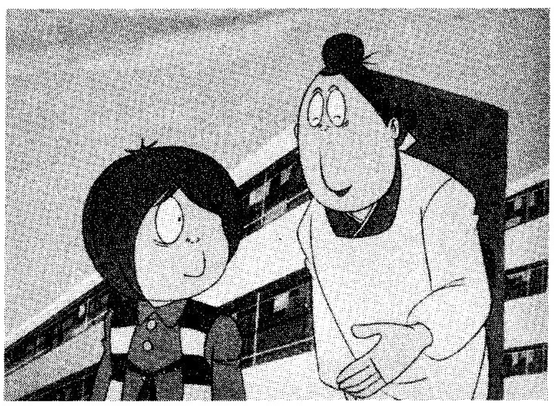
鬼太郎の旧作アニメは、現在放送中のシリーズ同様、東映動画制作、フジテレビ系で放送された。原作は、週刊少年マガジンに連載され、昭和四十三年一月にはじまったシリーズ第一回は、一年三か月つづいた。テレビ化と同時に、「墓場の鬼太郎」だった原作タイトルも「ゲゲゲの鬼太郎」に改訂。テレビ放送以前にキングレコードから発売されていたイメージソング集にあった「鬼太郎の歌（歌／熊倉一雄）」が、テレビ主題歌としてつかわれた。声の出演は、鬼太郎／野沢雅子、ねずみ男／大塚周夫、目玉のおとうさん／田の中勇。

二度めのアニメ化は、前回の終了から二年七か月後の昭和四十六年十月より一年間放送。前回とほぼおなじスタッフ、声の出演者。歌やBGMも前作のものを流用した。キャラ設定もおなじだが、アニメ技術がレベルアップし、よりリアルなタッチでえがかれている。また、このシリーズから、ねこ娘が仲間入りした。

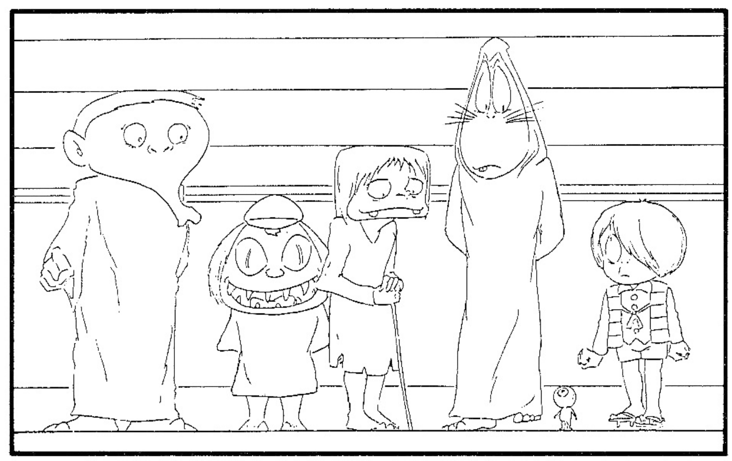
現在、これら二本の旧鬼太郎アニメは、ビデオソフト（東映ビデオ）になっているので、鬼太郎ファンは必見である。

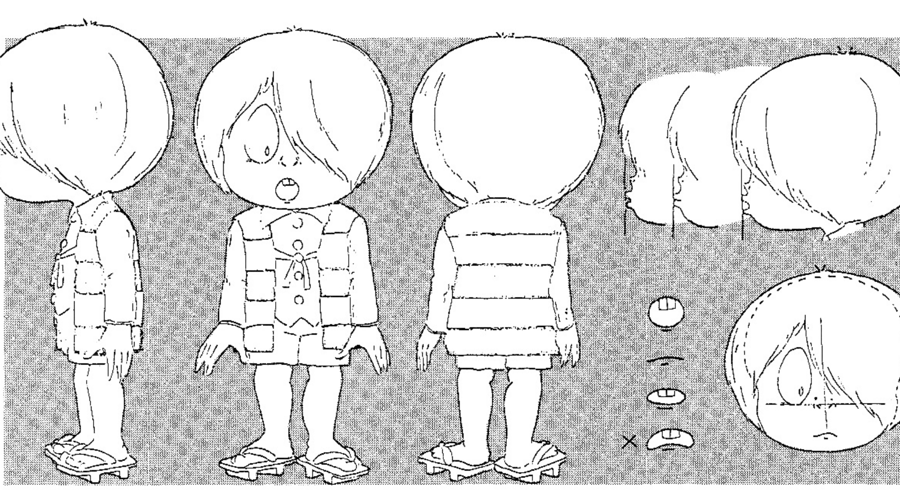


▶昭和四十三年版。モノクロで製作。スポンサーは、製菓会社のシスコだった。



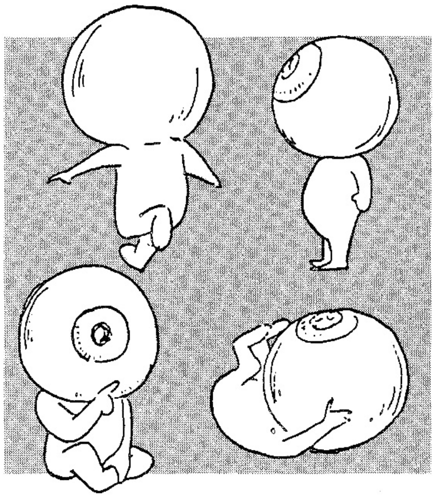
▶昭和四十六年版。全作品の約半数が、水木先生の短編をもとにしている。





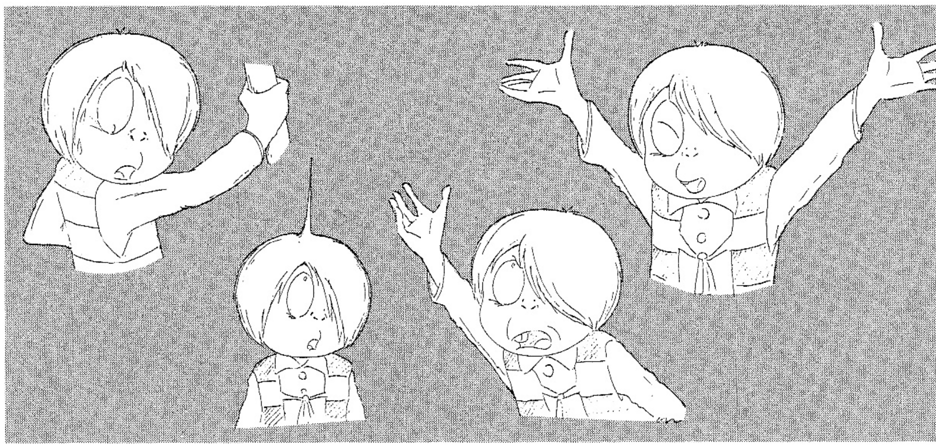


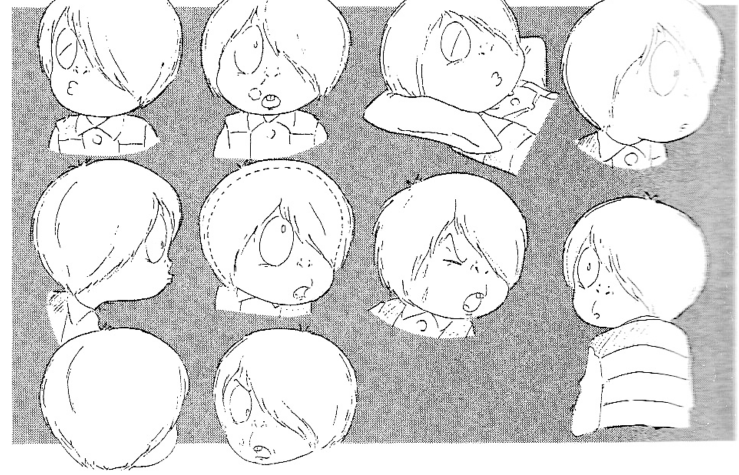
鬼太郎



鬼太郎のおとうさん

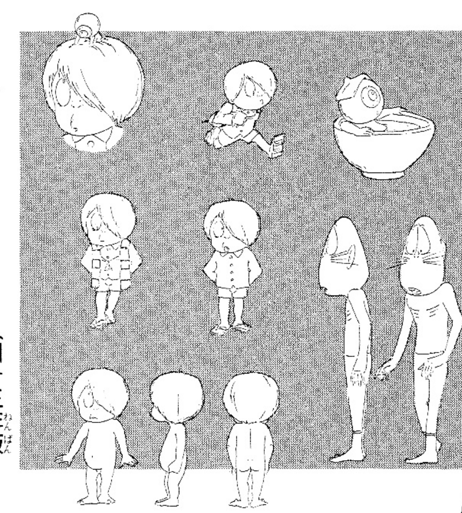


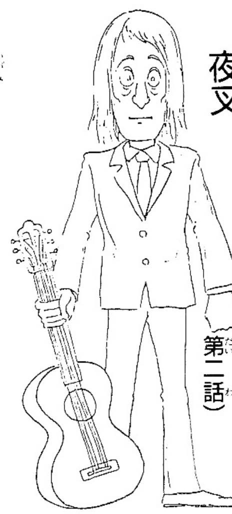






ねずみ男





夜叉（四十三年版第二話）



鏡じじい（四十三年版第八話）



百目坊や（四十三年版第一話）



たんたん坊（四十三年版第三話）

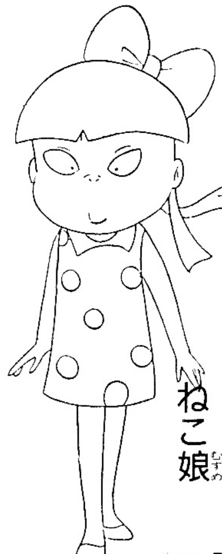




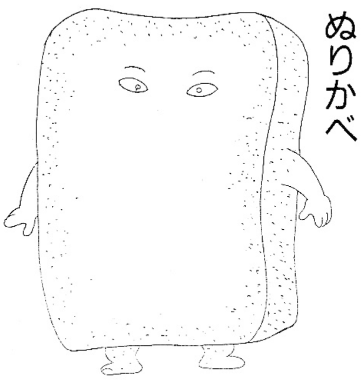
砂かけばばあ



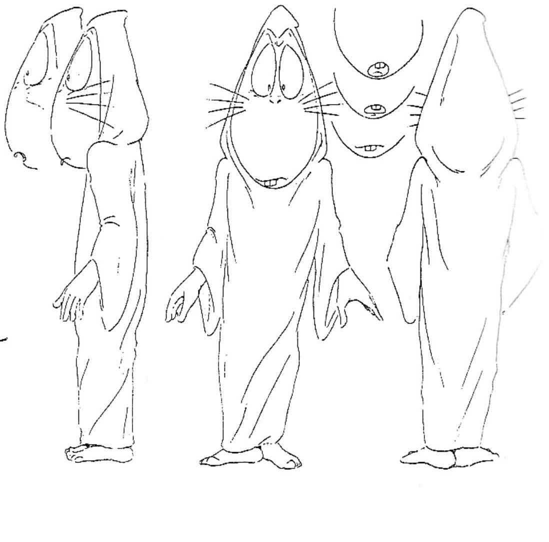
子泣きじじい



ねこ娘



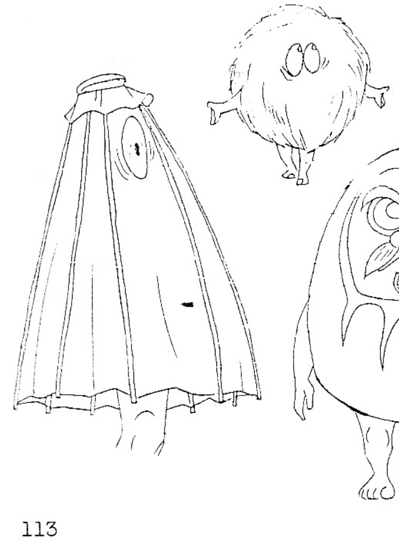
ぬりかべ





一反もめん

■四十六年版（第二話）ゲスト妖怪



「ゲゲゲの鬼太郎」旧作放送リスト

■放送時間■〈モノクロ作品〉毎週水曜日午後６時15分～６時45分（第１話～13話），毎週日曜日午後６時30分～７時（第14話～65話）　〈カラー作品〉毎週木曜日午後７時～７時30分

〈モノクロ作品〉

放送No.	製作No.	題名	脚本	美術	作画監督	演出	放送日
1	4	おばけナイター	辻　真先	横井　三郎	我妻　宏	山口　康男	43.1／3
2	1	夜叉	高久　進	千葉　秀雄	細田　暉雄	黒田　昌郎	10
3	3	妖怪城	若井　基成	遠藤　重義	落合　道正	白根　徳重	17
4	5	吸血鬼ラ・セーヌ	雪室　俊一	遠藤　重義	高橋　信也	高見　義雄	24
5	7	大海獣（前）	辻　真先	山崎　誠	田島　実	設楽　博	31
6	13	〃（後）	辻　真先	山崎　誠	田島　実	設楽　博	2／7
7	2	ゆうれい電車	鈴樹三千夫	山崎　誠	羽根　章悦	村山　鎮雄	14
8	6	鏡爺	安藤　豊弘	山崎　誠	古沢日出夫	明比　正行	21
9	9	見上げ入道	雪室　俊一	千葉　秀雄	落合　道正	白根　徳重	28
10	8	妖怪大戦争（前）	雪室　俊一	千葉　秀雄	生頼　昭憲	茂野　一清	3／6
11	14	〃（後）	雪室　俊一	千葉　秀雄	生頼　昭憲	茂野　一清	13
12	11	妖怪ぬらりひょん	安藤　豊弘	横井　三郎	高橋　信也	西沢　信孝	20
13	10	地獄流し	鈴樹三千夫	遠藤　重義	我妻　宏	久岡　敬史	27
14	12	水虎	高久　進	横井　三郎	古沢日出夫	村山　鎮雄	4／7
15	15	吸血鬼エリート（前）	鈴樹三千夫	遠藤　重義	高橋　信也	黒田　昌郎	14
16	21	〃（後）	鈴樹三千夫	遠藤　重義	高橋　信也	黒田　昌郎	21
17	17	猫仙人	安藤　豊弘	横井　三郎	我妻　宏	山口　康男	28
18	19	魔女人形	安藤　豊弘	山崎　誠	落合　道正	村山　鎮雄	5／5
19	16	吸血木	辻　真先	遠藤　重義	落合　道正	白根　徳重	12
20	18	猫娘とねずみ男	雪室　俊一	千葉　秀雄	生頼　昭憲	高見　義雄	19
21	20	妖怪獣（前）	高久　進	千葉　秀雄	細田　暉雄	明比　正行	26
22	23	〃（後）	高久　進	千葉　秀雄	細田　暉雄	明比　正行	6／2
23	22	峠の妖怪	辻　真先	遠藤　重義	落合　道正	白根　徳重	9
24	24	白山坊	雪室　俊一	横井　三郎	古沢日出夫	久岡　敬史	16
25	25	電気妖怪	安藤　豊弘	千葉　秀雄	細田　暉雄	高見　義雄	23
26	26	海座頭	鈴樹三千夫	千葉　秀雄	生頼　昭憲	村山　鎮雄	30
27	27	おどろおどろ	鈴樹三千夫	千葉　秀雄	落合　道正	白根　徳重	7／7
28	28	まくら返し	辻　真先	千葉　秀雄	鍋島　嘉継	村山　鎮雄	14
29	29	鏡合戦	雪室　俊一	千葉　秀雄	生頼　昭憲	西沢　信孝	21
30	32	悪魔ベリアル	鈴樹三千夫	千葉　秀雄	落合　道正	村山　鎮雄	28
31	31	もうりょう	安藤　豊弘	千葉　秀雄	我妻　宏	永樹　凡人	8／4
32	30	妖花	辻　真先	千葉　秀雄	窪　詔之	白根　徳重	11
33	33	さざえ鬼	雪室　俊一	千葉　秀雄	菊池　城二	古沢日出夫	18
34	34	さら小僧	辻　真先	横井　三郎	細田　暉雄	久岡　敬史	25
35	35	こま妖怪	鈴樹三千夫	秦　秀信	落合　道正	白根　徳重	9／1
36	36	ダイヤモンド妖怪	安藤　豊弘	千葉　秀雄	我妻　宏	明比　正行	8
37	39	手の目	安藤　豊弘	下川　忠海	落合　道正	村山　鎮雄	15
38	37	おりたたみ入道	雪室　俊一	横井　三郎	江藤　文男	古沢日出夫	22
39	38	妖怪軍団	鈴樹三千夫	横井　三郎	生頼　昭憲	設楽　博	29
40	43	おべべ沼の妖怪	鈴樹三千夫	下川　忠海	落合　道正	白根　徳重	10／6
41	40	ばけ猫	鈴樹三千夫	秦　秀信	江藤　文男	茂野　一清	13
42	41	人食い島	雪室　俊一	横井　三郎	我妻　宏	明比　正行	20
43	42	ひでりがみ	安藤　豊弘	横井　三郎	生頼　昭憲	山口　康男	27
44	47	げた合戦	雪室　俊一	横井　三郎	落合　道正	白根　徳重	11／3
45	44	のっぺらぼう	雪室　俊一	横井　三郎	江藤　文男	古沢日出夫	10
46	46	うぶめ	安藤　豊弘	遠藤　重義	細田　暉雄	久岡　敬史	17
47	51	天邪鬼	雪室　俊一	秦　秀信	落合　道正	勝間田具治	24
48	45	雪ん子	辻　真先	秦　秀信	我妻　宏	明比　正行	12／1
49	48	天狐	安藤　豊弘	横井　三郎	菊池　城二	宮崎　一哉	8
50	49	妖怪関ケ原	辻　真先	秦　秀信	生頼　昭憲	新田　義方	15
51	50	穴ぐら入道	鈴樹三千夫	横井　三郎	我妻　宏	山口　康男	22
52	52	吸血妖怪軍団	安藤　豊弘	下川　忠海	林　正史	高見　義雄	29
53	53	妖怪大統領	小沢　洋	井岡　雅宏	細田　暉雄	山口　康男	44.1／5
54	54	妖怪ラリー	雪室　俊一	秦　秀信	落合　道正	勝間田具治	12
55	56	妖怪毛羽毛現	辻　真先	秦　秀信	田島　実	西沢　信孝	19
56	57	磯女	小沢　洋	下川　忠海	昆　進	古沢日出夫	26
57	55	隠形魔法	雪室　俊一	井岡　雅宏	生頼　昭憲	設楽　博	2／2
58	58	おぼろぐるま	辻　真先	秦　秀信	落合　道正	勝間田具治	9
59	59	だるま	雪室　俊一	下川　忠海	岡田　敏靖	宮崎　一哉	16
60	60	笠地蔵	辻　真先	井岡　雅宏	林　正史	明比　正行	23
61	61	後神	小沢　洋	下川　忠海	鍋島　嘉継	古沢日出夫	3／2
⑫	62	海じじい	雪室　俊一	秦　秀信	落合　道正	高畑　勲	9
⑬	63	なまはげ	辻　真先	下川　忠海	岡田　敏靖	西沢　信孝	16
64	64	陰摩羅鬼	雪室　俊一	秦　秀信	江藤　文男	宮崎　一哉	23
65	65	妖怪ほうこう	鈴樹三千夫	秦　秀信	我妻　宏	勝間田具治	30

●放送No.に○印のついているものは，その物語が，「ゲゲゲの鬼太郎」の原作以外の作品をもとに構成されたものです。

〈カラー作品〉

放送No.	製作No.	題名	脚本	美術	作画監督	演出	放送日
1	1	妖怪復活	雪室　俊一	秦　秀信	生頼　昭憲	白根　徳重	46.10／7
2	2	妖怪反物	安藤　豊弘	下川　忠海	我妻　宏	西沢　信孝	14
3	3	妖怪大裁判	三芳　加也	秦　秀信	窪　詔之	山口　康男	21
4	4	雨ふり天狗	辻　真先	福本　智雄	白土　武	田宮　武	28
5	5	あしまがり	柴田　夏余	下川　忠海	森　利夫	高畑　勲	11／4
⑥	6	死人つき	安藤　豊弘	下川　忠海	国保　誠	茂野　一清	11
⑦	7	猫又	雪室　俊一	福本　智雄	大工原　章	新田　義方	18
⑧	8	マンモスフラワー	辻　真先	秦　秀信	我妻　宏	蕪木登喜司	25
9	9	髪さま	柴田　夏余	下川　忠海	江藤　文男	山口　康男	12／2
⑩	10	アンコールワットの亡霊	雪室　俊一	福本　智雄	白土　武	西沢　信孝	9
11	11	土ころび	柴田　夏余	秦　秀信	野田　卓雄	白根　徳重	16
⑫	12	やまたのおろち	辻　真先	福本　智雄	大工原　章	茂野　一清	23
13	13	かまぼこ	柴田　夏余	下川　忠海	菊池　城二	設楽　博	30
⑭	14	怪自動車	三芳　加也	福本　智雄	白土　武	山本　寛巳	47.1／6
15	15	牛鬼	安藤　豊弘	秦　秀信	江藤　文男	西沢　信孝	13
⑯	16	南からの招き	辻　真先	秦　秀信	生頼　昭憲	山口　康男	20
⑰	18	縁切り虫	雪室　俊一	福本　智雄	白土　武	設楽　博	27
⑱	19	幸福という名の怪物	安藤　豊弘	福本　智雄	国保　誠	茂野　一清	2／3
19	20	釜鳴り	辻　真先	福本　智雄	江藤　文男	山本　寛巳	10
20	21	ふくろさげ	柴田　夏余	秦　秀信	菊池　城二	西沢　信孝	17
㉑	17	心配屋	柴田　夏余	福本　智雄	菊池　城二	白根　徳重	24
㉒	22	地獄の水	雪室　俊一	秦　秀信	白土　武	山口　康男	3／2
23	23	逆餅殺し	安藤　豊弘	福本　智雄	野田　卓雄	白根　徳重	9
24	R	妖怪反物					16
25	24	傘ばけ	辻　真先	福本　智雄	菊池　城二	笠井　由勝	23
26	25	まぼろしの汽車	柴田　夏余	秦　秀信	白土　武	茂野　一清	30
27	26	大首	雪室　俊一	福本　智雄	生頼　昭憲	西沢　信孝	4／6
28	27	いやみ	安藤　豊弘	横井　三郎	江藤　文男	山本　寛巳	13
29	28	あかなめ	辻　真先	秦　秀信	小松原一男	設楽　博	20
30	29	ダイダラボッチ	柴田　夏余	下川　忠海	国保　誠	山口　康男	27
31	30	死神	雪室　俊一	福本　智雄	森　利夫	蕪木登喜司	5／4
32	31	赤舌	安藤　豊弘	福本　智雄	森　利夫	高見　義雄	11
33	R	死人つき					18
34	32	目目連	辻　真先	土田　勇	我妻　宏	白根　徳重	25
35	33	悪魔ブエル	柴田　夏余	福本　智雄	野田　卓雄	新田　義方	6／1
36	R	アンコールワットの亡霊					8
㊲	34	死神とサトリ	雪室　俊一	土田　勇	白土　武	西沢　信孝	15
㊳	35	イースター島奇談	安藤　豊弘	秦　秀信	小松原一男	茂野　一清	22
㊴	36	妖怪屋敷	辻　真先	秦　秀信	我妻　宏	設楽　博	29
40	R	牛鬼					7／6
㊶	37	地相眼	柴田　夏余	秦　秀信	生頼　昭憲	笠井　由勝	13
㊷	38	隠れ里の死神	雪室　俊一	下川　忠海	小松原一男	山口　康男	20
㊸	39	妖怪水車	柴田　夏余	福本　智雄	森　利夫	高見　義雄	27
44	R	逆餅殺し					8／3
㊺	40	原始さん	辻　真先	福本　智雄	我妻　宏	白根　徳重	10
㊻	41	霊形手術	柴田　夏余	秦　秀信	小松原一男	新田　義方	17
㊼	42	死神と貧乏神	雪室　俊一	土田　勇	国保　誠	西沢　信孝	24
48	R	マンモスフラワー					31
㊾	43	足跡の怪	安藤　豊弘	福本　智雄	森　利夫	茂野　一清	9／7
50	R	地獄の水					14
51	44	雨神ユムチャック	辻　真先	土田　勇	我妻　宏	及部　保雄	21
52	45	死神のノルマ	雪室　俊一	秦・下川	野田　卓雄	中村　一	28

■声の出演■

●**鬼太郎**／野沢雅子　●**目玉のおとうさん**／田の中勇・大竹　宏　●**ねずみ男**／大塚周夫　●**ねこ娘**／山口奈々（モノクロ版第20話）・小串容子（カラー版）●**死に神**／神山卓三（カラー版第30話，34話，38話，42話，45話）　●**子泣きじじい**／永井一郎・矢田耕治・はせさん治・山田俊司　●**砂かけばばあ**／小串容子・山本圭子

●**ゲスト**●　富田耕生　北川国彦　永井一郎　緒方俊也　内海賢二
杉山佳寿子　野村道子　杉浦宏策　坪井章子　はせさん治　朝井ゆかり
市川　治　高橋和枝　小原乃梨子　白石冬美　千々松幸子　八奈見乗児
小串容子　幸つや子　向　精七　二内達之　今西正男　野田圭一
白川澄子　山本圭子　小宮山清　三輪勝恵　山口奈々　矢島清子
北浜晴子　風祭修一　近藤高子　森山周一郎　山田俊司　渡辺典子
兼本新吾　森　功至　田中亮一　柴田秀勝　中村秦明　吉田理保子
矢田耕司　山中武千雄　西　桂太　青木笑児　立壁和也　千葉順二
ほか

●カラー作品の製作No.で，「R」となっているのは，その作品が新たに製作されたものではなく，リピート（再放送）されたものであるという意味です。

ゲゲゲの鬼太郎

鬼太郎ファミリーを直撃！

東京の大久保にある、東映動画の録音スタジオ"タバック"におじゃまして、「ゲゲゲの鬼太郎」のアフレコ現場を突撃取材！　六月九日の昼さがり、第三十九話「三途の河のだつえばばあ」を録音中の鬼太郎ファミリー七人衆に、ひとことずつコメントをいただきました。



かわいくて勇敢な鬼太郎くんを応援してね!



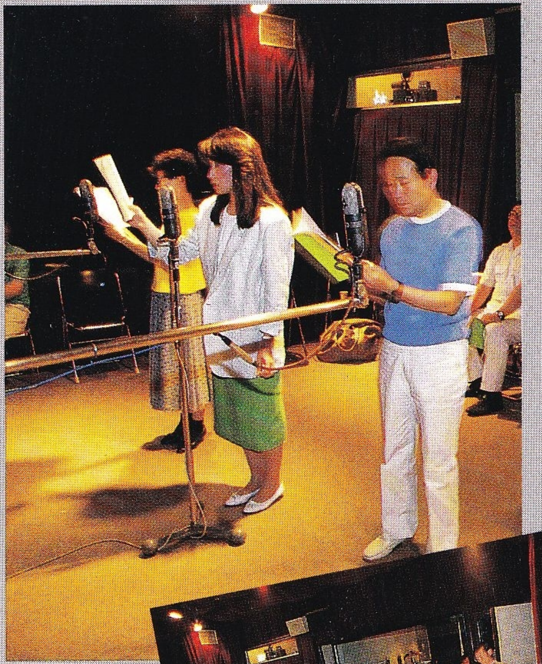
●昭和三十二年九月十二日生まれ。愛知県出身。出演作／「機動戦士ガンダム」のマチルダ、「伝説巨人イデオン」のカララほか。

ゲゲゲの鬼太郎　戸田恵子さん

鬼太郎は、無敵のスーパーマンじゃないけど、なかまにたすけられながら努力していくところがいいわね。たくさんのたのしいキャラクターにかこまれているので、とってもたのしくやらせていただいています。前作の鬼太郎の声は、大先輩の野沢雅子さんだったのですが、わたしはわたし流に鬼太郎のイメージをつくってやっています。だって、野沢さんには、とてもおいつけませんから。まえの鬼太郎を知らない子どもたちに、新しい鬼太郎の感じを生みだしたいと思います。







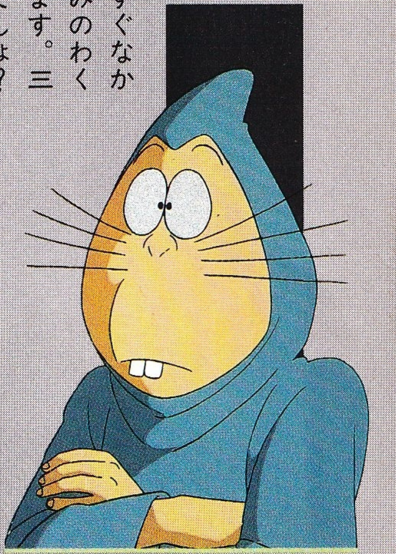






ねずみ男 富山敬さん

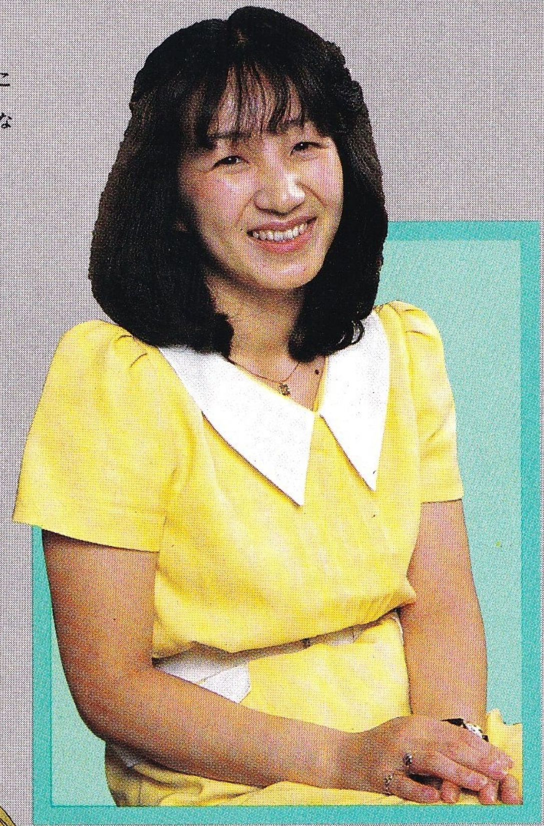
ねずみ男は、ずるがしこくて、すぐなかまをうらぎるけど、すごく親しみのわくキャラなので、やりがいがあります。三枚目役のぼくも、けっこういいでしょ？

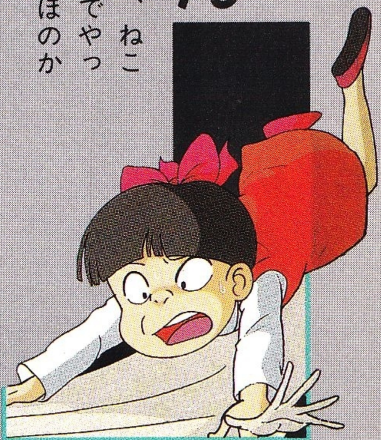


●昭和13年10月31日生まれ。満州（現中国東北部）出身。出演作／「佐武と市捕物控」の佐武,「マルコ・ポーロの冒険」のマルコ＝ポーロほか。

ねこ娘 三田ゆう子さん

ユメコちゃんはマドンナ的な役だから、ねこ娘は、とても勝ち気な女の子のふんいきでやってます。でも、鬼太郎に接するときは、ほのかな恋心をいだく感じで演技しています。



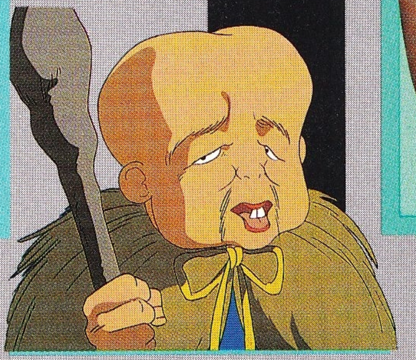


●8月14日生まれ。東京都出身。出演作／「うる星やつら」の弁天,「Dr. スランプ」の摘鶴燐,「さすがの猿飛」の美加ほか。

子泣きじじい 永井一郎さん

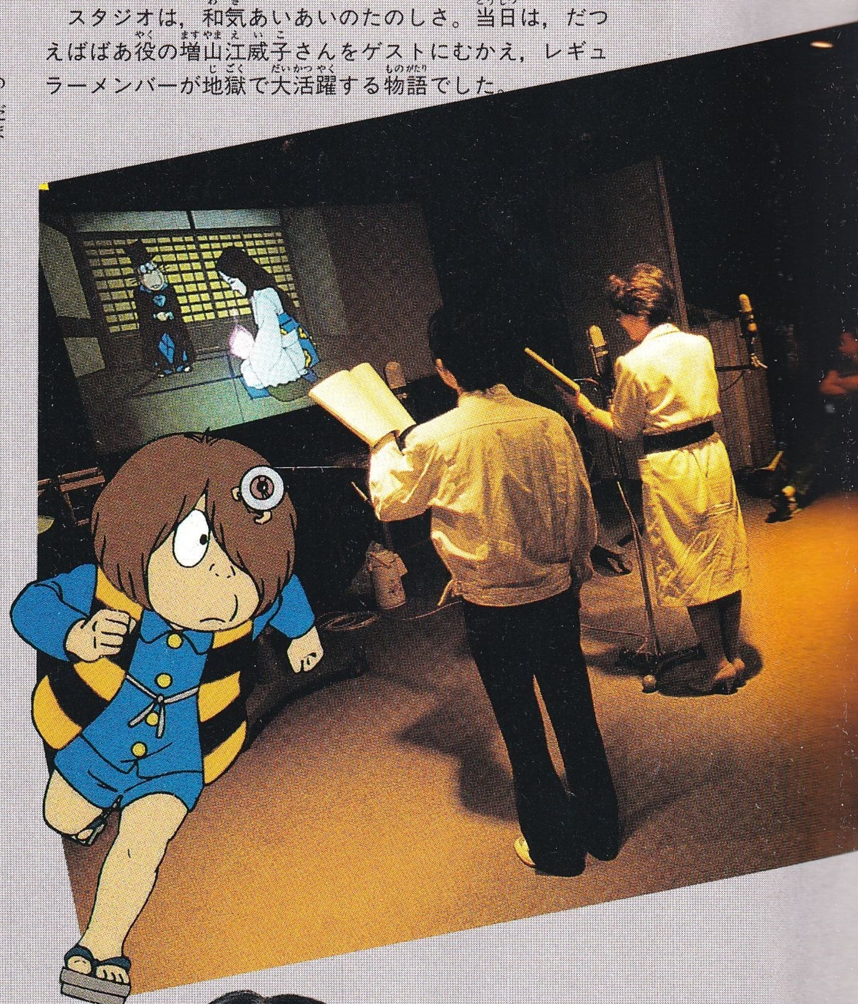
このじいさん、泣いてだきつくしか能のない人だから、むずかしいですね。だまって、かげから鬼太郎をまもる…。地味ですけど、作品のなかの重要なファクターなんです。





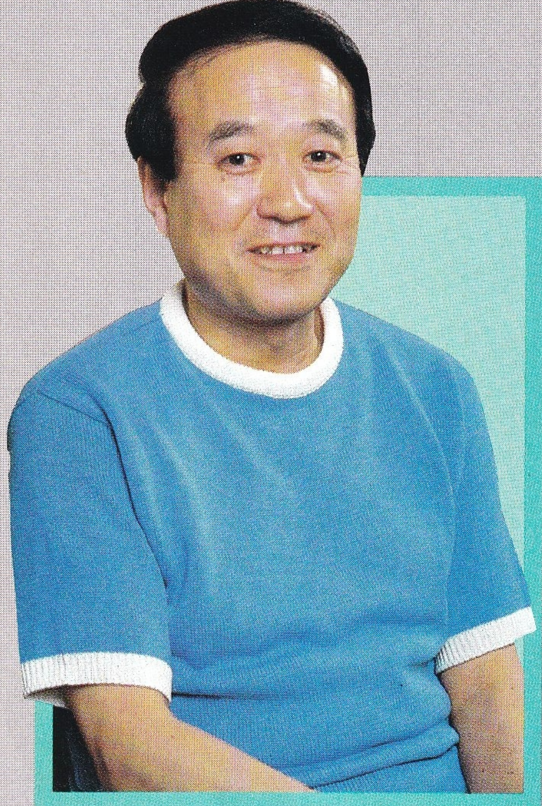
●昭和6年5月10日生まれ。大阪府出身。出演作／「うる星やつら」の錯乱坊,「サザエさん」の波平,「じゃりん子チエ」の小鉄ほか。

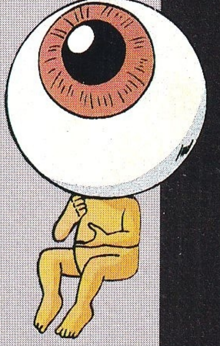
スタジオは，和気あいあいのたのしさ。当日は，だつえばばあ役の増山江威子さんをゲストにむかえ，レギュラーメンバーが地獄で大活躍する物語でした。



目玉のおとうさん
田の中勇さん

昭和四十三年の第一作から、四十六年の二作め。それに、昨年の実写版と今回で、十八年間も目玉おやじとつきあってます。これはもう、ぼくのライフワークなんです。





●7月19日生まれ。東京都出身。出演作／「ゲゲゲの鬼太郎」の目玉のおとうさん，「Dr. スランプ」のガラ,「ミンキーモモ」のシンドブックほか。

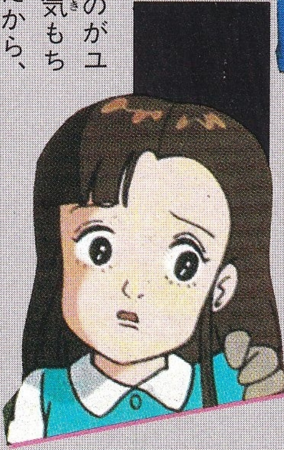
砂かけばばあ
江森浩子さん

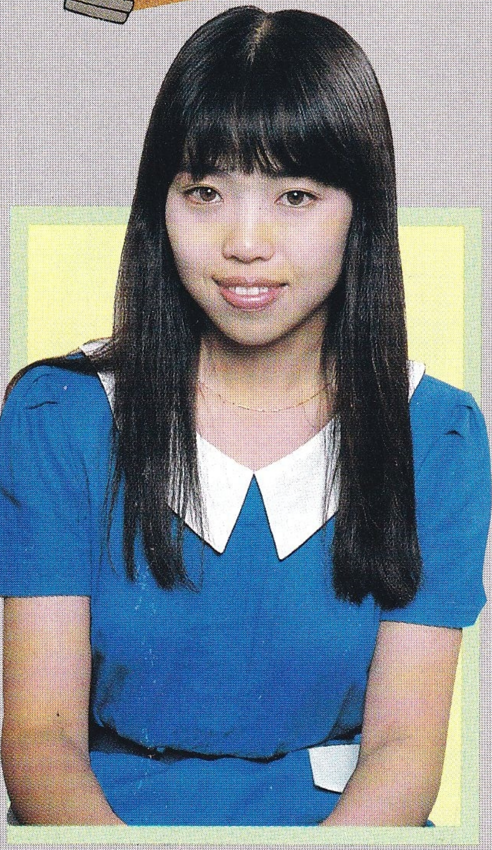
わたしは少女役が多いんですが，今回はおばあさん。年配の人じゃなくて，わたしを起用してくれたのは，かわいらしいおばあさん像が砂かけさんにあるからかしら。

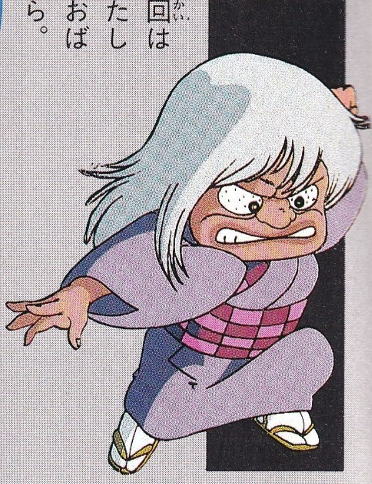
ユメコ
色川京子さん

妖怪世界と人間世界の橋わたしをするのがユメコちゃん。すなおな小学生の女の子の気もちでやってます。まわりはみんな妖怪さんだから，悲鳴をあげるせりふが多くて，こまっちゃう。









●昭和38年11月7日生まれ。東京都出身。出演作／「聖戦士ダンバイン」。

●1月27日生まれ。埼玉県出身。出演作／「レイズナー」のアンナ，「GUGUガンモ」の梅子,「ウィングマン」のゆかりほか。

■フジテレビ月曜ドラマランドにも登場した

ゲゲゲの鬼太郎

現在放送中のアニメーションの第一作がオンエアされる二か月まえ、昭和六十年八月五日に、フジテレビ系で、一時間三十分わくの実写特撮版「ゲゲゲの鬼太郎」が、月曜ドラマランドシリーズの一作として放送された。製作は、スーパー戦隊シリーズや宇宙刑事シリーズなど、特撮ヒーロー路線で定評のある東映。小林義明監督の、幻想的な映像が印象的なファンタジーであった





ゲゲゲの鬼太郎を演じたのは、将来を有望視される六浦誠少年。むずかしい役どころのねずみ男には、数々の候補があげられたが、人気の異色タレント竹中直人が起用された。



▲原作とそっくりにつくられた鬼太郎の家のオープンセット。



◀目玉のおとうさんの声は，アニメとおなじ田の中勇。



◀一反もめんも、実写で登場。着ぐるみと、操演で活躍した。声の出演は、声優の増岡弘。



▲以前から，子泣きじじいスタイルでパフォーマンスしていた怪物ランドの赤星昇一郎が，なんと，じっさいに子泣きじじい役にチャレンジ。ファンをよろこばせた。

STAFF

原作／水木しげる
企画／前川和也（フジテレビ）
　　　吉川　進
プロデューサー／西村政行
脚本／山崎晴哉
監督／小林義明
音楽／馬飼野康二
（サウンドトラック盤キングレコード）
撮影／瀬尾　脩
照明／上原福松
美術／北郷久典
助監督／大井利夫・近藤杉雄
録音／太田克己
編集／菅野順吉
選曲／秋本　彰
擬闘／金田　治（ジャパンアクションクラブ）
人形操作／スタジオノーバ
特殊メーク／ピアンコ
キャラクター製作／前澤　範・レインボー造型企画
ビデオ合成／東通ＥＣＧシステム
進行主任／井口喜一
プロデューサー補／日笠　淳

制作／フジテレビ・東映

（昭和60年８月５日放送）



▲水木しげる先生も特別出演。霊界からきた郵便配達人の役である。



◀砂かけばばあには、喜劇界のベテラン、由利徹が扮する。





▲左から，あみきり，女ぬらりひょん，おっかむろ。



▶妖怪ポストに、少女、関京子からの手紙がきた。



▶京子の家では、みょうなことばかりおきていた。



▶ぬらり塾の女塾長（夏樹陽子）の正体は、女ぬらりひょんだった。



▶なんでもチョキチョキきらないと気がすまないあみきり（植田しゅん）。



▶いつも、たべてばかりいるおっかむろ（汐路章）。



▶みるみる巨大化する、妖怪見上げ入道。秘法霊界流しをつかう強敵で、口から火をはく。



▶学校の体育館に、ぶきみにうかぶ妖怪のびあがり。





▲女ぬらりひょんのひきいる妖怪軍団にたちむかう鬼太郎。ぬらり塾の中は、赤ん坊にされたおとなたちでいっぱいだった。



▶吸血鬼エリート（佐渡稔）。ギター片手に、空からおそいかかる。

ストーリー

関京子のまわりで、おかしな事件がおこるようになった。かよっていた"ぬらり塾"のかえり、はさみをもった怪人におそわれたり、夜中、父のへやに謎の美女があらわれ、父は赤ん坊のようなかっこうをしていたり。母は錯覚だというのだが、京子は妖怪のせいだ、と考えた。妖怪ポストに手紙を入れる京子。

つぎの夜、ねむっていた京子は、ギターのメロディーでおこされた。台所にいってみると、怪物が冷蔵庫をあさっていた。さらに、はさみをもった怪人物においかけられ、窓からはギターをもった吸血鬼がとびこんで、父の生き血をねらう。関家が大混乱になったとき、京子の手紙をうけ取った鬼太郎がかけつけた。なんとか、あみきり・おっかむろ・吸血鬼エリートを追いかえす鬼太郎。

妖怪たちは、ぬらり塾に、人間の姿をしてひそんでいた。そこの理事長は、なんとねずみ男だ。ねずみ男は、美人の塾長にひかれ、彼らの妖怪王国建設のための、軍資金あつめに協力していたのだ。

鬼太郎のしらべで、京子の父はエリートに血をすわれたために、子どものようになっていたことがわかった。なにかと鬼太郎にじゃまされた妖怪たちは、エリートの音楽麻酔をつかって鬼太郎をおびきよせ、注射でとかしてしまった。

とかされた鬼太郎は、生命接着剤で再生される。しかしその間に、京子がさらわれてしまう。鬼太郎は、京子をすくうため、妖怪たちとの決戦を決意した。













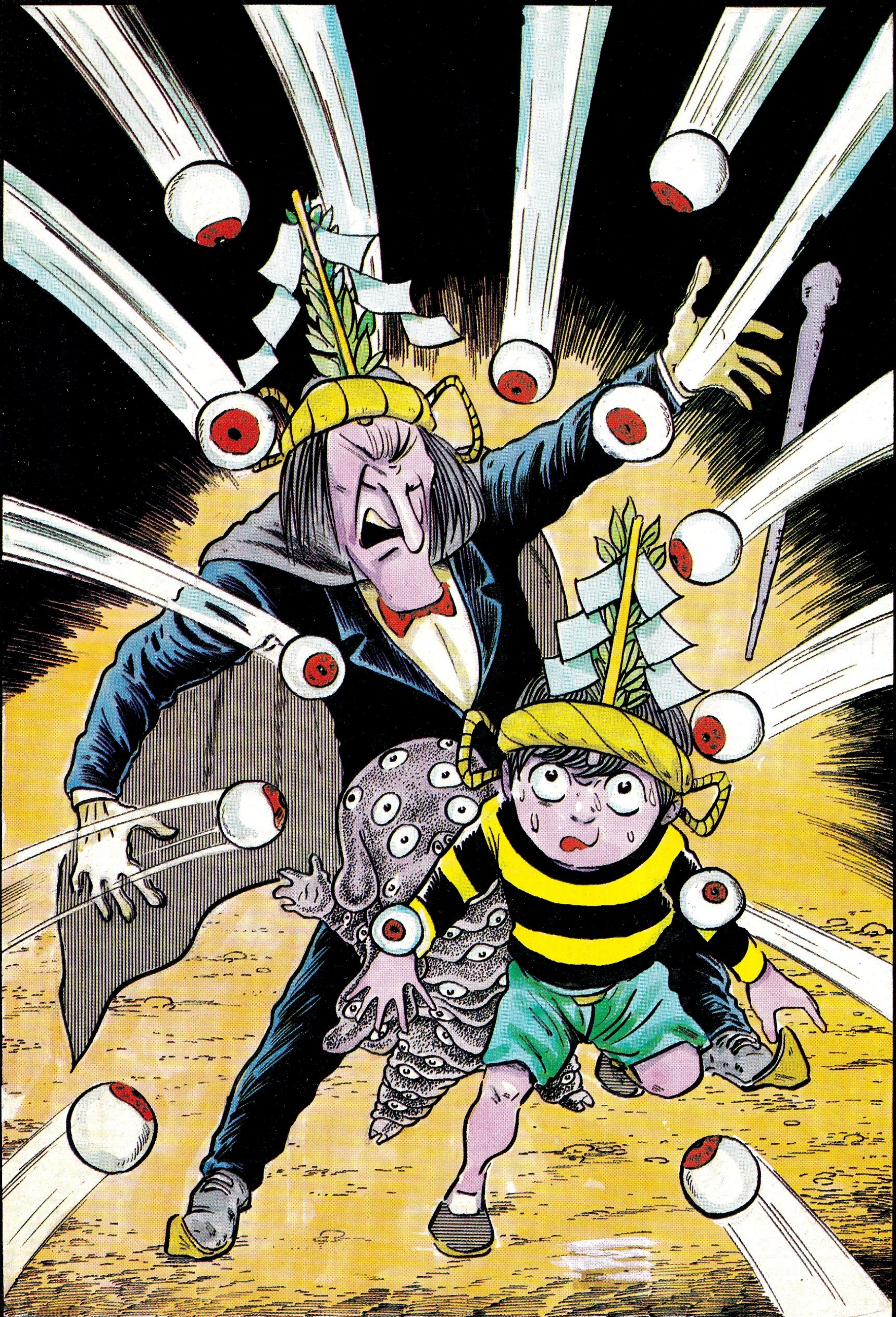


実写特撮版「ゲゲゲの鬼太郎」のラストの十分間は、息つくひまもないほどのスーパーアクションが展開される。
がけの上にたつ女ぬらりひょん・あみきり・吸血鬼エリート・おっかむろの四人は、つぎつぎと妖怪の本性をあらわし、鬼太郎軍団におそいかかった。おっかむろは、大だぬきや顔のばけものに変身し、ぬらりひょんは、頭部をふくらませて、のびあがりや見上げ入道を出現させた。
凄絶な戦いのすえ、ついに鬼太郎軍団は、ぬらりひょん軍団をたおした。





★テレビ放送決定（月曜ドラマランド）



鬼太郎につづく水木しげる作品

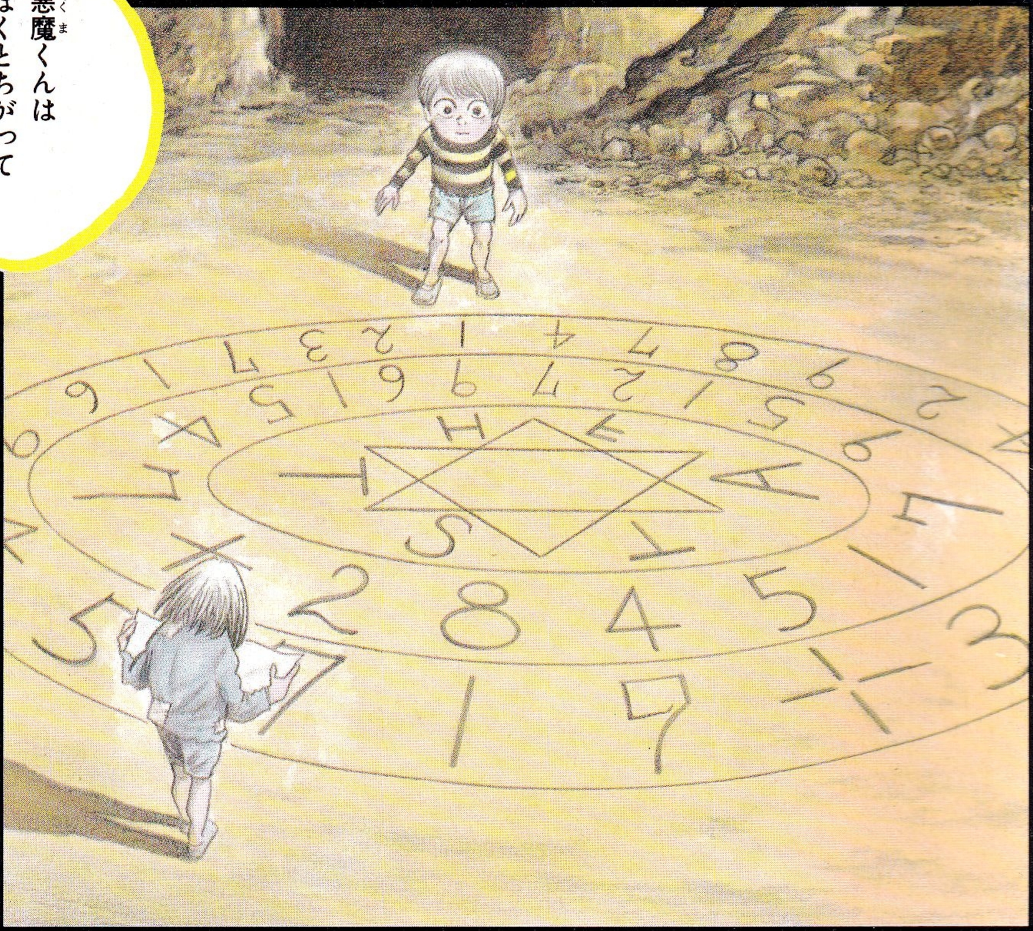
悪魔くん

「ゲゲゲの鬼太郎」とならぶ水木先生の代表作「悪魔くん」が、テレビ放送される。九月一日、フジテレビ系「月曜ドラマランド」（夜七時三十分～八時五十六分）だ。

悪魔くんと悪魔メフィストのコンビが、ストレスを吸収して、巨大化する妖怪とたたかう。

魔術対妖術の豪快な特撮アクションを期待しよう！





20年まえに放送された
初代「悪魔くん」

1966年にテレビ化された特撮作品。制作は，月曜ドラマランドの「ゲゲゲの鬼太郎」や，今回の「悪魔くん」をてがけた東映。おなじ水木先生の「河童の三平」も，東映でテレビ化されたことがある。



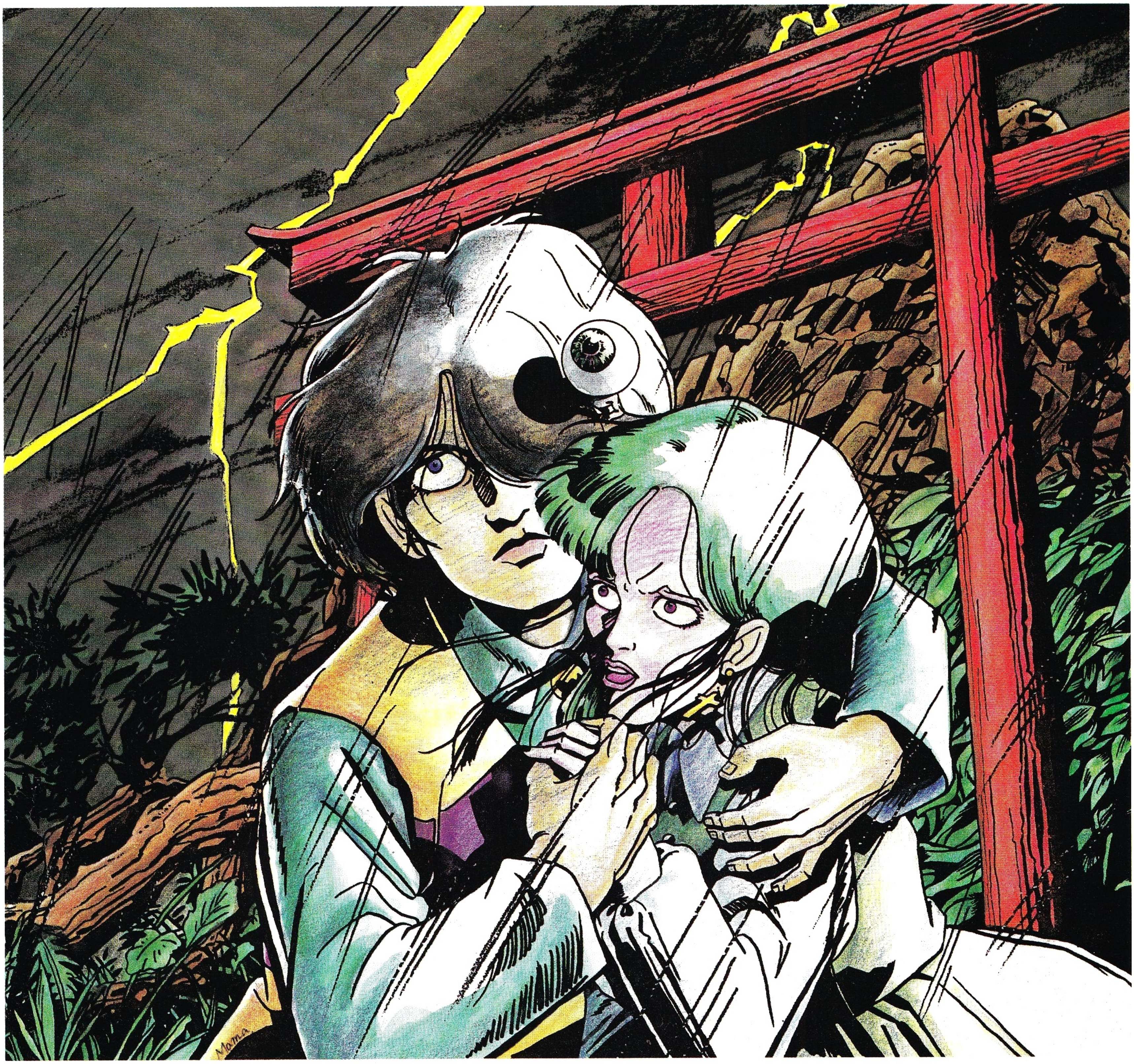




マイオリジナル鬼太郎ワールド

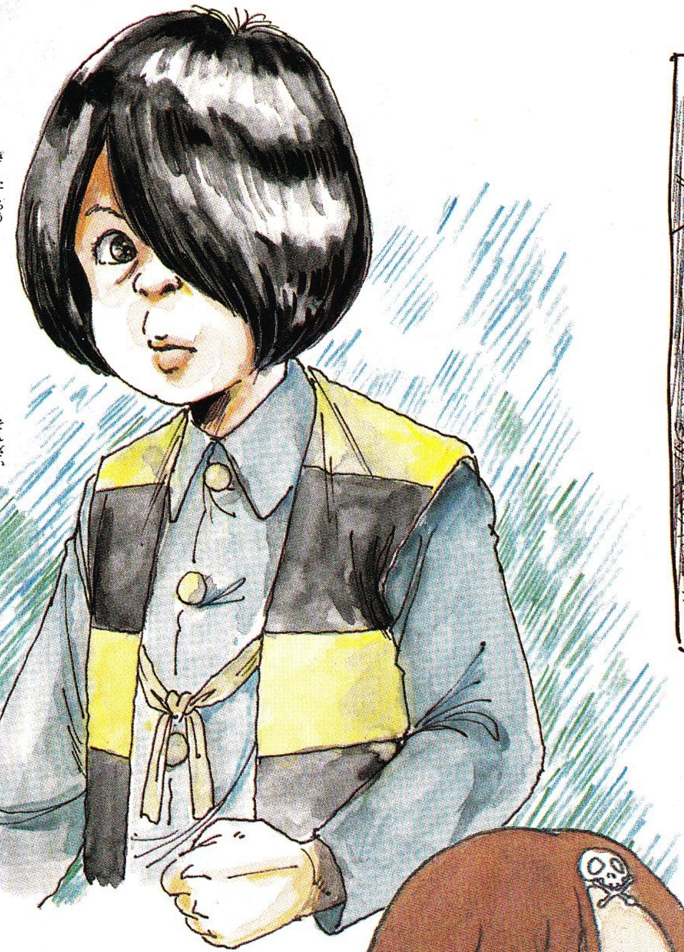
My Original Kitaro World

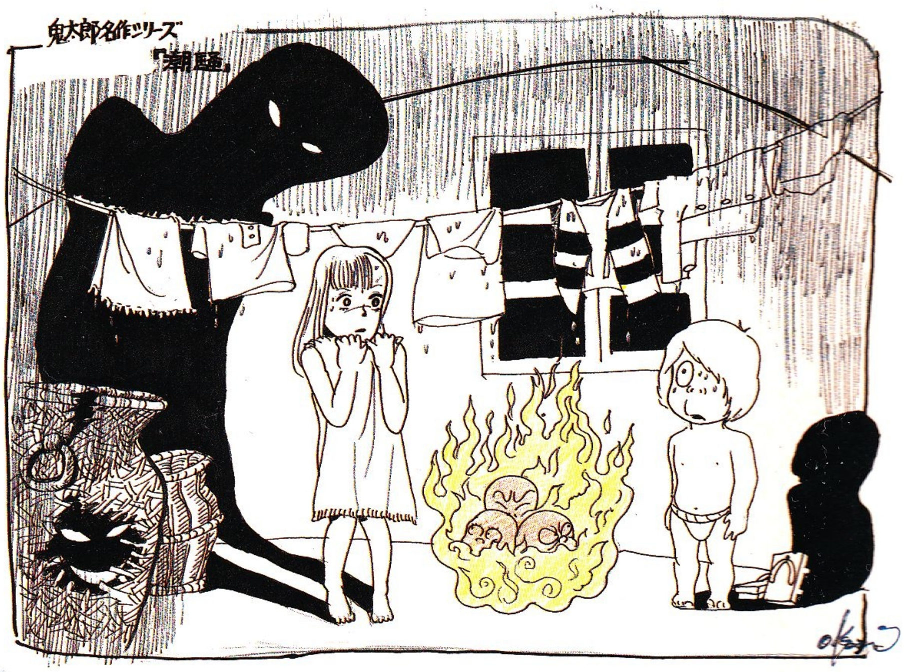
巻頭のカラーページにつづき，アニメーターの方々によるイラスト集です。原作やアニメにとらわれず，自分だけがイメージする鬼太郎ワールドを，自由に描いていただきました。

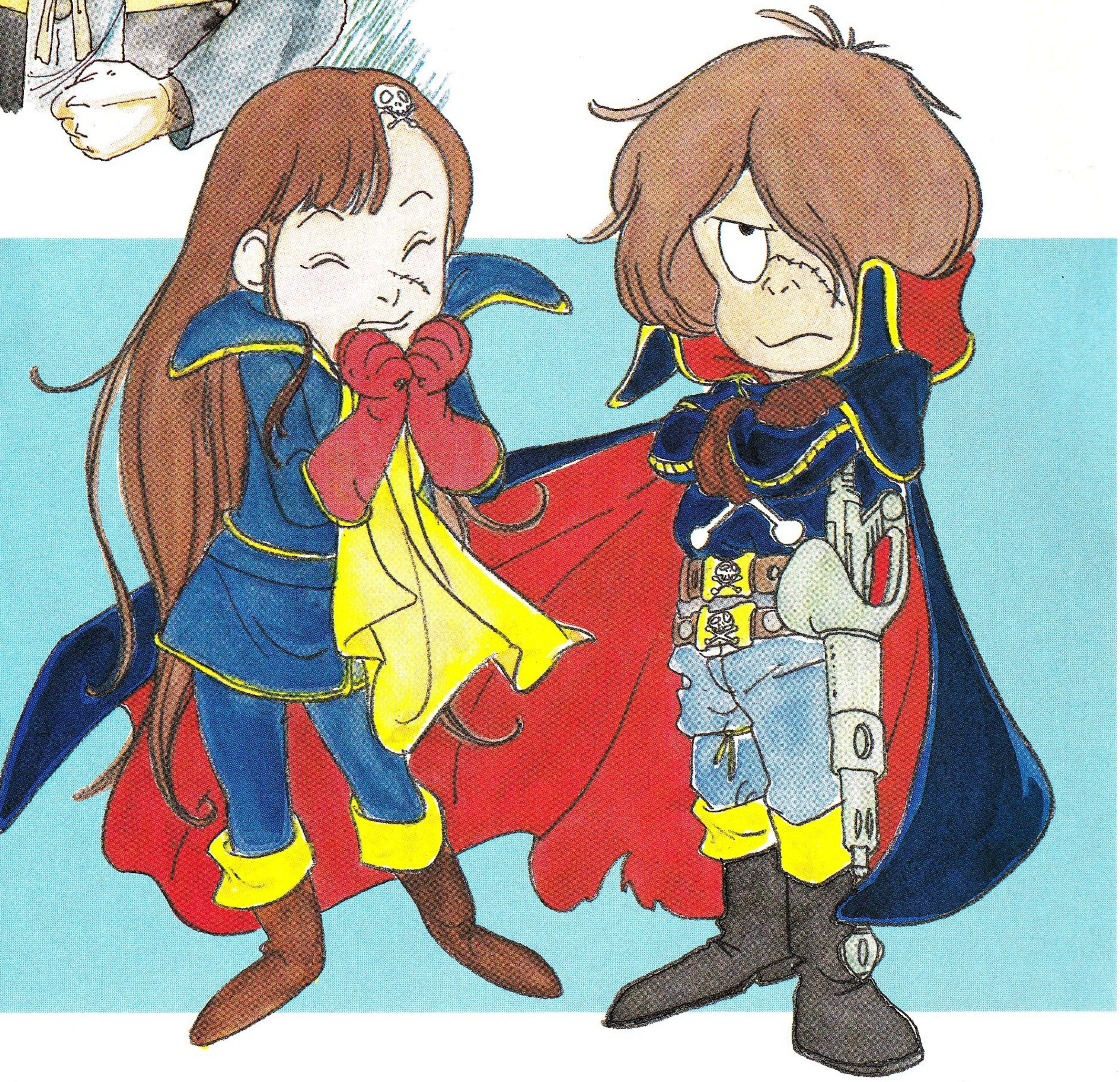


今泉 基

鬼太郎が、ほんとうに存在したら、やっぱり気もちわるいですよ。だって、頭でかいですもの。あの頭の大きさは、なみじゃないですよ！　松本朋之





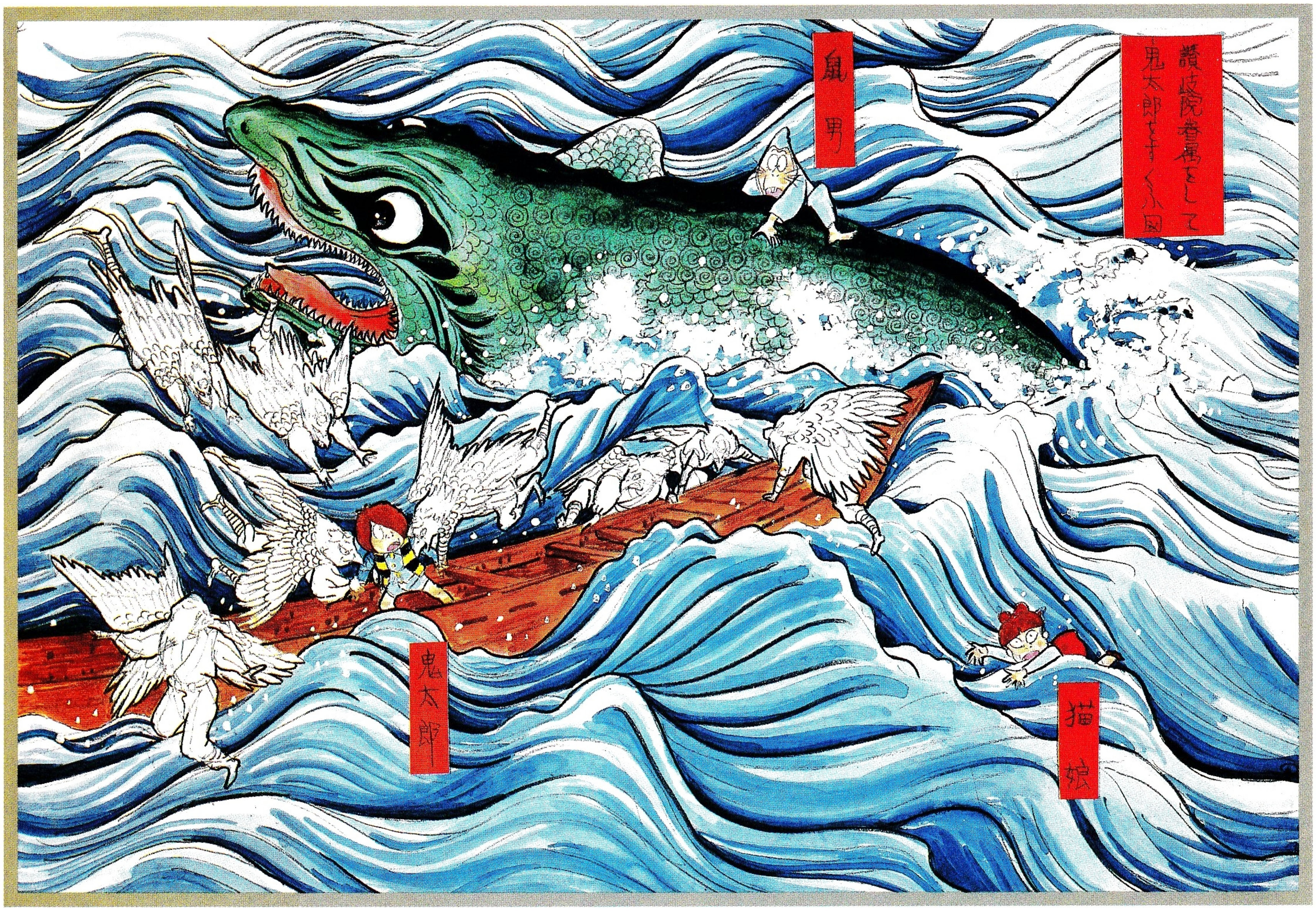


「ぼく、ハーロック＝鬼太郎。遠い未来、ぼくたちは、宇宙でもであうのだ。ハーロックのように、宇宙でも妖怪をやっつけるのだ。」「わたし、エメラルダス＝ユメコ。けれど、宇宙にも妖怪っているのかしら。」　兼森義則

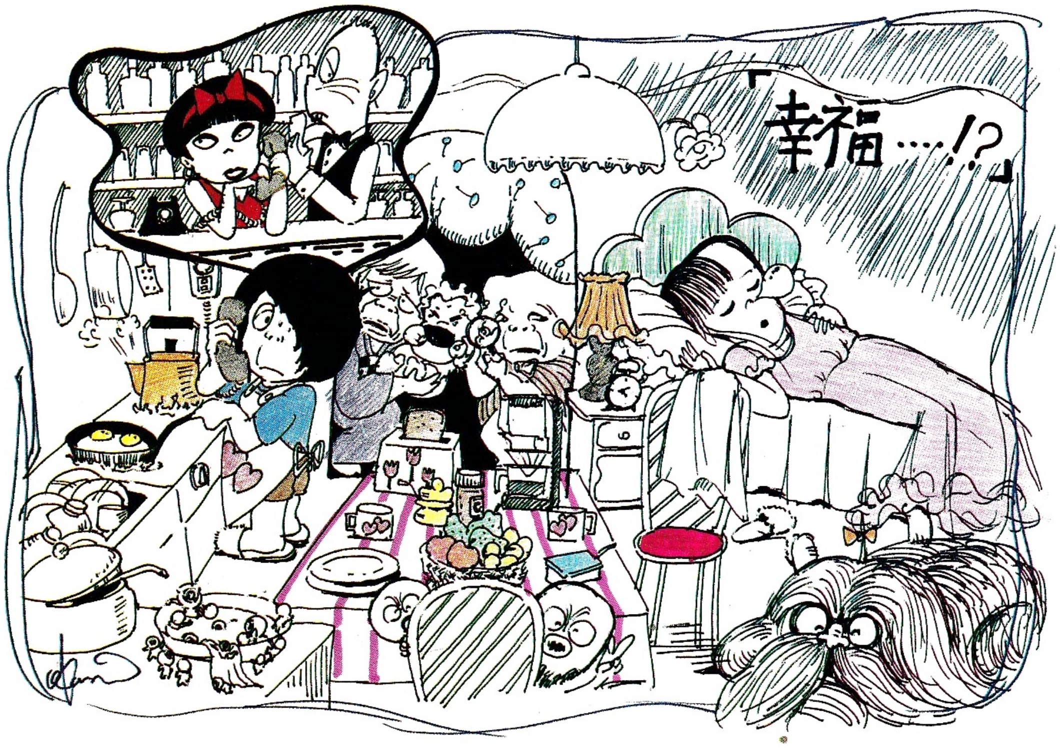


学校の便所のうらで、スケバンユメコにおどかされる、気弱なうらなり生徒の鬼太郎。美人だったら、こんな出会いもよい……よくないですかね、やっぱり。

松本朋之

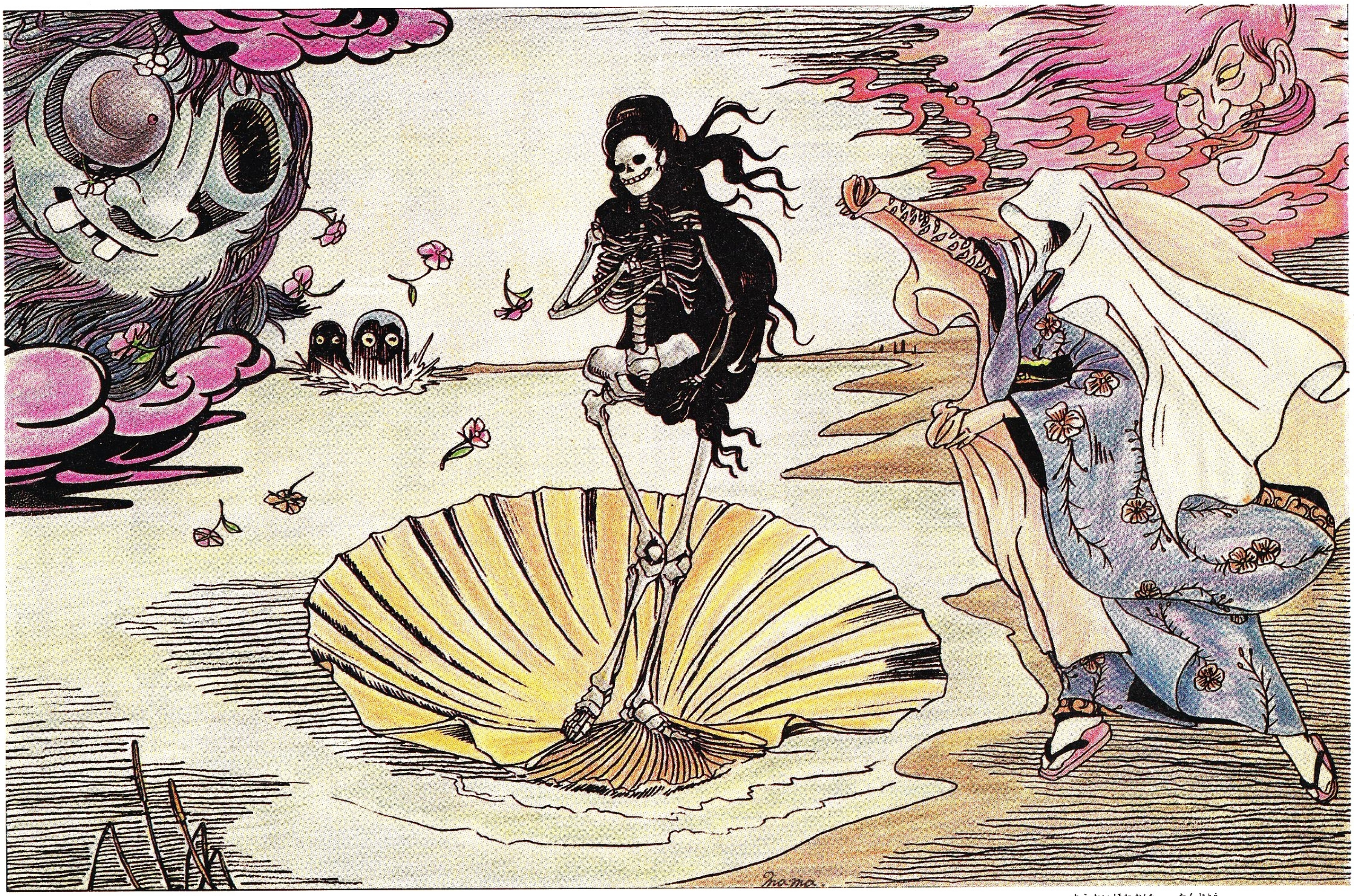


清水　明

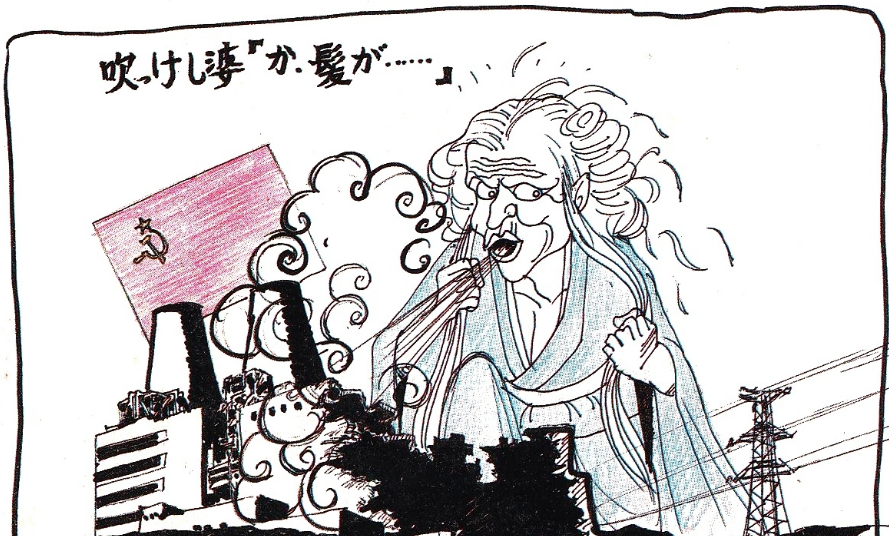




兼森義則



「妖怪骨女の誕生」　今泉 基

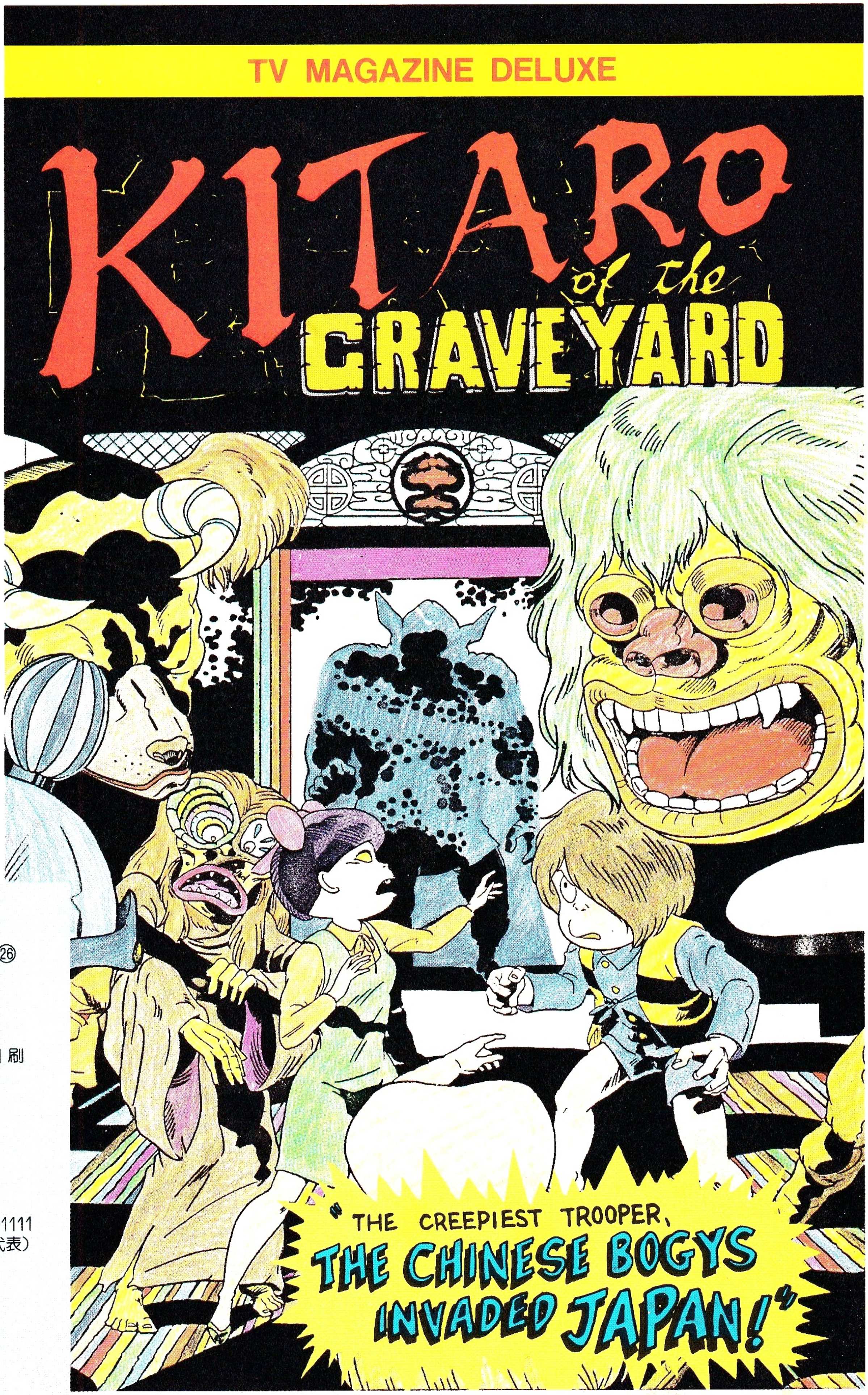


アニメーション制作スタジオにすみつくという妖怪。彼がいなくなったスタジオは、一か月以内にほろびます。とくい技は、アニメーターチョップ。手についたえんぴつの粉を、相手の服にこすりつけるという、世にもおそろしい技。

山崎健志



▶このイラストは，映画「最強妖怪軍団！ 日本上陸!!」の絵コンテの表紙をもとに，再構成したものです。



カバーイラスト／兼森義則
企画・構成／金田益実
執筆協力／会川 昇
レイアウト／株式会社ライズ
写真／大島康嗣・須釜龍之
（本社写真部）
協力／東映ビデオ・徳間ジャパン・青二プロ・水木プロ

テレビマガジンデラックス㉖
ゲゲゲの鬼太郎
定 価 880円
発 行 昭和61年8月25日 第1刷

発行者 野間惟道
発行所 株式会社 講談社
〒112 東京都文京区
音羽2-12-21
電話 東京（03）945—1111
（大代表）

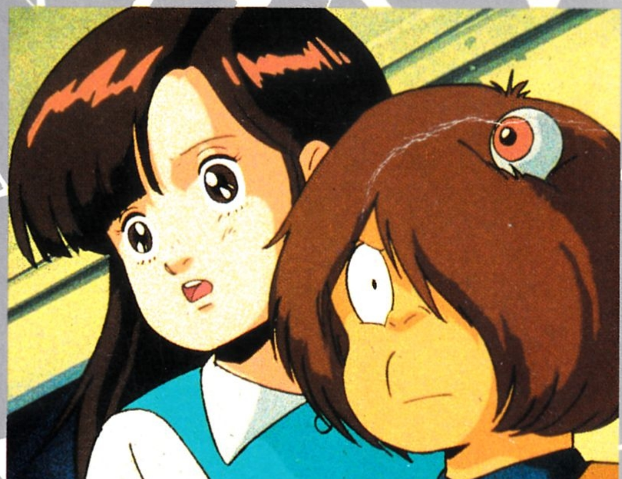
印 刷 共同印刷株式会社
製 本 二葉製本株式会社

ISBN4-06-172476-2 （0） （Tマ）











雑誌66575-26　ISBN4-06-172476-2 C8774 ¥880E (0)　定価880円